

講義科目名称：心理学

授業コード：3N001

英文科目名称：Psychology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	<p>心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）</p>	榎本光邦
	第2回	<p>脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害</p>	榎本光邦
	第3回	<p>心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学</p>	榎本光邦
	第4回	<p>感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚</p>	榎本光邦
	第5回	<p>学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポデント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデューラ）</p>	榎本光邦
	第6回	<p>記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論</p>	榎本光邦
	第7回	<p>動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるもののうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理</p>	榎本光邦
	第8回	<p>性格 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちに、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、性格検査の信頼性と妥当性</p>	榎本光邦

第9回	<p>対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知，対人感情，関係の維持</p>	榎本光邦
第10回	<p>臨床心理学（1）精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識，前意識，無意識，エス（イド），自我，超自我，エディプス・コンプレックス</p>	榎本光邦
第11回	<p>臨床心理学（2）分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識，普遍的無意識，元型，症状の持つ意味，夢分析</p>	榎本光邦
第12回	<p>臨床心理学（3）クライエント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライエント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライエント中心療法，パーソン・センタード，静かなる革命，受容，共感，自己一致，建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件</p>	榎本光邦
第13回	<p>臨床心理学（4）心理療法1 心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、行動療法，認知行動療法について学習する。 key words：心理療法行動療法，認知行動療法</p>	榎本光邦
第14回	<p>臨床心理学（5）心理療法2 コラージュ療法演習 本講義では、心理療法の中でも「表現療法」とよばれるものについて学習し、その中でも「芸術療法」とよばれるものの一つである「コラージュ療法」について体験する。 key words：表現療法，芸術療法，コラージュ療法</p>	榎本光邦
第15回	<p>臨床心理学（6）心理療法3 箱庭療法 箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。 key words：コラージュ療法，箱庭療法，空間象徴</p>	榎本光邦
科目の目的	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。</li> <li>2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。</li> <li>3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</li> </ol>	
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，社会学，生活文化と医療，大学の学び入門，大学の学びー専門への誘いー，多職種理解と連携 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ，発達心理学，臨床心理学，公衆衛生学，保健統計，カウンセリング 【専門科目群】全科目</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次の講義の冒頭に行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>	
教科書・参考書	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>	
オフィス・アワー	<p>月・火・水・金の昼休み（1号館305研究室または1号館・4号館学生相談室）</p>	
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫－Ⅱ－6－A－a ≪必修問題≫－Ⅱ－6－A－b</p>	

履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。
-------------	--

講義科目名称：教育学

授業コード：3N002

英文科目名称：Education

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
高野 利雄			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 人間の活動としての教育 教育とは何か 人間は教育によって何を達成しようとしているのか 第2回 学習権という人権 義務教育 教育の機会均等 子どもの権利条約 第3回 教育活動の時と場 人間の成長と発達課題 家庭・学校・社会での教育と学習 第4回 学校教育の柱と方法 学習指導要領 教科と特別活動 生徒指導提要 第5回 道徳教育とその位置づけ 特別の教科道徳の開始 道徳をどうとらえるか 第6回 学校教育現場の諸問題 いじめ 不登校 学級崩壊 第7回 教育活動の土台となる信頼関係 良好なコミュニケーション ゴードンメソッド 第8回 さまざまな学習形態 アクティブラーニング シチズンシップエデュケーション 第9回 キャリア教育 自らを生きる・生かす学び 第10回 障害児教育 特別支援教育の考え方と実状 インクルーシブ教育 第11回 家族の変化と教育 貧困格差と教育の課題 虐待への対応 第12回 チームとしての学校 学校保健 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 第13回 社会教育と生涯学習 学校以外の学習の場 自分はどこまで学び続けるか 第14回 教育に関する法と制度 福祉 医療 教育の連携 第15回 人生を支える学力とは	高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野
科目の目的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。 【知識・理解】	
到達目標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。	
関連科目	心理学、教育心理学	
成績評価方法・基準	試験（60%）、随時の提出物と授業への取り組み（40%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回の資料を熟読し、理解して備えること。1コマあたり4時間を目安とする。	
教科書・参考書	教科書・・・使用しない 参考書・・・講義時に紹介する	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心とし、必要に応じて随時小演習（個別およびグループ）を取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	教育心理学とは 教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本講義では、教育心理学の歴史と概要を学ぶ。	榎本光邦
	第2回	子どもの認知発達 ピアジェの理論を参照しながら人の認知発達について学び、認知発達の過程を通して幼児期、児童期、青年期に対する教育的関わり方の違いや、学校教育について考える。 key words：感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、心の理論	榎本光邦
	第3回	神経発達症／神経発達障害（1） 平成19年に全国で特別支援教育が開始され、ここ数年で発達障害に対する理解が急速に広まりつつある。本講義では3つの代表的な発達障害の中からAD/HD・SLDの2つと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴と支援について学び、理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、SLD、知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）、特別支援教育	榎本光邦
	第4回	神経発達症／神経発達障害（2） 前回に続き、発達障害について学習する。本講義では3つの代表的な発達障害の最後の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学び、DSM-IV-TRとDSM-5の診断の基準の違いについて理解を深める。 key words：自閉スペクトラム症、DSM-IV-TR、DSM-5、特別支援教育	榎本光邦
	第5回	子どもの認知発達と太田ステージ（1） 太田ステージとは、ピアジェの発達理論を参考に、子どもの発達段階をとらえやすくするために、いくつかの発達の節目をとらえてステージ分けしたものである。本講義では生まれて間もなくから1歳半くらいまでの乳幼児期に相当するStage Iの特徴と療育について学習する。 key words：太田ステージ、Stage I、模倣、指さし、おもちゃ遊び	榎本光邦
	第6回	子どもの認知発達と太田ステージ（2） 一般的な子どもの発達で見ると、1歳半から2歳くらいに相当するStage II、物には名前があることがはっきりとわかるようになった段階だが、関係の中で物事をとらえることができず、思考の柔軟性がないStage III-1の特徴と療育について学習する。 key words：シンボル機能の芽生え、名称による物の指示、用途による物の指示、経験に沿ったパターン	榎本光邦
	第7回	子どもの認知発達と太田ステージ（3） 一般的な子どもの発達で見ると、3歳から4歳くらいに相当するStage III-2、5歳から7歳くらいに相当するStage IVの特徴と療育について学習する。 key words：概念形成の芽生え、大小比較、上下の空間関係、因果関係の理解	榎本光邦
	第8回	学ぶことと考えること 「学ぶ」ということは、新しい概念がそれまで持っていた知識のネットワークの中に組み込まれ、知識がより構造化していくことである。本講義では知識を活用し、問題を解決していく方略について学習する。 key words：宣言的知識、手続き的知識、アルゴリズム、ヒューリスティック、メタ認知	榎本光邦
	第9回	「やる気」を考える 何か一つのことを頑張って、最後までやり遂げるということは人にとって嬉しいことである。では、人はどんな時に最も頑張るのであろうか？逆に、どのような時に一生懸命やろうという気持ちが無くなってしまおうのだろうか？本講義では、「達成動機づけ」と呼ばれる問題に関して、いくつかの考え方を学習する。 key words：期待一価値モデル、学習性無力感、原因帰属、内発的動機づけ、外発的動機づけ、アンダーマイニング効果	榎本光邦
	第10回	学級という社会 人が最初に経験する「学校」という組織の特殊性とそこで起こる心理的事象について学ぶ。 key words：ピグマリオン効果、P-M理論、ソシオメトリックテスト、ゲス-フーテスト	榎本光邦

	<p>第11回      どのように教えるか  学習指導の形態は一斉学習、グループ学習、個別学習に大別され、いくつかの形態が組み合わされて実施されることが多い。また、教授法には発見学習と受容学習という対照的な2つの方法がある。本講義ではこれらの教授法の他、いくつかの特徴的な指導形態についても学習する。  key words：機械的学習、有意義学習、ジグソー学習、プログラム学習、適正処遇交互作用</p> <p>第12回      児童・生徒をどう評価するか  教育評価は、児童・生徒の理解度や意欲の程度を知るのに役立つだけでなく、授業で取り扱った内容の適切さや教師の授業方法の適切さを判断することにも役立つ。本講義では、教育評価の目的や機能、方法について学習し、教育評価に関する理解を深める。  key words：絶対評価、相対評価、偏差値、診断的評価、総括的評価、形成的評価</p> <p>第13回      知能とその測定  知能とは、目的的に行動し、合理的に行動し、環境を能率的に処理する総合的な能力である。知能に関する理論とその測定方法について学習する。  key words：CHC理論、田中ビネーV、WISC-IV、WAIS-IV</p> <p>第14回      教育相談  子どもたちの健全な成長・発達の支援を目的とする、乳幼児期から青年期までを対象とした、教育の一環としての相談援助活動である教育相談について、事例を通して学習する。  key words：教育相談、カウンセリング</p> <p>第15回      教育心理学の意義  これまでの講義を概観して教育心理学的な関わりや考え方について理解を深める。教育や他者との関わりについて考えていく。</p>	<p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p>
科目の目的	<p>教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本講義では幼児、児童および生徒を教師が効果的に支援するために必要な心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解することを目的とし、教育心理学の基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 教育心理学の基本的な知識を習得する。  2. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解する。  3. 教育実践についての見解を深め、自分の意見を論じることができる。</p>	
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学、教育学、生命倫理、哲学、人間と宗教、社会学、生活文化と医療、大学の学び入門、大学の学び—専門への誘い—、多職種理解と連携  【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学、保健統計、カウンセリング  【専門科目群】全科目</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に毎回の講義後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>1年次必修科目「心理学」の教科書第3章「こころの発達」、第5章「学習」の内容をよく理解しておくこと。  その他、準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>	
教科書・参考書	<p>【教科書】  鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2015） 「やさしい教育心理学 第4版」 有斐閣アルマ</p> <p>【参考書】  永井洋子・太田昌孝編（2011） 「太田ステージによる自閉症療育の宝石箱」 日本文化科学社  山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009） 「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>	
オフィス・アワー	<p>月・火・水・金の昼休み（1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室）</p>	
国家試験出題基準	<p>なし</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」	衣川隆
	第2回 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化	衣川隆
	第3回 運動とスポーツの生理学② ―ATPと運動・スポーツ― ①運動時の酸素利用 ②トレーニングによる呼吸・循環器系の適応	衣川隆
	第4回 運動とスポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能	衣川隆
	第5回 運動とスポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化	衣川隆
	第6回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体力トレーニングの原理と原則	衣川隆
	第7回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―瞬発系、持久力系、回旋系― ①エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング	衣川隆
	第8回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ―評価（アセスメント）― ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ	衣川隆
	第9回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ―アスリートトレーニング― ①一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ②ドローイン	衣川隆
	第10回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑤ ―筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック	衣川隆
	第11回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑥ ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて	衣川隆
	第12回 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。	衣川隆
	第13回 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。	衣川隆
	第14回 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。小テスト実施。	衣川隆
	第15回 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。小テスト返却。レポート提出。	衣川隆
科目の目的	<b>【知識・理解】</b> 「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明	

	<p>する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。</p> <p>またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起り得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探究し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p>
到達目標	<p>「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。</p>
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内にレポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	<p>参考書</p> <p>「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院</p> <p>「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店</p>
オフィス・アワー	講義室または体育棟で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	養護教諭二種免許取得を希望する者は履修すること。



講義科目名称：健康スポーツ実技

授業コード：3N005

英文科目名称：Practice in Sports Science

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
衣川 隆			

授業形態	実技	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング	衣川隆
	第2回 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第3回 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第4回 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第5回 体力測定記録会 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）、体力測定記録会は小テストになる。	衣川隆
	第6回 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
	第7回 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第8回 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第9回 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
	第10回 心肺持久力記録会 20mシャトルランを実施する。この心肺持久力記録会は小テストとする。心肺機能や走力の向上を図るとともに、有酸素運動とATPの関係も学ぶ。	衣川隆
	第11回 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第12回 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
	第13回 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第14回 球技・トレーニング メディシンボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第15回 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
科目の目的	<p><b>【技能・表現】</b>                      運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。                      各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。                      各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう、そして将来チーム医療を実践するための、学生相互のコミュニケーション能力も身に付ける。</p>	

到達目標	①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。 ②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。 ③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内の実技（65％）。小テスト（35％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおける体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育棟で授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	養護教諭二種免許取得を希望する者は履修すること。

講義科目名称：生命倫理

授業コード：3N006

英文科目名称：Bioethics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
吉田 幸恵	中田はる佳		

授業形態	講義（グループワーク・発表を含む）	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要	吉田幸恵
	第2回 「生命倫理」の誕生 生命倫理の社会的・歴史の変遷	吉田幸恵
	第3回 インフォームド・コンセント(1) 医学研究におけるインフォームド・コンセントの歴史	吉田幸恵
	第4回 インフォームド・コンセント(2) 自己決定とはなにか	吉田幸恵
	第5回 「病い」を生きる ハンセン病史における倫理的問題	吉田幸恵
	第6回 出生前診断と生殖技術(1) 中絶・生殖技術を巡る立場と問題、様々な生殖技術	吉田幸恵
	第7回 出生前診断と生殖技術(2) 里子問題などを通して、子どもの「生きる権利」について考える	吉田幸恵
	第8回 外部講師によるレクチャー 内容は講義進行具合を見ながら決定（外部講師の都合により、順番が前後する可能性があります）	中田はる佳
	第9回 安楽死／尊厳死(1) 安楽死／尊厳死とは？安楽死を巡る日本の状況について	吉田幸恵
	第10回 安楽死／尊厳死(2) 安楽死を巡る世界の状況について	吉田幸恵
	第11回 臓器移植をめぐる諸問題 臓器移植の歴史、臓器移植と法	吉田幸恵
	第12回 グループワーク テーマを受講生から募り、グループワーク	吉田幸恵
	第13回 プレゼンテーション グループワークでの結果を班ごとに発表。その後もしくは次週にコメント。	吉田幸恵
	第14回 医療の役割 医療の論理、医学の進歩と医学研究のこれから	吉田幸恵
	第15回 「いのち」とはなにか、「生きる」とはなにか 授業全体のまとめ、期末試験相談	吉田幸恵
科目の目的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、映像資料・映画を適宜参照したりグループワークなどを実施したりしながら解説し、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。【態度】	
到達目標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになること、そして倫理的な考え方を求められる場面において、医療者として適切な判断ができるようになることを目指します。	
関連科目	哲学、公衆衛生学、生活文化と医療、社会学、生物学、心理学	
成績評価方法・基準	授業後に実施するミニレポートの提出（10%）、グループワークでの発表内容（10%）、期末試験（80%）による総合評価。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業日前日までにActiveAcademyにレジユメをアップロードします。可能な範囲でレジユメに目を通してください。1コマあたりの学習時間の目安2時間。	
教科書・参考書	（教科書） 指定なし。レジユメを配布します。 （参考書） 神里彩子・武藤香織編 2015=2019 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会 松原洋子・伊吹友秀編 2018 『生命倫理のレポート・論文を書く』 東京大学出版会 加藤尚武・加茂直樹編 1998=2014 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社	
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応します（4号館8F研究室）。	
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-4-A-a~f ≪必修問題≫-4-B-a~e 【助産師】	

	《基礎助産学Ⅰ》-1-C-a 《基礎助産学Ⅰ》-11-A-a, b
履修条件・履修上の注意	授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。

講義科目名称：哲学

授業コード：3N007

英文科目名称：Philosophy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
金澤 秀嗣			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉 本講の目的と講義計画とに関する説明 哲学概論と哲学史 哲学史は「阿呆の画廊」か	金澤 秀嗣
	第2回 古代哲学 1 存在 「ある」とはどういうことか ミレトス学派/ ピュタゴラス学派/ 多元論	金澤 秀嗣
	第3回 古代哲学 2 生成 「ある」と「なる」 エレア学派/ ヘラクレイトス	金澤 秀嗣
	第4回 古代哲学 3 形而上学 〈イデア〉と〈エイドス〉 プラトン/ アリストテレス	金澤 秀嗣
	第5回 中世哲学 1 信仰と知は両立するか 中世教父哲学における神概念と人間像	金澤 秀嗣
	第6回 中世哲学 2 普遍が先か個物が先か スコラ哲学の論理	金澤 秀嗣
	第7回 近世・近代哲学 1 大陸合理論における〈精神〉と〈物質〉 デカルト	金澤 秀嗣
	第8回 近世・近代哲学 2 イギリス経験論による事物認識 ① ホブズ/ ロック	金澤 秀嗣
	第9回 近世・近代哲学 3 イギリス経験論による事物認識 ② バークリ/ ヒューム	金澤 秀嗣
	第10回 批判哲学とドイツ観念論 1 「私は何を知りうるか」 カント『純粋理性批判』の視座：〈現象〉と〈物自体〉	金澤 秀嗣
	第11回 批判哲学とドイツ観念論 2 「私は何をなすべきか」 カント『実践理性批判』の要請：〈定言命法〉	金澤 秀嗣
	第12回 批判哲学とドイツ観念論 3 絶対的自我と共同体 フィヒテの超越論的哲学と国家論	金澤 秀嗣
	第13回 批判哲学とドイツ観念論 4 存在と認識の一致 人倫的自然としての民族 ヘーゲルによる主観的観念論・社会契約論・悟性国家論批判	金澤 秀嗣
	第14回 批判哲学とドイツ観念論 5 〈承認〉に基づく法の形成 ヘーゲルの相互承認論と法哲学	金澤 秀嗣
	第15回 講義の総括と展望 〈真理が顕現する過程〉としての哲学史	金澤 秀嗣
科目の目的	哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即してトータルに把握できるよう講義を進めたい。差し当たり古代から近代へ至る哲学史の系譜をたどり、哲学という学問の生成と構造を明らかにすることを旨とする。	

	<p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。</li> <li>2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。</li> <li>3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。</li> </ol>
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主として「生命倫理」・「人間と宗教」等の科目と関連を有する。</li> <li>● また特に近世・近代哲学が主題となる講義回にあつては、「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」等の諸科目と関連するテーマも適宜取り上げられる。</li> </ul>
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期末筆記試験（論述）の成績による（100％）。</li> <li>● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。</li> </ul>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジюме）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。</li> <li>● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジюме）に基づいて行われる。</li> <li>● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。</li> <li>● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。</li> <li>● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。</li> </ul>
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）</li> </ul>
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジюме）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。</li> </ul>

講義科目名称：現代文学

授業コード：3N008

英文科目名称：Modern Literature

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
徳本 善彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス／「文学」とは何か？／1920～40年代の時代状況について解説する 第2回 1920年代の文学① 同時期の児童文学の流れについて概括する 第3回 1920年代の文学② 宮沢賢治の生涯と詩について学ぶ 第4回 1920年代の文学③ 宮沢賢治の童話を読む 第5回 1920年代の文学④ 宮沢賢治の童話を読む（続）／小レポート①の作成 第6回 1930年代の文学① 小レポート①の講評／転向と文芸復興期の文学状況について概括する 第7回 1930年代の文学② 中島敦の小説を読む 第8回 1930年代の文学③ 中島敦の小説を読む（続） 第9回 1930年代の文学④ 戦時下の文学表現のあり方について考える／小レポート②の作成 第10回 1940年代の文学① 小レポート②の講評／敗戦前後の文学状況について概括する 第11回 1940年代の文学② 太宰治と戦争（戦前から戦中にかけて） 第12回 1940年代の文学③ 太宰治と戦争（戦後を中心に） 第13回 1940年代の文学④ 無頼派の文学の特徴／小レポート③の作成 第14回 既出事項のまとめ／授業内試験の実施 小レポート③の講評 第15回 試験の講評・解説／1950年代以降の文学を見通す	徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦
科目の目的	1. 文学を通して、多様な社会・文化への幅広い視野と、他者に対する深い理解を得る。 2. 情報を正確に読み取り論理的に組み立てる能力を涵養する。 3. 複数回の小レポートの作成を通じて、自分の考えを他者に論理的に伝達する方法を学習する〔技能・表現〕。	
到達目標	1. 不明な語句・表現を調べ、自分の力で教材を丁寧に読解する。 2. 1を踏まえて授業内で解説された作者情報や同時代状況、読みのポイントを整理する。 3. 2を補助線にして作品をあらためて読み直す。その上で各自の初読の感想がどのように更新されたかを確認する。	
関連科目	芸術・哲学・社会学	
成績評価方法・基準	授業内で課される小レポート（50%）、授業内試験（50%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・授業前＝配布された作品の黙読（0.5時間） ・授業後＝授業内容の復習（1.0時間）	
教科書・参考書	教科書：使用しない（講義資料は1週間前を目処にActive Academyを通して配布します。各自で印刷して授業に持参して下さい）。	
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：人間と宗教

授業コード：3N009

英文科目名称：Human Beings and Religion

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
竹村 一男			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 宗教を学ぶにあたって 宗教を学ための必要な基礎的事項について説明する。講義の前半は宗教の種類、宗教の研究分野、そして、3大宗教について、その概要と現状に言及する。後半は芸術作品や世界遺産の中から宗教に関する画像を中心に紹介する。</p>	竹村 一男
	<p>第2回 宗教本質論 宗教とは何か 過去から現在に至る哲学、神学、心理学などの代表的な思想、及び昨今の脳科学は、宗教をどのように解釈してきたかを解説する。更に、最も難解なテーマである「宗教とは何か」について考えてみたい。</p>	竹村 一男
	<p>第3回 キリスト教概説 世界最多の宗教人口をもつキリスト教の教義と歴史、現状について講述する。また、その文化・歴史など画像を交え説明する。特に新約聖書、福音書の解説については、ジョットの絵画による概要説明を行う。</p>	竹村 一男
	<p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。コーランの記述内容、スンニ派とシーア派の相違点、更に昨今の国際情勢におけるイスラームなどその現状にも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、その文化・歴史や伝播の経緯など画像を交え説明する。インドにおける仏教の成立と展開を中心に、中国仏教、南伝仏教、チベット仏教にも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。日本への仏教の伝来とその展開、各宗派による仏教思想の比較などを中心に解説し、更に寺院建築や仏像、曼荼羅など仏教文化遺産についても画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第7回 日本の民俗宗教 日本の宗教の基層をなす民俗宗教について、祖霊信仰や民俗神道、神社神道などを中心にその文化と歴史について講述する。日本の民俗宗教には様々な儀礼や祭祀が含まれるが、仏教との神仏習合も多々みられる。それらの特徴的な事例についても、画像を交え紹介する。</p>	竹村 一男
	<p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教ユダヤ教とヒンドゥー教について、その文化・歴史などを講述する。ユダヤ教はキリスト教・イスラム教の、ヒンドゥー教は仏教の起源となった宗教であるが、現在においても多数の信徒をもつ。その経緯と、なぜ民族の枠内に留まったかについて解説し、旧約聖書の記述については、地球環境史との関係もふまえて、画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え講述する。特に儒教については礼教（道徳）面が強調されることが多いが、その宗教面についても解説する。さらに、両宗教が日本に与えた影響などにも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。現在はこれらの新宗教も多くの信徒を持つに至り、家庭の宗教として信仰される例も多い。上記以外の幾つかの宗教団体、海外の新宗教などについても画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 宗教を対象とする研究には、神学などの信仰者の視点によるものと、比較宗教学のように中立的な視点からのものがある。本講座は後者に属するが、ここでは比較宗教学、宗教社会学、宗教心理学などの中立的な社会科学の視点からなされてきた研究学説について解説する。さらに、反社会的教団の特徴や、講師の研究事例なども交えて講述する。</p>	竹村 一男



	<p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について講述する。古来より、宗教は芸術にも様々な影響を及ぼしてきた。その中で、特に美術と音楽、舞踊について、画像や映像を参考に解説する。また、宗教史跡、宗教建造物などの文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題について解説する。現状の宗教動向に加え、反社会的教団による事件、IS問題、民族紛争などの事例について講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。宗教団体と医療組織、特定教団の教義と輸血問題、終末医療などの医療現場における宗教の事例についても紹介する。</p> <p>第15回 神話・文学における宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は、聖典などに見られる印象的な言説や、文学作品における記述の紹介と、全講義のまとめを行う。</p>	<p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・社会理解にも繋がる。</p> <p>なお、本講義は特定の宗教の視点によるものではなく、中立的な観点から広範に宗教を扱う。受講生各自の宗教観は人それぞれであろうが、医療現場における患者（被治療者）の宗教観も様々であるため、医療者には中立的かつ広範な視点での宗教理解が必要となってくる。医療に携わろうとする者はそのことを理解したうえで、私達人間に与えられた生命をまもること、与えられた生命をよりよく生きることが大切かと考える。【態度】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。</li> <li>● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。</li> <li>● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。</li> </ul>	
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度（計15回15時間）、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。最初は簡単な概説書でもよいが、以下に推薦文献をあげる。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『神道とは何か』伊藤 聡（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『森林の思考・砂漠の思考』鈴木秀夫（NHKブックス）、『現代医学と宗教』日野原重明（岩波書店）など。また、信仰者以外の人にとっては「聖書」や「コーラン」は難渋な書物であろうが、聴講によって基礎知識を得た後に読むと、理解が変わってくる。	
教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書1 『ブッダの言葉』中村 元訳（岩波文庫） 参考書2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）	
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各回のプリントを事前にActive Campusにアップロードしておきます。受講者はプリントアウトして授業に出席してください。	

講義科目名称：芸術

授業コード：3N010

英文科目名称：Art

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
東 晴美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイドダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第2回</p> <p>ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第3回</p> <p>劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p>	東 晴美
	<p>第4回</p> <p>観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p>	東 晴美
	<p>第5回</p> <p>身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第6回</p> <p>ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第7回</p> <p>能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p>	東 晴美
	<p>第8回</p> <p>狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第9回</p> <p>歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p>	東 晴美
	<p>第10回</p> <p>文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第11回</p> <p>ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p>	東 晴美
	<p>第12回</p> <p>アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p>	東 晴美

	<p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ:ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>	東 晴美 東 晴美 東 晴美
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとり、芸術について学びます。</p> <p>まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。</p> <p>次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われるがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。</p> <p>最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。</p> <p>これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。【態度】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。</li> <li>・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。</li> <li>・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。</li> <li>・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。</li> </ul>	
関連科目	社会学	
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。	
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)	
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。	

講義科目名称：法学（日本国憲法含む）

授業コード：3N011

英文科目名称：Law(the Constitution of Japan)

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
道下 洋夫	道下 洋夫		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 法とは何か なぜ法を学ぶのか、法とは何かについて様々な角度から考える</p> <p>第2回 法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方、法と医療の関わり合い方について理解する</p> <p>第3回 法の特徴・法の目的 法にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する</p> <p>第4回 日本の司法制度 法的責任、訴訟事件にはどのようなものがあるかについて理解する</p> <p>第5回 憲法1 憲法の基本理念について理解する</p> <p>第6回 憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する</p> <p>第7回 憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する</p> <p>第8回 憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する</p> <p>第9回 民法1 債権とは何か、契約とは何か、どんな契約があるかについて理解する</p> <p>第10回 民法2 不法行為など契約外の債権について、債権の一般的な規則について理解する</p> <p>第11回 民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する</p> <p>第12回 民法4 行為能力、時効など民法の一般的な規則について理解する</p> <p>第13回 刑法1 刑法の基本原則について理解する</p> <p>第14回 刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する</p> <p>第15回 刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する</p>	<p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p> <p>道下 洋夫</p>
科目の目的	日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているという過言ではない。したがって、諸君がこれから社会人として羽ばたいていくということは、いかに細かい法令であろうと「知りませんでした」では済まない世界に飛び込んでいくということでもある。法学を学ぶ意義はここにこそある。【知識・理解】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する</li> <li>・憲法、民法、刑法を通じて実際の法規定を概観する。</li> <li>・社会人として生きていくのに必要な法知識を習得するだけでなく、2年生以降の専門領域における各種医療関係法規・医療倫理の学習へつなげる。</li> </ul>	
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、生命倫理	
成績評価方法・基準	定期試験(80%)、授業貢献度及び授業内レポート(20%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(90分程度)	
教科書・参考書	教科書：特にないが適宜に資料・統計などのプリントを配布する その他、一部法令について事前に印刷して用意すべき場合がある	
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	講義資料は当日配布するか、前日までにActive Academyにアップする	

講義科目名称：社会学

授業コード：3N157 3N158

英文科目名称：Sociology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
坂本 祐子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）	坂本 祐子
	第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期（小レポートのフィードバック含む）	坂本 祐子
	第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障	坂本 祐子
	第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能	坂本 祐子
	第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化	坂本 祐子
	第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り	坂本 祐子
	第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）	坂本 祐子
	第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環（小レポートのフィードバック含む）	坂本 祐子
	第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア	坂本 祐子
	第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり	坂本 祐子
	第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー	坂本 祐子
	第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮	坂本 祐子
	第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援	坂本 祐子
	第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 看護職としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か	坂本 祐子
	第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方	坂本 祐子
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】	
到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる	
関連科目	法学（日本国憲法含む） 経済学 社会福祉・社会保障制度論 小児看護学総論 老年看護学総論 地域ボランティア活動論 看護学概論Ⅰ・Ⅱ 母性看護学総論 公衆衛生看護学概論 母子と家庭の心理・社会学 在宅看護学概論	
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
鈴木 英恵			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の進め方と、第1回から第15回までの講義内容をお話します。授業の後半部では、群馬県利根郡川場村の高齢者の元気の秘訣を、道の駅と関連付けて考えてみます。	鈴木 英恵
	第2回 医療民俗学とは！？ 私たちの生活は、先人たちの知識と知恵、そして技術の上になりたっています。ここでは、過去から現在に続く生活文化（民俗学）を軸に、医療に関連する事項を考えていきます。	鈴木 英恵
	第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 ここでは、医療民俗学の創設について理解します。また、年中行事の意味と医療習俗の関係についてもみていきます。	鈴木 英恵
	第4回 民間信仰と石仏 路傍に佇む地藏、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象として古くから造立されてきました。ここでは近世後期に盛んに造られた道祖神を取り上げ、その信仰内容と現代社会で文化資源として機能する面について考えます。	鈴木 英恵
	第5回 名づけとキラキラネーム 誕生した子どもの名前は、どのようにして決まるのでしょうか。ここでは、伝統的な名づけとキラキラネームの命名方法について考えます。あわせて、子どもの誕生とその習俗について理解します。	鈴木 英恵
	第6回 いのちと生死の表現 『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図、群馬県太田市世良田町の長楽寺に伝わる『永祿日記』など、主に中世期に成立した文学作品・図像・日記から、生死と病い、薬について読み解いてみましょう。	鈴木 英恵
	第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは一体、何を指すのでしょうか。ここでは「いのち」についてじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容をもとに、人の一生と人生の節目となる各種儀礼の意味を理解します。	鈴木 英恵
	第8回 モノに宿る靈魂 普段私たちが何気なく使うモノには、靈魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、ここでは人形の靈魂観についても考えてみます。	鈴木 英恵
	第9回 映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 越後や北陸地方の村々をめぐる瞽女さんは、三味線と唄の技術を努力して獲得し、自立した生活を送りました。瞽女の生活様式をみていきましょう。	鈴木 英恵
	第10回 生きがい、健康そして長寿へ 地域社会に伝承する獅子舞の担い手は、主に老年層です。地域の老年は伝統芸能を後世に伝えようと、日々練習を重ねています。世代を超えて継承される獅子舞は、結果的に健康維持にも結び付き、生きがいへと繋がります。	鈴木 英恵
	第11回 長寿祝いの習俗と儀礼 全国各地の長寿祝いの方法をテキストから学び、高齢化社会を象徴する儀礼の特徴をみていきます。老いと福祉に関する回想法についても理解します。	鈴木 英恵
	第12回 課題レポート「死生観について」の説明 本講義では「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、皆さんは医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは自らの「死生観」を考え、生を探究することで、最終的に自身がどのような最期を迎えたいのかを書いてもらいます。「死生観」に対する自分の考えを持つことは、患者の気持ちを考えて接することができ、同時にその家族の心理・精神的な面もサポートできるといえます。授業のなかで課題レポートの書き方の説明をします。	鈴木 英恵
	第13回 病いと民俗 カレンダーの暦と病いには、実は深い関係があります。ここではテキストを中心に、病いをめぐる人びとの関係と治癒祈願の方法を理解します。	鈴木 英恵

	<p>第14回 看取りと死、そして供養 人は誰でも最後に死に至ります。死にゆく者はどのような思いを持つのかを考えてみましょう。また家族や知人の臨終に際し、残された人はどのような行動をとるのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第15回 まとめ（葬送と先祖供養） 現代社会において、埋葬や先祖供養の形態は、個人やその家の考えによってさまざまに変化しています。ここでは、地域社会の伝統的な故人を偲ぶ習俗と先祖供養の方法を理解します。</p>	<p>鈴木 英恵</p> <p>鈴木 英恵</p>
科目の目的	<p>本講義では、現代医療ではなく、私たちの生活に古くから根付く病氣治癒の信仰、そして病いを予防する年中行事と儀礼の内容をていねいにみていきます。過去から現在に伝わる伝統的な生活文化には、医療・健康・病い除けに関するものが多くあります。ここでは、人びとが病いをどのように考え、如何にして立ち向かい克服してきたのかを、過去から現在まで続く人びとの習俗をとおして考えていきます。医療技術は日々進歩していますが、人は現代医療を受ける一方で、健康保持を願ってまじないやお守り、護符などを心の拠り所としています。本講義をとおし、日々の生活と医療の繋がりに気づき伝統的な生命観を理解することで、患者やその家族の精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。【関心・意欲】</p>	
到達目標	<p>医療と関わりの深い伝統的な習俗、儀礼の方法を学ぶなかで、過去から伝わる医療習俗への関心と教養を身につけます。日々の生活にみられる、医療・健康保持・病い治癒などの医療的な能力を養うことは、自分なりの考えを形成する力を高めます。今後皆さんが医療従事者として活躍するにあたり、豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。</p>	
関連科目	<p>生命倫理、社会学</p>	
成績評価方法・基準	<p>試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。課題未提出者の単位取得は認めません。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>日々の暮らしのなかで、医療に関連すること（病い治癒と予防、健康維持など）に興味を持ってください。人は生きている限り、日々病いと向き合って生きていきます。自分が病いになったとき、あるいは病いにかかりそうとき、どのような行動をして、病気を克服するのかを考えてみましょう。また、自身の身近な人たち（父母、祖父母、友人知人など）は如何にして病いと向き合い、正常な身体を取り戻したのかも考えてみましょう。日々の生活で医療に関連することを注意深く観察することで、問題点や課題を発見できるようになります。それらの意味をひとつずつ考えることで、「何故」という疑問を解決することができます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：板橋春夫 2019『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社</p> <p>参考書1：福田アジオほか編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館  参考書2：根岸謙之助 1991『医療民俗学論』雄山閣  参考書3：宗田一 1984『健康と病の民俗誌 医と心のルーツ』健友館</p>	
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称：経済学

授業コード：3N014

英文科目名称：Economics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。	飯島 正義
	第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。	飯島 正義
	第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。	飯島 正義
	第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。	飯島 正義
	第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。	飯島 正義
	第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。	飯島 正義
	第7回 政府の役割 市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。	飯島 正義
	第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作、預金準備率操作、金融の量的緩和等について説明します。	飯島 正義
	第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。	飯島 正義
	第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。	飯島 正義
	第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。	飯島 正義
	第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。	飯島 正義
	第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。	飯島 正義
	第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。	飯島 正義
	第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。	飯島 正義
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】	
到達目標	1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における小テスト40%（1回、プリント参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。 なお、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習するとともに、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。	
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。	
国家試験出題基準	該当しません。	

履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。
-------------	---

講義科目名称：地域ボランティア活動論

授業コード：3N015

英文科目名称：Volunteer Activities in a Community

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
竹澤 泰子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ボランティア活動の歴史と変化 ボランティア活動が時代により変化していることについて述べる。	竹澤
	第2回 経験談の発表 学生各自が経験したボランティア活動について発表を行う。その経験を分析して学んだ点や問題点を考察する。	竹澤
	第3回 エゴグラムの記入 記入したエゴグラムから自己分析を行い、ボランティア活動時や将来の就労時に必要な、自己の性格を客観的に把握する。	竹澤
	第4回 経験談1 母親勉強会等の託児ボランティア、子供食堂、高齢者の生活支援、アルパ演奏会等長年活動しているゲストスピーカーを招聘する。	竹澤
	第5回 経験談2 3.11東日本大震災後、数十回の炊き出し、生活用品支援、わかめ販売促進活動支援等に従事し、カンボジアに小学校を十数校建設した実績をもつゲストスピーカーを招聘する。	竹澤
	第6回 ボランティア活動の分析 ゲストスピーカー2名の経験談を分析し、ボランティア活動を行う上での注意点や問題点を考察する。	竹澤
	第7回 専門職のボランティア活動 国内における専門職ボランティアの活動量の少なさに着目し、原因探求と将来への対応の仕方について討論する。	竹澤
	第8回 ボランティア活動の紹介・日米の活動比較 講師が行うテディベアギフトリング（悲しい経験をした方々へベアの温もりと優しさを与える活動）について紹介する。また、日米でのボランティア活動の違いについて考察する。	竹澤
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の多様性を理解する。</li> <li>・心の温もりがボランティアの基礎である事を認識する。</li> </ul> <b>【関心・意欲】</b>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、地域社会のニーズと連携に目を向け貢献しつつ、学生自らの将来像、医療人としての職業観の確立の基礎作りができる。</li> <li>・ボランティア活動の学習から、自分の性格を再考し、他人への思いやりの気持ちを生むことができる。</li> </ul>	
関連科目	なし	
成績評価方法・基準	レポート（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容を分析し把握できるように、自分の価値基準を確立しておくこと。なお、自分の意見提示ができることが望ましい。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり4時間	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：環境学

授業コード：3N016

英文科目名称：Environmental Studies

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景</p> <p>第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>第3回 生活を支える資源と持続可能社会 再生可能資源と再生不能資源、持続可能性とは</p> <p>第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>第5回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>第9回 気候変動（Ⅰ） 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加</p> <p>第10回 気候変動（Ⅱ） 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測</p> <p>第11回 気候変動（Ⅲ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定</p> <p>第12回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>第13回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物と3R</p> <p>第14回 低炭素社会と循環型社会の融合 再生可能エネルギー・再生可能資源を中心とした社会づくり</p> <p>第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える</p>	<p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p> <p>西菌 大実</p>
科目の目的	<p>環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。 【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ</p>	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習（自筆ノートの整備）を行う。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。</p>	
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）	
オフィス・アワー	授業の前後・非常勤講師室	
国家試験出題基準	<p>【看護師】                      ≪必修問題≫-2-C-abc                      ≪健康支援と社会保障制度≫-10-A-abcdef, 10-B-abc, 10-C-abc, 10-D-ab</p> <p>【保健師】                      ≪公衆衛生看護学概論≫-3-B-ab</p>	
履修条件・履修上の注意	特になし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質	佐藤久美子
	第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）	佐藤久美子
	第2回～3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割	佐藤久美子
	第4回～5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成、配偶子の形成～	佐藤久美子
	第6～7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス	佐藤久美子
	第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因———遺伝子変異	佐藤久美子

科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる。 ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する。 ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。

教科書・参考書	<p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄 （医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂）  2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社）  3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 （羊土社）</p>
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に活かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回・2回 生命活動とエネルギー ①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・人工光合成研究開発の現状と未来計画 ・呼吸：生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について ・外呼吸と内呼吸の関係 ・動物と植物のエネルギー連関～光合成と呼吸～</p> <p>第3回・4回 遺伝ーヒトを中心にーその1 ①DNA複製のしくみ ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ ④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ⑤性染色体の不活性化 ⑥エピジェネティクス</p> <p>第5回・6回 遺伝ーヒトを中心にーその2 ①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 ・常染色体性優性遺伝病、・劣性遺伝病と伴性遺伝病 ・保因者、患者の出現頻度ーハーディーワインベルグの法則の有用性ー ②多因子遺伝病 ③染色体異常 ④ミトコンドリア病 ⑤体細胞遺伝病</p> <p>第6回・7回 ヒトの受精と初期発生 ①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ・始原生殖細胞の形成 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p> <p>第8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチンプロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞周期調節のしくみとがん化 ⑤細胞分裂の限界と老化</p>	<p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。 ②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。 ③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。 ④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。 ⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>	
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	

成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルー--ボックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。



講義科目名称：数学A

授業コード：3N019

英文科目名称：Mathematics A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。	井上 浩一
	第2回 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す	井上 浩一
	第3回 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。	井上 浩一
	第4回 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。	井上 浩一
	第5回 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。	井上 浩一
	第6回 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	井上 浩一
	第7回 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的なものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。	井上 浩一
	第8回 基礎統計学 統計学の基礎的な概念と方法を学ぶ。	井上 浩一
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と軽量、場合の数と確率、基礎統計学について学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的なものごとを評価するセンスを磨く。	
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、予習よりも講義内容の復習を期待する。前回の内容が定着したかどうかを確認しておくことが、次の講義の準備学習である。 ・1コマあたりの学習時間の目安は4時間	
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	・意欲があれば数学Bも履修することが望ましい。 ・毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること	

講義科目名称：数学B

授業コード：3N020

英文科目名称：Mathematics B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 三角関数 一般角と弧度法，三角関数の加法定理，三角関数の合成，和と積の変換 第2回 複素数 複素数の導入と計算方法，複素共役，剰余の定理，因数定理 第3回 指数関数と対数関数 指数法則，実数のべき，対数の導入，対数法則，底の変換公式 第4回 ベクトルと行列 ベクトル・行列の導入，基本的な性質 第5回 微分の導入 微分の定義，整式の微分，極大値・極小値 第6回 微分の基本性質 積・商の微分，合成関数の微分，三角関数・指数関数・対数関数の微分 第7回 積分の導入 積分の定義，整式の積分，図形の面積 第8回 積分の応用 置換積分，部分積分，三角関数・指数関数・対数関数の積分，微分方程式。	井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一
科目の目的	医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分、微分方程式、部分積分などについて学ぶ。 <b>【知識・理解】</b>	
到達目標	1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。 2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。	
関連科目	数学A、化学A・B、物理学A・B	
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校数学の教科書の該当する部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、受講生には予習よりも、講義の復習を期待する。前回学んだ内容を理解し復習しておくことが次の講義の準備となる。</li> <li>・1コマあたりの学習時間の目安は4時間</li> </ul>	
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学Aも履修することが望ましい</li> <li>・毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。</li> <li>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</li> <li>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</li> </ul>	

講義科目名称：化学A

授業コード：3N021

英文科目名称：Chemistry A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。	日置 英彰
	第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。	日置 英彰
	第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。	日置 英彰
	第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。	日置 英彰
	第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。	日置 英彰
	第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。	日置 英彰
	第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。	日置 英彰
	第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。	日置 英彰
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 [知識・理解]	
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし	
オフィス・アワー	講義前後の時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	

講義科目名称：化学B

授業コード：3N022

英文科目名称：Chemistry B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 病気と関わる化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。	日置 英彰
	第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。	日置 英彰
	第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。	日置 英彰
	第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。	日置 英彰
	第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。	日置 英彰
	第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。	日置 英彰
	第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。	日置 英彰
	第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。	日置 英彰
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 [知識・理解]	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし	
オフィス・アワー	講義前後の時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	

講義科目名称：物理学A

授業コード：3N023

英文科目名称：Physics A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤 求			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。	佐藤求
	第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力	佐藤求
	第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。	佐藤求
	第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。	佐藤求
	第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。	佐藤求
	第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。	佐藤求
	第7回 円運動 等速円運動。	佐藤求
	第8回 バネと単振動 単振動	佐藤求
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。	
関連科目	物理学B	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)	
教科書・参考書	教科書：自作テキスト	
オフィス・アワー	水曜日 15時～17時（それ以外でも時間の許す限り）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：物理学B

授業コード：3N024

英文科目名称：Physics B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤 求			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱	佐藤求
	第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱	佐藤求
	第3回 熱現象 3 気体分子運動論	佐藤求
	第4回 波動 1 回折、屈折、波の式	佐藤求
	第5回 波動 2 干渉、ドップラー効果	佐藤求
	第6回 電気基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念	佐藤求
	第7回 電気基礎 2 キルヒホッフの法則、電力	佐藤求
	第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊	佐藤求
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。[知識・理解]	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。	
関連科目	物理学A	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)	
教科書・参考書	教科書：自作テキスト	
オフィス・アワー	木曜日 15時～17時（それ以外でも時間の許す限り）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	物理Aも履修しておくことを強く勧める。	

講義科目名称：英語リーディング

授業コード：3N147 3N148

英文科目名称：General English Reading

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
一瀬 厚一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Guidance for class 授業の説明（成績評価、課題、学習の方法などについて）、自己紹介	一瀬 厚一
	第2回 Lesson 1: Communication トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（現在時制）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第3回 Lesson 2: Friendship 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（過去時制）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第4回 Lesson 3: Health 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（未来時制）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第5回 Lesson 4: Environment 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（助動詞）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第6回 Lesson 5: Fashion 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（準動詞・関係詞1）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第7回 Lesson 6: Food 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（準動詞・関係詞2）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第8回 Lesson 7: Science & Technology 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（比較1）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第9回 Lesson 8: Study Abroad 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（比較2）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第10回 Lesson 9: College Life in the U. S. listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。	一瀬 厚一
	第11回 10: Steve Jobs 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（仮定法）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第12回 Lesson 11: Volunteer Work 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（話法）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第13回 Lesson 12: Internship 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（代名詞・冠詞の使い方）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第14回 Lesson 13: Travel 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（副詞）をもとに簡単な英作文に挑戦する。	一瀬 厚一
	第15回 Lesson 14: Culture 前回の課題の解説。トピックに関する英文読解。（課題）Grammar for Communication（修飾語）について学習する。	一瀬 厚一
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の考え・意見を持ち、それらを表現する。【技能・表現】	
到達目標	・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の考え・意見を持ち、グループやペアでの話し合いを通	

	<p>じて、他者の考え・意見も聞き、最終的に自分の考え・意見をまとめ、表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト教材の音声聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。</li> <li>・extensive readingの目標は10,000words。易しい英文を楽しみながら読むことができ、口語表現、日常生活での英語表現が理解できる。</li> </ul>
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	定期試験（60%）課題(30%) extensive reading(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：次回に学習する英文を読み、分からない単語をピックアップしてノートにまとめる。その後もう一度読み、自分で訳してみ、分からない箇所を明確にする。予習の仕方については第1回の授業で説明する。</p> <p>復習：授業で解説を聞いた後、予習の段階で分からなかった箇所をもう一度自分で訳して、理解度を高める。ノートにまとめた単語を繰り返し見直して、暗記する。</p> <p>予習・復習あわせて1.5～2時間。復習に時間をかけることが望ましい。</p> <p>extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。</p>
教科書・参考書	教科書：Journeys: Communication for the Future 阿野幸一ほか4名（朝日出版社）
オフィス・アワー	講義日の昼休み、授業の前後（非常勤講師室にて）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<p>養護教諭2種免許取得のための要件科目</p> <p>英和辞典を持参してください（紙媒体、電子どちらでも可）。また高校までの基本的な英文法は理解しておいてください。</p>



講義科目名称：医療英語会話

授業コード：3N149 3N150

英文科目名称：Medical English Conversation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
Barry D. Jones			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions and commonly used phrases and questions for use in class.	Barry D. Jones
	第2回 Unit 1: Meeting patients	Barry D. Jones
	第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history	Barry D. Jones
	第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms	Barry D. Jones
	第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for 1st Presentation	Barry D. Jones
	第6回 1st Presentation + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.	Barry D. Jones
	第7回 Quiz (short test) on Unit 4 + Unit 5: Taking a specimen	Barry D. Jones
	第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Conducting a medical examination	Barry D. Jones
	第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Assessing pain	Barry D. Jones
	第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Advising about medication + Prepare for 2nd Presentation	Barry D. Jones
	第11回 2nd Presentation + Part II of Unit 8: Advising about medication Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.	Barry D. Jones
	第12回 Quiz (short test) on Unit 8 + Unit 9: Improving Patients' mobility	Barry D. Jones
	第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Maintaining a good diet	Barry D. Jones
	第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Caring for inpatients	Barry D. Jones
	第15回 Unit 12: Coping with emergencies + Prepare for Final Presentation	Barry D. Jones
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine. [技能・表現]	
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.	
関連科目	Related to all English courses	
成績評価方法・基準	1. In-class quizzes (short tests) (30%: 3% x 10 quizzes) These will cover material from the text and will be graded in class. 2. Two midterm presentations (done in pairs but graded individually) (35%: 1st=15%; 2nd=20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics. 3. Final presentation (done in pairs but graded individually) (35%) Final presentation will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-12.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogs, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Listening practice is also important. Please use the online resources to practice listening. Each chapter will	

	require about 30-60 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 6 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	Caring For People
オフィス・アワー	During lunch of class day in my office
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change. 養護教諭の二種免許取得のための要件科目

講義科目名称：医療英語リーディング

授業コード：3N027 3N159 3N160

英文科目名称：Medical English Reading

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
一瀬 厚一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Guidance for class and Unit 1: Test Your Reading Skill 授業の説明（成績評価、課題、学習の方法などについて）、自己紹介、英語力チェック	一瀬 厚一
	第2回 Unit 2: Team Medicine topicの英文読解および内容の把握。医療英単語1	一瀬 厚一
	第3回 Unit 2: Team Medicine topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語2	一瀬 厚一
	第4回 Unit 3: Tiny Bugs, Big Impact topicの英文読解および内容の把握。医療英単語3	一瀬 厚一
	第5回 Unit 3: Tiny Bugs, Big Impact topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語4	一瀬 厚一
	第6回 Unit 4: Where Medicine Meets Religion topicの英文読解および内容の把握。医療英単語5	一瀬 厚一
	第7回 Unit 4: Where Medicine Meets Religion topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語6	一瀬 厚一
	第8回 Unit 5: Prenatal Screening: Decisions, Decisions topicの英文読解および内容の把握。医療英単語7	一瀬 厚一
	第9回 Unit 5: Prenatal Screening: Decisions, Decisions topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語8	一瀬 厚一
	第10回 Unit 10: What Is “Upstream” Thinking? topicの英文読解および内容の把握。医療英単語9	一瀬 厚一
	第11回 Unit 10: What Is “Upstream” Thinking? topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語10	一瀬 厚一
	第12回 Unit 13: What Comes First When Helping Others topicの英文読解および内容の把握。医療英単語11	一瀬 厚一
	第13回 Unit 13: What Comes First When Helping Others topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語12	一瀬 厚一
	第14回 Unit 15: Japan’s Healthcare System Is the Envy of the World topicの英文読解および内容の把握。医療英単語13	一瀬 厚一
	第15回 Unit 15: Japan’s Healthcare System Is the Envy of the World topicの英文読解および内容の把握。Grammar CheckとReading Comprehension。 topicにもとづいたactivities。医療英単語14	一瀬 厚一

科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力の養成と強化。 医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。</li> <li>・トピックの内容をまとめ、関連する事柄について、自分の意見・考えを表現できる。</li> <li>・テキストの音声聞いて単語や文章を正しく聴き取ることができる。</li> <li>・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。</li> </ul>
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	定期試験（70%） 課題（適宜授業内で指示する）（20%） 医療英単語テスト（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する英文を読み、分からない単語をピックアップしてノートにまとめる。その後もう一度読み、自分で訳してみ、分からない箇所を明確にする。予習の仕方については第1回の授業で説明する。 復習：授業で解説を聞いた後、予習の段階で分からなかった箇所をもう一度自分で訳して、理解度

	を高める。授業で扱われた文法事項やノートにまとめた単語を繰り返し見直して、暗記する。予習・復習あわせて1.5～2時間。復習に時間をかけることが望ましい。
教科書・参考書	教科書：Medical Explorer 大野直子&ダシルヴァ石田牧子（成美堂）
オフィス・アワー	講義日の昼休み、授業の前後（非常勤講師室にて）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	英和辞典を持参してください（紙媒体、電子どちらでも可）。また高校までの基本的な英文法は理解しておいてください。

講義科目名称：英語会話

授業コード：3N028 3N161

英文科目名称：General English Conversation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Course introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions and commonly used phrases and questions for use in class. Also, greetings and name order.	David Andrews
	第2回 Unit 1: Did you pack this bag yourself? Becoming familiar with common words and phrases used at airports.	David Andrews
	第3回 Unit 2: Can I pay in yen? Becoming familiar with common words and phrases used on an airplane.	David Andrews
	第4回 Unit 4: I'd like a ham sandwich, please + Unit 14: What's an egg sunny-side up?  Becoming familiar with common words and phrases related to ordering food.	David Andrews
	第5回 Unit 5: Do you have a room for tonight? + Prepare for 1st Presentation Becoming familiar with common words and phrases related to staying at a hotel.	David Andrews
	第6回 1st Presentation + Unit 6: Can I use my card in this A.T.M.? Presentations will consist of performing skits in pairs based on the material covered thus far. Becoming familiar with common words and phrases related to banks and money.	David Andrews
	第7回 Unit 8: I have a sunburn Dealing with minor medical issues.	David Andrews
	第8回 Unit 9: Do you have anything cheaper? Becoming familiar with common words and phrases used when shopping.	David Andrews
	第9回 Unit 10: Where are you from? Learning how to talk about where you are from.	David Andrews
	第10回 Unit 11: Where should we meet? + Prepare for 2nd Presentation Becoming familiar with words and phrases used when arranging a meeting/date.	David Andrews
	第11回 2nd Presentation + Unit 12: What are you doing tomorrow? Presentations will consist of performing skits in pairs based on the material covered thus far. Learning how to make plans.	David Andrews
	第12回 Unit 15: I want to do a bungee jump! Describing what you want to do.	David Andrews
	第13回 Unit 16: I've lost my bag! Becoming familiar with words and phrases used if you lose something.	David Andrews
	第14回 Unit 17: I think we're lost! Understanding directions and asking for assistance.	David Andrews
	第15回 Unit 20: What time is your flight? + Prepare for Final Presentation Becoming familiar with words and phrases that will help you get back home!	David Andrews
科目の目的	The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability, and to familiarize students with words and expressions that will be useful when traveling abroad. The course introduces students to practical strategies useful for communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is on oral comprehension (listening) and communication (speaking).	
到達目標	By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate with others in a variety of common situations they may encounter when traveling abroad.	
関連科目	All English courses.	
成績評価方法・基準	Grades are based on in-class quizzes (short tests) (10%), individual and group projects and assignments (20%), two midterm presentations (35%: 1st=15%; 2nd=20%), and a final exam (presentation) (35%)	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson. Students will listen to typical English conversation audio recordings, study relevant grammar and vocabulary and complete exercises. In addition, students will need about 4-6 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	教科書：「PASSPORT to New Places (English for International Communication・With full audio CD)」Angela Buckingham, Norman Whitney (OXFORD) 教科書：「PASSPORT to New Places (English for International Communication・WORKBOOK)」Lewis Lansford (OXFORD) For many of the activities, the use of smartphones, tablets, or notebook computers in class is encouraged.
オフィス・アワー	During lunch on the day of class in my office
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の 注意	Students are expected to participate in class discussions and projects. Attendance policy is consistent with university rules. Students are expected to conduct themselves with academic integrity and honesty.

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：3N029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
柴山森二郎	柴山森二郎		

授業形態	講義(演習を含む)	担当者
授業計画	<p>第1回 Chapter 1 スポーツで健康な暮らし Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第2回 Chapter 2 栄養は健康の鍵 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第3回 Chapter 3 現代はストレス時代 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第4回 Chapter 7 病気の子供達 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第5回 Chapter 8 在宅看護 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第6回 Chapter 18 リハビリで健康を [ + on-line program for PT の紹介 ] 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第7回 Chapter 11 病院の発達 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第8回 Chapter 12 近代看護の創設者ナイチンゲール 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第9回 Chapter 10 ハイテク医療と生活の質 [+English for MT (text+CD) 紹介] 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第10回 Chapter 13 看護師は患者の代弁者 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第11回 Chapter 15 コミュニケーションは良い人間関係から 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第12回 Chapter 14 老人ホームの老人達 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第13回 Chapter 16 薬物と薬 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告, 予習指示</p> <p>第14回 chapter 4 エイズ撲滅 小テスト, Dialog, Reading, Comprehension, 小テスト予告</p> <p>第15回 Chapter 17 現代医療か代替医療か 小テスト, 期末テスト予告</p>	柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山
科目の目的	専門分野の英語の学習を楽しむこと、そのことによって、英語の文献の内容を正確に理解する力をつけること、また英語の語句の意味や語法を習得し、その分野で、英語で意見や情報を発信することが出来るようになること。	
到達目標	「健康と医療」に関して、英語文献をパラグラフライティングの観点から分析的に読み、文献を読む力をつけ、この分野で使用される英単語や英語表現の習得を計り、この分野で英語のレポートを書く力の基礎を築くこと。	
関連科目	英語リーディング、医療英語リーディング、英語会話、医療英語会話	
成績評価方法・基準	授業中の課題、小テスト等の評価(40%)、定期試験(60%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習(30分)：未知の単語を辞書で調べながら、教科書の英文を読む。復習(30分)：パラグラフの音読と意味の把握、その内容を英語で説明する練習など。	
教科書・参考書	教科書：Life and Health Care. 著者：渡邊容子, 柴山森二郎, Mark Caprio 出版社：三修社 定価：1,870円(本体1,800円+税)。このテキストは、健康と医療の多様な場面で使われる英語を扱っているので、Nursing, PT, MTの全ての学生に役立つと考えるが、授業計画で示したように授業の中で、PTに関しては第6回授業で米国のNIHで開発され、関連図書館がon-lineで公開している視聴覚患者教育プログラムを、またMTに関しては自治医科大学名誉教授河合忠先生が編纂された「検査技師のための英語(CD付)」(医学書院)を紹介する。	
オフィス・アワー	時間：講義の前後、場所：非常勤講師室	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	真面目に、積極的に学習に取り組む。分からないことがあったら質問をする。	

講義科目名称：中国語

授業コード：3N030

英文科目名称：Chinese

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
深町 悦子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調	深町 悦子
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	深町 悦子
	第3回 子音の発音 子音と声調	深町 悦子
	第4回 第1課の学習 自己紹介 名前を中国語で読む練習	深町 悦子
	第5回 第1課の復習とドリル 発音と声調の組み合わせ練習	深町 悦子
	第6回 第2課の学習 どうなさいましたか 会話と表現の学習	深町 悦子
	第7回 第2課の復習とドリル 身体各部位の名称	深町 悦子
	第8回 発音と声調の総復習 中間レポート提出	深町 悦子
	第9回 第3課の学習 この薬はどう飲みますか 会話と表現の学習	深町 悦子
	第10回 第3課の復習とドリル 人体解剖図（各臓器の読み方）	深町 悦子
	第11回 第4課の学習 病室はどこですか 会話と表現	深町 悦子
	第12回 第5課の学習 具合はいかがですか 会話と表現	深町 悦子
	第13回 第6課の学習 心配いりません 会話と表現	深町 悦子
	第14回 第7課の学習 退院おめでとう 会話と表現	深町 悦子
	第15回 第1課から第7課までの復習 総合復習	深町 悦子
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、CDを聞きながら発声して覚えるように。	
教科書・参考書	教科書：医療系中国語会話（白帝社） 参考書：なし	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である	



講義科目名称：コリア語

授業コード：3N031

英文科目名称：Korean

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
青木 順			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。  文化として伝統茶を紹介する。	青木 順
	第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら） 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第6回 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>	
関連科目	特になし。	
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40％）・期末テスト（60％）	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定(コピー)
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30~12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。
履修条件・履修上の 注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。

講義科目名称：ドイツ語

授業コード：3N032

英文科目名称：German

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
菅谷 優			

授業形態	講義	担当者
授業計画	Lekion1 動詞の現在人称変化1 Lektion2 名詞と冠詞の格変化 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞 Lektion4 動詞の現在人称変化2・命令法 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類 Lektion6 前置詞 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞 Lektion9 動詞の三基本形・過去人称変化 Lektion10 現在完了・再帰表現 Lektion11 形容詞の格変化 Lektion12 形容詞と副詞の比較変化・zu不定詞 Lektion13 関係代名詞・指示代名詞 Lektion14 受動態 Lektion15 接続法	
科目の目的	ドイツ語の基礎文法を一巡する。[技術・表現]	
到達目標	講師のいない独習においても辞書と教科書を用いてドイツ語の文章が理解できるようにする。	
関連科目	健康スポーツ実技 現代文学 英語リーディング 医療英語会話 中国語 コリア語 ポルトガル語 情報処理	
成績評価方法・基準	授業内レポート50%、期末試験50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各文法事項一課につき予習復習込みで二時間	
教科書・参考書	教科書は郁文堂からでているDeutsche Grammatik System und Praxis Leicht ISBN978-4-261-01251-4を使用。辞書は郁文堂：新キャンパス独和辞典978-4-261-07306-5をお買い求めください。参考書として朝日出版社から出ている単語帳：ドイツ語基礎単語帳をお勧めいたします。	
オフィス・アワー	火曜五限終了後、非常勤講師室にて	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：ポルトガル語

授業コード：3N033

英文科目名称：Portuguese

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
宮入 亮			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション ポルトガル語について、簡単な挨拶、ポルトガル語の読み方 ポルトガル語の読み方	宮入 亮
	第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文	宮入 亮
	第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar	宮入 亮
	第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)	宮入 亮
	第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかけの表現 曜日の表現 動詞ir	宮入 亮
	第6回 今おこなっていることの表現、天気表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar	宮入 亮
	第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)	宮入 亮
	第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形	宮入 亮
	第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形	宮入 亮
	第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法	宮入 亮
	第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞	宮入 亮
	第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現	宮入 亮
	第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形	宮入 亮

	第14回 比較の表現ができる 比較の表現	宮入 亮
	第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現	宮入 亮
科目の目的	<p><b>【技能・表現】</b> ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会が多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお薦めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>	
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	<p>期末試験(70%)、授業5回毎に行う小テスト(3回実施で各10%、計30%) 小テストは第5回、第9回、第13回の授業内で実施します。各小テストは、翌週に返却し解説します。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。 ただし、復習は授業直後と授業直前に毎回30分ほど行ってください。</p>	
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他. 『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』. 朝日出版社.</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編). 『デイリー日葡英・葡日英辞典』. 三省堂. 市之瀬敦他(編). 『プログレッシブポルトガル語辞典』. 小学館.</p> <p>その他、資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>	
オフィス・アワー	<p>授業前、授業後の時間 (水曜日1限・2限の授業前後)</p>	
国家試験出題基準	特になし	
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>	

講義科目名称：情報処理

授業コード：3N151 3N152

英文科目名称：Information Processing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
西谷 泉			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第2回 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第3回 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第4回 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第5回 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第6回 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ。 テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第7回 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第8回 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文書校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第9回 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第10回 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第11回 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第12回 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉

	第13回	表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第14回	表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第15回	情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。[技能・表現]		
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。		
関連科目	情報リテラシー		
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。		
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版 (A)基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（群馬パース大学団体契約版）		
オフィス・アワー	未定		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。 養護教諭2種免許取得のための要件科目		

講義科目名称：情報リテラシー

授業コード：3N035

英文科目名称：information literacy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
西谷 泉			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第2回 コンピュータの仕組み(1) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 1. コンピューターの歴史 2. コンピューターの処理の基本 3. 文字コードとフォント 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第3回 コンピュータの仕組み(2) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第4回 インターネットの技術(1) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN 2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第5回 インターネットの技術(2) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第6回 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第7回 情報セキュリティ(1) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピューターウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第8回 情報セキュリティ(2) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第9回 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉



	第10回	著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第11回	ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第12回	情報と社会 身の回りのコンピューターシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピューターシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第13回	SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第14回	情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第15回	情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。 課題等は返却はしない	西谷 泉
科目の目的	情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。[知識・理解]		
到達目標	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。		
関連科目	情報処理		
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。		
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版 (A)基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（群馬パース大学団体契約版） （* 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。）		
オフィス・アワー	未定		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。 養護教諭2種免許取得のための要件科目		

講義科目名称：囲碁で学ぶ情報戦略

授業コード：3N036

英文科目名称：Strategic Information by Go

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
土屋 仁	青木喜久代	徳重祐美子	内林 由香
	島崎綾子		

授業形態	講義、実践対局	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス（自己紹介） 授業進行の説明 第2回 ルール解説（6路盤） 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習 第3回 ルールの復習、終局の説明（6路盤） 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説 第4回 9路対局と終局の理解（9路盤） 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践 第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践 第6回 問題演習①（19路盤） 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認 第7回 模範碁の解説と対局①（19路盤） 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局 第8回 模範碁の解説と対局②（19路盤） 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局 第9回 模範碁の解説と対局③（19路盤） 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局 第10回 模範碁の解説と対局④（19路盤） 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局 第11回 9子局の解説、連碁対局（19路盤） 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局 第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局（19路盤） 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局 第13回 模範碁の解説と対局⑥（19路盤） 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局 第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説 第15回 代表者対局（まとめ）（19路盤） すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局	青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代 青木喜久代
科目の目的	囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力、問題を解決する能力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ（検査における優先順位）を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。このことは、多様な情報を適切に分析し、問題を解決する方法を身に着けることができる。	
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。	
関連科目	救急・免疫・感染症学	
成績評価方法・基準	ミニテスト（実践アンケート含む：毎回、次回の講義で解説する）（20%）、6、12回演習問題（80%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。</li> <li>・準備学習時間の目安は20分。</li> </ul>	
教科書・参考書	教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」 参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」	
オフィス・アワー	随時（昼休みが良い）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：大学の学び入門

授業コード：3N153 3N154

英文科目名称：Introduction to College Learning

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
杉田 雅子	星野 修平	榎本 光邦	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは</p> <p>第2回 聞く（1） 講義の聞き方、ノートの取り方と実践 ゲストスピーカー：樋口建介理事長</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー 1</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー 2</p> <p>第5回 聞く（2）・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方 1 レポートとは何か レポート作成の手順</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方 2 論文作法</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方 3 レポートの形式</p> <p>第9回 調べる 情報を探す</p> <p>第10回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する</p> <p>第11回 自分自身の課題を見つける 入学以来の自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す</p> <p>第12回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする</p> <p>第13回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する</p> <p>第14回 アカデミック・スキルの実践（1） 書くことの実践：レポート作成（レポートは後日、評価コメントとともに返却する）</p> <p>第15回 アカデミック・スキルの実践（2） 聞く・考えることの実践 ゲストスピーカー：栗田昌裕学長、國元文生群馬パーズ病院長</p>	<p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>星野</p> <p>星野</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>榎本</p> <p>杉田</p> <p>榎本</p> <p>榎本</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル）</p>	
関連科目	全科目	
成績評価方法・基準	杉田担当課題（50%、後日評価コメントと共に返却する）、星野担当課題（20%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う）、榎本担当意見文・感想文（30%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。	
教科書・参考書	なし。プリントを使用。	

オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階26研究室 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305、1号館学生相談室、4号館学生相談室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。

講義科目名称：大学の学び－専門への誘い－

授業コード：3N038

英文科目名称：Introduction to Healthcare Profession

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
矢島 正栄	木村 朗	看護学科全教員	

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション・看護の理解① ・大学で看護学を学ぶにあたって ・基礎看護学とは	矢島正栄 上星浩子
	第2回 看護の理解② ・成人看護学とは ・総合病院で働く看護師の実際（岩崎綾乃）	萩原英子
	第3回 看護の理解③ ・老年看護学とは ・療養病棟、地域包括ケア病棟で働く看護師の実際（明戸正文）	清水美和子
	第4回 看護の理解④ ・精神看護学とは ・小児看護学とは	西川薫 内 山かおる
	第5回 看護の理解⑤ ・母性看護学とは ・助産学とは ・病院で働く助産師の実際（上原富美子）	早川有子
	第6回 看護の理解⑥ ・在宅看護学とは ・訪問看護ステーションで働く看護師の実際（大山晴美）	山野えり子
	第7回 看護の理解⑦／課題解決技法の獲得イントロダクション ・公衆衛生看護学とは ・市町村保健センターで働く保健師の実際 ・次回からのGWの方法について/プレゼンテーションの方法	小林亜由美 廣田幸子
	第8回 課題解決技法の獲得① ・テーマの決定 ・今後のGWスケジュールの立案 ・調査内容の分担	看護学科全 教員
	第9回 課題解決技法の獲得② ・前週のHWについて発表・討議 ・追加で調査が必要なことを整理し、分担する	看護学科全 教員
	第10回 課題解決技法の獲得③ ・前週のHWについて発表・討議 ・追加で調査が必要なことを整理し、分担する	看護学科全 教員
	第11回 課題解決技法の獲得④ ・前週のHWについて発表・討議 ・発表内容のまとめ	看護学科全 教員
	第12回 課題解決技法の獲得⑤ ・発表方法の検討 ・発表用媒体の作成	看護学科全 教員
	第13回 課題解決技法の獲得⑥ ・発表用媒体の作成 ・発表の練習	看護学科全 教員
	第14回 保健科学総論 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらまし	木村朗
	第15回 保健科学各論 保健科学を具他的な事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー	木村朗

科目の目的	保健・医療・福祉に携わる看護職の機能と役割について理解を促し、看護に対する興味・関心を深められるよう導く。また、グループワークを通して、看護職として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題解決能力を育てる。【関心・意欲】
到達目標	1. 対象や活動の場の特性に応じた看護職(看護師・保健師・助産師)の機能と役割を説明できる。 2. 自分自身の目指す看護師像と、そこに至るための今後の大学生活における目標を述べることができる。 3. グループでテーマを設定し、必要な情報を収集・整理して結論を導くことができる。 4. 相手の意見を尊重しながら自分の考えを述べ、グループのメンバーと協働できる。 5. グループワークの成果を分かりやすく、説得力をもって発表できる。
関連科目	生命倫理、大学の学び入門、多職種理解と連携、看護学概論Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	レポート40%、グループワークへの取り組み30%、定期試験（発表会における内容）30%の計100%(100点満点)。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義に出席する前に、講義で取り上げる内容について調べた上で出席すること。また、グループワークにおいても担当した内容については、十分に調べ、理解をした上で参加すること。いずれにおいても準備学習時間は1～2時間である。
教科書・参考書	身体活動学入門（三共出版） 木村朗担当部分で使用 適宜資料を配布するが、その他必要と思われる参考書籍や文献は図書館等で各自入手すること。
オフィス・アワー	適宜各回担当教員に確認する。 グループワーク開始後については、各グループ担当教員に確認する。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	本科目は学生自身の主体的かつ積極的な学習が必須の科目であることを理解したうえで参加すること。 第7回～第13回のグループワークの成果については、別途、発表会を開催する。

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：3N039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
矢島 正栄	中 徹	小河原はつ江	土屋 仁
	芝本 隆		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 看護師と関係職種、多様な看護の場における多職種連携	矢島正栄
	第2回 地域包括ケアシステムと継続看護	矢島正栄
	第3回 理学療法士とは－職務と職域を知る	中 徹
	第4回 理学療法士の仕事の実際を知る	中 徹
	第5回 理学療法士とチーム医療について	中 徹
	第6回 臨床検査技師とは－職務と職域を知る	小河原はつ江
	第7回 臨床検査技師の仕事の実際を知る	小河原はつ江
	第8回 臨床検査技師とチーム医療について	小河原はつ江
	第9回 診療放射線技師のお仕事	土屋仁
	第10回 医療従事者とヒューマンエラー	土屋仁
	第11回 チーム医療と医療マネジメント	土屋仁
	第12回 医療における技術の発生とチーム医療	芝本 隆
	第13回 チーム医療と適正・安全治療	芝本 隆
	第14回 チーム医療における臨床工学技士の役割	芝本 隆
	第15回 まとめ	矢島正栄
科目の目的	医療は複数の職種がそれぞれの専門性を全うし、かつ相互に協力し合って行われて人間を守る行為であるというチーム医療論を理解する。 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解能力を高めること」を目的とした科目である。	
到達目標	①各医療専門職の職務と職域が説明できる。 ②各医療専門職の具体的な仕事内容を知ることができる。 ③自らの専門職と他専門職との連携について考えることができる。	
関連科目	大学の学び入門	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習として、学科の職種におけるチームワーク医療、および各回の他の学科の職種について事前に下調べを30分程度で行うこと。復習として、理解し得た事項を箇条書きにしてノートにまとめておくこと（30分程度）。	
教科書・参考書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。	
オフィス・アワー	藤田先生は講義終了後の時間に対応可 芝本先生は月曜日～木曜日の午後（16:00～18:00）メール可（tshibamoto@paz.ac.jp） 中先生は月曜日12：15～15：00 土屋先生は随時相談可能 矢島先生は随時相談可能	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	最初2コマと最後1コマが学科のチーム医療論で、残りは3コマずつ他学科の職種理解とチーム医療の話です。最終回の1コマでレポート課題が出されますので、全ての講義をよく聴いて受講してください。	

講義科目名称：解剖学Ⅰ

授業コード：3N040

英文科目名称：AnatomyⅠ

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 序論1 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織	浅見知市郎
	第2回 序論2 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語	浅見知市郎
	第3回 骨格系1 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節	浅見知市郎
	第4回 骨格系2 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔	浅見知市郎
	第5回 骨格系3 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨 前腕の骨	浅見知市郎
	第6回 骨格系4 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨	浅見知市郎
	第7回 筋系1 筋の構造と機能 頭頸部の筋	浅見知市郎
	第8回 筋系2 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋	浅見知市郎
	第9回 筋系3 前腕の筋 手の筋 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋	浅見知市郎
	第10回 神経系1 神経系の構成 中枢神経系(脊髄 延髄 橋 小脳)	浅見知市郎
	第11回 神経系2 中枢神経系(中脳 間脳 大脳)	浅見知市郎
	第12回 神経系3 脳の血管 脳室 脳脊髄膜 脳脊髄液	浅見知市郎
	第13回 神経系4 末梢神経(脳神経 脊髄神経)	浅見知市郎
	第14回 神経系5 自律神経(交感神経 副交感神経) 伝導路(反射路 求心性伝導路 遠心性伝導路)	浅見知市郎
	第15回 総復習 ここまでの内容に関する練習問題で総復習を行う	浅見知市郎
科目の目的	看護職としての基本知識となる運動器・神経系の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】	
到達目標	骨格・筋・神経系の基本的な構造を説明できる。	
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジユメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。	
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂) 参考書：特に無し	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。	
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》Ⅲ-10-A-b, c 《人体の構造と機能》ⅠⅡ-1-A-a, b, c D-a, b, c, d 3-A-a, b B-a, b, c, d, e, f, g, h, i C-a, b, c, d 4-A-a, b, c B-a C-a, b, c	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジユメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。各自印刷して持参すること。授業中のPC操作は認めない。	



講義科目名称：解剖学Ⅱ

授業コード：3N041

英文科目名称：Anatomy II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 脈管系1 血管系総論 心臓 刺激伝導系 心臓の血管(冠状動脈)</p> <p>第2回 脈管系2 肺循環と体循環 動脈系 静脈系</p> <p>第3回 脈管系3 胎生時の循環系 リンパ系(リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺</p> <p>第4回 脈管系4 消化器系1 血液 血球 造血組織 内臓学総論(粘膜 腺) 口腔(歯)</p> <p>第5回 消化器系2 口腔(口蓋 舌 唾液腺) 咽頭 食道 胃</p> <p>第6回 消化器系3 胃(顕微鏡的構造) 小腸(十二指腸 空腸 回腸) 大腸(盲腸 結腸 直腸)</p> <p>第7回 消化器系4 呼吸器系1 肝臓 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔</p> <p>第8回 呼吸器系2 喉頭 気管 気管支 肺 胸膜</p> <p>第9回 泌尿器系 生殖器系1 腎臓 尿管 膀胱 尿道 男性生殖器(精巣 精巣上体 精管 精嚢 前立腺)</p> <p>第10回 生殖器系2 男性生殖器(陰茎 精液 精子) 女性生殖器(卵巣 卵管 子宮 膣 外陰部 胎盤) 腹膜</p> <p>第11回 内分泌系 内分泌系(下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島)</p> <p>第12回 感覚器系1 視覚器(眼球 眼球の付属器) 平衡聴覚器(外耳 中耳 内耳)</p> <p>第13回 感覚器系2 発生学1 皮膚(表皮 真皮 皮下組織 角質器 皮膚の腺) 受精から着床 発生の第2週・第3週</p> <p>第14回 発生学2 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生</p> <p>第15回 総復習 ここまでの内容に関する練習問題で総復習を行う。</p>	浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎
科目の目的	看護職としての基本知識となる脈管・内臓・発生の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】	
到達目標	脈管・内臓の基本的な構造と発生学について説明できる。	
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。	
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂) 参考書：特に無し	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。	
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-Ⅲ-10-A-d, e, f, h, i, k, m, n 《人体の構造と機能》-ⅠⅡ-5-A-a, b, c B-a, b, c, d, e, f C-a, b D-a, b E-a F-a G-a 6-A-a, b, c B-a, b, c, d, e, f, g, h C-a, b 9-A-b, d 10-A-a, b B-a, b C-a 11-A-a, b, c, d, e B-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j 13-A-a, b, c C-a, b, c 15-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j 16-A-a, b, d, c, d, e, f, g B-a, b, c C-a, b, c	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参すること。授業中のPCの操作は認めない。	

講義科目名称：臨床解剖学

授業コード：3N042

英文科目名称：Clinical Anatomy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 運動器系 骨格系の構造と疾患 第2回 運動器系 筋系の構造と疾患 第3回 循環器系 心臓、動脈、静脈、リンパ系の構造と疾患 第4回 内臓系 内臓学総論、呼吸器系の構造と疾患、消化器系（口腔～食道）の構造と疾患 第5回 内臓系 消化器系（胃～肛門・肝臓・胆嚢・膵臓）、泌尿器系、生殖器系の構造と疾患 第6回 内分泌系 内分泌器官（下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵島）の構造と疾患 第7回 神経系 中枢神経系（脳・脊髄）、末梢神経系（脳神経・脊髄神経）の構造と疾患 第8回 神経系・感覚器系 自律神経系（交感神経・副交感神経）、感覚器系（視覚器、聴覚器、皮膚）の構造と疾患	浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎
科目の目的	1年次に学習した解剖学を復習し、各種疾患との関係を学習する。 【思考・判断】	
到達目標	各種疾患が解剖学的構造と、どのように関係しているか説明できる。	
関連科目	基礎看護学実習ⅠⅡ・成人看護学慢性期実習・成人看護学急性期実習・老年看護学実習・小児看護学実習・母性看護学実習・精神看護学実習	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間を要する。	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂）	
オフィス・アワー	講義終了後の休み時間。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）	
国家試験出題基準	《必須問題》－Ⅲ－10－A－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付器官：講義の1週間前から1週間後まで。各自印刷して持参すること。授業中のPC操作は認めない。	

講義科目名称：生理学 I

授業コード：3N043

英文科目名称：Physiology I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官 第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達 第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮 第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節 第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム 第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能	洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー 01「知識・理解」に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	解剖学 I・II、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)	
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00	
国家試験出題基準	≪人体の構造と機能≫-II-1-A-a, b, c ≪人体の構造と機能≫-II-1-B-a, b, c ≪人体の構造と機能≫-II-2-A-a ≪人体の構造と機能≫-II-2-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-3-C-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-4-A-a ≪人体の構造と機能≫-II-4-B-a, b, c, d, e, f, h, i ≪人体の構造と機能≫-II-4-C-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-5-A-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-5-B-a, b, c, d, f ≪人体の構造と機能≫-II-5-C-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-D-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-E-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-F-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-G-b	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：生理学Ⅱ

授業コード：3N044

英文科目名称：Physiology II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1・2回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能 第3-5回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節 第6・7回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節 第8・9回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み 第10・11回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節 第12・13回 血液の生理学 血液の組成とその機能 第14・15回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム	洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)	
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00	
国家試験出題基準	≪人体の構造と機能≫-II-6-A-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-6-B-a, b, c, d, g ≪人体の構造と機能≫-II-7-A-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-7-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-7-C-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-8-A-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-8-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-9-A-c, d ≪人体の構造と機能≫-II-9-B-a, b, c, d, e ≪人体の構造と機能≫-II-10-A-a, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-10-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-10-C-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-11-A-d, e ≪人体の構造と機能≫-II-11-B-a, b, e, f, g, h ≪人体の構造と機能≫-II-13-A-a, b, c ≪人体の構造と機能≫-II-13-B-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-13-C-b, d, e ≪人体の構造と機能≫-II-14-A-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-14-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-15-A-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-15-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-15-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j ≪人体の構造と機能≫-II-16-A-d ≪人体の構造と機能≫-II-16-B-a, b	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：臨床生理学

授業コード：3N045

英文科目名称：Clinical Physiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 臨床生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達	洞口 貴弘
	第2回 筋肉の基本的機能 神経系の機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節	洞口 貴弘
	第3回 感覚の生理学 睡眠・記憶・情動 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム 脳の高次機能	洞口 貴弘
	第4回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	洞口 貴弘
	第5回 循環の生理学 呼吸の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節 呼吸器系基本構造と機能、調節	洞口 貴弘
	第6回 尿の生成と排泄および体液とその調節 消化と吸収 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み 消化管の基本構造と機能、調節	洞口 貴弘
	第7回 血液の生理学 血液の組成とその機能	洞口 貴弘
	第8回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム	洞口 貴弘
科目の目的	看護学生として学んで来た知識と1年次に履修した生理学講義の知識とを融合させ、正常な人体の機能の理解を深めることを目的とする(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	講義内容に関する期末テスト 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配布資料の熟読(1時間)	
教科書・参考書	参考書：「シンプル生理学 第7版」貴呂富久子、根木英雄(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00	
国家試験出題基準	<<人体の構造と機能>>-II-6-A-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-6-B-a, b, c, d, g <<人体の構造と機能>>-II-7-A-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-7-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-7-C-a, b <<人体の構造と機能>>-II-8-A-a, b <<人体の構造と機能>>-II-8-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-9-A-c, d <<人体の構造と機能>>-II-9-B-a, b, c, d, e <<人体の構造と機能>>-II-10-A-a, c, d <<人体の構造と機能>>-II-10-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-10-C-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-11-A-d, e <<人体の構造と機能>>-II-11-B-a, b, e, f, g, h <<人体の構造と機能>>-II-13-A-a, b, c <<人体の構造と機能>>-II-13-B-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-13-C-b, d, e <<人体の構造と機能>>-II-14-A-a, b <<人体の構造と機能>>-II-14-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-15-A-a, b <<人体の構造と機能>>-II-15-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-15-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j <<人体の構造と機能>>-II-16-A-d <<人体の構造と機能>>-II-16-B-a, b	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称：生化学

授業コード：3N046

英文科目名称：Biochemistry

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
石垣 宏尚			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。	石垣宏尚
	第2・3回 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。	石垣宏尚
	第4-6回 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。	石垣宏尚
	第7・8回 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。	石垣宏尚
	第9回 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。	石垣宏尚
	第10・11回 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。	石垣宏尚
	第12・13回 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体に不可欠なミネラルの種類および欠乏症、過剰症について解説する。	石垣宏尚
	第14回 ホメオスタシスとホルモン ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。	石垣宏尚
第15回 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。	石垣宏尚	
科目の目的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を養う。【知識・理解】	
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解できること。	
関連科目	化学A・B、生物学A・B、生理学I・II	
成績評価方法・基準	定期試験（90%）章末テスト（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね30分程度。	
教科書・参考書	教科書：ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能2 臨床生化学（メディカ出版） 参考書：シンプル生化学（南江堂）	
オフィス・アワー	講義終了後（17時50～18時30分）、質問を受け付ける 質問は E-mail (ishigaki@paz.ac.jp) でも随時受け付ける	
国家試験出題基準	《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-a, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-b, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-c, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-d, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-e, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-f, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-g	
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academyにて配布 配布期間：前回授業翌日から当該日まで	

持参方法：各自印刷もしくはPCにダウンロードして授業に持参すること



講義科目名称：病理学

授業コード：3N047

英文科目名称：General Pathology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岡山 香里			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 病理学序論・組織細胞障害と修復機構1 病理学とは、変性	岡山香里
	第2回 組織細胞障害と修復機構2 アポトーシス、壊死	岡山香里
	第3回 組織細胞障害と修復機構3 再生、化生、瘢痕治癒	岡山香里
	第4回 物質代謝異常1 糖質代謝異常	岡山香里
	第5回 物質代謝異常2 脂質代謝異常	岡山香里
	第6回 物質代謝異常3 核酸代謝異常、生体内色素代謝異常、無機物代謝異常	岡山香里
	第7回 循環障害 1 循環血液量の異常	岡山香里
	第8回 循環障害2 閉塞性の循環障害	岡山香里
	第9回 循環障害3 傍側循環、全身性の循環障害	岡山香里
	第10回 炎症1 炎症とは、炎症の分類、炎症の経過	岡山香里
	第11回 炎症2 炎症の各型、自己免疫性疾患	岡山香里
	第12回 先天異常 遺伝子・染色体異常と発生発達異常	岡山香里
	第13回 腫瘍1 定義、分類、良性腫瘍と悪性腫瘍	岡山香里
	第14回 腫瘍2 腫瘍の発生、発育、分化度	岡山香里
	第15回 腫瘍3 腫瘍の発生要因、腫瘍の種類	岡山香里
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【知識・理解】	
到達目標	1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。	
関連科目	解剖学Ⅰ，解剖学Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験100%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。	
教科書・参考書	教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡(okayama@paz.ac.jp)によって随時対応する。	
国家試験出題基準	≪必修問題≫-I-2-B-abc ≪必修問題≫-III-11-A-a <sup>~</sup> x, B-abcd ≪人体の構造と機能≫-I. II-9-A-abcd, B-abcde, 16-D-ab ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-I-1-A-ab, B-ab ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-II-2-A-abc, B-abc, C-abcdefg, D-abcde ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-II-3-A-a, B-abc, C-abcdefg, D-abcdefghi, E-abcd	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：臨床病態学 I

授業コード：3N048

英文科目名称：Clinical Pathophysiology I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
尾林 徹	尾林 徹		

授業形態	講義または演習 テキストは、スライド供覧を併用する。			担当者
授業計画	第1回	総論 1 診断学 身体所見		尾林
	第2回	総論 2 臨床検査 治療法の原則		尾林
	第3回	消化器疾患 1 食道疾患 胃潰瘍 胃がん 大腸がん 消化器検査法 GIF CF 注腸 腹部超音波検査		尾林
	第4回	消化器疾患 2 肝臓 胆のう 膵臓疾患 胆石症 胆汁代謝 排泄		尾林
	第5回	消化器疾患 3 イレウス 肝性脳症 炎症性腸疾患 急性虫垂炎		尾林
	第6回	消化器疾患 4 ERCP PTCO 手術治療 黄疸 肝生検 TAE など		尾林
	第7-9回	第7回 呼吸器疾患 1、2 第8回 呼吸器疾患 3 第9回 呼吸器疾患 4 気道 肺の炎症性疾患 気管支喘息 COPD 肺腫瘍 気胸 睡眠時無呼吸症候群 気管支鏡手術治療 肺機能検査 など		尾林
	第10回	循環器疾患 1 循環器疾患総論 循環器救急 虚血性心疾患 大動脈疾患		尾林
	第11回	循環器疾患 2 弁膜症 心不全 肺血栓塞栓症 (VTE: 静脈血栓塞栓症 DVT: 深部静脈血栓症)		尾林
	第12回	循環器疾患 3 不整脈 心電図の基礎 PAD		尾林
	第13回	循環器疾患 4 循環器の検査法 (血管造影 CT MRI 核医学検査など) 手術治療 ペースメーカ カテーテル治療 循環器系治療薬 など		尾林
	第14回	血液造血器 1 貧血 血液の成分 造血とは 血液検査の異常値 骨髄検査 輸血		尾林
	第15回	血液造血器 2 白血病 リンパ球系疾患 DIC 血小板機能異常 多発性骨髄腫 など		尾林
科目の目的	成人の罹患する (罹る: かかる) 代表的な疾患 (疾病、病気) について、その自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学び、すでに履修した関連科目 (後記) の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。【知識・理解】			
到達目標	消化器疾患 (消化管: 食道・胃・小腸・大腸、肝臓、胆のう、膵臓)、呼吸器疾患 (肺炎、気管支喘息、気胸、肺気腫、肺がん)、循環器疾患 (心臓・大血管・末梢動脈・静脈疾患)、血液・造血器疾患 (貧血、白血病) などの概要について理解し、説明が出来る (患者さん、患者家族への説明を想定している)。			
関連科目	履修習得した関連科目、基礎科目、専門科目、看護学専門科目。 生化学 薬理学 解剖学I II 生理学I II 病理学			
成績評価方法・基準	筆記試験 100%			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の1/3の時間			
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学 2 (呼吸器) 3 (循環器) 4 (血液・造血器) 5 (消化器) を適宜参考とする。			
オフィス・アワー	講義前後、講義日の昼休み。			
国家試験出題基準	<< 必修問題 >> -III-11-B-abcd << 疾病の成り立ちと回復の促進 >> -III-5-A-abcdef, III-6-A-abcdef, III-6-B-abcde, III-7-A-abcd << 成人看護学 >> -II-3-C-abcdefghijklmn III-8-A-abcd, III-8-B-abc, III-8-C-abcde, III-8-D-abcde, III-8-E-abcd III-9-A-abcd, III-9-B-abc, III-9-C-abc, III-9-D-abcdefg, III-9-E-abcd III-10-A-abcde, III-10-B-abcd, III-10-C-abcdefg, III-10-D-abcdefghij, III-10-E-abcdefg III-11-A-abc, III-11-B-ab, III-11-C-ab, III-11-D-abcdef, III-11-E-abc			

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
尾林 徹	尾林 徹		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 内分泌代謝1 ホルモン全般の働きと異常な病態 脂質異常症 甲状腺疾患 機能亢進症と低下症 原発性アルドステロン症	尾林
	第2回 内分泌代謝2 糖尿病 尿崩症 クッシング症候群 メタボリックシンドローム インスリン治療 シックデイ RSS系 糖尿病の経口薬 低血糖 高血糖	尾林
	第3回 脳・神経1 脳出血 脳梗塞 くも膜下出血 慢性硬膜下血腫 脳腫瘍	尾林
	第4回 脳・神経2 総合診療科について パーキンソン病 認知症 アルツハイマー病 ギラン・バレー症候群 重症筋無力症	尾林
	第5回 脳・神経3 脳CT 脳MRI 髄液検査 脳血管造影 脳波検査 頭蓋内圧亢進症 水頭症 脳室ドレナージ 血腫除去術 VPシャント	尾林
	第6回 腎・泌尿器1 腎炎 慢性腎臓病 尿路の炎症 腎泌尿器の腫瘍 血尿 排尿障害	尾林
	第7回 腎・泌尿器2 前立腺疾患 腎不全 透析 膀胱鏡 膀胱切除術 再建術 回腸導管 IVU ED 尿路結石 など	尾林
	第8回 膠原病1 SLE (全身性エリトマトーデス) 関節リウマチ シェーグレン症候群 PSS MCTD 皮膚筋炎 など	尾林
	第9回 膠原病2 アレルギー疾患 感染症 ステロイド治療 免疫抑制薬 分子標的薬 レイノー現象 喘息 接触性皮膚炎 ベーチェット病 サルコイドーシス など	尾林
	第10回 運動器1 骨折 脱臼 変形性関節症 (股関節 膝関節) 脊椎疾患 脊髄損傷 末梢神経障害 神経麻痺 とても大切 実地で役に立つ	尾林
	第11回 運動器2 関節可動域 (ROM) ギプス固定 人工関節置換手術 脊椎造影 リハビリテーション	尾林
	第12回 皮膚疾患1 湿疹 アレルギー性皮膚炎 アトピー 帯状疱疹 疥癬 老人性皮膚掻痒症	尾林
	第13回 眼疾患 白内障 緑内障 網膜剥離 眼内レンズ 視野狭窄 飛蚊症	尾林
	第14回 耳鼻咽喉 難聴 めまい オーディオグラム メニエール病 突発性難聴	尾林
	第15回 女性生殖器 乳がん 子宮がん (体がん 頸がん) 卵巣がん 子宮筋腫 子宮内膜炎 膣炎 STI 不妊症 手術後リンパ浮腫	尾林
科目の目的	成人の罹患する代表的な疾患について、自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学び、すでに履修した関連科目 (後記) の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。【知識・理解】	
到達目標	内分泌代謝疾患 (糖尿病、甲状腺疾患：バセドウ病、クッシング病、副腎疾患)、脳神経疾患 (脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、神経変性疾患)、腎泌尿器疾患 (腎不全、尿路感染症、膀胱炎、急性腎炎、慢性腎炎、腎細胞がん、膀胱癌)、アレルギー・膠原病：自己免疫疾患、感染性疾患、アナフィラキシーショック、薬剤性肝障害、関節リウマチ、SLE、不明熱、結核、コレラ、マラリア、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、婦人科の炎症性疾患、性感染症 (STI) の概要について理解し、説明が出来る (患者さん、患者家族への説明を想定している)。	
関連科目	すでに履修習得した、基礎科目、専門科目、看護学専門科目。 生化学 薬理学 解剖学I II 生	

	理学I II 病理学
成績評価方法・基準	筆記試験 100% 到達度は試験により判定する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習として30分、さらに30分の復習が望ましい。
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学 6 (内分泌代謝) 7 (脳神経疾患) 8 (腎泌尿器) 9 (女性生殖器) 10 (運動器) 11 (アレルギー・膠原病・感染症) 12 (皮膚疾患) 13 (眼疾患) 14 (耳鼻咽喉疾患) 医学書院 を適宜参考にします。  関連する参考資料は随時紹介する。
オフィス・アワー	講義前後、講義日の昼休み。
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅲ-11-B-abcd ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅲ-4-A-abcdefghijkl, Ⅲ-4-B-abc, Ⅲ-4-C-abcd Ⅲ-8-A-abcde, Ⅲ-8-B-abcde, Ⅲ-8-C-abcde, Ⅲ-8-D-abcde Ⅲ-9-A-abcdefghijkl, Ⅲ-9-B-abcdefghijkl, Ⅲ-9-C-abcdefghijkl, Ⅲ-9-D-abcdefghijkl, Ⅲ-10-A-abcdef, Ⅲ-10-B-ab Ⅲ-11-A-abcde, Ⅲ-11-B-ab, Ⅲ-11-C-a Ⅲ-12-A-abcdefg, Ⅲ-12-B-a Ⅲ-13-A-abcd ≪成人看護学≫-Ⅱ-3-C-abcdefghijklmn Ⅲ-12-A-abcdef, Ⅲ-12-B-abcde, Ⅲ-12-C-abcde, Ⅲ-12-D-abcdefgh, Ⅲ-12-E-abcdefgh Ⅲ-13-A-abcd, Ⅲ-13-B-abc, Ⅲ-13-C-ab, Ⅲ-13-D-ab, Ⅲ-13-E-ab Ⅲ-14-A-abc, Ⅲ-14-B-ab, Ⅲ-14-C-abc, Ⅲ-14-D-abc, Ⅲ-14-E-abcd Ⅲ-15-A-abcdef, Ⅲ-15-B-abcde, Ⅲ-15-C-abcd, Ⅲ-15-D-abcdef, Ⅲ-15-E-abcde Ⅲ-16-A-abcde, Ⅲ-16-B-abcd, Ⅲ-16-C-abc, Ⅲ-16-D-abcdefg, Ⅲ-16-E-abcdefg Ⅲ-17-A-abcd, Ⅲ-17-B-abcd, Ⅲ-17-C-abc, Ⅲ-17-D-abcd, Ⅲ-17-E-abcdef Ⅲ-18-A-ab, Ⅲ-18-B-a, Ⅲ-18-C-ab, Ⅲ-18-D-abc, Ⅲ-18-E-ab Ⅲ-19-A-abcdefg, Ⅲ-19-B-abc, Ⅲ-19-C-abcdefghi, Ⅲ-19-D-abcdefgh, Ⅲ-19-E-abc
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床病態学Ⅲ

授業コード：3N050

英文科目名称：Clinical Pathophysiology III

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
井埜 利博	秋元かつみ	黒沢和夫	

授業形態	講義形式（全部で15回：井埜8回、秋元6回、黒沢1回）		担当者
授業計画	第1回	小児科学概論・診断と治療の概要 小児の特徴、小児疾患の診断と治療法等	井埜利博
	第2回	新生児・未熟児（1） 新生児特有の生理について	井埜利博
	第3回	新生児・未熟児疾患（2） 低出生体重児に起こる疾患について	井埜利博
	第4回	先天異常、先天代謝異常 染色体異常、先天代謝異常、新生児タンデムマス・スクリーニング等	井埜利博
	第5回	神経・筋・骨等疾患、呼吸器疾患 小児の神経・筋・骨疾患概要、小児に特有な呼吸器疾患	井埜利博
	第6回	循環器疾患 先天性心疾患、川崎病、心筋疾患、不整脈等	秋元かつみ
	第7回	消化器疾患 主として先天性の奇形（幽門狭窄・鎖肛・ヒルシュシュプルング病等）	秋元かつみ
	第8回	感染症（1） ウイルス性感染症	秋元かつみ
	第9回	感染症（2） 細菌性感染症	秋元かつみ
	第10回	血液・腫瘍性疾患 血液疾患と悪性腫瘍について	井埜利博
	第11回	免疫・アレルギー疾患、膠原病 アレルギーのしくみ、気管支喘息、花粉症、免疫不全、リュウマチ性疾患等	秋元かつみ
	第12回	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患 急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、先天性尿路奇形等	秋元かつみ
	第13回	内分泌疾患、精神疾患・心身症など 小児の特有な内分泌異常、発達障害（ADHD・広範性発達障害）、不慮の事故、虐待等	井埜利博
	第14回	重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患 重症心身症としての脳性麻痺合併症、その他眼科・耳鼻科領域における代表的疾患	井埜利博
	第15回	小児への投薬について 小児における薬物動態および内服薬の飲ませ方等	黒沢和夫
科目の目的	小児看護に必要な基礎的な知識を習得する。また、小児の特有な疾患についての病態生理、症状、治療等を理解し、小児看護を行う上で役立つ知識を身につける。 ディプロマポリシー：【知識・理解】		
到達目標	1. 小児の生理学的特殊性を知り、成人のそれとの違いを理解する。2. 小児疾患の原因・症状・検査所見・治療等についての一般的知識を習得する。3. 胎児・新生児を含め、成長発達の過程を学び、それに伴う疾患の病態を習得する。4. 小児科学のみならず、小児に関連したすべての疾患の基礎的知識を勉強し、それらが到達目標に達するように学習する。		
関連科目	小児看護学、母性看護学、基礎看護学、公衆衛生看護学、成人看護学、内科学および専門基礎臨床科目、専門基礎地域科目等を含めた小児に関するあらゆる科目が関連すると思われる。		
成績評価方法・基準	定期試験100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習することが重要（特に授業を行った分野については教科書をもう一度読み返す）。配布資料については前もって予習しておくことが望ましい。予習復習時間の目安はそれぞれ1時間程度が望ましい。		
教科書・参考書	教科書：ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 小児臨床看護各論（専門分野Ⅱ）、奈良間美保他著、医学書院、2016 参考書：小児の発達と看護（小児看護学）、中野綾美編集、メディカル出版、2012		
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付け、その場で回答します。不明点は後日調べて文書でお答えします。		
国家試験出題基準	【看護師】 《必修》－Ⅲ－11－B－f 《小児看護学》－Ⅱ－9－A－a 《小児看護学》－Ⅱ－9－B－a 《小児看護学》－Ⅱ－9－D－a 《小児看護学》－Ⅱ－11－A－a, b		

	《小児看護学》－Ⅱ－11－B－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－11－C－a, b, c, d, e
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：臨床病理学

授業コード：3N051

英文科目名称：Clinical Pathology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
尾林 徹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 心電図	尾林
	第2回 不整脈	尾林
	第3回 肝胆膵	尾林
	第4回 食道・胃	尾林
	第5回 腸疾患	尾林
	第6回 内代謝	尾林
	第7回 腫瘍	尾林
	第8回 肺疾患	尾林
科目の目的	生理学、解剖学、病理学の知識を臨床実践に活用する考え方を学び、臨床の場において、適切な看護判断のできる能力を養う。「知識・理解」	
到達目標	様々な具体的臨床場面を想定し、対象の病態と変化の予測を臨床病理学的見地から説明でき、適切な看護判断ができる。	
関連科目	生理学Ⅰ、Ⅱ、生化学、病理学、薬理学、臨床病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
成績評価方法・基準	筆記試験 100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	約15分間 事前配布の講義資料による学習内容の把握をしておくが良い。	
教科書・参考書	適宜紹介、教科書の指定はない。	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称：免疫・感染症学

授業コード：3N052

英文科目名称：Immunology and Infectious Diseases

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 克典			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 免疫学総論 免疫の概念、自己と非自己を認識するしくみ 第2回 生体防御システム概論Ⅰ～自然免疫と獲得免疫～ 自然免疫と獲得免疫の違いおよびそのメカニズム 第3回 生体防御システム概論Ⅱ～細胞性免疫と液性免疫～ 免疫細胞による細胞性免疫と液性免疫による生体防御機構の特徴や違い 第4回 感染症学総論～感染経路と感染対策～ 感染症の定義、感染経路、院内感染対策法 第5回 細菌感染症概論 細菌の分類や特徴、抗菌薬の種類、薬剤耐性メカニズム 第6回 細菌感染症各論Ⅰ 食中毒の原因菌 第7回 細菌感染症各論Ⅱ 院内感染および性感染の原因菌 第8回 細菌感染症各論Ⅲ リケッチア・クラミジア・抗酸菌感染症 第9回 真菌・寄生虫感染症 カンジダ症・マラリア・赤痢アメーバ 第10回 ウイルス感染症概論 ウイルスの分類や特徴、抗ウイルス薬、風邪症候群 第11回 ウイルス感染症各論 食中毒の原因菌、肝炎ウイルス、ウイルス性出血熱、H I V 第12回 免疫異常Ⅰ 免疫不全症の分類と特徴、 第13回 免疫異常Ⅱ アレルギーの分類・特徴と発生メカニズム 第14回 免疫異常Ⅲ 免疫寛容と自己免疫疾患 第15回 輸血と免疫 血液型と不適合輸血、輸血検査、輸血感染	高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典
科目の目的	生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。細菌・ウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など臨床現場で必要となる感染知識を身に付ける。【知識・理解】	
到達目標	1. 細胞性免疫と液性免疫を説明できる。2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を説明できる。3. アレルギーの種類と特徴を説明できる。4. 感染症の特徴と感染対策法を説明できる。5. 主な細菌感染症について説明できる。6. 主なウイルス感染症について説明できる。7. 輸血のリスクについて説明できる。	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を行い、各自知識整理を行うこと。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。	
教科書・参考書	教科書：「病気がみえる⑥ 免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア） 参考書：「わかる 身につく 病原体・感染・免疫」（南山堂）	
オフィス・アワー	講義終了後（10時30分～12時10分）教室もしくは研究室にて質問を受け付ける。 e-mail（k-takahashi@paz.ac.jp）でも随時質問を受け付ける。	
国家試験出題基準	1～3：必須問題3-10-A-d、必須問題3-11-B-c、人体の構造と機能-9-A、人体の構造と機能-9-B-a～d 4,7：基礎看護-共通基礎技術-E、必須問題4-患者の安全と安楽を守る技術-c 11～12：成人看護学-14-D、成人看護学-14-E-a、疾病の成り立ちと回復の促進-8-c 13：成人看護学-14-E-b、疾病の成り立ちと回復の促進-8-B 14：成人看護学-14-A-b,c、成人看護学-14-B-b、疾病の成り立ちと回復の促進-8-A	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：薬理学

授業コード：3N053

英文科目名称：Pharmacology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
栗田 昌裕			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 薬理学とは 薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。	栗田昌裕
	第2回 薬物動態 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。	栗田昌裕
	第3回 麻酔薬と中枢興奮薬 全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬。	栗田昌裕
	第4回 解熱鎮痛薬・抗炎症薬と麻薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	栗田昌裕
	第5回 向精神薬と抗痙攣薬 向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬 筋弛緩薬の作用と応用。パーキンソン症候群の理解と抗パーキンソン薬の作用。	栗田昌裕 栗田昌裕
	第6回 自律神経薬 自律神経の基礎知識。 コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬。 アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。	栗田昌裕
	第7回 オータコイド オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。	栗田昌裕
	第8回 強心薬 強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。 抗狭心症薬と抗不整脈薬 狭心症治療薬の作用と投与方法。不整脈の分類と治療。抗不整脈薬の種類。	栗田昌裕 栗田昌裕
	第9回 利尿薬と降圧薬 利尿薬。利尿薬の臨床的応用。降圧薬。抗動脈硬化薬。	栗田昌裕
	第10回 消化器病薬と駆虫薬 消化性潰瘍治療薬。健胃・消化薬。消化管運動促進薬。 制吐薬。下痢と止痢薬。潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬。駆虫薬。	栗田昌裕
	第11回 呼吸器病薬 呼吸器病薬。抗結核薬。	栗田昌裕
	第12回 内分泌薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	栗田昌裕
	第13回 血液病薬と抗癌薬 貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 抗癌薬の開発と化学療法。抗癌薬の副作用と組み合わせ。	栗田昌裕
	第14回 化学療法薬と免疫療法薬 化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。	栗田昌裕
	第15回 消毒薬 滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。	栗田昌裕
科目の目的	ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする科目である。具体的には、医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係性を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。	
到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適応に関する基礎知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護の実践に必要なとされるレベルに到達することを目標とする。	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	試験（100％）。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約1時間。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」（医学書院）。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み。
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-III-4-B-b~d 《必修問題-3》-III-12-Aa~o 《必修問題-3》-III-12-B`a~c
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

講義科目名称：臨床薬理学

授業コード：3N054

英文科目名称：Clinical Pharmacology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
栗田 昌裕			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 薬理学の総論1。 薬理学の総論の基本概念を復習する（1回目）：用量と薬理作用、受容体と作用、薬物動態、薬物に影響を与える因子、など。	栗田昌裕
	第2回 薬理学の総論2。 薬理学の総論の基本概念を復習する（2回目）：ライフサイクルと薬物、薬物の働く仕組み、麻酔薬・睡眠薬の効く仕組み。薬物の相互作用、副作用・中毒、麻薬、毒薬、薬物の保管・管理、臨床検査、など。	栗田昌裕
	第3回 薬物治療の各論1：①炎症、②腫瘍。 ① 副腎皮質ステロイド、細菌感染症、真菌症、ウイルス感染症、消毒薬、ワクチン、自己免疫疾患の治療、など。② 悪性腫瘍の治療、抗がん剤、ホルモン治療、など。	栗田昌裕
	第4回 薬物治療の各論2：③代謝・内分泌疾患、④脳・神経疾患。 ③ 糖尿病、甲状腺機能異常症、脂質異常症、痛風、卵巣機能低下症、骨粗鬆症など。④ てんかん、頭痛、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳血管障害など。	栗田昌裕
	第5回 薬物治療の各論3：⑤精神疾患、⑥血液疾患。 ⑤ 認知症、統合失調症、躁うつ病、不安神経症、など。⑥ 貧血、血栓症など。	栗田昌裕
	第6回 薬物治療の各論4：⑦循環器疾患、⑧腎臓・泌尿器疾患。 ⑦ 高血圧、心不全、種々の不整脈、狭心症、など。⑧ 浮腫、蓄尿障害、排尿障害、前立腺肥大、など。	栗田昌裕
	第7回 薬物治療の各論5：⑨消化器疾患、⑩呼吸器疾患。 ⑨ 胃・十二指腸潰瘍、胆石症、胆道疾患治療薬、など。⑩ 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、アレルギー、など。	栗田昌裕
	第8回 薬物治療の各論6 ⑪感覚器の疾患 ⑪ めまい、緑内障、皮膚疾患、など。	栗田昌裕
科目の目的	ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする。具体的には、薬理学の知識を臨床実践に活用する考え方を学ぶ。主要な傷病に対する薬物療法について、臨床症状と薬効、薬物の分布・代謝・排泄の関係、副作用の機序について説明でき、状況に応じて患者の安全、安楽を保持しながら薬物療法の効果を高める看護を考える力を養う。	
到達目標	① 重要な疾患や重要な病態に対して、どのような薬物を用いるかが分かること。 ② 副作用や、相互作用、禁忌などの看護上で重要な知識を整理して明確に理解できること。	
関連科目	薬理学、成人看護学。	
成績評価方法・基準	典型的な過去の国家試験問題などによる試験（100％）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に関しては、特に必要はない。意欲的な人には教科書の該当する章を眺めて、問題意識を高めることが勧められる。また、毎回の講義に関して、1時間ほどの復習をすること。	
教科書・参考書	教科書：特に用いない。 参考書：「疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」（医歯薬出版株式会社）。	
オフィス・アワー	講義実施日の12：10～13：00。	
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-2-D-e 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-C-b 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-D-a~g 《必修問題-3》-III-12-Aa~l 《必修問題-3》-III-12-B`a`d	
履修条件・履修上の注意	毎回、資料を配布します。	

講義科目名称：臨床検査学

授業コード：3N055

英文科目名称：Clinical Laboratory Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
小河原はつ江	藤本 友香	三浦 佑介	

授業形態	オムニバス形式で講義する。小河原7.5回、藤本3.5回 三浦4回		担当者
授業計画	第1回	臨床検査とその役割、臨床検査の流れと看護師の役割 診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。臨床検査はどのようにして行われるか、また医療チームの役割や看護師の役割について解説する。	小河原はつ江
	第2回	一般検査（1） 検体の取り扱い方、尿および便検査について解説する。	小河原はつ江
	第3回	一般検査（2） 体液貯留液（胸水、腹水など）検査、脳脊髄液検査、関節液検査、その他のについて解説する。	小河原はつ江
	第4回	血液検査（1） 血沈（赤沈）、血球算定、血液像について解説する。	小河原はつ江
	第5回	血液検査（2） 出血・凝固検査、溶血性貧血の検査、骨髄穿刺検査について解説する。	小河原はつ江
	第6回	化学検査（1） 血清タンパク、酵素、糖代謝検査、脂質代謝検査について解説する。	小河原はつ江
	第7回	化学検査（2） 胆汁排泄関連物質検査、腎機能、水・電解質の検査、血液ガス分析について解説する。	小河原はつ江
	第8回	化学検査（3）および中間試験 鉄代謝、銅代謝検査、血中薬物濃度検査について解説した後、中間試験を行う。試験成績は学生に返却し、定期試験成績と合わせて評価する。	小河原はつ江 藤本友香
	第9回	免疫血清検査（1） 炎症マーカー、液性免疫、細胞性免疫およびアレルギーの検査について解説する。	藤本友香
	第10回	免疫血清検査（2） 免疫グロブリン検査、腫瘍マーカー検査、輸血に関する検査について解説する。	藤本友香
	第11回	内分泌機能検査 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン検査等について解説する。	三浦佑介
	第12回	微生物検査・寄生虫検査 主な微生物および寄生虫の特徴と病気との関連について解説する。	藤本友香
	第13回	病理検査 細胞診断学的検査、病理組織検査について解説する。	三浦佑介
	第14回	生理機能検査（1） 循環器機能検査、呼吸機能検査、神経機能検査、脳波検査について解説する。	三浦佑介
	第15回	生理機能検査（2） 画像検査（超音波検査、MRI検査、サーモグラフィー等）について解説する。	三浦佑介
科目の目的	看護師として必要な臨床検査の基礎知識を学び、科学的根拠に基づいた看護ができることをめざす。 ディプロマポリシーの【知識・理解】【思考・判断】を修得することをめざす。		
到達目標	1) 国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断・治療を行うための臨床検査の概略を把握する。 2) 各種検査の基準値、臨床的意義を理解する。 3) 看護ケアの実践に役立てることができる。		
関連科目	解剖学Ⅰ、Ⅱ、生理学Ⅰ、Ⅱを含む各臨床科目		
成績評価方法・基準	中間試験および定期試験（筆記）の平均得点で評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分間、予習または復習をしっかりと行うこと。		
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 別巻 臨床検査」奈良信雄編 医学書院 2016 参考書1：「看護のための臨床検査」浅野嘉延著 南山堂 2015 参考書2：「臨床検査法提要 改訂第33版」金井正光監修 奥村伸生、他編 金原出版 2010		
オフィス・アワー	小河原：講義の前後及び月曜日16:30～19:00およびメールにて対応 ogawara@paz.ac.jp) 藤本：講義の前後およびメールにて対応 fujimoto@paz.ac.jp、三浦：講義の前後およびメールにて対応 miura@paz.ac.jp		

国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》Ⅱ－3－B－a～c
履修条件・履修上の注意	履修条件は特にないが、臨床検査のデータを活用し、看護ケアの実践に役立てられるよう、不明な点は積極的に質問をしてほしい。

講義科目名称：緩和医療学

授業コード：3N056

英文科目名称：Palliative Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
斎藤 龍生	小林 剛	本多 昌子	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 緩和医療学総論 緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介します。</p> <p>第2回 緩和医学各論 疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策</p> <p>第3回 緩和医学各論 疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考える。</p> <p>第4回 緩和ケアにおける看護①疼痛マネジメント、その他症状マネジメント 疼痛マネジメント・その他症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメント・その他症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考える。</p> <p>第5回 緩和ケアにおける看護②スピリチュアルケア、全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて</p> <p>第6回 緩和ケアにおける看護③看取りのケア、家族ケア、グリーフケア 終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について</p> <p>第7回 緩和的リハビリテーション、緩和医療におけるチームアプローチ 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割、多職種の役割と機能</p> <p>第8回 緩和医療に関する振り返り</p>	<p>斎藤 龍生</p> <p>小林 剛</p> <p>小林 剛</p> <p>本多 昌子</p> <p>本多 昌子</p> <p>本多 昌子</p> <p>本多 昌子</p> <p>本多 昌子</p>
科目の目的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。【知識・理解】	
到達目標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。	
関連科目	生命倫理・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学ⅠⅡ・疾病の成り立ち・薬理学・看護の学び入門・臨床心理学・栄養学・カウンセリング・社会福祉・地域サービス論・看護学概論・看護過程論・成人・老年看護学総論・在宅看護論	
成績評価方法・基準	授業毎のミニツツペーパーの提出（30%）、試験（70%） 試験欠席及び追試はレポートで評価を行う	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマあたりの学習時間の目安：4時間	
教科書・参考書	教科書は使用しない  参考書として、 1. 「成人看護学⑦緩和ケア」メディカ出版 2. 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝／内布敦子（ヌーヴェルヒロカワ） 3. 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年度版」（金原出版株式会社）	
オフィス・アワー	講義の前後（斎藤・小林・本多）	

国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》－Ⅱ－3－D－g 《成人看護学》－Ⅱ－6－E－abcde
履修条件・履修上の注意	特になし



講義科目名称：栄養学(含食品学)

授業コード：3N057

英文科目名称：Nutrition (inc. Food Science)

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
後藤 香織			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 栄養学の目的 1 食と私たち 食育を忘れないで 食育の必要性	後藤 香織
	第2回 主食と主菜と副菜 どのように選択するのか 自分たちの今の状況を把握せよ	後藤 香織
	第3回 献立の立て方 糖質の種類 献立とはなにか どうして重要なのか 糖質の構造を覚える	後藤 香織
	第4回 糖質の消化と吸収 糖質は最も重要な栄養素であり いかにかに体は賢く摂取しているのか知る	後藤 香織
	第5回 糖質の代謝 これが運動のエネルギー源である だから人間は進化できた	後藤 香織
	第6回 エネルギー量の算出 それぞれの学生諸君の使ったエネルギーはどれだけなのか 正しいのか 間違っているのか	後藤 香織
	第7回 脂質の化学 食べ物の脂と体の脂 悪玉は本当に悪玉なのか	後藤 香織
	第8回 脂質の代謝 脂質はどうやって体で使われるのか スポーツではどうしたら燃焼しているのか	後藤 香織
	第9回 蛋白質の化学 筋肉をつけるにはどうしたらいいのか	後藤 香織
	第10回 蛋白質の消化と吸収と代謝 どんな蛋白質が質が高い蛋白質なのか	後藤 香織
	第11回 ビタミンとはなにか どのように摂取する 森鷗外の大失態 ビタミン戦争 ビタミンと病気	後藤 香織
	第12回 ミネラルとは どのような病気になるのか カルシウムと鉄 賢い摂取方法は	後藤 香織
	第13回 どんな献立を作って食べればいいのか 献立の立て方 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算	後藤 香織
	第14回 献立とスポーツ選手と病気 13回の続き 食品の選び方 スポーツと献立 嚥下障害 病気の時はどうしたらいいのか	後藤 香織
	第15回 まとめ 1回から14回までの内容の確認と復習	後藤 香織
科目の目的	捕食という行動は全てを中心であることを深く理解し、人が食べるという行為をどれだけ重要に考えなくてはならないかを知り、人体が必要とする栄養素を学ぶ。さらに自身の摂取エネルギーと消費エネルギーから必要な栄養量、栄養素、運動、休養を求め、よりよい健康状態を保つことを身に漬ける方法を学ぶ。国の施策である「食育」が大学生には危機的な状況であることを知り改善する為に、栄養・休養・運動の三要素を含めて解説する。本学のディプロマポリシーに沿い、保健医療専門職としての栄養学の基礎的知識と、社会人としての食に関する教養を身につけ、食に関する多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解し、保健医療分野と栄養学との関係を見出し、科学的洞察による的確な判断ができ、先進・高度化する栄養分野の基本的知識と技術を提供することや、栄養補給に関わるコミュニケーション能力を身につけ、生涯にわたって栄養に関する知識を身に付けて、自身が健康に過ごすことを身に付け、それを社会に貢献させる。【知識・理解】	
到達目標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようになる。 栄養素と消化、吸収、代謝に関わる知識の習得、一日の消費カロリーの計算、一日の摂取エネルギーの計算、運動時の代謝、和食の伝統文化、美味しく感じる為の脳科学的方法を身につけます。  ・栄養学の基礎的知識と教養を身につけている。 ・栄養に関わる多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。 ・栄養分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。 ・栄養学分野の基本的技術を提供することができる。 ・NSTを実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。 ・生涯にわたって栄養分野を探索し、その発展に貢献する意欲を持っている。 ・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養保健医療に寄与できる。 ・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につけている。	
関連科目	①解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学Ⅰ・Ⅱ ④病理学	

成績評価方法・基準	定期試験85%（定期試験を85点満点とする） ミニテスト15%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校の生物学および、解剖学、生理学とを見直しておく。 成分表の後半のページを読んでおく。20分予習する。
教科書・参考書	教科書：新選 食品成分表（実教出版） 参考書：新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学（メジカルフレンド社） 看護栄養学（医歯薬出版） リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版 栢下淳・若林秀隆 編著（医歯薬出版）
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	【看護師】 <<必修問題>>- I -2-C-b <<人体の構造と機能>>- I II-12-A-ab <<疾病の成り立ちと回復の促進>>-III-9-A-abcdefg <<成人看護学>>-III-11-A-c
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：病態栄養学

授業コード：3N058

英文科目名称：Clinical Nutrition

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
後藤 香織			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>臨床栄養学とは 1) 食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する</p>	後藤 香織
	<p>第2回</p> <p>栄養の評価法 1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について</p>	後藤 香織
	<p>第3回</p> <p>疾病と栄養 (1) 肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。</p>	後藤 香織
	<p>第4回</p> <p>疾病と栄養 (2) 糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。</p>	後藤 香織
	<p>第5回</p> <p>疾病と栄養 (3) 糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する</p>	後藤 香織
	<p>第6回</p> <p>疾病と栄養 (4) 動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。</p>	後藤 香織
	<p>第7回</p> <p>疾病と栄養 (5) 高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。</p>	後藤 香織
	<p>第8回</p> <p>疾病と栄養 (6) 骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。</p>	後藤 香織
	<p>第9回</p> <p>疾病と栄養 (7) 消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。</p>	後藤 香織
	<p>第10回</p> <p>疾病と栄養 (8) 消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。</p>	後藤 香織
	<p>第11回</p> <p>疾病と栄養 (9) 腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。</p>	後藤 香織
	<p>第12回</p> <p>疾病と栄養(10) がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。</p>	後藤 香織

	<p>第13回 疾病と栄養(11) 血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 2) 嚥下障害について</p> <p>第14回 疾病と栄養(12) 小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 2) 栄養法の実践 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。</p> <p>第15回 まとめ 1回から15回までの栄養法を振り返り、注意点を確認する。</p>	<p>後藤 香織</p> <p>後藤 香織</p> <p>後藤 香織</p>
科目の目的	<p>病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、代表的疾患、病態を例に挙げて(糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など)説明する。献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。本学のディプロマポリシーに沿って、生涯にわたって栄養に関する知識を身に付けて、自身が健康に過ごす術を身に付け、それを社会に貢献することが目的です。</p>	
到達目標	<p>基礎医学(解剖学、生理学)に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療専門職としての病態栄養学の知識と教養を身につけている。</li> <li>・栄養学における多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。</li> <li>・栄養学分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。</li> <li>・先進・高度化する栄養学分野の基本的技術を提供することができる。</li> <li>・NSTを実践するための能力を身につける。</li> <li>・生涯にわたって栄養学の分野を探究し、その発展に貢献する意欲を持つ。</li> <li>・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養推進に寄与できる。</li> <li>・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につける。</li> </ul>	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、栄養学、公衆衛生学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基本的な栄養学、生理学、解剖学を見直すことが予習になる。 ぜひとも授業前日には30分程度でよいので見直してほしい。	
教科書・参考書	教科書 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会 参考書 スタンダード栄養・食物シリーズ 「臨床栄養学各論」(東京化学同人)	
オフィス・アワー	授業後 授業前に質問してください	
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅲ-9-A-abcdefg 《成人看護学》-Ⅲ-12-D-d	
履修条件・履修上の注意	特になし。	

講義科目名称：発達心理学

授業コード：3N059

英文科目名称：Developmental Psychology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心とし、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	<p>発達心理学とは                      発達心理学とは、年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当ててこれらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の一分野である。本講義では、発達心理学の歴史と概念や、次回以降の講義で中心的に扱うエリクソンの発達段階と発達課題について学ぶ。                      key words：発達心理学，エリクソン，ライフサイクル，発達段階，発達課題</p>	榎本光邦
	第2回	<p>乳児期の発達と危機管理                      本講義では、人生の始まりの時期である乳児期に見られる対人面と情動面での個人差と、それがどうして生じるかについて学ぶ。                      key words：気質，養子研究法，双生児研究法，愛着理論，「基本的信頼感の獲得」対「基本的不信」</p>	榎本光邦
	第3回	<p>幼児初期の発達と危機管理                      1歳半から3歳半～4歳までの時期を幼児初期という。本講義では、幼児初期の身体的・認知的発達と自我の発達について学ぶ。                      key words：始歩，始語，前操作期，分離-個体化の過程，「自立性・自律性」対「恥・疑惑」</p>	榎本光邦
	第4回	<p>幼児期の発達と危機管理                      幼児期とは、いわゆる就学前期をさす。本講義では、この時期の子どもの認知面の発達の特徴について学ぶ。                      key word：模倣，自己中心性，アニミズム，「主導性・積極性」対「恥・疑惑」</p>	榎本光邦
	第5回	<p>学童期の発達と危機管理                      小学校入学後から第二次性徴が見られる思春期までの間を学童期、もしくは学童期とよぶが、ここでは便宜上小学生の時期を学童期とよぶ。学童期の心理的な発達については、乳幼児期や青年期ほど関心を持たれることはなく、心理学において研究されなかった時期も長かった。本講義では学童期の思考や認知発達の特徴について学び、理解を深める。                      key words：潜伏期，具体的操作期，「勤勉性」対「劣等感」</p>	榎本光邦
	第6回	<p>思春期の発達と危機管理                      思春期について、前思春期として小学校高学年から含める場合もあるが、本講義では中学生の年齢を示すこととし、思春期の認知的発達や対人関係について学び、理解を深める。                      key words：仮説演繹的思考，形式的操作期，第二の個体化の時期，チャム</p>	榎本光邦
	第7回	<p>青年期の発達と危機管理                      ニューマンらは、青年期（高校生）における心理社会的危機を「集団同一性」対「疎外」と提唱した。つまり、エリクソンが青年期の発達課題とした自我同一性の確立を達成する前提として、青年期（高校生）においては集団同一性を発見させることが重要であるとしている。本講義では、青年期（高校生）の身体的・心理的特性について学び、理解を深める。                      key words：演繹的思考，性的同一化，「集団同一性」対「疎外」</p>	榎本光邦
	第8回	<p>青年後期の発達と危機管理                      青年後期とは、社会で自立するための専門教育を受け、その成果を活かして就職・結婚するに至るまでの、心理社会的な自立に向けての仕上げを試みる時期である。本講義では、青年後期の発達課題とこころの危機について学び、理解を深める。                      key words：「アイデンティティの確立」対「役割の拡散」，「自分探し」と「見習い」の時期，モラトリアム</p>	榎本光邦
	第9回	<p>青年後期に特異なこころの病理                      青年後期に好発するこころの病理像には、アイデンティティの混乱が潜伏している。換言すれば、大人としてのアイデンティティが獲得されると、こころの病理は結果的に軽快する。本講義では青年後期に特異なこころの病理を3つ取り上げ、それぞれの特徴と対応について理解する。                      key words：不安症／不安症候群，摂食障害，スチューデントアパシー</p>	榎本光邦

	<p>第10回 神経発達症／神経発達障害（1） 平成19年に全国で特別支援教育が開始され、ここ数年で発達障害に対する理解が急速に広まりつつある。本講義では3つの代表的な発達障害の中からAD/HD・SLDの2つと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴と支援について学び、理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、SLD、知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）、特別支援教育</p> <p>第11回 神経発達症／神経発達障害（2） 前回に続き、発達障害について学習する。本講義では3つの代表的な発達障害の最後の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学び、太田ステージ理論に基づく支援について理解を深める。 key words：自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育</p> <p>第12回 若い大人の発達課題と危機管理 若いおとなというのは、いささか耳慣れないことばであるが、具体的には学業や職業訓練を終えた22～3歳から30歳代のはじめくらいまでと考えられ、エリクソンはこの時期を成人初期とよんだ。本講義では成人初期の発達課題や性差における社会的役割について学び、理解を深める。 key words：「親密性」対「孤立」、共依存</p> <p>第13回 壮年期の発達課題と危機管理 壮年期とは、概ね40歳代後半から50歳代を指す。壮年期は身体面・心理面の衰えが意識され始める時期である。その一方で人生経験の蓄積によって培われた判断力や理解力、社会的能力は高まり、それを発揮する機会も多くなる。本講義ではこの時期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について学び、理解を深める。 key words：「生殖性」対「停滞」、更年期</p> <p>第14回 高齢期の発達課題と危機管理 高齢者は、これまでに取り組んできた人生の主要な課題に関して、結果を評価することができる地点にいる。本講義では、人生の最終段階である老年期の特徴や発達課題について学び、理解を深める。 key words：「統合」対「絶望」、死の受容、ライフレビュー</p> <p>第15回 生命の循環 これまでの講義を振り返るとともに、人間の発達を個人中心に考えるのではなく、子どもと父母、父母と祖父母、子どもと祖父母のそれぞれが相互に影響を与え合って、世代同士がつながり合いながら個人としても成長していくプロセスである「生命の循環（ライフサイクル）」について学び、理解を深める。 key words：生命の循環（ライフサイクル）、ベアレンティング、世代間連鎖</p>	榎本光邦
科目の目的	<p>年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当ててこれらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野を発達心理学とよぶ。本講義では人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. エリクソンが区分した8つの発達段階の特徴と、それぞれの段階における発達課題を理解し、看護に活用することができる。</p> <p>2. 各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について理解し、説明することができる。</p> <p>3. 発達障害に対する知識と支援方法について習得し、発達障害（傾向）を持つ患者への看護に活用することができる。</p>	
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学、教育学、教育心理学、生命倫理、哲学、人間と宗教、社会学、生活文化と医療、大学の学び入門、大学の学び—専門への誘い—、多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、公衆衛生学、保健統計、カウンセリング</p> <p>【専門科目群】全科目</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次の講義の冒頭に行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>	
教科書・参考書	<p>【教科書】 岡堂哲雄編（2003）「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」 金子書房</p>	
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室）</p>	
国家試験出題基準	<p>【看護師】      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—C—c      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—C—d      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—D—b      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—D—c      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—E—a      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—E—b      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—E—c      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—E—d      &lt;&lt;必修問題&gt;&gt;—Ⅱ—7—G—c</p>	

履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。	榎本光邦
	第2回	無意識の心理学（1）精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	榎本光邦
	第3回	無意識の心理学（2）分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析	榎本光邦
	第4回	クライエント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライエント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライエント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件	榎本光邦
	第5回	臨床心理アセスメント（1） 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。 key words：面接法、観察法、検査法	榎本光邦
	第6回	こころの問題を理解する（1）「不安症／不安障害（神経症）」 不安症／不安障害（神経症）は主に心理的原因によって生じる心身の機能障害の総称であり、精神病とは異なる。本講義では不安症の種類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：分離不安症、選択制緘黙、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、広場恐怖症、全般不安症	榎本光邦
	第7回	こころの問題を理解する（2）「身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害」 神経症（ノイローゼ）の一類型として扱われていた「ヒステリー」は、DSM-III以降、ヒステリー概念が排除されたために、「転換ヒステリー」が「身体表現性障害」に、「解離性ヒステリー」は「解離性障害」として改められた。更に、DSM-5では「身体表現性障害」は「身体症状症」に、「解離性障害」は「解離症」に改められた。本講義では両者の下位分類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：身体症状症、転換性障害、病気不安症、解離性健忘、解離性同一症、離人感・現実感消失症	榎本光邦
	第8回	こころの問題を理解する（3）「摂食障害」 摂食障害は、極端な食事制限や大量の食糧摂取と排出行為など、摂食の問題が含まれる精神疾患であり、1980年代にDSMに登場して以降、先進国を中心に増加している。その背景として、やせを礼賛し体重増加を恐れる文化の影響や母子関係のつまづき等が考えられる。本講義では摂食障害の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：神経性やせ症／神経性無職欲症、神経性過食症／神経性大食症	榎本光邦



	<p>第9回 こころの問題を理解する(4)「性障害・性別違和」 性に関する問題は周辺のテーマであると考えられがちで、教科書や講義で取り上げられることはあまりない。そのため、訓練を受けた専門家でも、性の問題に関する知識を十分に持っていない場合がしばしばある。しかし、その一方で性とは、人間のアイデンティティの根幹にあってQOLに重大な影響を及ぼす事柄であり、臨床心理学でも大事なテーマになる。本講義ではDSM-5に記載されている3つの障害について理解を深め、その支援の方法について検討を行う。 key words: 性機能不全, パラフィリア(性嗜好異常), 性別違和</p> <p>第10回 こころの問題を理解する(5)「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害とは、思考・感情・行動などのパターンが平均から著しく逸脱し、社会生活や職業生活に支障をきたしている状態を指し、正常な状態とは言えないが病気であるとも言えない状態である。本講義ではパーソナリティ障害の分類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words: 猜疑性/妄想性パーソナリティ障害, シゾイド/スキゾイドパーソナリティ障害, 統合失調型パーソナリティ障害, 境界性パーソナリティ障害, 演技性パーソナリティ障害, 自己愛性パーソナリティ障害, 反社会性パーソナリティ障害, 回避性パーソナリティ障害, 依存性パーソナリティ障害, 強迫性パーソナリティ障害</p> <p>第11回 こころの問題を理解する(6)「気分障害」 DSM-IV-TRでは、気分障害とは感情が正常に機能しなくなった状態を指す。人は誰でも気分の浮き沈みを経験するが、気分障害においては、その浮き沈みの程度や期間が著しく、睡眠障害などの身体症状も現れる。本講義では気分障害の種類とその支援方法について学び、理解を深める。 key words: 双極Ⅰ型障害, 双極Ⅱ型障害, うつ病/大うつ病性障害</p> <p>第12回 こころの問題を理解する(7)「統合失調症」 統合失調症は、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患である。それに伴って、人々と交流しながら家庭や社会で生活を営む機能が障害を受け(生活の障害)、「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすい(病識の障害)という特徴を併せもっている。本講義では統合失調症の類型と支援の方法について学び、理解を深める。 key words: 緊張型, 解体(破瓜)型, 妄想型</p> <p>第13回 臨床心理アセスメント(2)質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words: 質問紙法, POMS2</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント(3)描画法演習 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにより自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words: 描画法, 風景構成法</p> <p>第15回 総括 これまでの講義を通して学んだ知識や身に着けた技法について振り返り、自らの専門にどのように活かしていくかを検討する。</p>	<p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p> <p>榎本光邦</p>
<p>科目の目的</p>	<p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー:【思考・判断】</p>	
<p>到達目標</p>	<p>1. 臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成することができる。</p> <p>2. 人間への深い理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。</p> <p>3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得し、対人支援に活用することができる。</p> <p>4. 看護場面・治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法について理解を深め、患者と良好な関係を築けるようになる。</p>	
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び—専門への誘い—, 多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 発達心理学, 公衆衛生学, 保健統計, カウンセリング</p> <p>【専門科目群】全科目</p>	
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験(80%)に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次の講義の冒頭に行う。</p>	
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>	
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房</p>	

	山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書
オフィス・アワー	月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室）
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

講義科目名称：公衆衛生学

授業コード：3N061

英文科目名称：Public Health

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
石館 敬三			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理解 公衆衛生学の特徴 健康の概念の変遷、予防の概念</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行</p> <p>第3回 健康指標と保健統計 人口静態・人口動態、年齢調整死亡率、20世紀100年の観察</p> <p>第4回 疫学1 疫学1の概念、疫学3要因と2要因、記述疫学、分析疫学、後ろ向き研究と前向き研究</p> <p>第5回 疫学2 系統誤差、バイアスとその除去、相対危険度、寄与危険度、因果関係論、スクリーニングの意義と計算</p> <p>第6回 感染症総論 感染症発生の3要因と予防の原則、新興・再興感染症、1類感染症、予防接種</p> <p>第7回 感染症各論 結核、エイズ</p> <p>第8回 母子保健 成人保健 乳児死亡率・妊産婦死亡率 がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病等生活習慣病</p> <p>第9回 老人保健福祉 学校保健 老人保健法、介護保険法、医療介護総合確保推進法</p> <p>第10回 精神保健 精神保健のあゆみ、精神障害の種類、入院治療の形式、精神保健福祉対策、アルコール・薬物依存、自殺予防</p> <p>第11回 生活環境、環境と健康、環境基準、地球環境問題 公害と防止対策、公害健康被害補償の原則</p> <p>第12回 栄養と食品衛生 食中毒発生状況の変遷、食中毒の種類と予防法</p> <p>第13回 産業保健 労働環境、職業病の種類と予防法</p> <p>第14回 衛生行政と社会保障 保健所と区市町村保健センター、社会保障概要</p> <p>第15回 医療行政概要 医療法改正の動向、医療計画、地域医療連携の推進、救急医療体制の整備、医療人材・医療資源の国際比較</p>	<p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p> <p>石館</p>
科目の目的	<p>健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。 【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。</p>	
関連科目	<p>生命倫理、環境学、疫学、保健統計、社会学、情報処理、免疫・感染症学</p>	
成績評価方法・基準	<p>試験100%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり4時間</p>	
教科書・参考書	<p>【教科書】 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」照屋浩司他著（医歯薬出版） 「国民衛生の動向 2018/2019版」（一般財団法人 厚生労働統計協会） 【参考書】 特になし</p>	
オフィス・アワー	<p>講義の前後（場所：非常勤講師室）</p>	

国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫ I-1-A-abcdefghi, B-abcdef、 I-2-B-abc ≪健康支援と社会保障制度≫ III-8-A-abcde, B-abc, C-abc、 III-9-A-abcdefgh, B-abcdefghi、 III-10-A-abcdef, B-abc, C-abc, D-ab</p> <p>【保健師】 ≪公衆衛生看護学概論≫ I II-3-A-ab, B-ab</p>
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること

講義科目名称：疫学

授業コード：3N062

英文科目名称：Epidemiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
石館 敬三			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 疫学概念・歴史 疫学の目的、対象、方法、歴史的考察、医学的根拠への寄与	石館
	第2回 疫学の要因 疫学の三要因、二元論の疫学	石館
	第3回 健康指標、頻度と曝露、年齢調整死亡率 疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度	石館
	第4回 疫学研究方法、疫学の倫理 記述疫学と分析疫学、5WBridge	石館
	第5回 疫学調査方法1 後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論	石館
	第6回 疫学調査方法2 系統誤差、バイアスの種類と除去	石館
	第7回 スクリーニング 敏感度、特異度、陽性反応適中率	石館
	第8回 感染症の疫学1 感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則	石館
	第9回 感染症の疫学2 わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症	石館
	第10回 感染症の疫学3 食中毒の疫学調査、細菌性食中毒	石館
	第11回 感染症の疫学4 防疫活動要領、予防接種、1類感染症	石館
	第12回 感染症の疫学5 結核の動向と対策、HIV・STDの動向と対策	石館
	第13回 非感染症の疫学1 悪性新生物、生活習慣病、自殺、母子	石館
	第14回 非感染症の疫学2 環境保健の疫学	石館
	第15回 非感染症の疫学3 医療資源、医療人材の疫学	石館
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。【知識・理解】	
到達目標	1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標が理解できる。 2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。	
関連科目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、社会学、免疫・感染症学、環境学	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な時間の目安 1コマあたり1時間	
教科書・参考書	【教科書】 「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」 牧本清子著（医学書院） 【参考書】 「国民衛生の動向」（一般財団法人 厚生労働統計協会）	
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》Ⅰ-1-A-abcdefghi, B-abcdef、Ⅰ-2-A-abcdefghi 《健康支援と社会保障制度》Ⅲ-8-C-a、Ⅲ-9-B-abcdefghi 【保健師】 《健康危機管理》Ⅰ-2-A-abcd 《疫学》1-A-abc, B-abc, C-abc, D-a、2-A-a, B-abcd, C-ab、3-A-abcd, B-abcd、4-A-abc, B-abcd, C-ab, D-ab, E-abcde、5-A-ab, B-abc、6-A-abc、7-ABCDEFGHIJKLM-ab、8-A-ab, B-ab, C-ab	
履修条件・履修上の注意	保健統計の及び疫学の基礎的な計算に習熟するため電算機を持参すること	

講義科目名称：保健統計

授業コード：3N063

英文科目名称：Statistics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
宮崎有紀子			

授業形態	講義（9回）、演習（6回）		担当者
授業計画	第1回	保健医療と統計・統計情報の活用・データの性質	宮崎有紀子
	第2回	データの収集・代表値とばらつき(1)（平均値、中央値等）	宮崎有紀子
	第3回	代表値とばらつき(2)（分散、標準偏差等）	宮崎有紀子
	第4回	2つの項目間の関係	宮崎有紀子
	第5回	統計で使われる分布	宮崎有紀子
	第6回	推定と検定	宮崎有紀子
	第7回	さまざまな検定手法	宮崎有紀子
	第8回	保健統計調査(1)（人口に関する統計等）	宮崎有紀子
	第9回	保健統計調査(2)（さまざまな保健統計調査）	宮崎有紀子
	第10回	演習(1) グラフの作成	宮崎有紀子
	第11回	演習(2) データの分析	宮崎有紀子
	第12回	演習(3) 集団の健康状態の把握（グループワーク）	宮崎有紀子
	第13回	演習(4) 集団の健康状態の把握（グループワーク）	宮崎有紀子
	第14回	演習(5) 集団の健康状態の把握（グループワーク）	宮崎有紀子
	第15回	演習(6) 成果発表	宮崎有紀子
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の基礎知識および簡単な推定法・検定法を習得し、既存研究の内容等を統計学の視点から理解することが出来ることを目指す。</li> <li>・また、看護・保健活動に必要な情報を、既存保健統計調査から入手し、適切な手法で利活用することができることを目指す。</li> </ul> （知識・理解）		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の基礎知識を習得し、既存の研究内容などを理解することができる。</li> <li>・データに適した推定・検定を理解することができる。</li> <li>・データに適した図表を用いて表現することができる。</li> <li>・代表的な保健統計調査を知り、利活用することができる。</li> </ul>		
関連科目	疫学		
成績評価方法・基準	試験70%、グループワークと成果発表30%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：授業時に課題を提示する。 ・授業外学習：各時1時間程度		
教科書・参考書	<教科書> 高木廣文. ナースのための統計学. 医学書院. 厚生労働統計協会編. 国民衛生の動向  <参考書> 中野正孝. 看護系の統計調査入門. 真興交易(株) 医書出版部.		
オフィス・アワー	授業前後		
国家試験出題基準	<b>【看護師】</b> <<必修問題>>-I-1-A-abcdefghi, B-abcdef <<必修問題>>-I-2-A-abcdefghi <<健康支援と社会保障制度>>-III-8-C-abc, <<健康支援と社会保障制度>>-III-9-A-abcdefgh, B-abcdefghi		

	<p>【保健師】</p> <p>≪保健統計≫-1-A-abcd, B-abc, C-ab, D-abcdef, E-abc, F-abcdef, G-ab</p> <p>≪保健統計≫-2-A-abc, B-abc, C-ab, D-abc</p> <p>≪保健統計≫-3-A-abcdefg, B-abcde, C-ab, D-ab</p>
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academyにて事前に配布します。

講義科目名称：社会福祉・社会保障制度論

授業コード：3N064

英文科目名称：Social Welfare and Social Insurance System

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
矢島 正栄	一場 美根子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 社会保障制度と社会福祉 社会保障制度、社会福祉の概念、行財政の仕組み	矢島 正栄
	第2回 社会福祉の歴史 我が国における社会保障制度、社会福祉の歴史の変遷	矢島 正栄
	第3回 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 戦後の我が国の社会保障制度の展開と課題	矢島 正栄
	第4回 医療保障1 ・社会保障制度と医療保険制度 ・医療保障制度の改革・構造と体系 ・健康保険と国民健康保険	一場美根子
	第5回 医療保障2 ・後期高齢者医療制度 ・保険診療の仕組み ・公費負担医療制度 ・国民医療費	一場美根子
	第6回 高齢者福祉1 高齢者福祉の課題	矢島 正栄
	第7回 高齢者福祉2 高齢者福祉に関する法令、制度 高齢者福祉施策のしくみ	矢島 正栄
	第8回 介護保障1 ・介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 ・介護保険制度のしくみ	一場美根子
	第9回 介護保障2 ・介護保険制度のしくみ ・介護保険制度のサービスの種類・内容と主なサービス料金	一場美根子
	第10回 介護保障3 ・介護保険制度と地域支援事業	一場美根子
	第11回 障害者福祉1 知的・身体・精神障害者、発達障害者、難病療養者の福祉に関する課題	矢島 正栄
	第12回 障害者福祉2 知的・身体・精神障害者、発達障害者、難病療養者の福祉に関する法令・制度、支援施策のしくみ	矢島 正栄
	第13回 所得保障 ・年金保険制度の歴史と仕組み ・労働保険制度（雇用保険・労働者災害補償保険） ・社会手当	一場美根子
	第14回 公的扶助 低所得者対策と生活保護制度の仕組み	一場美根子
	第15回 児童・家庭福祉 児童・家庭福祉に関する法令・制度、児童・家庭福祉施策	矢島 正栄
科目の目的	看護師・保健師・助産師の業務と関連の深い社会福祉、社会保障の法令、制度を理解し、変化する社会情勢の中で人々の健康と生活を支援するため社会資源の公平な利用と配分を促進する方法を学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	1. 社会保障制度、社会福祉の理念と歴史の変遷を説明できる。 2. 医療保障、所得保障、介護保障、公的扶助、障害者福祉に関する主な法令、諸制度の概要を説明できる。 3. 社会資源の公平な利用と配分を促進する看護職の役割を考えることができる。	
関連科目	法学、地域社会学、経済学、地域保健行政、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動展開論、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験（100%）	



準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき120分程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門基礎 社会福祉 健康支援と社会保障制度③」 (医学書院) 2. 「国民衛生の動向2019/2020」 (厚生労働統計協会) 参考書 1. 「医療六法」 (中央法規) 2. 「福祉省六法」 (中央法規) 3. 「国民の福祉と介護の動向」 (厚生労働統計協会)
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00 一場美根子：講義の前後
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 《保健医療福祉行政論》1-A, 2-B-b, 4-A, B, C 5-A 看護師国家試験出題基準 《必修問題》 I-3-A, B 《健康支援と社会保障制度》 II-4, 5, 6
履修条件・履修上の 注意	講義資料は原則として講義日の2日前から1週間の間Active Academyにより配布します。印刷して持参してください。

講義科目名称：地域保健行政

授業コード：3N065

英文科目名称：Community Health Administration

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
小林亜由美	一場美根子	廣田幸子	

授業形態	講義28回・演習2回	担当者
授業計画	<p>第1回 保健医療福祉行政の基本①（講義） 保健医療福祉行政の根拠、理念</p> <p>第2回 保健医療福祉行政の基本②（講義） 諸外国における公衆衛生政策の変遷、戦後の公衆衛生政策の基盤形成</p> <p>第3回 保健医療福祉行政の基本③（講義） 保健医療福祉施策の変遷（地域保健法、健康増進対策、がん対策、高齢化対策）</p> <p>第4回 保健医療福祉行政の基本④（講義） 保健医療福祉施策の変遷（少子化対策、母子保健対策）</p> <p>第5回 保健医療福祉の行政・財政の理念と仕組み①（講義） 国、都道府県、市町村の行政の仕組みと役割</p> <p>第6回 保健医療福祉の行政・財政の理念と仕組み②（講義） 行政における保健師の役割と活動</p> <p>第7回 保健医療福祉の行政・財政の理念と仕組み③（講義） 保健医療福祉における財政の理念と仕組み</p> <p>第8回 地域保健の体系①（講義） 地域保健体系における都道府県と市町村の役割分担</p> <p>第9回 地域保健の体系②（講義） 保健所の機能、市町村の機能</p> <p>第10回 地域保健の体系③（講義） 地域、職域との連携、学校、NPO・ボランティアとの協働</p> <p>第11回 成人対策①（講義） 生活習慣病・健康増進対策</p> <p>第12回 成人対策②（講義） 自殺対策</p> <p>第13回 成人対策③（講義） がん対策</p> <p>第14回 歯科保健対策（講義） 歯科保健対策</p> <p>第15回 高齢者対策①（講義） 高齢者保健医療福祉対策</p> <p>第16回 高齢者対策②（講義） 地域包括ケアシステム、認知症対策</p> <p>第17回 感染症対策①（講義） 新興・再興感染症と健康危機管理</p> <p>第18回 感染症対策②（講義） 結核対策</p> <p>第19回 難病対策（講義） 難病対策要綱、難病患者に対する医療等に関する法律</p> <p>第20回 障害者（児）施策（講義） 障害者総合支援法</p> <p>第21回 精神保健福祉対策①（講義） 精神保健医療福祉の動向 ～歴史的変遷・障害者の実態～</p> <p>第22回 精神保健福祉対策②（講義） 精神障害者の自立・社会参加の促進</p> <p>第23回 社会保障制度①（講義） 社会保障制度の理念としくみ 医療提供体制（医療従事者～保健師助産師看護師を中心に）</p> <p>第24回 社会保障制度②（講義） 医療提供体制（病院等の整備、看護・医療安全対策、在宅医療と訪問看護ステーション等） 統合失調症の事例を通して必要な基礎知識を理解し、地域での活動を考えましよう。</p> <p>第25回 社会保障制度③（講義） 医療保険制度と介護保険制度</p>	<p>小林亜由美</p> <p>小林亜由美</p> <p>小林亜由美</p> <p>小林亜由美</p> <p>小林亜由美</p> <p>小林亜由美</p> <p>小林亜由美</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p>

	第26回	社会保障制度④（講義） 医療・福祉・介護の包括的な連携の基本的な考え方、社会保障・社会福祉の制度（年金保険・雇用保険と労働者災害補償保険、公的扶助等）	一場美根子
	第27回	保健医療福祉計画と評価①（講義） 地方公共団体の保健医療福祉計画	小林亜由美
	第28回	保健医療福祉計画と評価②（講義） 保健計画の策定プロセスと住民参加、保健計画の推進と評価、保健医療福祉計画に関わる保健師の役割	小林亜由美
	第29回	保健医療福祉計画と評価③（演習） 保健計画の策定（演習）	小林亜由美
	第30回	保健医療福祉計画と評価④（演習） 保健計画の策定（発表）	小林亜由美
科目の目的	地域保健活動の根拠となる法律、制度、政策についての理解を深める。【知識・理解】 知識をもとに、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や保健医療サービスの調整及び評価に関わる保健師の役割について考える力を養う。【関心・意欲】【思考・判断】		
到達目標	1. 保健医療行政の理念と仕組みを説明できる。 2. 社会情勢の変化に伴う保健医療行政の考え方の変遷を説明できる。 3. 現代の我が国における保健医療行政の実際と保健師活動の関わりを説明できる。 4. 保健医療福祉計画策定・遂行・評価の一連の流れに沿って考えることができる。		
関連科目	公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・社会保障制度論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学方法論、公衆衛生看護活動展開論、対象別公衆衛生活動論Ⅰ、対象別公衆衛生活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理		
成績評価方法・基準	確認小テスト（30%）、試験（70%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の資料を前日午前中までにアップしますので、アクティブアカデミーから印刷しておいてください。講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき30分程度の準備学習を求めます。		
教科書・参考書	教科書 1. 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」（医学書院）  参考書 1. 「医療六法」（中央法規） 2. 「福祉小六法」（中央法規） 3. 「国民衛生の動向2019/2020」（厚生統計協会）		
オフィス・アワー	小林亜由美・廣田幸子：月～金曜日12:10～13:00、16:10～18:00 一場美根子：講義の前後		
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 《公衆衛生看護学概論》 1-A, B, C 5-D 《保健医療福祉行政論》 1-A, B 2-A, B 3-A, B, C 4-A, B, C, D 5-A, B, C, D 6-A, B, C 7-A～L 《対象別公衆衛生看護活動論》 1-A, 2-A, 3-A, 4-A, 5-A, 6-A, 7-A, 《学校保健・産業保健》1-C-a, 3-C-a, 《健康危機管理》2-C		
履修条件・履修上の注意	保健師国家試験受験資格取得のための要件科目		

講義科目名称： 歯科保健

授業コード： 3N066

英文科目名称： Dental Health

対象カリキュラム： 29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
豊泉 修			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の進め方、歯科分野に対する質問等	豊泉 修
	第2回 歯 歯・歯周組織の機能、構造、組織学	豊泉 修
	第3回 口腔とその周囲の解剖生理 口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺・上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節	豊泉 修
	第4回 う蝕 う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法	豊泉 修
	第5回 歯周病 歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法	豊泉 修
	第6回 顎関節症およびその他の歯科疾患 顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法、 口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症	豊泉 修
	第7回 歯科保健 母子・学校・地域・成人・老人歯科保健	豊泉 修
	第8回 口腔ケア 口腔ケア実技	豊泉 修
科目の目的	看護師として活動する上で必要と考えられる歯科保健の知識を習得せしむる。 (知識・理解)	
到達目標	歯科の基本知識を持っている。 歯科医師や歯科衛生士と専門的な会話ができる。	
関連科目	臨床解剖学 臨床生理学 臨床病理学 地域保健行政 成人看護学総論	
成績評価方法・基準	レポート30% 試験70%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに従い教科書、配布資料を読んできて下さい。30分程度。	
教科書・参考書	教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔」 小島愛子ほか (医学書院)	
オフィス・アワー	講義の前後10分程度。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	配布資料はしっかりと保管して下さい。 保健師国家試験受験資格取得のための要件科目	

講義科目名称：リハビリテーション概論

授業コード：3N067

英文科目名称：Introduction to Rehabilitation Science

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
村田 和香			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 リハビリテーションとは（講義オリエンテーション含） リハビリテーションの定義、理念、歴史 第2回 障害とは（1） 病気とは、障害とは 第3回 障害とは（2） 国際生活機能分類（ICF）、チームアプローチ 第4回 リハビリテーションと心理 心理的機能、心理的適応の過程、発達の視点 第5回 リハビリテーションの諸段階 発症から社会生活へ 第6回 リハビリテーションの諸領域 障害者支援、障害児教育、職業リハビリテーション 第7回 リハビリテーションの過程 評価とは、情報収集の方法、理学療法、作業療法、言語聴覚療法 第8回 地域リハビリテーション 地域リハビリテーション、高齢者対策	村田 村田 村田 村田 村田 村田 村田 村田
科目の目的	リハビリテーションを幅広く視野から理解する。障害を持つ人の現状と保健医療福祉における課題を理解する。リハビリテーションにおける看護の役割を説明することができる。【知識・理解】	
到達目標	①リハビリテーションの定義について、説明できる。 ②国際生活機能分類（ICF）について、具体的例を示し説明できる。 ③リハビリテーションで果たす看護の役割を説明できる。	
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験100%（レポートを課す場合もある）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 1コマあたりの準備及び復習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：使用しない（資料を適宜配布する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	村田和香：授業日の17時まで	
国家試験出題基準	特になし	
履修条件・履修上の注意	特になし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
榎本 光邦			

授業形態	授業のはじめの30分程度講義を行い、残りの時間は講義で取り上げた内容について演習（個別・グループ）を行う。		担当者
授業計画	第1回	<p>自分を知る</p> <p>対人援助職において、相手の価値観を知り、その人について理解を深めることは、被援助者との間に望ましい人間関係を築いていく上で実りの多いことである。しかし、相手の価値観を知る前に、まずは自分の価値観を意識化しておく必要がある。本講義では、SCT（文章完成法）を行い、「自分とは何か」という問いに対する答えを考える。</p> <p>key words：自己理解，SCT</p>	榎本光邦
	第2回	<p>心理療法（1） 「心の天気」</p> <p>私たちは、いろいろなことを感じて、それを誰かに聞いてもらいたかったり、表現したかったりする。しかし、なかなか上手く言えなかったり、聞いてもらえなかったりする。表現することをあきらめてしまうことがよくある。そうすると、しまいには、自分が何を感じているのか自分でもわからなくなってしまい、落ち着きがなくなったり、わけもなく不安になったりする。</p> <p>本講義では、「こころの天気」というワークを通じ、こころを天気に例えてみることで、今の自分の感じをわかりやすく表現し、今の自分のこころはどのような状態なのかきちんと把握する体験をする。</p> <p>key words：こころの天気，からだの感じ調べ</p>	榎本光邦
	第3回	<p>心理療法（2） 「自立訓練法」</p> <p>私たちのこころと体は密接な関係があり、不安やストレスが原因で体に症状が出ることもある。逆に、体の緊張を解きほぐすことでこころが穏やかになり、リラックスできるとも考えられる。本講義では「不安階層表」を作成することにより自分が不安になる場面を想起し、一時的に不安状態になったところで自己催眠法である「自律訓練法」を実施し、不安を緩和する体験をする。</p> <p>key words：不安階層表，自立訓練法，基本公式，第一公式，第二公式</p>	榎本光邦
	第4回	<p>心理療法（3） 「LAC法」（1）</p> <p>大学入学後、本業である学業に対して無気力となり、サークル活動やアルバイト、余暇活動などに没頭するという事は、誰でも経験し得ることである。そのような時は、自分の人生・生活全体を詳しく丁寧に分析して振り返り、自発的に自分の人生（生活）の目的（やりたいこと・やるべきこと）を設定して、意欲的に目的の達成に取り組んでいくことが必要である。本講義では、そのような取り組みを支援する方法である生活分析的カウンセリング(life analytic counseling)について、事例を通して実施方法や臨床への活用方法について学ぶ。</p> <p>key words：生活分析的カウンセリング，スチューデント・アパシー</p>	榎本光邦
	第5回	<p>心理療法（4） 「LAC法」（2）</p> <p>前回の講義で学んだLAC法を体験する。</p> <p>key words：生活分析的カウンセリング，必要性，可能性，平均</p>	榎本光邦
	第6回	<p>心理療法（5） 「ストレスマネジメント」</p> <p>対人援助職が他者に対して支援を行う際、まずは自らの心身の健康を保つことが求められる。同じ体験をしても、ストレスを強く感じる人と、それほど感じない人がいるが、その一因としてストレスへの対処法の得手・不得手が挙げられる。本講義では、質問紙への回答を通して、ストレスを引き起こす原因である「ストレスサー」が自分の身の回りにどれくらいあるかを把握し、ストレスマネジメントのワークを通してストレスサーによって「ストレス反応」が生じさせられることを防ぐための対処法を体験する。</p> <p>key words：ストレスサー，ストレス反応，ストレスコーピング</p>	榎本光邦
	第7回	<p>心理療法（6） 「解決志向ブリーフセラピー」</p> <p>カウンセリングや心理療法において、クライアントの問題が解消するまでにかかる時間はクライアントによってまちまちであり、中には何年も時間を要するケースもある。ブリーフセラピーとは、クライアントとカウンセラーができるだけ協力して、効率的な問題解決を目指す心理療法である。本講義ではそのエッセンスを活用した「解決志向ブリーフセラピー」を体験し、日常生活で抱えている問題の解決の糸口を見つけ出すことを目指す。</p> <p>key words：ブリーフセラピー，スケーリングクエスチョン，コーピングクエスチョン，エクセプチョンクエスチョン，ミラクルクエスチョン</p>	榎本光邦

	第8回	心理療法（7） 「タッピングタッチ」 タッピングタッチとは、指先の腹のところを使って、左右交互に、軽く弾ませるようにタッチすることを基本としたホリスティック（統合的）でシンプルなケアの手法である。本講義ではペアワークを通してタッピングタッチを体験し、その手法を習得する。 key words：タッピングタッチ，トラウマケア	榎本光邦
	第9回	心理療法（8） 「フォーカシング」（1） フォーカシングとは、やさしい、許容的な態度で自分のからだに注意を向け、「フェルト・センス」と呼ばれる微妙な水準の認識に気づくようになるプロセスのことである。 本講義から3回に渡って、フォーカシングの基本的技法を練習する。本講義では、フェルト・センスを感じるための練習を行う。 key words：フォーカシング，フェルト・センス，からだの感じ調べ	榎本光邦
	第10回	心理療法（9） 「フォーカシング」（2） 前回に続いて、フォーカシングの技法を練習する。 本講義では、からだの内側で感じている感じにびったりの言葉やイメージ、あるいは音やジェスチャーである「取っ手」を手に入れる練習や、その感じと一緒にいる練習を行う。 key words：フォーカシング，「取っ手」	榎本光邦
	第11回	心理療法（10） 「フォーカシング」（3） フォーカシングの練習の最終講義。 私たちは、何か心配なことや気がかりなことがあると、それが頭から離れず、本来やるべきことに手が付けられないということがある。本講義では、自分の内面にある気がかりや問題を挙げていき、思い浮かんだものから適当な心理的距離をとる方法である「クリアリング・ア・スペース（clearing a space：CAS）の練習を行う。 key words：フォーカシング，クリアリング・ア・スペース	榎本光邦
	第12回	心理療法（11） 「行動療法」 行動療法では、クライアント（または保護者等）とカウンセラーが共同して行動面での治療目標を立て、さまざまな技法を用いて不適切な反応を修正する。たとえば、楽しい雰囲気の中で、スモールステップで、徐々に恐怖対象に近づき、慣れるようにさせたり、賞賛やごほうび等を用いて、新しく適切な反応（感情や行動）を習得させる。本講義では、スモールステップの目標設定の練習を行う。 key words：行動療法，スモールステップ，強化，強化子	榎本光邦
	第13回	心理療法（12） 「認知行動療法」 「無くて七癖」ということわざがあるように、誰にでも“クセ”というのがあるが、実は、ものの考え方にも“クセ”がある。認知行動療法とは、自分の考え方のクセ（自動思考）に気が付き、その誤りや偏りを適切な方向に修正していくという心理療法である。本講義では、自らの自動思考に気が付き、適切な考え方を探る練習を行う。 key words：認知行動療法，自動思考	榎本光邦
	第14回	臨床心理アセスメント（1） 質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words：質問紙法，POMS2	榎本光邦
	第15回	臨床心理アセスメント（2） 描画法 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words：描画法，空間象徴，風景構成法	榎本光邦
科目の目的	<p>私たちは、様々な悩みや問題を抱えながら生きている。カウンセリングでは、人がこうした悩みや問題に自分らしく向き合っていくプロセスに寄り添い、その方のところを聴かせていただく。</p> <p>本講義では、「カウンセリングとは何か」を深く理解できるよう、カウンセリングの実践における理論と技法を学ぶ。また、さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傾聴について理解を深め、受容的・共感的な傾聴ができるようになる。。</li> <li>2. 自分自身のところに向き合っていくプロセスに寄り添い、その方のところを聴かせていただく。</li> <li>3. 精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得し、対人支援に活用できるようになる。</li> <li>4. 病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師・助産師・養護教諭として必要な援助的態度をとれるようになる。</li> </ol>		
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学，教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，社会学，生活文化と医療，大学の学び入門，大学の学び—専門への誘い—，多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ，発達心理学，臨床心理学（履修しておくことが望ましい），公衆衛生学，保健統計</p> <p>【専門科目群】全科目</p>		

成績評価方法・基準	定期試験（レポート形式・80%）に毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	<p>【教科書】 なし（必要に応じて資料を配布）</p> <p>【参考書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書</p> <p>下山晴彦編著（2009）「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 ※ 必修科目「臨床心理学」の教科書</p>
オフィス・アワー	月・火・水・金の昼休み（1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室）
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。



講義科目名称：看護学概論Ⅰ

授業コード：3N069

英文科目名称：Introduction to NursingⅠ

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
上星 浩子	堀込由紀		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・看護とは（1） 看護の定義と役割を学ぶ。看護の特徴と社会的責任について学ぶ。</p> <p>第2回 看護とは（2） 看護の主要概念である人間、健康、環境について学ぶ。</p> <p>第3回 看護の対象 看護の対象の捉え方、ライフサイクルと健康について学ぶ。</p> <p>第4回 看護とは（3） 看護の歴史と変遷について学ぶ。</p> <p>第5回 看護とは（4） 専門職としての看護および看護教育制度や看護組織について学ぶ。</p> <p>第6回 看護職を取り巻く法的側面（1） 看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規について学ぶ。</p> <p>第7回 看護職を取り巻く法的側面（2） 医療安全の観点から医療事故における法的責任について学ぶ。</p> <p>第8回 療養生活を支える仕組み 保健医療福祉システムとチーム医療、看護体制について学ぶ 入院患者の特徴を踏まえ、看護サービス提供の場と療養環境について学ぶ。</p>	<p>上星浩子</p> <p>上星浩子</p> <p>上星浩子</p> <p>上星浩子</p> <p>上星浩子</p> <p>上星浩子</p> <p>堀込由紀</p> <p>上星浩子</p>
科目の目的	看護の歴史の変遷を踏まえ、看護学の主要概念である人間・健康・環境・看護について学ぶことにより、看護とは何かを多角的な視点から考察し、看護学への関心を深める。看護師を取り巻く法的側面として、保健師助産師看護師法および主な関連法規について理解を深める【知識・理解】【関心・意欲】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史と変遷について理解できる。</li> <li>2. 看護の主要概念（健康・環境・人間・看護）について説明できる。</li> <li>3. 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割・機能について説明できる。</li> <li>4. 多角的な学習を通し、看護とは何かについて自己の考えを表現できる。</li> </ol>	
関連科目	看護援助学概論、看護学概論Ⅱ、看護過程論、日常生活援助学演習、治療援助学演習、看護援助学総合演習をはじめとする看護学全般の基盤となる	
成績評価方法・基準	筆記試験（70％）、課題レポート（30％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと。1コマあたり約120分の事前学習と復習が必要。	
教科書・参考書	教科書：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 参考書：特になし	
オフィス・アワー	上星浩子：月曜・木曜日：12：10～12：50 堀込由紀：授業の前後の時間	
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅰ-4-C、5-A、B、Ⅱ-6-A、B、9-A-a～e、B-b ≪健康支援と社会保障制度≫-Ⅳ-12-A、B-a、b、C-a～d、h ≪基礎看護学≫-Ⅰ-1-A～D、2-A、B、Ⅲ-6-A-b、c、B-a～c	
履修条件・履修上の注意	予習、復習し、主体的に授業に臨むこと。	

講義科目名称：看護学概論Ⅱ

授業コード：3N070

英文科目名称：Introduction to Nursing II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
上星 浩子	長嶺 めぐみ		

授業形態	講義（4回）・演習（4回）		担当者
授業計画	第1回	看護活動の実際・看護理論（1） 基礎看護学実習Ⅰの体験から、医療のシステム、役割および看護活動の実際について考察する。 看護理論と分類と変遷について学ぶ。	上星浩子
	第2回	看護理論（2） 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について学ぶ。（講義・演習）	上星浩子
	第3回	看護理論（3） 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長についてグループワークをする。（演習）	上星浩子
	第4回	看護理論（4） 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について発表・討論する。（演習）	上星浩子
	第5回	看護理論（5） 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について発表・討論する。（演習） （レポート課題）	上星浩子
	第6回	看護職を取り巻く倫理的側面（1） 看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性について学ぶ。	上星浩子
	第7回	看護職を取り巻く倫理的側面（2） 医療現場における道徳的ジレンマ、看護における倫理的意思決定について学ぶ。 （レポート課題）	上星浩子
	第8回	国際看護・災害看護 国際看護、災害看護の基礎知識および看護の役割・活動について学ぶ。	長嶺めぐみ
科目の目的	看護学概論Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅰの学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、法律・制度の変化、倫理上の課題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。看護の見方・考え方の基盤として看護理論について学習し、看護学の特徴や看護実践への活用方法を理解する。国際看護・災害看護の基礎知識および活動について理解する。【知識・理解】【関心・意欲】		
到達目標	1. 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について理解できる。 2. 看護の倫理原則及び倫理的概念について理解できる。 3. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面から社会における看護の役割について理解できる。 4. 国際看護・災害看護の基礎知識と看護の役割、活動について理解できる。		
関連科目	看護学概論Ⅰ、看護援助学概論、基礎看護学実習Ⅰを踏まえており、看護過程論、日常生活援助学演習、治療援助学演習、看護援助学総合演習をはじめとする看護学全般の基盤となる。		
成績評価方法・基準	筆記試験（50％）課題レポート（50％）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと 1コマあたり約120分の事前学習と復習が必要。		
教科書・参考書	教科書1：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 参考書：特になし		
オフィス・アワー	上星浩子：月曜・木曜日：12：10～12：50（上星研究室） 長嶺めぐみ：授業の前後の時間		
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅰ-4-A-C、Ⅱ-6-A,B ≪健康支援と社会保障制度≫-C-1 ≪基礎看護学≫-Ⅰ-1-A～D、Ⅱ-3-D,I、3-F-a、4-A-a、b、Ⅲ-6-A-b,c、B-a～c		
履修条件・履修上の注意	予習・復習し、主体的に授業に臨むこと。		

講義科目名称：看護援助学概論

授業コード：3N071

英文科目名称：Introduction to Nursing Care

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 一美	上星 浩子	佐藤 晶子	堀込 由紀
	長嶺 めぐみ		

授業形態	講義 (10回) ・ 演習 (5回)	担当者
授業計画	第1回 講義ガイダンス、看護技術・看護援助と看護援助を必要とする対象 (講義) 看護技術と看護援助・看護行為の概念と成り立ちを学び、看護援助を必要とする対象を理解する。 看護技術の構成要素を理解する。	萩原 一美
	第2回 看護援助に共通する看護技術：観察【目的・意義・方法・視点】 (講義) 看護援助に共通する看護技術としての観察の意義・目的・方法を理解する。【事前課題有】	萩原 一美
	第3回 看護援助に共通する看護技術：安全【医療安全・感染予防】 (講義) 看護援助に共通する看護技術としての医療安全や感染予防の目的・意義・方法を理解する【事前課題有】	萩原 一美
	第4回 看護援助に共通する看護技術の実際：観察と感染予防 (演習) 模擬的な病床環境を観察し、快適で安全な病床整備の技術を習得する。 医療職として必要なスタンダードプリコーションを習得する。【事後課題有】	上星 佐藤 藤 (晶) 堀 込 長嶺 萩原 (一)
	第5回 看護援助に共通する看護技術：安楽【ボディメカニクス・姿勢・体位】 (講義) 看護に必要な人間工学の知識を活用した、ボディメカニクス・作業域などを理解する。 看護の対象の安楽性を考慮したポジショニング・姿勢・体位の目的・意義・援助方法を理解する【事前課題有】	萩原 一美
	第6回 看護援助に共通する看護技術の実際：安楽【ボディメカニクス・姿勢・体位】 (演習) ボディメカニクスを活用したポジショニングと体位変換の技術を習得する。	上星 佐藤 (晶) 堀 込 長嶺 萩原 (一)
	第7回 看護援助に共通する看護技術の実際：安楽【ボディメカニクス・姿勢・体位】 (演習) ボディメカニクスを活用したポジショニングと体位変換の技術を習得する。【事後課題有】	上星 佐藤 (晶) 堀 込 長嶺 萩原 (一)
	第8回 快適な療養環境を整える看護援助：【物理的・文化的・人的環境】 (講義) 病院・病棟・病室などの構造及び療養環境の構成要素を理解する。【事前課題有】	萩原 一美
	第9回 快適な療養環境を整える看護援助：【病棟・病室・病床環境】 (講義・GW) 自分たちの日常生活環境を可視化し、療養環境と比較する。【事前課題有】	萩原 一美
	第10回 快適な療養環境を整える看護援助：【病棟・病室・病床環境】 (講義・GW) 快適な療養環境を作り出す方法について考察する。【事前課題有】	萩原 一美
	第11回 快適な療養環境を整える看護援助の実際：ベッドメイキング (演習) ボディメカニクスを活用した清潔で美しいベッドメイキングの技術を習得する。	上星 佐藤 (晶) 堀 込 長嶺 萩原 (一)
	第12回 快適な療養環境を整える看護援助の実際：ベッドメイキング (演習) ボディメカニクスを活用した清潔で美しいベッドメイキングの技術を習得する。 【事後課題有】	上星 佐藤 (晶) 堀 込 長嶺 萩原 (一)
	第13回 看護援助に共通する看護技術：コミュニケーション (講義) コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程を学ぶ。【事前課題有】	萩原 一美
	第14回 看護援助に共通する看護技術：コミュニケーション (講義・ロールプレイ) 援助的人間関係構築のためのコミュニケーションの基本をロールプレイをとおして学ぶ。【事後課題有】	萩原 一美
	第15回 看護援助に共通する看護技術：カンファレンス・面接技法 (講義・ロールプレイ) チームとして援助を提供するための、カンファレンスや面接技法について学ぶ。 【事前課題有】	萩原 一美
科目の目的	看護援助の言葉の概念を理解し、対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。さらに対象者に適した看護援助を提供するための基本的看護技術の原理と根拠を学ぶ。【知識・理解】 【思考・判	

	断】【技能・表現】【態度】
到達目標	1. 看護技術・看護援助・看護行為の概念と看護援助を必要とする対象の特徴を理解する。 2. 看護援助に共通する看護技術の原理とその根拠を理解する。 3. 対象との援助的人間関係構築のプロセスを理論と関連付けて考えられる。 4. 看護援助に共通する安全の技術（ボディメカニクス・スタンダードプリコーション）を習得できる。 5. 安全で快適な療養環境を整える援助方法（感染予防・姿勢と体位・病床整備）を実施できる。
関連科目	関連する教養科目－心理学、教育心理学、哲学、社会学、生活文化と医療、物理学、環境学、 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、発達心理学、栄養学、 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、日常生活援助学演習、治療援助学演習、看護援助学総合演習、 その他各看護学
成績評価方法・基準	筆記試験（60％）事前課題提出物（20％）事後課題提出物（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<b>【各講義の自己学習の必要時間】</b> 講義内容に沿った教科書・参考書を活用し、講義については事前課題、演習については事後課題は提示する。本科目に必要な最低自己学習時間は15時間である。事前課題の必要最低時間は30分、事後課題の必要最低時間は30分。課題の詳細はその都度提示する。
教科書・参考書	教科書1：「ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子他編（メディカ出版） 教科書2：「ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編（メディカ出版） 教科書3：「看護がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所編（メディックメディア） 教科書4：「看護がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所編（メディックメディア）
オフィス・アワー	<b>【萩原（一）】</b> 授業の前後及び水曜日12：10～12：50（萩原研究室） <b>【上星】</b> 担当授業の前後（上星研究室） <b>【佐藤（晶）】</b> 担当授業の前後（佐藤晶子研究室） <b>【堀込】</b> 担当授業の前後（堀込研究室） <b>【長嶺】</b> 担当授業の前後（長嶺研究室）
国家試験出題基準	≪必修問題≫ I-4-A-d, f I-2-A-d, e, IV-13-A-a, b, c, IV-14-C-a, d, IV-15-A, b, c, IV-15-B-a, b, c, d, e, IV-15-C-a, b, f ≪健康支援と社会保障制度≫-Ⅲ-8-A-a, b, c, d, e, f ≪基礎看護学≫ I-2-A-a, b, c II-3-A-a, b, c, II-3-F-a, b, c, d, e, II-3-G-a, b, c, d, e, II-3-H-a, b, c, d, e, II-4-A-a, b, c
履修条件・履修上の注意	演習は実習用ユニフォーム（ナースウェア、ナースシューズ、名札）を着用して臨むこと。 演習室の使用方法是、演習の手引きを熟読し使用する事。 事前課題学習・事後課題学習を行わないと看護職として必要な知識の理解が深まらないことを自覚し、授業に臨むことを期待する。

講義科目名称：日常生活援助学演習

授業コード：3N072

英文科目名称：Practice in Daily Life Care

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
佐藤 晶子	上星 浩子	堀込 由紀	萩原 一美
	長嶺めぐみ		

授業形態	講義(9回)、演習(21回)	担当者
授業計画	第1-2回 ガイダンス、活動と運動・休息と睡眠／講義 活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。 対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。 休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。 対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。	佐藤晶子
	第3-4回 体位変換、臥床患者のシーツ交換／演習 様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換の方法を習得する。 臥床患者のシーツ交換の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ
	第5-6回 移乗・移送／演習 床上移動、ベッドからの車椅子・移送車への移乗方法を習得する。 移送の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ
	第7回 安楽の確保／講義 安楽の確保と苦痛の緩和の援助方法について学ぶ。	萩原一美
	第8回 巻法／演習 安楽の確保と苦痛の緩和のための巻法の方法を習得する。 【提出課題あり】	萩原一美 上星浩子 堀込由紀 佐藤晶子 長嶺めぐみ
	第9-10回 清潔保持と衣生活／講義 清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。 対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法(清拭、部分浴、陰部洗浄、洗髪、口腔ケア、寝衣交換)を習得する。	佐藤晶子
	第11-12回 寝衣交換／演習 寝衣交換の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ
	第13-14回 部分浴／演習 足浴の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	長嶺めぐみ 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 佐藤晶子
	第15-16回 全身清拭／演習 全身清拭の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	長嶺めぐみ 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 佐藤晶子
	第17-18回 洗髪／演習 洗髪の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ
第19-20回 全身清拭と寝衣交換／演習 全身清拭と寝衣交換の援助方法を習得する。 【提出課題あり】	佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ	

	<p>第21-22回 食生活と栄養／講義 食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。 対象者の食生活と栄養に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。</p> <p>第23-24回 食事介助、口腔ケア／演習 食事の援助方法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。 【提出課題あり】</p> <p>第25-26回 排泄／講義 排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。 対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。</p> <p>第27-28回 床上排泄・おむつ交換、陰部洗浄／演習 床上排泄(便器・尿器、おむつ交換)の援助方法を習得する。 陰部洗浄の援助方法を習得する。 【提出課題あり】</p> <p>第29-30回 既出事項のまとめ／演習 日常生活援助技術の実践(実技試験)を通して知識の整理と臨床での応用を考える。</p>	<p>萩原一美</p> <p>萩原一美 上星浩子 堀込由紀 佐藤晶子 長嶺めぐみ</p> <p>長嶺めぐみ</p> <p>長嶺めぐみ 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ</p>
科目の目的	<p>対象者と看護師の援助の人間関係の基本を学ぶ。 対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を修得する。 【技能・表現】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者と良好な援助関係を構築するための理論と方法を説明できる。</li> <li>2. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠を理解し、正確に実施できる。</li> <li>3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。</li> </ol>	
関連科目	<p>教養科目 : 心理学、環境学          専門基礎科目 : 解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、薬理学、病理学、生化学、栄養学(含食品学)          専門科目 : 看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学概論、看護過程論</p>	
成績評価方法・基準	<p>筆記試験(40%)、実技試験(40%)、提出課題(20%)</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：授業内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、理解できない内容を明確にする。 演習の予習課題を前回の授業時に提示する。演習内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、予習課題に取り組む。</li> <li>・復習：予習課題の解説を演習時に行う。解説を参考にし、提出課題を完成させる。</li> </ul> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：講義1コマあたり30分。演習2コマあたり90分。</li> <li>・復習：講義1コマあたり90分。演習2コマあたり30分。</li> </ul>	
教科書・参考書	<p>教科書1：「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ー基礎看護技術」志自岐康子ほか編（メディカ出版）          教科書2：「看護がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所編（メディックメディア）</p>	
オフィス・アワー	<p>【佐藤晶子】 授業の前後および火曜と木曜12：10～12：50(佐藤晶子研究室)          【上星浩子】 担当授業の前後(上星浩子研究室)          【堀込由紀】 担当授業の前後(堀込由紀研究室)          【萩原一美】 担当授業の前後(萩原一美研究室)          【長嶺めぐみ】 担当授業の前後(長嶺めぐみ研究室)</p>	
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修問題》-Ⅰ-2-A-a, b, c, d, e          《必修問題》-Ⅳ-14-A          《必修問題》-Ⅳ-14-B-a, d          《必修問題》-Ⅳ-14-C-a, b, c, d, f          《必修問題》-Ⅳ-14-D          《必修問題》-Ⅳ-15-B-a, d          《必修問題》-Ⅳ-16-E          《基礎看護学》-Ⅱ-3-H-d          《基礎看護学》-Ⅱ-4-B-a, b, c, d, e, f, g          《基礎看護学》-Ⅱ-4-C-a, b, c, d, e, f, g          《基礎看護学》-Ⅱ-4-D, E, F</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>演習時は、実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。          予習課題と提出課題を放課後に取り組み、期日までに提出すること。</p>	

講義科目名称：治療援助学演習

授業コード：3N073

英文科目名称：Practice in Therapeutical Nusing Care

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
堀込 由紀	上星 浩子	佐藤 晶子	萩原 一美
	長嶺めぐみ		

授業形態	講義(12回)・演習(18回)		担当者
授業計画	第1回	ガイダンス フィジカルアセスメントとは バイタルサイン (VS) ①体温・呼吸・意識(講義) フィジカルアセスメントの基本とVS(体温・呼吸・意識)測定方法、アセスメントについて学ぶ。	堀込由紀
	第2回	フィジカルアセスメント バイタルサイン ②脈拍・血圧(講義) VS測定方法(脈拍・血圧)とアセスメントについて学ぶ。	堀込由紀
	第3～4回	フィジカルアセスメント バイタルサイン測定 (演習) VSを正確に測定する方法を習得する。測定したVS値をアセスメントし、報告する方法を学ぶ。	堀込・上星・佐藤・萩原・長嶺
	第5回	フィジカルアセスメント ①呼吸器系(講義) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的と方法、評価について学ぶ。	堀込由紀
	第6回	フィジカルアセスメント ②循環器系③消化器系(講義) 循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントの目的と方法、評価について学ぶ。	堀込由紀
	第7回	フィジカルアセスメント ①呼吸器系(演習) 呼吸器系のフィジカルアセスメント技術を習得する。	堀込・上星・佐藤・萩原・長嶺
	第8回	フィジカルアセスメント ②循環器系(演習) 循環器系のフィジカルアセスメント技術を習得する。	堀込・上星・佐藤・萩原
	第9回	フィジカルアセスメント ④筋骨格系(講義) 筋骨格系のフィジカルアセスメントの目的と方法、評価について学ぶ。	堀込由紀
	第10回	フィジカルアセスメント⑤神経系・頭頸部・脳神経系(講義) 神経系・頭頸部・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的と方法、評価について学ぶ。	堀込由紀
	第11～12回	フィジカルアセスメント ③消化器系④骨格系(演習) 消化器系及び骨格系のフィジカルアセスメント技術を習得する。	堀込・上星・佐藤晶子・萩原・長嶺
	第13回	フィジカルアセスメント ⑤神経系・頭頸部・脳神経系(演習) 神経系・頭頸部・脳神経系のフィジカルアセスメント技術を習得する。	堀込・上星・佐藤晶子・萩原・長嶺
	第14回	創傷管理 感染予防技術(講義) 創傷管理の方法と根拠について理解する。基本的な感染予防対策について学ぶ。	堀込由紀
	第15回	排泄に伴う治療援助技術 導尿・洗腸(講義) 排泄に関連した治療援助技術(導尿・洗腸)についての根拠と手順、管理について学ぶ。	長嶺・堀込
	第16～17回	創傷管理 感染予防技術(演習) 創傷管理及び感染予防技術に関する技術を習得する。	堀込・上星・佐藤晶子・萩原・長嶺
	第18～19回	排泄に伴う治療援助技術 導尿・洗腸(演習) 排泄に関連した治療援助技術(導尿・洗腸)についての技術を習得する。	長嶺・堀込・上星・佐藤晶子・萩原
	第20～22回	技術習得度チェック(フィジカルアセスメント) これまでの知識・技術の復習を行う。フィジカルアセスメント及びバイタルサインの技術習得度チェックを実施する。	堀込・上星・佐藤晶子・萩原

	<p>第23回 検査時の看護 検体検査 ①尿・便・喀痰②血液検査(講義) 検査における看護師の役割について学ぶ。検査の分類と留意事項について学ぶ。 尿・便・喀痰検査及び血液検査の目的と概要及び看護のポイントについて学ぶ。</p> <p>第24回 検査時の看護 生体検査①呼吸機能検査②心電図(講義) ③画像検査 呼吸機能検査・心電図検査・画像検査の目的と概要及び看護のポイントについて学ぶ。</p> <p>第25～26回 検査時の看護 検体検査 ③静脈血採血(演習) 採血の手順と実際を体験し留意点について理解する。</p> <p>第27回 与薬管理 ①薬剤の影響と取扱い方法②経口与薬(講義) 与薬に関する法律、安全管理、薬物動態、投与方法について学ぶ。</p> <p>第28回 呼吸管理：呼吸機能の評価、呼吸調整法(講義) 呼吸調整法(吸引(鼻口腔)、吸入、体位等)と看護のポイントについて学ぶ。</p> <p>第29～30回 呼吸管理：呼吸調整法(演習) 呼吸調整法(吸引(鼻口腔)、酸素吸入・ネブライザー)の技術を習得する。</p>	<p>堀込由紀</p> <p>堀込由紀</p> <p>堀込・上星・佐藤晶子・萩原</p> <p>堀込由紀</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子・堀込・上星・萩原・長嶺</p>
科目の目的	対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解する。 【知識・理解】 【技能・表現】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を説明することができる。</li> <li>2. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメントの手順とその根拠を説明することができる。</li> <li>3. 治療・検査を受ける人の心理を推察し、必要な援助を考えることができる。</li> </ol>	
関連科目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、看護過程論 その他各看護学総論	
成績評価方法・基準	筆記試験(50%)、実技チェック(30%)、ワークシート(20%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿った教科書該当ページを熟読して講義に臨むこと。 演習内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、演習内容を把握してイメージトレーニングの上、授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 2コマ当たり30分の準備学習と30分の復習が必要。	
教科書・参考書	教科書1: 「ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版) 教科書2: 「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ーヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編(メディカ出版) 教科書3: 「フィジカルアセスメントがみえる」医療情報科学研究所(メディックメディア) 教科書4: 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所(メディックメディア) 教科書5: 「看護がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所(メディックメディア)	
オフィス・アワー	【堀込】担当授業の前後(堀込研究室) 【上星】担当授業の前後(上星研究室) 【佐藤晶子】担当授業の前後(佐藤研究室) 【萩原】担当授業の前後(萩原研究室) 【長嶺】担当授業の前後(長嶺研究室)	
国家試験出題基準	《必修問題》Ⅳ-13-C-a～e, 15-C-a, c, d, e, f, 16-B-a, b, D-a, b, F-a～g, H-a～c 《基礎看護学》Ⅱ-3-E-a～e, F-a～e, G-b, d, e, 《基礎看護学》Ⅱ-5-A-a～g, B-a～d, C-a～c, D-a～c, F-a～d	
履修条件・履修上の注意	演習では、実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。 身だしなみを整えること。 事前に演習内容について把握し該当講義内容を復習して臨むこと。 提出課題に取り組み、提示された期日までに提出すること。	



講義科目名称：看護援助学総合演習

授業コード：3N074

英文科目名称：General Practice in Nursing Care

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
堀込 由紀	上星 浩子	佐藤 晶子	萩原一美
	長嶺めぐみ		

授業形態	講義(5回)・演習(10回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 与薬管理 ③筋肉内/皮下/皮内注射(講義) 筋肉内/皮下/皮内注射の手順と根拠について学ぶ。</p> <p>第2回 与薬管理 ④静脈内注射(講義) 静脈内注射の手順と根拠・管理について学ぶ。</p> <p>第3～4回 与薬管理：③筋肉内/皮下注射(演習) 筋肉内/皮下/皮内注射の手順と実際について学ぶ。</p> <p>第5～6回 与薬管理 ④静脈内注射(演習) 静脈内注射(留置針・輸液管理)の方法や管理の実際について学ぶ。</p> <p>第7回 看護過程復習 事例展開① 治療を受ける患者の看護援助計画立案(講義) 治療を受ける患者の看護について既習の知識・技術を振り返る。設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学概論、日常生活援助学演習、治療援助学演習、基礎看護学実習Ⅱで得た知識と技術を統合し、看護援助計画を立案する。</p> <p>第8回 事例展開②GW：援助計画立案(演習) ケースに必要とされる診療補助技術を復習する。個人の援助計画を基にGWによる看護援助計画を立案する。</p> <p>第9～11回 事例展開③④⑤ GW：援助計画の修正(演習) 演習を通して看護援助計画を見直し、ロールプレイング形式の発表の準備を行う。</p> <p>第12～13回 ロールプレイ発表 事例に適した安全で安楽な援助に関するロールプレイを発表し、評価を受けることで学習を深める。</p> <p>第14回 与薬管理 ⑤輸血 ⑥外用薬(講義) 輸血の分類と手順、根拠について学ぶ。外用薬の種類、手順と根拠について学ぶ。</p> <p>第15回 検体検査③穿刺検査 生体検査④内視鏡検査(講義) 穿刺検査及び内視鏡検査の概要と看護を理解する。</p>	<p>堀込</p> <p>堀込</p> <p>堀込・上星・佐藤晶子・萩原一美・長嶺</p> <p>堀込・上星・佐藤晶子・萩原一美・長嶺</p> <p>堀込</p> <p>堀込・上星・佐藤晶子・萩原一美・長嶺</p> <p>堀込・上星・佐藤晶子・萩原一美・長嶺</p> <p>堀込</p> <p>堀込</p>
科目の目的	設定された看護援助場面で、これまで学習してきた知識・技術を統合し、安全安楽を考慮した適切な援助を考え実践することができる。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	<p>1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を説明することができる。</p> <p>2. 治療を受ける患者に対して個性のある適切な援助を実施することができる。</p>	
関連科目	<p>関連する教養科目－心理学、生命倫理、環境学</p> <p>関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学</p> <p>関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、看護過程論、治療援助学演習</p> <p>その他各看護学総論</p>	
成績評価方法・基準	看護過程(援助計画30%・グループワーク10%) 筆記試験50% ワークシート・ミニッツペーパー10%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 演習内容にそった教科書の該当ページを熟読し、演習内容を把握してイメージトレーニングの上、授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。</p> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】 2コマ当たり30分の準備学習と30分の復習が必要。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書1：「ナースング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版)</p> <p>教科書2：「看護がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所(メディックメディア)</p> <p>教科書3：「看護がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所(メディックメディア)</p>	

オフィス・アワー	<p>【堀込】 担当授業の前後(堀込研究室)  【上星】 担当授業の前後(上星研究室)  【佐藤晶子】 担当授業の前後(佐藤研究室)  【萩原一美】 担当授業の前後(萩原研究室)  【長嶺】 担当授業の前後(長嶺研究室)</p>
国家試験出題基準	<p>《必修問題》 IV-14-C-a～d, D-b, h, 15-B-a, C-c, e, f, 16-A-b, B, C-a, c, d, F-a～d  《基礎看護学》 II-3- C-a～e, E-e, F-b, c, G-c, d, H-c  《基礎看護学》 II-4-C-e, F-c, d  《基礎看護学》 II-5-D-a, c, F-d</p>
履修条件・履修上の注意	<p>演習では、実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。  身だしなみを整えること。  事前に演習内容について把握し該当講義内容を復習して臨むこと。  演習、グループワーク、課題に取り組み、提示された期日までに提出すること。</p>

講義科目名称：看護過程論

授業コード：3N075

英文科目名称：Nursing Process

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
佐藤 晶子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス、看護過程の概要 看護の役割と機能について振り返り、看護実践の基礎となる看護過程の概念、看護上の問題を解決するための思考について学ぶ。</p> <p>第2回 看護過程と看護理論 人間、健康、環境、看護の捉え方と看護過程と看護理論の関係について学ぶ。</p> <p>第3回 ヘルスヒストリーと情報収集、アセスメント① ヘルスヒストリーの意義と構成要素について学ぶ。 情報収集と情報収集の枠組みについて学ぶ。 ゴードンの機能的健康パターンに基づいた情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ(前半)。</p> <p>第4回 アセスメント②、情報の整理と解釈 ゴードンの機能的健康パターンに基づいた情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ(後半)。 得られた情報の整理・解釈する方法について学ぶ。</p> <p>第5回 看護診断 看護診断の定義、構成要素、診断名の種類、表記方法、看護診断の優先順位の考え方について学ぶ。</p> <p>第6回 関連図、問題リスト 収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。</p> <p>第7回 看護計画、評価 計画立案における目標の条件、長期目標・短期目標、看護診断から援助方法(目標設定・計画立案)を導き出す。 立案した看護計画の評価について、評価基準、評価の時期、評価の方法について学ぶ。</p> <p>第8回 看護記録 看護記録の構成要素や種類・特徴について学ぶ。 実施した看護における看護記録の書き方を学ぶ。</p>	<p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p>
科目の目的	<p>看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは対象者のニーズに応じた看護援助を意図的・科学的に行っていくための問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習する。 また、理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を学習する。 【思考・判断】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義が説明できる。</li> <li>2. 看護過程と看護理論の関係について考えることができる。</li> <li>3. ゴードンの機能的健康パターンに沿った情報収集と1次アセスメントの方法を説明できる。</li> <li>4. 情報を整理し、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)の方法を説明できる。</li> <li>5. アセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位を設定する方法を説明できる。</li> <li>6. 患者目標を設定し、個別性のある看護計画を立案する方法を説明できる。</li> <li>7. 看護計画の評価・修正する方法を説明できる。</li> <li>8. 看護記録の構成要素や種類・特徴について説明できる。</li> </ol>	
関連科目	<p>専門基礎科目：解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生化学、病理学、薬理学、栄養学(含食品学)、 リハビリテーション概論 専門科目：看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、成人看護学概論</p>	
成績評価方法・基準	<p>筆記試験(90%)、ミニッツペーパーの提出状況(10%)</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：次回の講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読する。</li> <li>・復習：各回の講義時に提示する。復習課題の解説は、次回の講義冒頭に実施する。</li> </ul> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：1コマあたり30分</li> <li>・復習：1コマあたり90分</li> </ul>	

教科書・参考書	教科書1：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」江川隆子編(ヌーヴェルヒロカワ) 教科書2：「看護診断ハンドブック」Carpenito-Moyet, L. J. 著、黒江ゆり子監訳(医学書院) 教科書3：「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③—基礎看護技術」志自岐康子ほか編(メディカ出版) 教科書4：「ナーシンググラフィカ基礎看護学②—ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子ほか編(メディカ出版)
オフィス・アワー	授業の前後および火曜・木曜12:10～12:50(佐藤晶子研究室)
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-IV-13-B ≪基礎看護学≫-I-2-B ≪基礎看護学≫-II-3-C
履修条件・履修上の注意	各回で提示される復習課題を放課後に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

講義科目名称：看護過程論演習

授業コード：3N076

英文科目名称：Practice in Nursing Process

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
佐藤 晶子	上星浩子 長嶺めぐみ	堀込由紀	萩原一美

授業形態	講義(8回)、演習(7回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、事例紹介(A氏)、情報収集／講義 紙上患者(A氏)の紹介と情報収集について学ぶ。</p> <p>第2回 医学情報の整理、アセスメント①／講義 紙上患者(A氏)の医学情報の整理について学ぶ。 紙上患者(A氏)の1次アセスメントについて学ぶ。</p> <p>第3回 アセスメント②／講義 紙上患者(A氏)のアセスメントについて学ぶ。</p> <p>第4回 看護診断／講義 紙上患者(A氏)の看護診断について学ぶ。</p> <p>第5回 関連図、問題リスト／講義 紙上患者(A氏)の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。 紙上患者(A氏)の問題リストを作成し、看護診断の優先順位の考え方について学ぶ。</p> <p>第6回 看護計画立案／講義 紙上患者(A氏)の看護診断の計画立案(目標設定・実施計画)について学ぶ。 紙上患者(A氏)の看護援助計画の記載方法について学ぶ。</p> <p>第7回 評価、経過記録①／講義 紙上患者(A氏)の看護計画の評価について学ぶ。 実施した看護における看護記録の書き方を学ぶ。 【提出課題あり①】</p> <p>第8回 経過記録②、事例紹介(B氏)／講義 紙上患者(A氏)の経過記録の書き方について学ぶ。 紙上患者(B氏)の情報収集をする。</p> <p>第9回 事例展開①(個人ワーク)／演習 紙上患者(B氏)の看護過程を個人ワークにて展開し、情報からアセスメント、看護診断を導く。 【提出課題あり②】</p> <p>第10-12回 事例展開②③④(グループワーク①②③)／演習 個人ワークにて抽出した看護診断をグループワークにて検討し、期待される結果と実施計画の立案をする。 プレゼンテーション資料を作成する。 ロールプレイング発表のシナリオを作成し、演習の練習をする。</p> <p>第13-14回 プレゼンテーション／演習 紙上患者(B氏)の看護診断、期待される結果、計画について発表し、個別性のある看護過程展開の共有化・明確化を図る。</p> <p>第15回 既出事項のまとめ／演習 プレゼンテーションした看護実践の結果を評価・修正する。 看護過程展開における知識を確認し、基礎看護学実習Ⅱに向けて自己の課題を明確にする。 【提出課題あり③】</p>	<p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子</p> <p>佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ</p> <p>佐藤晶子 上星浩子 堀込由紀 萩原一美 長嶺めぐみ</p> <p>佐藤晶子</p>
科目の目的	<p>看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは講義・演習を繰り返しながら科学的思考、問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習し、対象者のニーズに応じた看護援助を意図的、科学的に行っていく技術を修得する。 また理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を修得する。 【思考・判断】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)ができる。</li> <li>紙上事例のアセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位が設定できる。</li> <li>紙上事例の患者目標を設定し、個別性のある看護計画が立案できる。</li> <li>立案した紙上事例の看護計画を発表できる。</li> <li>発表した看護計画の評価・修正ができる。</li> </ol>	
関連科目	<p>専門基礎科目群：解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生化学、病理学、臨床病態学Ⅰ、</p>	

	<p>免疫・感染症学、薬理学、臨床検査学、栄養学(含食品学)、発達心理学、臨床心理学、          歯科保健、リハビリテーション概論          専門科目群：看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、治療援助学演習、          看護過程論、成人看護学概論</p>
成績評価方法・基準	提出課題3回(①10%②10%③70%)、ミニツツペーパーの提出状況(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：次回の講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読する。 予習課題を前回の講義時に提示する。予習課題の解説は講義冒頭に実施する。</li> <li>・復習：解説を参考に予習課題の修正をし、提出課題を完成させていく。</li> </ul> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：1コマあたり45分</li> <li>・復習：1コマあたり15分</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書1：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」江川隆子編(ヌーヴェルヒロカワ)          教科書2：「看護診断ハンドブック」Carpenito-Moyet, L. J. 著、黒江ゆり子監訳(医学書院)          教科書3：「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②—ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子ほか編(メディカ出版)          教科書4：「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③—基礎看護技術」志自岐康子ほか編(メディカ出版)</p> <p>参考書1：「看護技術がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所編(メディックメディア)          参考書2：「看護技術がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所編(メディックメディア)          参考書3：「フィジカルアセスメントがみえる」医学情報科学研究所編(メディックメディア)</p>
オフィス・アワー	<p>【佐藤晶子】授業の前後および火曜・木曜12：10～12：50(佐藤晶子研究室)          【上星浩子】授業の前後(上星浩子研究室)          【堀込由紀】授業の前後(堀込由紀研究室)          【萩原一美】授業の前後(萩原一美研究室)          【長嶺めぐみ】授業の前後(長嶺めぐみ研究室)</p>
国家試験出題基準	<p>【看護師】          ≪必修問題≫-IV-13-B          ≪基礎看護学≫-I-2-B          ≪基礎看護学≫-II-3-C</p>
履修条件・履修上の注意	各回で提示される予習課題および提出課題を放課後に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

講義科目名称：基礎看護学特論

授業コード：3N077

英文科目名称：Advanced Fundamental Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
上星 浩子	堀込 由紀	長嶺 めぐみ	

授業形態	講義（4回）・演習（4回）	担当者
授業計画	1 看護の現状と課題 講義ガイダンス・基礎看護学領域・看護技術に関する現状と課題について学ぶ。	上星浩子
	2 看護の専門性（1） 看護倫理 看護師の倫理綱領と倫理的ジレンマについて学ぶ。	上星浩子
	3 看護の専門性（2） 医療安全 医療安全を推進するための分析的視点について学び、安全な看護実践について考察する。	堀込由紀
	4 看護の専門性（3） 国際看護 言葉・文化の問題など在外外国人の支援における看護師の役割について学ぶ。	長嶺めぐみ
	5 看護の課題と展望（1） 基礎看護学領域に関するトピックスや課題について事例を提示し討議する。	上星浩子
	6 看護の課題と展望（2） 基礎看護学領域に関するトピックスや課題について事例を提示し討議する。	上星浩子
	7 看護の課題と展望（3） 基礎看護学領域に関するトピックスや課題について事例を提示し討議する。	上星浩子
	8 看護の課題と展望（4） 基礎看護学領域の課題について問題解決策を考察する（ディベート・演習）	上星浩子
科目の目的	基礎看護学の視点から看護学の専門性、現状、展望について、先行研究や講義・演習の学びから考察する。 【関心・意欲】【思考・判断】	
到達目標	1. 看護技術のエビデンスや基礎看護学領域に関する課題および最近の話題について情報収集ができる。 2. 文献等で得られた情報に基づき、看護に関する課題と展望について説明できる。 3. 講義、演習での討議および学びに基づき、看護の専門性や展望について自己の考えを説明できる。	
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、治療援助学演習、看護援助学総合演習、看護過程論、看護過程論演習をはじめとする看護学全般の科目	
成績評価方法・基準	講義、演習における討議、発表内容（60%）、課題レポート（40%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基礎看護学領域に関する課題および最近の話題に関するプレゼンテーションの準備（事例提示、文献検索、発表資料作成） 1コマにあたり約120分の事前学習と復習を必要とする。	
教科書・参考書	特に指定しない。 講義に必要な資料は事前および当日配布する。	
オフィス・アワー	上星浩子：授業の前後の時間 堀込由紀：授業の前後の時間 長嶺めぐみ：授業の前後の時間	
国家試験出題基準	《基礎看護学》Ⅰ-1-A <sup>~</sup> C、2-A <sup>~</sup> C、Ⅱ-3-A <sup>~</sup> G、Ⅲ-6-A、D	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：成人看護学概論

授業コード：3N078

英文科目名称：Preparation for Adult Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 英子	金子 吉美		

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 成人看護の対象 成人看護の対象となる人について、身体的・心理的・社会的側面から理解する。 [準備学習]教科書p28-40を読んでおくこと。</p>	萩原英子
	<p>第2回 成人各期の特徴と保健問題 成人各期（青年期、壮年期・中年期、向老期）における発達課題と社会的特徴について理解する。 [準備学習]教科書p4-28、p42-63を読んでおくこと。</p>	萩原英子
	<p>第3回 成人保健の動向と対策 成人における健康問題の特徴および成人の健康を守る保健・医療・福祉システムの概要と動向について理解する。 [準備学習]教科書p64-85を読んでおくこと。</p>	萩原英子
	<p>第4回 健康をおびやかす要因と看護 生活行動がもたらす健康問題とその予防を理解する。 [準備学習]教科書p170-187を読んでおくこと。</p>	金子吉美
	<p>第5回 成人への看護アプローチの基本 チームアプローチにおける看護師の役割、看護実践における倫理的判断、意志決定支援、家族支援について理解する。 [準備学習]教科書p127-146を読んでおくこと。</p>	金子吉美
	<p>第6回 成人の健康障害と看護1 難病とともに生活する人の講義を受けて、意志決定のプロセスや家族支援の実際を知る。 &lt;guest speaker&gt; [準備学習]第1回講義日～当該日まで、ワークシートをActiveAcademyにて配信するので、各自プリントアウトしてワークシートに取り組み、講義時に持参すること。</p>	萩原英子
	<p>第7回 成人の健康障害と看護2 がんとともに生活する人の講義を受けて、医療場面における倫理的判断や意志決定のプロセス、家族支援の実際を知る。 &lt;guest speaker&gt; [準備学習]第1回講義日～当該日まで、ワークシートをActiveAcademyにて配信するので、各自プリントアウトしてワークシートに取り組み、講義時に持参すること。</p>	萩原英子
	<p>第8回 成人の健康障害と看護3 運動機能障害を持ちながら生活する人の講義を受けて、チームアプローチや家族支援、社会復帰のプロセスの実際を知る。 &lt;guest speaker&gt; [準備学習]第1回講義日～当該日まで、ワークシートをActiveAcademyにて配信するので、各自プリントアウトしてワークシートに取り組み、講義時に持参すること。</p>	萩原英子
科目の目的	成人看護の対象である成人期にある人々の特徴と健康問題を理解し、健康の保持・増進および健康障害を持った人々への看護のあり方を理解する。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】	
到達目標	1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題について説明できる。 2. 成人保健の動向と保健・医療・福祉システムについて説明できる。 3. 成人期にある人々への基本的な看護アプローチの方法を説明できる。 4. 健康障害を持ちながら生活する成人に対する看護アプローチのあり方を考えることができる。	
関連科目	履修した専門基礎科目、基礎看護学	
成績評価方法・基準	定期試験(筆記試験) (90%)、期末レポート (10%)	



準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は90分である。 準備学習の内容は、授業計画欄を参照すること。 また復習として、講義終了後（ゲストスピーカーの講義以外）は、教科書や配付した資料などを読み、理解できたか確認すること。
教科書・参考書	教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①」医学書院  参考書 「国民衛生の動向 厚生指標 2019/2020年版」 厚生労働省 その他、随時紹介する。
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12：10～13：00 金子吉美(研究日307)：講義開講日の12：10～13：00 ゲストスピーカー：講義終了後の20分間
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-Ⅱ-7-F 《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅰ-1-A, Ⅰ-2-A, B 《成人看護学》-Ⅰ-1, 2
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。 ゲストスピーカーの方に対しての礼節を忘れずに講義に臨むこと。 講義に必要な資料は、各講義中に配布する。

講義科目名称：成人看護学総論

授業コード：3N079

英文科目名称：Introduction to Adult Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 英子	堀越 政孝		

授業形態	講義(8回)		担当者
授業計画	第1回	成人看護学とは/ヘルスプロモーションと看護 成人の特徴を復習し、成人のヘルスプロモーションと看護について学ぶ。	萩原英子
	第2回	急性期にある人の特徴と看護 急激な健康破綻に陥った人とその家族の特徴について学ぶ。	萩原英子
	第3回	危機にある人々への支援 急激な健康破綻に陥った人の看護支援について、理論を手掛かりに考える。	萩原英子
	第4回	慢性期にある人の特徴と看護 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者とその家族の特徴について学ぶ。	堀越政孝
	第5回	慢性病との共存を支える支援 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の看護支援について、理論を手掛かりに考える。	堀越政孝
	第6回	リハビリテーション期にある人の特徴と看護 障がいを持ちながら生活する人の特徴とその看護支援について学ぶ。	萩原英子
	第7回	終末期にある人の特徴と看護 終末期にある人の特徴とその看護支援について学ぶ。	堀越政孝
	第8回	退院支援・退院調整 退院支援・退院調整の必要性と具体的な支援方法について学ぶ。	堀越政孝
科目の目的	様々な健康レベルにある成人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康レベルに応じた看護支援のあり方を考察する。 (ディプロマ・ポリシーとの関連：【知識・理解】)		
到達目標	1. 様々な健康レベルにある成人の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 2. 様々な健康レベルにある成人に対する特徴的な看護支援について説明できる。 3. 理論を通して、様々な健康レベルにある成人をアセスメントし、必要な看護支援について具体的に述べることができる。		
関連科目	基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学特論、成人看護学慢性期実習、成人看護学急性期実習、救急法		
成績評価方法・基準	定期試験(筆記試験)100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は90分である。準備学習として、テキストの該当ページを精読しておくこと。また、各講義・演習終了後には、復習として、配布された資料を見ながら、しっかり理解できたか確認すること。		
教科書・参考書	教科書： 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①」 医学書院 参考書： 講義内で随時、紹介する		
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12：10～13：00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12：10～13：00		
国家試験出題基準	【看護師】 ≪成人看護学≫-Ⅱ-3-A, B, C、Ⅲ-6-A, B、Ⅳ-7-A, B, C, D, E、Ⅵ-9-B, C		
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止する。 講義に必要な資料は、各回の講義中に配布する。		



講義科目名称：成人看護方法論 I

授業コード：3N080

英文科目名称：Adult Nursing Methods I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
堀越 政孝	萩原 英子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 がん看護総論 がんと共に生きる患者とその家族の特徴と看護の役割について学ぶ。</p> <p>第2回 がん患者の看護1 化学療法を受けるがん患者の看護を学ぶ。</p> <p>第3回 がん患者の看護2 放射線療法を受けるがん患者の看護を学ぶ。</p> <p>第4回 がん患者の看護3 緩和ケアを受けるがん患者の看護を学ぶ。</p> <p>第5回 血液・造血器疾患患者の看護1 主要症状(貧血・白血球減少・血小板減少)を有する患者の看護について学ぶ。</p> <p>第6回 血液・造血器疾患患者の看護2 白血病・造血幹細胞移植患者の看護について学ぶ。</p> <p>第7回 血液・造血器疾患患者の看護3 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫患者の看護について学ぶ。</p> <p>第8回 中間試験／内分泌代謝疾患患者の看護1 内分泌代謝疾患の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第9回 中間試験解説内分泌代謝疾患患者の看護2 糖尿病患者の看護について学ぶ。 中間試験の総評と解説を行う。</p> <p>第10回 内分泌代謝疾患患者の看護3 甲状腺疾患患者の看護について学ぶ。</p> <p>第11回 呼吸器疾患患者の看護1 呼吸器疾患の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第12回 呼吸器疾患患者の看護2 炎症性疾患(肺炎、気管支炎、呼吸器感染症)・肺結核患者の看護について学ぶ。</p> <p>第13回 呼吸器疾患患者の看護3 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患患者の看護について学ぶ。</p> <p>第14回 腎・泌尿器疾患患者の看護1 主要な腎疾患(腎不全・慢性腎臓病・ネフローゼ症候群)の特徴について学ぶ。</p> <p>第15回 腎・泌尿器疾患患者の看護2 腎不全の治療(内科的治療、透析療法)と看護について学ぶ。</p>	<p>堀越政孝</p> <p>萩原英子</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>萩原英子</p> <p>萩原英子</p> <p>萩原英子</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p>
科目の目的	成人期の特徴的な疾患とその治療について理解し、患者と家族の健康状態に応じたアセスメントと看護支援の方法を修得する。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】	
到達目標	<p>1. がん、血液・造血器疾患、内分泌代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患をもつ患者の身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる</p> <p>2. がん、血液・造血器疾患、内分泌代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患の看護の方法を説明することができる</p>	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学方法論Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学慢性期・急性期実習	
成績評価方法・基準	筆記試験100%：中間試験50%、期末試験50%を合算した結果で可否を判定する。 中間試験および期末試験の合算で、60%に満たない学生は再試験の対象とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	成人看護学概論、成人看護学総論で学習した内容の復習及び、講義内容に該当する部分の指定教科書を読んで、1時間以上の準備学習をしておくこと。授業後は、必ず1時間以上の復習を行うこと。	
教科書・参考書	<p>教科書 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②④⑥⑧』(医学書院)</p> <p>参考書 『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 がん・ターミナルケア』(メヂカルフレンド社)</p> <p>解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト</p>	
オフィス・アワー	講義開講日の12:10~13:00。研究室にて対応。	
国家試験出題基準	【看護師】 《成人看護学》Ⅲ-6、Ⅴ-8、Ⅵ-A、-B、-C、Ⅶ-10-A、-B、-C-f、-C-g、Ⅶ-14-B、-C、-D-b~f、Ⅶ-15-A、-B、-C-a、-D、Ⅶ-20-B	

履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止とし、遵守できない場合は、欠席扱いとする。
-------------	---

講義科目名称：成人看護方法論Ⅱ

授業コード：3N081

英文科目名称：Adult Nursing Methods II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
金子 吉美	萩原 英子	小池菜穂子	安田弘子
	湯澤香緒里		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 消化器疾患患者の看護 1 胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第2回 消化器疾患患者の看護 2 肝炎、肝硬変患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第3回 消化器疾患患者の看護 3 急性・慢性膵炎患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第4回 脳神経疾患患者の看護 1 意識障害・言語障害・運動麻痺・頭蓋内圧亢進の理解と、その看護を学ぶ。</p> <p>第5回 脳神経疾患患者の看護 2 脳梗塞・脳出血患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第6回 神経系疾患患者の看護 1 重症筋無力症・パーキンソン病患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第7回 神経系疾患患者の看護 2 筋萎縮性側索硬化症患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第8回 中間試験／循環器疾患患者の看護 1 虚血性心疾患をもつ患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第9回 循環器疾患患者の看護 2 心不全をもつ患者の特徴と看護について学ぶ。 中間試験の総評と解説を行う。</p> <p>第10回 循環器疾患患者の看護 3 不整脈をもつ患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第11回 アレルギー疾患患者の看護 鼻炎・皮膚炎・シックハウス症候群・アナフィラキシーショックの理解と、その看護について学ぶ。</p> <p>第12回 膠原病患者の看護 1 全身性エリテマトーデス・シェーグレン症候群患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第13回 膠原病患者の看護 2 関節リウマチ患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第14回 感染症患者の看護 HIV・AIDS患者の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第15回 感覚器疾患患者の看護 突発性難聴・メニエール病患者の特徴と看護について学ぶ。</p>	<p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>安田 弘子</p> <p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>小池菜穂子</p> <p>小池菜穂子</p> <p>小池菜穂子</p> <p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>金子 吉美</p> <p>萩原 英子</p> <p>湯澤香緒里</p>
科目の目的	成人期の特徴的な疾患とその治療について理解し、患者と家族の健康状態に応じたアセスメントと看護支援の方法を修得する。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】	
到達目標	<p>1. 消化器疾患、脳・神経疾患、循環器疾患、アレルギー・膠原病、感染症、感覚器疾患をもつ患者の身体的・心理的・社会的特徴を説明することができる。</p> <p>2. 消化器疾患、脳・神経疾患、循環器疾患、アレルギー・膠原病、感染症、感覚器疾患をもつ患者の看護の方法を説明することができる。</p>	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学慢性期・急性期実習	
成績評価方法・基準	筆記試験100%：中間試験50%、期末試験50%を合算した結果で可否を判定する。 中間試験および期末試験の合算で、60%に満たない学生は再試験の対象とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰで学習した内容の復習及び、講義内容に該当する部分の指定教科書を読んで、1時間以上の準備学習をしておくこと。 授業後は、必ず1時間以上の復習を行うこと。	
教科書・参考書	教科書 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学③⑤⑦⑩⑭』（医学書院） 参考書 解剖学、生理学、薬理学、臨床病態学等において使用したテキスト	
オフィス・アワー	金子・萩原・小池・安田・湯澤：講義前後、昼休み	
国家試験出題基準	【看護師】《成人看護学》 IV-9-A-b、IV-11-A・B、IV-11-D-a・b・d、IV-12-B・D、IV-13-B、IV-13-C-a・b・c・d、IV-13-D-a・b・d、IV-16-C-e、IV-17-A・B、IV-17-D-a・f・h、IV-18-D-b・c	

履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。
-------------	---

講義科目名称：周手術期看護論

授業コード：3N082

英文科目名称：Perioperative Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 英子	堀越政孝	小池菜穂子	金子吉美
	安田弘子	湯澤香緒里	

授業形態	講義(15回)	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>周手術期看護総論 周手術期にある患者とその家族の特徴と看護の役割について学習する。 [キーワード] 手術、意思決定、身体侵襲 [準備学習] 2020年度成人看護学慢性期実習・急性期実習 事前学習課題 事前学習シートI 【クリティカル期・周手術期にある対象の理解】「1. 手術侵襲に対する神経・内分泌反応」「2. 手術侵襲に対する生体反応の推移」に取り組むこと。</p>	萩原英子
	<p>第2回</p> <p>術前・術中看護 術前準備と術中管理について学習する。また、手術侵襲や麻酔によって起こる生体反応とその看護について学ぶ。 [キーワード] 術前オリエンテーション、術前指導、麻酔、手術体位、手術室看護 [準備学習] 2020年度成人看護学慢性期実習・急性期実習 事前学習課題 事前学習シートI 【クリティカル期・周手術期にある対象の理解】「4. 麻酔」「5. 早期離床」に取り組むこと。</p>	小池菜穂子
	<p>第3回</p> <p>術後看護 術後患者のアセスメントとその看護について学習する。 [キーワード] 術後モニタリング、ドレーン管理、術後疼痛管理、術後合併症 [準備学習] 2020年度成人看護学慢性期実習・急性期実習 事前学習課題 事前学習シートI 【クリティカル期・周手術期にある対象の理解】「3. 創傷の治癒過程と治癒形式」「6. 術後の疼痛管理」「7. ドレーンの管理」に取り組むこと。</p>	小池菜穂子
	<p>第4回</p> <p>術後合併症と看護 主要な術後合併症とその予防について学習する。 [キーワード] MOF、術後呼吸器合併症、循環不全、イレウス、感染、DIC [準備学習] 2020年度成人看護学慢性期実習・急性期実習 事前学習課題 事前学習シートI 【クリティカル期・周手術期にある対象の理解】「8. 起こりやすい術後合併症」に取り組むこと。</p>	安田弘子
	<p>第5回</p> <p>回復期看護 術後、回復期にある患者の看護について学習する。 [キーワード] 退院指導、継続看護、リハビリテーション [準備学習] Active Academyにて第4回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	湯澤香緒里
	<p>第6回</p> <p>周手術期看護各論1 (消化器) 胃や肝臓の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。 [キーワード] 胃がん、肝臓がん、開腹術、生活の再構築 [準備学習] Active Academyにて第5回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	萩原英子



第7回	<p>周手術期看護各論2（消化器）  大腸の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。  [キーワード]  大腸がん、開腹術、ストーマ造設、セルフケア  [準備学習]  Active Academyにて第6回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	萩原英子
第8回	<p>周手術期看護各論3（耳鼻咽喉）  喉頭・咽頭の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。  [キーワード]  咽頭がん、喉頭がん、構音障害、摂食・嚥下障害  [準備学習]  Active Academyにて第7回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	萩原英子
第9回	<p>授業内試験 / 周手術期看護各論4（女性生殖器）  子宮頸がんて手術を受ける患者に対する看護について学習する。  [キーワード]  子宮頸がん、子宮体がん、生殖機能の喪失、リンパ浮腫  [準備学習]  Active Academyにて第8回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	萩原英子
第10回	<p>授業内試験振り返り / 周手術期看護各論5（女性生殖器）  中間試験の振り返りを行う。また、乳がんて手術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  乳がん、ボディイメージ、リンパ浮腫、患者会  [準備学習]  Active Academyにて第9回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	萩原英子
第11回	<p>周手術期看護各論6（循環器）  弁膜症で手術を受ける患者に対する看護について学習する。  [キーワード]  弁膜症、弁置換術、人工心肺装置  [準備学習]  Active Academyにて第10回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	小池菜穂子
第12回	<p>周手術期看護各論7（脳神経）  脳腫瘍で手術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  脳腫瘍、開頭術、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア  [準備学習]  Active Academyにて第11回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	金子吉美
第13回	<p>周手術期看護各論8（腎・泌尿器）  前立腺がんや腎移植の手術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  前立腺がん、腎移植、前立腺全摘除術  [準備学習]  Active Academyにて第12回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	堀越政孝
第14回	<p>周手術期看護各論9（呼吸器）  肺がんで手術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  肺がん、肺切除術、胸腔ドレーン  [準備学習]  Active Academyにて第13回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。  各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	堀越政孝

	<p>第15回 周手術期看護各論10 (運動器) 運動機能障害のある患者の治療期及び回復期における看護について学習する。 [キーワード] 骨折、脱臼、ヘルニア、大腿骨頸部骨折、人工関節置換、リハビリテーション [準備学習] Active Academyにて第14回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>	萩原英子
科目の目的	周手術期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、その状況に応じたアセスメント方法及び看護支援方法を修得する。 (ディプロマ・ポリシー【知識・理解】【思考・判断】)	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を説明することができる。</li> <li>2. 周手術期にある患者とその家族に対する看護の特徴について説明することができる。</li> <li>3. 術式に応じた特徴的な看護支援について説明することができる。</li> </ol>	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学、病理学、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査学、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学慢性期実習、成人看護学急性期実習、救急法	
成績評価方法・基準	授業内試験(筆記試験)(50%)、定期試験(筆記試験)(50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は約60分である。準備学習の内容は授業計画欄に記載してあるため、各自確認し、準備学習を行った上で講義に参加すること。また、各講義終了後には復習として、教科書や講義中に配布された資料を見ながら、確実に理解できたか確認すること。	
教科書・参考書	<p>教科書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学③循環器」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学⑤消化器」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学⑦脳神経」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学⑨女性生殖器」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学⑩運動器」(医学書院)</li> <li>「系統看護学講座 成人看護学⑭耳鼻咽喉」(医学書院)</li> </ul>	
オフィス・アワー	<p>萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10～13:00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12:10～13:00 小池菜穂子(研究室308)：講義開講日の12:10～13:00 金子吉美(研究室307)：講義開講日の12:10～13:00 安田弘子(研究室301)：講義開講日の12:10～13:00 湯澤香緒里(研究室302)：講義開講日の12:10～13:00</p>	
国家試験出題基準	<p>【看護師】      ≪必修問題≫-Ⅱ-9-B-d、Ⅳ-16-G      ≪基礎看護学≫-Ⅱ-5-A-d～g      ≪成人看護学≫-Ⅱ-3、4、5、Ⅳ-7-C、Ⅴ-8、Ⅵ-9-C-c、d、Ⅶ-11-C、D、Ⅶ-12-A、B、Ⅶ-12-C-a～i、Ⅶ-12-D-a～d、g、Ⅶ-13-A、B、C、Ⅶ-13-D-c、Ⅶ-17-A、B、C、Ⅶ-17-D-a～c、e、Ⅶ-19-A、B、C、Ⅶ-19-D-b、c、Ⅶ-21-A、B、C、Ⅶ-21-D-c      ≪在宅看護論≫-Ⅰ-1-F-a      【助産師】      ≪基礎助産学Ⅰ≫-Ⅱ-6-A-a、b、c、Ⅱ-6-B-a、b、Ⅱ-6-C-a～e</p>	
履修条件・履修上の注意	関連する専門基礎科目(解剖学、生理学、疾病の成り立ち)の理解が必須であるため、自己学習を行った上で講義に参加すること。尚、講義において必要な資料は当日配布する。	

講義科目名称：クリティカルケア看護論

授業コード：3N083

英文科目名称：Critical Care Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
堀越 政孝	萩原英子	小池菜穂子	金子吉美

授業形態	講義7回、講義および演習1回		担当者
授業計画	第1回	クリティカルケア看護総論 クリティカルケアにおける看護専門職と役割、および患者・家族の身体的・心理社会的特徴と問題について学ぶ	堀越政孝
	第2回	救急看護総論 中毒・熱傷・熱中症の病態と治療、および看護について学ぶ	萩原英子
	第3回	ICU・CCU看護 ICU・CCUにおける看護について学ぶ	堀越政孝
	第4回	クリティカルケア看護各論1(急性心筋梗塞) 急性心筋梗塞の病態と治療、および看護について学ぶ	小池菜穂子
	第5回	クリティカルケア看護各論2(くも膜下出血) くも膜下出血の病態と治療、および看護について学ぶ	金子吉美
	第6回	クリティカルケア看護各論3(食道がん) 食道がんの病態と手術療法、および看護について学ぶ	堀越政孝
	第7回	クリティカルケア看護各論4(脊髄損傷・骨腫瘍) 脊髄損傷・骨腫瘍の病態と手術療法、および看護について学ぶ	萩原英子
	第8回	心肺蘇生法(講義および演習) 演習を通して一次救命処置(BLS)について学ぶ	小池菜穂子
科目の目的	生命の危機的状態にある患者とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、生命の維持と全身状態の改善、二次障害の予防に向けた看護の基本的な知識と技術について学習する。また、クリティカルケア看護における倫理的課題と看護師の役割について考察する。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】		
到達目標	1. 生命の危機的状態にある患者とその家族の特徴について述べるができる 2. 生命維持と全身状態の改善、二次障害の予防に向けた看護の基本的な知識と技術について説明することができる 3. 生命維持に必要な看護技術を実施することができる		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、成人看護学演習、救急法、成人看護学慢性期・急性期実習、成人看護学特論		
成績評価方法・基準	筆記試験100%：期末試験の結果で可否を判定する。 期末試験で60%に満たない学生は再試験の対象とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	成人看護学総論で学習した内容の復習及び、指定教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習復習を行うこと。準備学習に必要な学習時間の目安は、1コマあたり2時間である。予習復習を効率よく行うこと。		
教科書・参考書	教科書 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』(医学書院) 参考書 『系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学』(医学書院) 解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用した教科書および参考書		
オフィス・アワー	講義開講日の12：10～13：00。研究室にて対応		
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》Ⅳ-F-h～i, Ⅳ-G 《健康支援と社会保障制度》Ⅳ-12-C-f 《基礎看護学》Ⅱ-5-E 《成人看護学》Ⅶ-10-B-a～e, Ⅶ-10-C-a～c, Ⅶ-11-C-a～f, Ⅶ-12-D-b, Ⅶ-17-B～C, Ⅶ-17-D-d～e		
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止とし、遵守できない場合は欠席扱いとする。		

講義科目名称：成人看護学演習

授業コード：3N084

英文科目名称：Practice in Adult Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
金子 吉美	萩原 英子	堀越 政孝	小池 菜穂子
	安田 弘子	湯澤 香緒里	

授業形態	講義(3回)、演習(グループワークを含む)(12回)	担当者
授業計画	<p>第1回 看護過程演習1 アセスメントシート・関連図・ケアプランの作成方法(講義) 成人看護学演習の概要について理解する。情報整理とアセスメント・関連図・ケアプランの作成方法について学習する。</p> <p>第2・3回 看護過程演習2 アセスメントシートの作成(演習) 事例に基づき、アセスメントシートをグループで作成する。〔準備学習〕アセスメントシートを個人で作成する。</p> <p>第4・5回 看護過程演習3 関連図の作成(演習) 事例に基づき、関連図をグループで作成する。〔準備学習〕関連図を個人で作成する。</p> <p>第6・7回 看護技術演習1 術後患者のフィジカルアセスメント(演習) 術後患者の全身の観察項目、根拠、方法、留意点をグループワークで明確にし、実践する。創傷・ドレーン管理、輸液管理について学習し、実践する。〔準備学習〕フィジカルアセスメント用紙を個人で作成する。</p> <p>第8回 看護技術演習2術後患者のアセスメント、看護過程演習4 ケアプランの作成(演習) 術後患者を観察してのアセスメントをグループで行う。事例に基づき、ケアプランをグループで作成する。〔準備学習〕観察をしてのアセスメントを個人で記載する。ケアプランを個人で作成する。</p> <p>第9・10回 看護過程演習5 ケアプランの作成(演習) 事例に基づき、ケアプランをグループで作成する。ケアプラン(E-plan)実践の準備を行う。〔準備学習〕ケアプランを個人で作成する。</p> <p>第11回 看護技術演習3 ケアプランの実践(演習) 立案したケアプラン(E-plan)をロールプレイングし、実践する。ディスカッションを行い、実践方法の質を高める。〔準備学習〕ケアプラン実践の準備を行う。</p> <p>第12回 看護技術演習4 気管内吸引・ストーマ管理・簡易血糖測定・輸液管理(講義) 気管内吸引・ストーマ管理・簡易血糖測定・輸液管理(輸液ポンプ・シリンジポンプ)の目的・必要物品・方法・根拠について学習する。〔準備学習〕事前に配付される資料をよく読み、分からないことを調べる。</p> <p>第13・14回 看護技術演習5気管内吸引・ストーマ管理・簡易血糖測定・輸液管理の実践(演習) 気管内吸引・ストーマ管理・簡易血糖測定・輸液管理(輸液ポンプ・シリンジポンプ)を実践する。〔準備学習〕技術実践のための準備(観察項目・方法・手順・根拠の確認)をする。イメージトレーニングをする。</p> <p>第15回 看護過程演習・看護技術演習の振り返り(講義) 看護過程演習及び看護技術演習に関する筆記試験を行い、解説する。また、看護技術演習で学んだ技術について、実技練習を行う。〔準備学習〕成人看護学演習で学んだことを振り返り、復習をしておくこと。</p>	<p>小池、金子、湯澤</p> <p>小池 成人看護学 教員</p> <p>金子 成人看護学 教員</p> <p>安田 成人看護学 教員</p> <p>安田、湯澤 成人看護学 教員</p> <p>湯澤 成人看護学 教員</p> <p>湯澤 成人看護学 教員</p> <p>成人看護学 教員</p> <p>成人看護学 教員</p> <p>成人看護学 教員</p>
科目の目的	成人期にある対象の看護上の問題を明確にし、適切な看護を提供するための思考過程及び看護技術を修得する。 (ディプロマ・ポリシー【技能・表現】【思考・判断】【知識・理解】【態度】)	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の看護上の問題を明らかにするために必要な情報を整理し、科学的根拠に基づきアセスメントできる。</li> <li>2. 対象の全体像を関連図に示すことができる。</li> <li>3. 対象の看護上の問題を解決するための具体的かつ個性をふまえたケアプランを立案できる。</li> <li>4. 対象の治療や療養を支える看護技術を科学的根拠に基づき、正しい方法で実施できる。</li> <li>5. 対象の安全・安楽、個性に配慮した看護を実施することができる。</li> </ol>	
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、看護過程論、看護過程論演習、日常生活援助学演習、治療援助学演習、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学慢性期・急性期実	

	習、成人看護学特論
成績評価方法・基準	<p>下記の1～3の合計(100%)で評価する。合計(100%)のうち、60%に満たなかった学生を再試験の対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識：看護過程課題、筆記試験(55%)</li> <li>2. 技術：実技試験(口頭試験含む)(30%)</li> <li>3. 態度：学習態度(積極性・協調性)・実習室での身だしなみについて、成人看護学演習評価表に基づき評価する。(15%)</li> </ol>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は約90分である。準備学習及び復習の内容は授業計画欄に記載してあるため、必ず確認をすること。
教科書・参考書	<p>教科書：  「系統看護学講座 成人看護学②～④」 医学書院  「看護技術がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所編(メディックメディア)  「看護技術がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所編(メディックメディア)  「看護診断ハンドブック 第11版」 医学書院</p> <p>参考書：  「系統看護学講座 成人看護学⑮」 医学書院</p>
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12：10～13：00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12：10～13：00 小池菜穂子(研究室308)：講義開講日の12：10～13：00 金子吉美(研究室307)：講義開講日の12：10～13：00 安田弘子(研究室301)：講義開講日の12：10～13：00 湯澤香緒里(研究室302)：講義開講日の12：10～13：00 上記以外の時間は、アポイントメントを取ること。
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》IV-16-C-b、IV-16-H-b 《基礎看護学》II-5-A-d・e、II-5-F-d・e 《成人看護学》II-5-A-c、II-5-C-a`d、II-5-E-d、VII-12-C-c、VII-14-B-b
履修条件・履修上の注意	限られた授業時間を有効に活用できるよう、積極的に演習に取り組むこと。

講義科目名称：救急法

授業コード：3N085

英文科目名称：Paramedic Practice

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
小池菜穂子	萩原英子	堀越政孝	金子吉美
	小野哲治		

授業形態	講義（2回）、演習（1回）、講義・演習（5回）		担当者
授業計画	<p>第1回 救急看護の概念（講義） 救急看護の定義と役割、救急医療体制について学習する。</p> <p>第2回 救急看護体制と看護（講義） 初期・2次・3次救急医療における対応、院内急変時における対応について学習する。</p> <p>第3回 救急患者のアセスメントと看護（講義・演習） 救急患者の情報収集、全身状態の観察とアセスメントについて学習する。</p> <p>第4回 救急処置と看護1（一次救命処置演習） 演習を通して心肺停止状態への対応、一次救命処置（BLS）について学習する。</p> <p>第5回 救急処置と看護2（講義・演習） 呼吸障害への対応と看護について学習する。</p> <p>第6回 救急処置と看護3（講義・演習） ショック・循環障害への対応と看護について学習する。</p> <p>第7回 救急処置と看護4（講義・演習） 意識障害への対応と看護について学習する。</p> <p>第8回 救急処置と看護5（講義・演習） 外傷への対応と看護について学習する。</p>	<p>小池菜穂子</p> <p>小池菜穂子</p> <p>小池菜穂子</p> <p>小池菜穂子</p> <p>小野哲治</p> <p>堀越政孝</p> <p>金子吉美</p> <p>萩原英子</p>	
科目の目的	救急看護の概念と役割・特徴を理解し、心停止・呼吸停止といった生命が危険にさらされた人を救命する方法の基本的な知識と意識の確認・胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動などの一連の一次救命処置(BLS)の技術について学習する。 （ディプロマ・ポリシー【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】）		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急看護の概念と役割・特徴について説明することができる。</li> <li>2. 急激に生命が危険にさらされる呼吸障害・循環障害・意識障害について説明することができる。</li> <li>3. AEDを含む一次救命処置(BLS)について理解し、実践することができる。</li> </ol>		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、災害看護論		
成績評価方法・基準	筆記試験80%・実技試験20%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習、復習に必要な学習時間は約60分である。予習・復習は指定教科書及び講義中に配布された資料を参考に授業該当箇所を確認すること。		
教科書・参考書	<p>教科書 「系統看護学講座 別巻 救急看護学」（医学書院）</p> <p>参考書 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」（医学書院） 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」（医学書院）</p>		
オフィス・アワー	<p>小池：講義開講日の12:10～13:00 研究室にて対応</p> <p>萩原：講義開講日の12:10～13:00 研究室にて対応</p> <p>堀越：講義開講日の12:10～13:00 研究室にて対応</p> <p>金子：講義開講日の12:10～13:00 研究室にて対応</p> <p>小野：講義開講日の12:10～13:00 研究室にて対応</p>		
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修問題》Ⅳ-16-G-a, b, c, d, e, f, g, h</p> <p>《成人看護学》Ⅱ-4-B-a, b</p>		
履修条件・履修上の注意	<p>ポケットマスク購入要</p> <p>購入方法については、後日、教務課より別途掲示及びActive Academyにて連絡します。</p>		

講義科目名称：成人看護学特論

授業コード：3N086

英文科目名称：Advanced Adult Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
萩原 英子	堀越 政孝	金子吉美	川尻洋美(非常勤講師)

授業形態	講義(7回)、演習(1回)		担当者
授業計画	第1回	がん患者のQOLと看護 がんサバイバーシップについて学習し、がんサバイバーへの看護支援について理解を深める。 [キーワード]意思決定支援	萩原英子
	第2回	成人に対する健康教育支援 アンドラゴジー、自己効力、セルフマネジメント教育の概念を理解し、看護の課題を考える。 [キーワード]アンドラゴジー	金子吉美
	第3回	看護の専門性 看護師という職業における専門性と、看護の専門分化について理解を深める。 [キーワード]認定看護師、専門看護師	堀越政孝
	第4回	専門的な看護の実践1 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 <guest speaker:糖尿病看護認定看護師> [キーワード]糖尿病看護認定看護師	萩原英子
	第5回	専門的な看護の実践2 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 <guest speaker:がん看護専門看護師> [キーワード]がん看護専門看護師	萩原英子
	第6回	専門的な看護の実践3 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 [キーワード]難病患者の特徴	川尻洋美 (非常勤講師)
	第7回	専門的な看護の実践4 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 <guest speaker:フライトナース> [キーワード]フライトナース	萩原英子
	第8回	成人期にある人に特徴的な健康問題 (演習) 成人期にある人に特徴的な健康問題を取り上げ、理解を深めるとともに、看護のあり方及び課題について考える。 [キーワード]安楽死	萩原英子
科目の目的	成人期にある人々の健康問題や患者のおかれている状況について理解を深め、看護支援のあり方と看護職の果たす役割、看護の課題について考察する。 (ディプロマ・ポリシー【関心・意欲】【思考・判断】【知識・理解】)		
到達目標	1. 成人期にある人々の健康問題について説明できる。 2. 様々な健康問題を抱える患者に対する看護支援について、自己の考えを述べることができる。 3. 自己の看護師としての将来像をイメージし、キャリアプランを構築できる。		
関連科目	成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学慢性期実習、成人看護学急性期実習、救急法、臨床看護管理学、総合実習		
成績評価方法・基準	各回のコメントペーパー(40%)、期末レポート(60%)		

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	事前学習及び事後学習に必要な学習時間は90分である。事前学習として、授業計画に記載されたキーワードについて復習をした上で講義に参加すること。また、各講義終了後には事後学習として、講義中に配布された資料を見ながら、しっかり理解できたかを確認し、看護に対する自分の考えを整理しておくこと。
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：講義内で適宜紹介する
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10～13:00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12:10～13:00 金子吉美(研究室307)：講義開講日の12:10～13:00 非常勤講師・ゲストスピーカー：担当講義終了後の10分間
国家試験出題基準	【看護師】 《成人看護学》-Ⅱ-3-C, Ⅲ-6-B, D, Ⅳ-7-D, E, V-8-D 《看護の統合と実践》-Ⅰ-1-F-a, b, Ⅳ-4-B
履修条件・履修上の注意	非常勤講師及びゲストスピーカーの先生方に対し、礼節を忘れずに授業に臨むこと。講義に必要な資料は、各講義の中で配布する。



講義科目名称：老年看護学総論

授業コード：3N087

英文科目名称：Introduction to Gerontological Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
伊藤まゆみ	関 妙子		

授業形態	講義（7回）、演習（1回）		担当者
授業計画	第1回	ライフサイクルの中の老年期 老いるということ、ライフサイクルにおける老年期	伊藤まゆみ
	第2回	高齢社会と高齢者の生活 統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし	伊藤まゆみ
	第3回	加齢とからだ、こころ 加齢による身体的変化、心理・社会的変化	伊藤まゆみ
	第4回	老化疑似体験① 実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解、DVD視聴「老いを生きる」	伊藤まゆみ
	第5回	老化疑似体験② 実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解、DVD視聴「老いを生きる」	伊藤まゆみ
	第6回	高齢者の健康を支援する制度・システム 高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護	伊藤まゆみ
	第7回	老年看護の役割 老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割	伊藤まゆみ
	第8回	高齢者のライフヒストリー（担当：関） 実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解	伊藤まゆみ
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。【知識・理解】		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。</li> <li>2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。</li> <li>3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。</li> <li>4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。</li> </ol>		
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成績評価方法・基準	期末試験（60%）、レポート（20%）、授業時間内提出物（ミニツペーパー）（20%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそっておおよそ30分復習しておくこと。		
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子、医学書院 参考書：「国民衛生の動向2019/2020」（厚生統計協会）		
オフィス・アワー	講義終了後		
国家試験出題基準	≪老年看護学≫ I-1-A, B, C, D 2-A, B 3-A, B ≪老年看護学≫ II-4-A, B, C 9-A, B 10-A, B		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称：老年看護方法論 I

授業コード：3N088

英文科目名称：Gerontological Nursing Methods I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 泰栄			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 高齢者の生理的特徴 (身体的機能の変化)	星野泰栄
	第2回 高齢者の症候 発熱、痛み、脱水、不眠、廃用症候	星野泰栄
	第3回 高齢者の疾患①循環器疾患	星野泰栄
	第4回 高齢者の疾患②呼吸器疾患	星野泰栄
	第5回 高齢者の疾患③精神・神経疾患 (脳血管障害)	星野泰栄
	第6回 高齢者の疾患④精神・神経疾患 (パーキンソン病)	星野泰栄
	第7回 高齢者の疾患⑤精神・神経疾患 (せん妄、うつ病)	星野泰栄
	第8回 高齢者の疾患⑥運動器疾患	星野泰栄
	第9回 高齢者の疾患⑦腎・泌尿器疾患	星野泰栄
	第10回 高齢者の疾患⑧皮膚・感覚器疾患	星野泰栄
	第11回 高齢者の疾患⑨感染性疾患	星野泰栄
	第12回 高齢者と治療①高齢者と薬物療法	星野泰栄
	第13回 高齢者と治療②高齢者の周手術期看護	星野泰栄
	第14回 高齢者と疾患⑩認知症 1	星野泰栄
	第15回 高齢者と疾患⑪認知症 2	星野泰栄
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。ディプロマポリシーである思考・判断を身に付ける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を説明出来る。</li> <li>2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を説明出来る。</li> <li>3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を説明出来る。</li> <li>4. 高齢者における薬物療法の特徴と看護を説明出来る。</li> </ol>	
関連科目	老年看護学総論	
成績評価方法・基準	試験90%、課題10%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容と関連する教科書の部位を準備学習しておく。学習時間は1時間程度。	
教科書・参考書	教科書「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子 (医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論」鳥羽健司 (医学書院) 参考書「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術第2版」大塚真理子 (医歯薬出版株式会社)	
オフィス・アワー	【星野】講義日の9時～18時30分	
国家試験出題基準	《必修》-III-11-B-f 《必修》-IV-14-B-e, C-e, 16-A-a 《人体の構造と機能》-17-B-a, b 《老年看護学》I-1-A`D, 2-A`C, 3-A`D 《老年看護学》II-5-A`I, 7-A`R	
履修条件・履修上の注意		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
清水美和子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 高齢者のヘルスアセスメント 健康歴の聴取・フィジカルアセスメント 高齢者の健康歴・病歴・症状を聴取する際のポイント 事例から学ぶ高齢者のフィジカルアセスメントの実際	清水美和子
	第2回 高齢者の健康段階に応じた看護① 高齢者の基本動作・生活リズム 基本的なADLの評価指標の特徴 加齢に伴う睡眠と覚醒の変化の特徴	清水美和子
	第3回 高齢者の健康段階に応じた看護② 食事・食生活・口腔ケア・清潔（入浴） 高齢者の栄養状態の変調と栄養アセスメント	清水美和子
	第4回 高齢者の健康段階に応じた看護③ 生きがいと社会活動・メンタルヘルスケア・セクシュアリティ	清水美和子
	第5回 老年期の看護問題① 転倒・転落・廃用症候群	清水美和子
	第6回 老年期の看護問題② 高齢者のリハビリテーション看護	清水美和子
	第7回 老年期の看護問題③ 摂食・嚥下障害Ⅰ	清水美和子
	第8回 老年期の看護問題④ 摂食・嚥下障害Ⅱ	清水美和子
	第9回 老年期の看護問題⑤ 褥瘡・スキンケア	清水美和子
	第10回 老年期の看護問題⑥ 排尿・排便障害	清水美和子
	第11回 老年期の看護問題⑦ 認知機能障害のある高齢者のケアⅠ 非薬物療法、パーソンセンタードケア	清水美和子
	第12回 老年期の看護問題⑧ 認知機能障害のある高齢者のケアⅡ 認知症高齢者の環境調整 認知症高齢者と家族へのサポートシステム	清水美和子
	第13回 エンドオブライフケア① 「生ききる」ことを支えるケア	清水美和子
	第14回 エンドオブライフケア② 末期段階に求められる援助・家族への支援	清水美和子
	第15回 高齢者のリスクマネジメント 事故予防と救急時の対応・医療安全と災害看護	清水美和子
科目の目的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習を通して、多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法の理解を目的とする。本科目ではディプロマ・ポリシーである【知識・理解】【思考・判断】【関心・意欲】を養う。	
到達目標	1. 高齢者の健康維持・増進に向けての支援策および具体的方法について説明できる。 2. 健康問題を有する高齢者の疾患・症状をアセスメントし、対象に応じた生活を営むための日常生活	

	<p>活援助について説明できる。</p> <p>3. 老年期の特徴的な看護問題の理解を深め、多様な場に応じた高齢者のリスクマネジメント方法を列挙することができる。</p> <p>4. 高齢患者および家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割、看取り看護のあり方について述べることができる。</p> <p>5. 高齢者を支える家族介護者への具体的な看護支援について述べるができる。</p>
関連科目	<p>老年看護学総論</p> <p>老年看護学方法論Ⅰ</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）授業内レポート（20％）</p> <p>* レポート課題のテーマは、講義にて提示します。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>講義内容については、事前に教科書等々で確認し予習しておく。学習時間の目安：1時間程度</p>
教科書・参考書	<p>教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院）</p> <p>教科書2：「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術第2版」、大野真理子（医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書1：「生活機能からみた老年看護過程」、山田律子（医学書院）</p> <p>参考書2：「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子（医学書院）</p>
オフィス・アワー	<p>火曜：9：00～17：00（清水研究室）</p>
国家試験出題基準	<p>《必修問題》Ⅲ-10-B-d IV-14-BC-e</p> <p>《老年看護学》Ⅰ-1-A~D-a~g、Ⅰ-3-A~D-a~l</p> <p>《基礎看護学》Ⅱ-4-BC-h</p> <p>《老年看護学》Ⅰ-2-A~C-a~h、Ⅱ-5-A~Ⅰ-a~e、Ⅱ-6-A~H-a~f、Ⅱ-7-A~R-a~g</p> <p>《看護の統合と実践》Ⅳ-4-C</p>
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：老年看護学演習

授業コード：3N090

英文科目名称：Practice in Gerontological Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
清水美和子	星野泰栄		

授業形態	講義（7回）・演習（8回）		担当者
授業計画	第1回	看護過程の展開① 事例紹介・老年期の特徴・疾患理解 高齢患者の事例展開・情報収集・アセスメント	清水 美和子
	第2回	看護過程の展開② 加齢変化と日常生活活動への影響 アセスメント	清水 美和子
	第3回	看護過程の展開③ 健康課題の明確化・全体像把握 関連図の描き方	清水 美和子
	第4回	看護過程の展開④ 生活機能に基づいた看護の方向性 看護診断・優先順位・看護計画	清水 美和子
	第5回	看護過程の展開⑤ 看護過程の展開①～④の個人ワークを踏まえ、グループワーク	清水 美和子
	第6回	看護過程の展開⑥まとめ 関連図の発表、学びの共有	清水 美和子
	第7回	看護過程の展開⑦まとめ 関連図の発表、学びの共有	清水 美和子
	第8回	高齢者への援助技術① 食事の援助	星野 泰栄
	第9回	高齢者への援助技術② 経管栄養法	星野 泰栄
	第10回	高齢者への援助技術③ 義歯洗浄・義歯脱着	星野 泰栄
	第11回	高齢者への援助技術④ 体位・褥瘡予防、口腔ケア	星野 泰栄
	第12回	高齢者への援助技術⑤ 車椅子移乗・移動	清水 美和子
	第13回	高齢者への援助技術⑥ 排泄ケア	清水 美和子
	第14回	高齢者への援助技術⑦ 高齢者の特徴を踏まえた看護技術の確認①	清水 美和子
	第15回	高齢者への援助技術⑧ 高齢者の特徴を踏まえた看護技術の確認②	清水 美和子
科目の目的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。ディプロマポリシーである【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】を身に付ける。		
到達目標	1. 老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、ゴードンの11の機能的健康パターンを参考にし、情報の整理・アセスメント・看護診断・計画立案ができる。 2. 事例展開を通して、高齢者の健康状態・価値観・個別性を踏まえ潜在的な課題を明らかにし、実践可能な援助計画に基づいた老年看護技術を実施できる。		
関連科目	老年看護学総論、老年看護方法論Ⅰ、老年看護方法論Ⅱ、基礎看護学領域各科目		
成績評価方法・基準	定期試験 60% レポート（看護過程記録30%・課題レポート10%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	老年看護学Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して授業に臨むこと。1コマあたり1時間を準備学習時間の目安とする。		
教科書・参考書	教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院） 教科書2：「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術第2版」、大野眞理子（医歯薬出版株式会社） 参考書1：「生活機能からみた老年看護過程」、山田律子（医学書院） 参考書2：「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子（医学書院）		
オフィス・アワー	【星野】講義実施日の9-17時 【清水】講義実施日の9-17時		
国家試験出題基準	《必修問題》Ⅳ-16-A-a 《老年看護学》Ⅱ-5-A～F		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称：老年看護学特論

授業コード：3N091

英文科目名称：Advanced Gerontological Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
伊藤まゆみ			

授業形態	講義（1回）、演習（7回）	担当者
授業計画	第1回 コースガイダンス 高齢者と健康、老年看護学に求められる今日的課題 第2回 高齢者の健康段階と看護のかかわり 高齢者の健康段階と看護学的課題の提示 第3回 課題の提示と討議① 健康寿命とヘルスプロモーション 第4回 課題の提示と討議② 入院・手術を受ける高齢者とせん妄の問題 第5回 課題の提示と討議③ 高齢者の医療・ケアにおける身体拘束の問題 第6回 課題の提示と討議④ 高齢者虐待の問題 第7回 課題の提示と討議⑤ 高齢者の摂食障害と胃瘻の問題 第8回 まとめ 高齢者ケアにおける看護職の役割と責務	伊藤まゆみ 伊藤まゆみ 伊藤まゆみ 伊藤まゆみ 伊藤まゆみ 伊藤まゆみ 伊藤まゆみ 伊藤まゆみ
科目の目的	さまざまな健康段階にある高齢者に応じた看護学的課題の現状と問題解決のための方向性を幅広い視点から学習する。また課題についての文献学習・事例検討・討議をとおして、看護職が果たす役割と今後の課題を考察する。【関心・意欲】	
到達目標	1. 健康寿命の概念と高齢者におけるヘルスプロモーションのあり方について考えることができる。 2. 治療を受ける高齢者の早期回復のための支援のあり方について考えることができる。 3. 認知症高齢者と家族の支援のあり方について考えることができる。 4. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考えることができる。	
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習	
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容(70%)、レポート(30%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当部分のプレゼンテーションを行うためにおおよそ2時間の準備、配付資料の作成に1時間の準備	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：随時紹介する	
オフィス・アワー	講義終了後	
国家試験出題基準	≪老年看護学≫Ⅱ-4-A, B, C 6-C, L, N	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：小児看護学総論

授業コード：3N092

英文科目名称：Introduction to Child Health Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中下 富子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 小児看護で用いられる概念と理論① 小児看護の対象、小児看護の変遷、子どもの権利と擁護 子どもの権利と擁護</p> <p>第2回 小児看護で用いられる概念と理論② 小児看護と法律・施策、小児看護で用いられる理論</p> <p>第3回 乳児期の成長・発達と看護 乳児期の特徴と発達課題、形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達、 乳児期の発育・発達評価、親子関係、栄養と睡眠、健康問題と対策</p> <p>第4回 幼児期の成長・発達と看護① 幼児期の特徴と発達課題、形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達</p> <p>第5回 幼児期の成長・発達と看護② 遊びについて、幼児の発育・発達評価、家族関係、栄養と睡眠、健康問題と対策</p> <p>第6回 学童期の成長・発達と看護 学童期の特徴と発達課題、形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達 学習について（特別支援学校含む）、学童期のセルフケアの発達、健康問題と対策</p> <p>第7回 思春期の成長・発達と看護 思春期の特徴と発達課題、形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達、セルフ ケアの自立と課題 家族関係、健康問題と対策</p> <p>第8回 子どもを育む環境と健康への支援 子どもを取り巻く環境、事前課題レポートをもとに討議 まとめ</p>	<p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p> <p>中下 富子</p>
科目の目的	<p>子どもの成長発達過程の特徴を生涯発達の視点で総合的に理解し、それらを育む家族や環境を含めて子どもの健やかな成長・発達を援助する小児看護について学習する</p> <p>ディプロマポリシーとの関連【知識・理解】【関心・意欲】【態度】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の理念、子どもの権利と擁護する小児看護の考え方を説明することができる。</li> <li>2. 子どもの成長・発達の特徴を発達段階別に理解し、それぞれの特徴を説明することができる。</li> <li>3. 子どもを育む親・家族の役割を学び、援助のポイントを説明することができる。</li> <li>4. 子どもを取り巻く環境の特性と健康に及ぼす影響について学び、必要な援助について説明することができる。</li> <li>5. 子どもの健やかな成長・発達を支援する看護師の役割を説明することができる。</li> </ol>	
関連科目	<p>小児看護学（小児看護学方法論、小児看護学演習、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、社会学、環境学）、専門基礎科目群（解剖学、生理学、発達心理学、病理学、免疫・感染症学、薬理学）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健）臨床病態学Ⅲ</p>	
成績評価方法・基準	<p>課題レポート（20％） 定期試験（80％）</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 講義ノート（資料含む）は、小児看護学方法論、小児看護学演習、小児看護学実習で活用できるよう工夫して作成して下さい。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書 1. ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 中野綾美他著（メディカ出版）</p> <p>参考書 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 奈良間美保他著（医学書院）。</p>	
オフィス・アワー	<p>月・木（16：40以降）</p>	
国家試験出題基準	<p>【看護師】 《必修》－Ⅱ－7－B－a, b, c, d, e, f, C－a, b, c, d, e, f, D－a, b, c, E－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－1－A－a, b, c, B－a, b, c, d, C－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－2－A－a, b, c, B－a, b, C－a, b, c, d, e, f, D－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－3－A－a, b, c, B－a, b 《小児看護学》－Ⅰ－4－A－a, b, c, d, e, f, B－a, b</p>	

	《小児看護学》 - I-5-A-a, b, c, d, e, f、B-a, b, c 《小児看護学》 - I-6-A-a, b, c, d, e, f, g、B-a, b, c 《小児看護学》 - I-7-A-a, b, c, d, e, f、B-a, b, c, d
履修条件・履修上の注意	日常生活において周囲の子どもに関心を持ち、子どもの関連グッズを含めて観察を深めるよう心掛けてみましょう。



講義科目名称：小児看護方法論

授業コード：3N093

英文科目名称：Child Health Nursing Methods

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
内山かおる			

授業形態	講義15回	担当者
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 子どものアセスメント① 子どものアセスメントの特徴及び方法</p> <p>第2回 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響 子どもの病気・治療に伴うストレス、子どものストレスに対する支援、家族の特徴及び支援</p> <p>第3回 急性期にある子どもと家族の看護① 主要症状（発熱・脱水・けいれん・嘔吐下痢・呼吸困難）アセスメントと看護</p> <p>第4回 急性期にある子どもと家族の看護② 第3回の続き</p> <p>第5回 急性期にある子どもと家族の看護③ 小児外来・小児救急の現状、子どもの事故・外傷の特徴 ハイリスク新生児（NICU/GCU）の看護</p> <p>第6回 急性期にある子どもと家族の看護④ 急性期疾患の事例にみる子どもと家族への看護</p> <p>第7回 手術を受ける子どもと家族の看護① 子どもの手術の特徴、手術を受ける子どもと家族の反応、</p> <p>第8回 手術を受ける子どもと家族の看護② 事例疾患にみる手術前後の子どもと家族への看護（先天性疾患・骨折など）</p> <p>第9回 慢性期にある子どもと家族の看護① 子どもの慢性疾患の特徴、病気による子どもと家族の生活の変化</p> <p>第10回 慢性期にある子どもと家族の看護② 慢性期疾患の事例にみる子どもと家族の看護</p> <p>第11回 心身障がいのある子どもと家族の看護① 障がいの捉え方、障がいのある子どもと家族の特徴、障がいのある子どもと家族の社会的障支援、看護の視点</p> <p>第12回 心身障がいのある子どもと家族の看護② 脳性麻痺の事例による看護過程の展開について</p> <p>第13回 終末期にある子どもと家族の看護 子どもの死の概念、終末期にある子どもと家族の心理、身体的特徴、緩和ケア</p> <p>第14回 心身障がいのある子どもと家族の看護③ 子どもの精神疾患の特性と看護、子どものこころのアセスメントとケア 看護に関わる問題点</p> <p>第15回 心身障がいのある子どもと家族の看護④ 第14回続き、虐待を受けた（可能性含む）子どもと関連障害</p>	<p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p>
科目の目的	<p>成長発達過程にある子どもにおこる代表的な健康障害やそれに付随した環境の変化によって及ぼされる子どもや家族への影響を理解し、子どもの健康回復の促進及び成長発達の阻害を最小限にする看護方法を修得する。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】</p>	
到達目標	<p>1. 子どもの代表的な健康障害の病態や治療の特徴について復習し、関連図を作成する。</p> <p>2. 子どもの健康障害や治療環境が子どもや家族に与える影響について理解する。</p> <p>3. 健康障害をもつ子どもの健康回復に向けた子どもや家族への基礎的看護方法を理解する。</p> <p>4. 健康障害をもつ子どもの治療環境によって及ぼされる成長発達への阻害を最小限にする看護方法を理解する。</p>	
関連科目	<p>小児看護学（小児看護学総論、小児看護学総論、小児看護学演習、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、臨床病態学Ⅲ、免疫・感染症学、薬理学）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論）</p>	
成績評価方法・基準	<p>本試験 60% 中間試験 30% レポート10%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。</p> <p>小児看護学総論、小児看護学総論を復習する。</p> <p>1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。</p>	

教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>1. ナーシング／グラフィカ小児看護学① 小児の発達と看護 中野綾美他著 (メデイカ出版)</p> <p>2. ナーシング／グラフィカ小児看護学③ 小児の疾患と看護 中村友彦他著 (メデイカ出版)</p> <p>参考書</p> <p>1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著 (医学書院) 2017.</p> <p>2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著 (医学書院) 2017.</p> <p>3.</p>
オフィス・アワー	月・水 16:40～
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－8－A－a, b</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－8－B－a, b, c, d, e</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－8－C－a, b</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－A－b, c, d, e, f, g</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－B－b, c, d, e, f, g, j</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－C－a, b, c, d, e, f, h, i</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－D－b, c, d, e, f, g, h</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－E－a, b, c, d, e</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－A－a, b, c, d, e</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－B－a</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－E－a, b, c, d</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－F－a, b, c, d</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－G－a, b</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－11－A－c</p>
履修条件・履修上の注意	－

講義科目名称：小児看護学演習

授業コード：3N094

英文科目名称：Practice in Child Health Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
内山かおる			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 本科目のガイダンス 演習の進め方オリエンテーション 小児看護における看護過程および看護技術の特徴と留意点	内山かおる
	第2回 小児看護過程① 子どもの発達段階を考慮した看護過程、本学小児看護実習で使用する記録用紙を用いて	内山かおる
	第3回 小児看護過程② 乳幼児の特性（復習）DVD「乳幼児の発達」70分 0歳～2歳児の看護計画立案時の留意点の考え方	内山かおる
	第4回 小児看護過程③ 乳幼児の特性（復習）DVD「乳幼児の発達」40分 3～5歳児の看護計画立案の留意点の考え方	内山かおる
	第5回 小児看護過程④ 小児内科疾患・小児外科疾患事例を用いた看護過程の展開 講義	内山かおる
	第6回 小児看護過程⑤ 事例1 小児外科疾患（乳児） 事例2 小児内科疾患（幼児） 事例3 事例2 同じ疾患（思春期）個人作業（初期アセスメントから看護の方向性まで）	内山かおる
	第7回 小児看護過程⑥ 第6回をもってGW 各発達段階の特性、疾病・検査・治療・入院環境の特性など	内山かおる 中下富子 他
	第8回 小児看護過程⑦ 第7回続きGW 子どもと母親（家族との関係）、子どもの発育に影響を及ぼす要因の抽出など	内山かおる 中下富子 他
	第9回 小児看護過程⑧ 発表（第8回GWの結果：患児の発達の特性、病状・治療経緯、家族の状況についてアセスメントした結果から介入の予測）グループ発表	内山かおる 中下富子 他
	第10回 小児看護過程⑨ 第9回続き グループ発表	内山かおる 中下富子 他
	第11回 小児看護過程⑩ 重症心身障害児の看護（群馬整肢療護園 井上奈美先生）講義	井上美奈子
	第12回 小児看護過程⑪ 事例4 重症心身障害児の事例を用いた看護過程の展開 講義	内山かおる
	第13回 小児看護技術① 小児看護技術（基礎編）講義（乳幼児の更衣・陰部洗浄・おむつ交換・バイタルサイン・検査処置時の抑制・与薬方法 他	内山かおる
	第14回 小児看護技術② 第13回続き 小児看護技術（基礎編）演習オリエンテーション及びデモストレーション	内山かおる 中下富子 他
	第15回 小児看護技術③ 小児看護技術演習（基礎編）更衣・陰部洗浄・バイタルサイン・検査処置時の抑制・与薬方法 他	内山かおる 中下富子 他
	第16回 小児看護技術④ 第15回の続き 小児看護技術演習（基礎編） *翌週、事例1～3の計画立案を提出（講義前）	内山かおる 中下富子 他

第17回	小児看護過程⑫ 看護計画立案（個人の事例1～3の計画をもって）GW	内山かおる 中下富子 他
第18回	小児看護過程⑬ 第17回の続き 看護計画立案（個人の事例1～3の計画をもって）GW	内山かおる 中下富子 他
第19回	小児看護過程⑭ 発表：看護計画及び留意点をGW	内山かおる 中下富子 他
第20回	小児看護過程⑮ 第19回続き	内山かおる 中下富子 他
第21回	小児看護技術⑤ 第2回 小児看護技術演習（応用編）オリエンテーション	内山かおる
第22回	小児看護技術⑥ ※計画立案の見直し・ロールプレイの作成（基礎技術含む）場面の選択・子どもの発達段階の特徴の確認・家族・医療関係者の配役など GW	内山かおる 中下富子 他
第23回	小児看護技術⑦ 第22回続き ロールプレイの修正	内山かおる 中下富子 他
第24回	小児看護技術⑧ 第23回続き ロールプレイの完成 進行の確認作業	内山かおる 中下富子 他
第25回	小児看護技術⑨ 第1回 ロールプレイ発表	内山かおる 中下富子 他
第26回	小児看護技術⑩ 第2回 ロールプレイ発表	内山かおる 中下富子 他
第27回	小児看護技術⑪ 第3回 ロールプレイ発表	内山かおる 中下富子 他
第28回	小児看護技術⑫ 第4回 ロールプレイ発表	内山かおる 中下富子 他
第29回	小児看護過程⑯ 事例5 内科・外科疾患(評価用事例) *事例1～3を参考に個人で展開する	内山かおる
第30回	小児看護過程⑰ 第29回続き、*事例1～3を参考に個人で展開する 提出	内山かおる
科目の目的	子どもの権利を擁護し、子どもに安全・安楽なケアを提供するために、科学的根拠に基づいた小児看護における看護過程の展開方法と基礎的な看護技術を修得する。 ディプロマポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】	
到達目標	1. 子どもの発達段階を考慮した看護過程展開として、情報収集から評価までの一連の流れを理解する。 2. 発達段階・健康レベルが異なる事例から子どもと家族の健康問題を抽出し、健康回復に向けた計画を立案する。 3. 小児看護に必要な技術の意義と留意点および手法について理解する。 4. 技術演習を通して小児看護学実習において不可欠な基礎的な看護技術を修得する。 5. 事例対象に応じた看護計画を立案し、対象の特性を考慮した留意事項を押さえて看護技術を行う。	
関連科目	基礎看護学概論、基礎看護学技術、臨床病態学Ⅲ、生化学、解剖生理学、病理学、薬理学、栄養学、小児看護学総論、発達心理学、小児看護学方法論、小児看護学実習、精神看護学総論	
成績評価方法・基準	課題レポート（看護過程・技術）60% 定期試験40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 看護過程：基礎看護学の「看護過程」講義の復習・小児看護学総論の復習（特に発達段階） 2. 技術：基礎看護学で習得した技術の復習から小児技術への応用を思考できるよう準備する *各講義予習復習として2時間を目安とする	
教科書・参考書	教科書 1. 写真でわかる小児看護技術アドバンス 山元恵子編集 インターメディカ 参考書 1. 発達段階から見た小児看護過程+病態関連図 浅野みどり他編集 医学書院	

オフィス・アワー	月・木 16:40～
国家試験出題基準	看護師 ≪小児看護学≫-II-4-A-a, b, c, d ≪小児看護学≫-II-4-B-a, b, c ≪小児看護学≫-II-4-C-a, b, c ≪小児看護学≫-II-4-D-a, b ≪小児看護学≫-II-4-F-a, b, c ≪小児看護学≫-II-4-G-a, b, c, d ≪小児看護学≫-IV-7-A-a, b, c, d, e ≪小児看護学≫-IV-7-C-a, b, e, f, g, h, i ≪小児看護学≫-IV-8-A-a, b, c, d, e, f, g ≪小児看護学≫-IV-8-B-a, b, c, d ≪小児看護学≫-IV-8-C-a, b, c, d, e
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児看護学特論

授業コード：3N095

英文科目名称：Advanced Pediatric Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
中下 富子			

授業形態	講義1回、演習7回		担当者
授業計画	第1回	小児看護の現状 新聞、子ども関連書籍、厚生労働省のデータなどを用いて小児看護の現状と課題を検討する	中下 富子
	第2回	小児看護の問題についての討議① 1) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 2) 乳児期・幼児期の問題②－睡眠問題について 3) 学童期の問題－食育について 4) 思春期の問題－不登校について 5) 障害児の問題－発達障害について	中下 富子
	第3回	小児看護の問題についての討議②	中下 富子
	第4回	小児看護の問題についての討議③	中下 富子
	第5回	小児看護の問題についての討議④	中下 富子
	第6回	課題発表① 1) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 2) 乳児期・幼児期の問題②－睡眠問題について 3) 学童期の問題－食育について 4) 思春期の問題－不登校について 5) 障害児の問題－発達障害について	中下 富子
	第7回	課題発表②	中下 富子
	第8回	小児看護の役割 課題発表の内容などから小児看護の役割を検討する	中下 富子
科目の目的	近年の小児保健や小児看護に関連するトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢や医療・保健・福祉の動向を理解し、今後の小児看護について展望することを目的とする。 ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲】		
到達目標	1. 近年の子どもの健康問題について子どもの権利擁護について考察することができる。 2. 子どもの未来のために看護師として果たしうる可能性について考察することができる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	演習における発表・討議（50%）、レポート（50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	課題に関するプレゼンテーションの準備を行う。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。		
教科書・参考書	必要時提示する		
オフィス・アワー	金曜 16：40以降		
国家試験出題基準	—		
履修条件・履修上の注意	—		

講義科目名称：母性看護学総論

授業コード：3N096

英文科目名称：Introduction to Maternity Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中島久美子	上村るり子	早川有子	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 母性看護の概念 性と性行動                      ・母性（父性）とは、リプロダクティブヘルツ/ライツ、ヘルスプロモーション、セクシュアリティの概念                      ・母性看護学総論オリエンテーション(学習の範囲、学習の視点、基本的知識)</p> <p>第2回 母性看護の機能と役割 母子保健の現状と動向                      ・母性の健康と社会 母子保健統計からみた母性の健康 母性の健康と社会                      母子保健統計からみた母性の健康</p> <p>第3回 母性看護の変遷と諸施策                      ・母性看護の歴史と役割、母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策・母子保健施策(法律)</p> <p>第4回 性と生殖器の構造・機能・発生、生殖周期とホルモン                      ・女性生殖器、男性生殖器、                      ・生殖器の発生とその異常、生殖器系の異常(遺伝子・精子・卵子)女性生殖器の機能                      ・月経周期、調節機序、卵巣・子宮内膜の周期的変化                      ・生殖周期に関わるホルモン 受胎のメカニズム 人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン</p> <p>第5回 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における主な疾患、生殖器の感染症                      ・思春期の疾患(月経異常 性器奇形 子宮頸がんの予防等)                      ・成熟期疾患(子宮内膜症 生殖器の疾患 感染症等)                      ・更年期疾患(月経異常 更年期障害 更年期うつ病等)                      ・老年期疾患(萎縮性膀胱 排尿障害 骨盤臓器脱等)</p> <p>第6回 性と生殖に関する健康問題と援助1：【思春期女性への支援】                      ・思春期のセクシュアリティ発達支援(二次性徴の早発・遅発ケースへの対応と支援、)                      ・子宮頸がん予防、DV予防と支援、性感染症(STD) 予防(予防に関する啓発) 人工妊娠中絶の予防と支援                      ・性感染症STI(性器ヘルペス 尖圭コンジローマ AIDS クラミジア感染他)その他の感染症</p> <p>第7回 性と生殖に関する健康問題と援助2：【成熟期・更年期・老年期女性への支援】                      ・不定愁訴・閉経への指導、乳がん・子宮頸がん検診、DV予防と支援</p> <p>第8回 母性看護の課題と展望                      ・女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化                      ・多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率                      ・在日外国人の母子保健など                      ・現代社会における母性の健康と課題(子ども虐待の背景、親子関係、子育て支援)</p>	<p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>上村るり子</p> <p>上村るり子</p> <p>中島久美子</p> <p>早川有子</p> <p>中島久美子</p>
科目の目的	国内外の母性看護の歴史の変遷と母性看護の現状について学ぶ。 ライフサイクルを通して母性看護の諸施策と役割を学ぶ。性と生殖に関する理解をする。 【知識・理解】	
到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況が説明できる。 母性看護の基盤となる知識が説明できる。 女性の性の周期性の変化について説明ができる。	
関連科目	教養科目群：生命倫理 家族学 専門基礎科目群：解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。 準備学習時間の目安：3時間45分	
教科書・参考書	教科書：「母性看護学Ⅰ、母性看護学概論」森恵美他(医学書院) 参考書：授業にて提示	
オフィス・アワー	中島・早川：開講日の昼休み 非常勤講師：講義前後の休み時間	

国家試験出題基準	<p>【看護師】          ≪母性看護学≫ I-1-A, B, I-1-D-a, b, c, I-1-E, II-2-A-a, b, c, d, e, g, II-2-B, III-3-A, B, IV-8-c-a, b, c, d,          【助産師】          ≪基礎助産学 I≫ II-2-A, B, C, II-4, 5, III-7,</p>
履修条件・履修上の注意	助産師課程資格取得のための要件科目



講義科目名称：母子の健康支援

授業コード：3N097

英文科目名称：Health Supports for Mother and Child

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
早川 有子	山本伊佐夫		

授業形態	講義10回（学会参加1回含） 演習 5回		担当者
授業計画	第1回	リプロダクティブ・ヘルスに関する動向 講義1 諸統計と現況(国内外)	早川
	第2-4回	母子保健に影響を与える因子 (討議・発表・レポートまとめ) 演習1-3 母子保健に影響を与える因子 ・精神的要因：家族、サポートシステムなど ・社会的要因：職場環境 友人関係 親族関係、核家族など ・環境的要因：自然環境 人為的環境 インターネットなど ・身体的要因：食事と栄養 喫煙 飲酒など ・生活環境要因：夫婦関係 家族関係 社会支援 子育て支援施策など	早川
	第5回	母子と感染症 講義2 妊娠・分娩・産褥期に認められる感染症と母子のリスク(性感染症含む)	早川
	第6-10回	母子と健康問題 講義3-7 妊・産・褥婦によくみられる健康問題(便秘 痔 貧血 体重管理 乳房)	早川
	第11・12回	母子の保健指導 演習4-5 課題学習(各自テーマに沿って指導案を作製し学生間で共有)	早川
	第13回	母親への育児支援 講義8 乳幼児虐待予防 夜泣き及び母親の育児ストレス改善 乳幼児突発死症候群の予防など	山本
	第14回	性と生殖 講義9 性をめぐる最近の話題・性暴力 DV ・性同一性障害について(ゲスト：石塚)	早川
	第15回	周産期の医療システム 母体搬送 新生児搬送 チーム医療 周産期医療ネットワーク 講義10	早川
科目の目的	母子の健康支援について、専門職としての基本的知識と支援方法について学ぶ。【知識・理解】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向について理解できる。</li> <li>・母子の健康に影響を与える因子について説明できる。</li> <li>・母子の健康問題とその看護について説明できる。</li> <li>・性と生殖に関わる問題と看護師の役割について理解できる。</li> <li>・周産期医療のシステムについて理解できる。</li> </ul>		
関連科目	教養科目群：生命倫理 環境学 専門基礎科目群：母性看護学総論 免疫感染症学 発達心理学 地域保健行政 栄養学 専門科目群：小児看護学 公衆衛生看護学		
成績評価方法・基準	定期試験(100%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護学総論の復習して講義に臨むこと 授業計画にあげた内容について、課題を持って授業に臨むこと。 準備学習時間の目安：1時間		
教科書・参考書	教科書：妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子他(医学書院) 参考書：特になし		
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後		
国家試験出題基準	《母性看護学》-I-B 《母性看護学》-II-3-A II-3-B. 《母性看護学》-III-4-C III-5-A		
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前配布する、各自印刷して授業に持参すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
臼井 淳美	矢崎聡	横田 佳昌	

授業形態	講義 (15コマ)	担当者
授業計画	1 妊娠の始まりと胎児の成長、妊娠経過とその看護 ・妊娠の成立 ・妊娠の経過（妊婦のからだと心の変化）と胎児の発育 ・妊婦の身体的側面のアセスメント ・妊娠各期の看護	臼井淳美
	2 妊婦の心理社会的側面と看護 ・妊婦の心理社会的側面のアセスメント ・妊婦の看護（日常生活における健康管理・保健指導）、バースプラン作成とそれに対する支援 ・出産・育児の準備	臼井淳美
	3-4 妊娠期の健康問題 ・ハイリスク妊娠 ・妊娠期の感染症 ・妊娠疾患（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、血液型不適合妊娠） ・多胎妊娠 ・妊娠持続期間の異常（流産、早産） ・異所性妊娠 など	矢崎聡
	5 妊娠期の健康問題に対する看護 ・ハイリスク妊娠に対する看護 ・流産・早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤・常位胎盤早期剥離などの疾患を持つ妊婦に対する看護	臼井淳美
	6 分娩の生理と経過 ・正常分娩の生理と経過（胎児の健康状態含む） ・胎児心拍モニタリング図の判読方法	矢崎聡
	7 産婦の看護 ・産婦の看護（分娩経過に伴う看護、産痛緩和、産婦とその家族への支援）	臼井淳美
	8 異常分娩 ・産道の異常 ・娩出力の異常（微弱陣痛、過強陣痛） ・胎児の異常による分娩障害（胎位の異常、回旋の異常） ・胎児の付属物の異常（前置胎盤、常位胎盤早期剥離） ・胎児機能不全 ・分娩時の損傷（頸管裂傷、会陰裂傷） ・分娩時異常出血（弛緩出血、参加ショック、DIC） ・産科処置と産科手術（帝王切開術、吸引・鉗子分娩、無痛分娩）	矢崎聡
	9 産婦の心理社会的側面と看護 ・産婦の心理社会的側面のアセスメントと看護	臼井淳美
	10-11 産褥経過、褥婦の心理社会的側面と看護 ・既出事項（妊娠期・分娩期）のまとめ（中間試験15分） ・産褥の経過（からだと心の変化） ・褥婦の心理社会的側面のアセスメント、出産体験の振り返り ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の支援 ・家族計画	臼井淳美
	12 新生児経過と新生児の看護 ・新生児の経過と特徴、看護 ・健康障害のある新生児の看護	臼井淳美
	13 新生児期の健康問題 ・新生児仮死 ・分娩外傷 ・低出生体重児（呼吸障害、低血糖、黄疸、新生児壊死性腸炎、未熟児網膜症、など） ・高ビリルビン血症 ・新生児・乳児・ビタミンK欠乏性出血症	矢崎聡

	14 人間の性と生殖 ・不妊治療の実際 ・出生前診断	横田佳昌
	15 生殖医療を受ける女性に対する看護 ・中間試験の解説（15分） ・生殖医療を受ける女性の心理社会的背景 ・不妊治療を受ける女性の心理社会的側面のアセスメントと看護 ・生殖医療をめぐる倫理	臼井淳美
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、母性看護の特徴と看護の役割について考える。母性看護の対象への看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。【思考・判断】【関心・意欲】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の経過とその看護について説明できる。</li> <li>・ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が説明できる。</li> <li>・人間の性と生殖、およびその看護について説明できる。</li> <li>・母子とその家族への支援について説明できる。</li> </ul>	
関連科目	基礎科目群：生命倫理 環境学 生物学A・B 生活文化と医療 専門基礎科目群：生理学Ⅰ・Ⅱ 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・社会保障制度論 専門科目群：母性看護学演習および、この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・公衆衛生看護学など）	
成績評価方法・基準	中間試験（20％） 定期試験（80％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容の復習が重要となる。</li> <li>・特に周産期医療とその看護について、課題を持って講義に臨んでほしい。</li> </ul> 【準備学習に必要な学習時間の目安】1コマにつき1時間の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。	
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」森恵美（医学書院） 参考書：「母性の心理社会的側面と看護ケア」新道幸恵（医学書院） 「病気がみえる⑩産科 第3版」（メディックメディア） その他、講義内で紹介する	
オフィス・アワー	臼井淳美（研究室320）：講義開講日の昼休み、講義前後、放課後 矢崎聡・横田佳昌（非常勤講師控室）：講義前後の休憩時間（10分間）	
国家試験出題基準	【看護師】 《必修》－Ⅱ-7-A-b －Ⅲ-10-B 《母性看護学》－Ⅱ-3-B-a, b 《母性看護学》－Ⅲ-4-A, B, C, D 《母性看護学》－Ⅲ-5-A, B, C, D	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより、資料を事前配布（配布期間：講義4日前～講義2日後）する。各自印刷して授業に持参すること。	

講義科目名称：母性看護学演習

授業コード：3N099

英文科目名称：Practice in Maternal Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
臼井 淳美	早川 有子	中島久美子	

授業形態	講義（一部グループワークを含む）（4コマ） 演習（11コマ）	担当者	
授業計画	第1回 【看護過程の展開1】 母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方（講義） ・母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方 ・事例紹介	臼井淳美	
	第2回 【看護過程の展開2】 情報収集とアセスメント（グループワーク） ・事例による看護過程の展開① 情報収集（妊娠前～妊娠中、分娩の状況の把握含む）、根拠・アセスメント・健康課題の抽出	臼井淳美 早川有子 中島久美子	
	第3-5回 【看護技術演習1】 妊婦・産婦への看護技術（講義・演習） （講義） ・妊娠各期にある女性のフィジカルアセスメント  （演習） ① 妊娠期のフィジカルアセスメント（シミュレーション） （レオポルド触診、腹囲・子宮底測定） ② 胎児心拍モニタリングの判読（DVD学習含む） ③ 産痛緩和へのケア（DVD学習含む）	臼井淳美 早川有子 中島久美子	
	第6・7回 母乳育児支援（講義） ・乳房の解剖生理学 ・乳汁分泌のメカニズム ・母乳育児支援 ・親子の絆とアタッチメント	臼井淳美	
	第8・9回 【看護過程の展開3】 ウェルネス看護診断による看護過程の展開（グループワーク） ・事例による看護過程の展開② 褥婦のアセスメント・新生児のアセスメント アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案	臼井淳美 早川有子 中島久美子	
	第10回 【看護過程の展開4】 ウェルネス看護診断による看護過程の展開（グループワーク） ・事例による看護過程の展開③ アセスメント・健康課題の抽出・看護目標と看護計画立案	臼井淳美 早川有子 中島久美子	
	第11回 【看護過程の展開5】 看護過程の展開・発表（グループワーク） ・事例による看護過程の展開④ 看護目標と看護計画立案 ・発表会	臼井淳美 早川有子 中島久美子	
	第12回 新生児のフィジカルアセスメント（講義） ・新生児のフィジカルアセスメント	早川有子	
	第13-15回 【看護技術演習2】 褥婦・新生児への看護技術（演習） ① 新生児のフィジカルアセスメント（バイタルサイン測定、身体計測） ② 沐浴 ③ 褥婦のフィジカルアセスメント（シミュレーション） （子宮復古状態（子宮収縮）、全身状態の観察） ゲストスピーカー：実習施設より招聘予定（現在調整中）	臼井淳美 早川有子 中島久美子	
	科目の目的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、看護を展開するための思考過程及び援助技術を学ぶ。【技能・表現】【知識・理解】【思考・判断】【態度】	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の経過とその看護について理解できる。</li> <li>・妊産褥婦及び新生児に対する基礎的技術を正しい方法で実施できる。</li> <li>・対象の安全・安楽に配慮した看護援助を実施することができる。</li> <li>・シミュレーション学習を通し、コミュニケーション能力の向上とアセスメント能力、看護師として必要な態度を習得できる。</li> <li>・主体的・能動的に個別学習ならびにチーム学習に取り組み、母性看護に興味関心を示す言葉を述べることができる。</li> <li>・事前課題学習と個人学習の成果をグループメンバーに説明し、議論を通じた学びをチームメンバーと共有し、チームメンバーへフィードバックして、母性看護における看護展開を表現できる。</li> </ul>	
	関連科目	基礎科目群：生命倫理 環境学 生物学A・B 生活文化と医療 専門基礎科目群：生理学Ⅰ・Ⅱ 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・社会保障制度 専門科目群：母性看護方法論、この科目の基盤となる専門科目の全て（主に母性看護学・小児看護学）	

	学・公衆衛生看護学など)
成績評価方法・基準	下記の1～3の合計(100%)で評価する。合計(100%)のうち、60%に満たなかった学生を再試験の対象とする。 1. 看護過程評価(個人テスト(2回)・グループワーク評価)(30%) 2. 演習評価(30%) 3. 定期試験(40%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・母性看護に関する既習の講義内容の復習が重要となる。 ・特に周産期医療とその看護について、課題を持って講義に臨んでほしい。 【準備学習に必要な学習時間の目安】1コマにつき1時間の授業時間外における学習(予習・復習など自己学習)が必要となる。
教科書・参考書	教科書:「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」森恵美(医学書院) 参考書:「根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画」中村幸代(南江堂) 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版」太田操(医歯薬出版) 「ナーシンググラフィカ 母性看護技術 母性看護学②」(メディカ出版) その他、講義内で紹介する
オフィス・アワー	臼井淳美(研究室320):講義開講日の昼休み、講義前後、放課後 早川有子(研究室319):講義前後 中島久美子(研究室318):講義前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修》-Ⅱ-7-A, B 《必修》-Ⅲ-10-A 《母性看護学》-Ⅰ-1-D 《母性看護学》-Ⅱ-2-A 《母性看護学》-Ⅲ-4-A, B, C, D、Ⅲ-5-A, B, C、Ⅲ-6-A, B, C, D、Ⅲ-7-A, B, C, D 《母性看護学》-Ⅳ-8-B
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより、資料を事前配布する。各自印刷して授業に持参すること。

講義科目名称：母性看護学特論

授業コード：3N100

英文科目名称：Advanced Maternity Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子			

授業形態	講義・演習（8回のうち講義1/2、演習1/2）		担当者
授業計画	第1回	虐待・DVに関する最近の話題（講義・演習）	早川
	第2回	母乳育児支援に関する最近の話題（職場環境含む）（講義・演習）	早川
	第3回	母子感染症に関する最近の話題（講義・演習）	早川
	第4回	妊娠・分娩・産褥に関する最近の話題（講義・演習）	早川
	第5回	育児に関する最近の話題（講義・演習）	早川
	第6回	不妊症に関する最近の話題 高度生殖医療に関する最近の話題（講義・演習）	早川
	第7回	高齢と若年妊娠・分娩・産褥の最近の話題（講義・演習）	早川
	第8回	環境と母子の健康問題に関する最近の話題（講義・演習）	早川
		1-8について最近の論文・新聞を読み、さらに、身近な人を例に討議する。さらに、学生からの要望も講義の中に取り入れる。	
科目の目的	最近の母性看護の話題から専門分野を探究し、今後の課題が考えられ、その発展に貢献する意欲を持つことができる 【関心・意欲】		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護に関する最近の話題を述べることができる。</li> <li>母性看護に関する最近の話題から今後の課題を述べることができる。</li> </ul>		
関連科目	専門科目群：母性看護学総論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 小児看護学 公衆衛生看護学		
成績評価方法・基準	課題発表（20%） 課題提出（80%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護に関する既習の講義内容を復習し講義に臨むこと。 母性に関する最近の話題についての課題を持って講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分		
教科書・参考書	使用しない		
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後		
国家試験出題基準	《母性看護学》Ⅰ-B 《母性看護学》Ⅱ-3-A Ⅱ-3-B 《母性看護学》Ⅲ-4-C Ⅲ-5-A.C.		
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前に配布した時は、各自印刷して授業に持参すること。		

講義科目名称：精神保健

授業コード：3N101

英文科目名称：Mental Health

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
西川 薫			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 精神看護学で学ぶこと1 心のケアと現代社会、精神看護学とその課題	西川 薫
	第2回 精神看護学で学ぶこと2 精神障害の体験と精神看護	西川 薫
	第3回 精神保健の考え方1 精神の健康とは・精神障害のとらえ方	西川 薫
	第4回 精神保健の考え方2 ストレス・心的外傷と健康の危機/回復（リカバリー）を支える力（レジリエンス）	西川 薫
	第5回 人間の心のはたらきとパーソナリティ1 人間の心の諸活動	西川 薫
	第6回 人間の心のはたらきとパーソナリティ2 心のしくみと人格の発達	西川 薫
	第7回 関係の中の人間1 全体としての家族	西川 薫
	第8回 関係の中の人間2 人間と集団	西川 薫
科目の目的	精神保健（こころの健康）を維持・増進・回復するために必要な基礎理論について学習し、看護専門職に必要とされる精神健康に対する看護に関しての知識を身につけ、ディプロマポリシーである知識・理解、思考を身に付ける。	
到達目標	1. 精神の健康について説明できる。 2. ストレス（危機）とその反応について説明できる。 3. 社会における精神保健の課題とその対策について自己の考えを表現できる。	
関連科目	精神看護学総論、精神看護学方法論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護学特論	
成績評価方法・基準	定期試験（70％） 課題提出（30％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間） 復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）	
教科書・参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、武井麻子他、医学書院	
オフィス・アワー	火曜日・水曜日：12:10～12:50（西川研究室）	
国家試験出題基準	《精神看護学》 I-1-A-a～b 《精神看護学》 I-1-B-a～b 《精神看護学》 I-1-C-a～e 《精神看護学》 I-1-D-a～e	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：精神看護学総論

授業コード：3N102

英文科目名称：Introduction to Psychiatric Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
西川 薫			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 社会の中の精神障害 精神障害と治療の歴史（諸外国及び日本）、精神障害と法制度	西川 薫
	第2回 精神科で出会う人々1 精神症状と状態像	西川 薫
	第3回 精神科で出会う人々2 統合失調症	西川 薫
	第4回 精神科で出会う人々3 気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	西川 薫
	第5回 精神科で出会う人々4 摂食障害・アルコール依存症	西川 薫
	第6回 精神科で出会う人々5 パーソナリティ障害、てんかん、神経発達障害群	西川 薫
	第7回 精神科における治療1 薬物療法・電気けいれん療法	西川 薫
	第8回 精神科における治療2 精神療法・精神科リハビリテーション	西川 薫
科目の目的	精神看護学の対象理解で重要となる精神機能および精神機能の異常と代表的な精神疾患の概要、病態、治療について学修し、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。	
到達目標	1. 精神看護学の対象を理解することができる。 2. 精神看護学を構成する基礎理論精神機能と精神症状を説明できる。 3. 代表的な精神疾患の概要、病態、症状、治療方を説明できる。	
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学方法論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護学特論	
成績評価方法・基準	定期試験（70％） 課題提出（30％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間） 復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）	
教科書・参考書	教科書：教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、武井麻子他、医学書院 参考書：落合滋之監修、精神神経疾患ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社、2015.	
オフィス・アワー	火曜日・水曜日：12:10～12:50（西川研究室）	
国家試験出題基準	《精神看護学》Ⅱ-2-A-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-B-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-C-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-D-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-E-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-F-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-G-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-H-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-I-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-J-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-K-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-L-a～c	
履修条件・履修上の注意	教科書を使用して講義を行うので、教科書を持参すること。 配布資料がある場合は、講義までにActive Academyで配布する。資料は適宜印刷して持参すること。	



講義科目名称：精神看護方法論

授業コード：3N103

英文科目名称：Psychiatric Nursing Methods

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
西川 薫			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ケアの人間関係1 ケアの前提・ケアの原則・患者－看護師関係における感情体験	西川 薫
	第2回 ケアの人間関係2 ケアの方法・ケア関係をアセスメントする	西川 薫
	第3回 回復を助ける 回復の意味と精神障害からの回復方法（プログラム）	西川 薫
	第4回 入院治療の目的と意味 入院体験の意味・適切な入院・治療的環境	西川 薫
	第5回 安全を守る 精神科病棟における安全・行動制限・緊急事態（自殺・暴力・無断離院）	西川 薫
	第6回 精神障害を持つ人の看護1 統合失調症者を持つ人の看護	西川 薫
	第7回 精神障害を持つ人の看護2 気分障害を持つ人の看護	西川 薫
	第8回 精神障害を持つ人の看護3 神経症性障害を持つ人の看護	西川 薫
	第9回 精神障害を持つ人の看護4 摂食障害を持つ人の看護	西川 薫
	第10回 精神障害を持つ人の看護5 アルコール依存症を持つ人の看護を持つ人の看護	西川 薫
	第11回 精神障害を持つ人の看護6 パーソナリティ障害を持つ人の看護	西川 薫
	第12回 精神障害を持つ人の看護7 てんかん・神経発達障害群を持つ人の看護	西川 薫
	第13回 精神障害リハビリテーション 精神科作業療法・SST及び心理教育	西川 薫
	第14回 精神科リハビリテーションの実際1 当事者研究1	西川 薫
	第15回 精神科リハビリテーションの実際2 当事者研究2	西川 薫
科目の目的	精神疾患や危機的状況を持つ人の心理社会的な状況を理解し、精神（こころ）の健康問題を持つ人に対し必要となる看護方法について学習し、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。	
到達目標	1. 精神看護における治療的コミュニケーションについて説明できる。 2. 代表的な精神疾患を持つ患者の看護について説明できる。 3. 精神障害リハビリテーションの意義及び方法について説明できる。	
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神保健、精神看護学総論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護学特論	
成績評価方法・基準	定期試験（70%）、課題等（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間） 復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）	
教科書・参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②、武井麻子他、医学書院。 参考書：改訂版 これからの精神看護学（一病態生理をふまえた看護実践のための関連図）、森千鶴、田中留伊、ピラールプレス、2016。	
オフィス・アワー	火曜日・水曜日：12:10～12:50（西川研究室）	
国家試験出題基準	《精神看護学》Ⅱ-2-A-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-B-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-C-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-D-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-E-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-F-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-G-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-H-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-I-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-J-a～c	

	《精神看護学》Ⅱ-2-K-a～c 《精神看護学》Ⅱ-2-L-a～c
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神看護学演習

授業コード：3N104

英文科目名称：Practice in Psychiatric Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
西川 薫			

授業形態	講義（7回）・演習（8回）	担当者
授業計画	第1回 精神看護における看護展開1 オレム-アンダーウッドによるセルフケア理論と看護過程 第2回 精神看護における看護展開2 精神状態のアセスメント 第3回 精神看護における看護展開3 セルフケアのアセスメント 第4回 精神看護における看護展開4 プロセスレコード 第5回 精神看護における看護展開5 プロセスレコード検討会1 第6回 精神看護における看護展開6 プロセスレコード検討会2 第7回 看護過程演習1 紙上事例の看護過程展開1 第8回 看護過程演習2 紙上事例の看護過程展開2 第9回 看護過程演習3 紙上事例の看護過程展開3 第10回 看護過程演習4 紙上事例の看護過程展開4 第11回 看護過程演習5 発表1 第12回 看護過程演習6 発表2 第13回 精神看護における身体ケア 精神障害を持つ人の身体合併症への看護 第14回 地域における精神保健と精神看護 地域における精神看護 第15回 リエゾン精神看護 リエゾン精神看護の機能	西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫 西川 薫
科目の目的	精神（こころ）の健康問題を持つ人に対する具体的な看護過程について、患者－看護師関係の発展方法、対象者のセルフケアの再構築およびストレングスを活かした看護展開方法を視野に置いた展開方法を学習する。 ディプロマ・ポリシー【技能・表現】【思考・判断】【知識・理解】【態度】	
到達目標	1. 精神看護の技術としての自己活用を理解する患者－看護師関係の治療的意味と検討方法を説明できる。 2. 精神看護学における治療的関係性の構築について説明できる。 2. 精神障害を持つ人のセルフケアの再構築に向けた看護過程の展開について説明できる。	
関連科目	精神保健・精神看護学総論・精神看護学方法論	
成績評価方法・基準	定期試験（60％），課題（看護過程演習）（40％）＊課題未提出の場合は定期試験の対象から除外する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し，学習内容を把握し，疑問点等を抽出する（約2時間） 復習：講義終了後に，講義内容の再確認及び疑問点を抽出し，疑問点について調べる（約2時間）	
教科書・参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②、武井麻子他、医学書院。 参考書：改訂版 これからの精神看護学（一病態生理をふまえた看護実践のための関連図），森千鶴、田中留伊，ピラールプレス，2016.	
オフィス・アワー	火曜日・水曜日：12:10～12:50（西川研究室）	
国家試験出題基準	《精神看護学》Ⅱ-2-A`E 《精神看護学》Ⅱ-3-A`D 《精神看護学》Ⅱ-4-A`C 《精神看護学》Ⅱ-5-A`D 《精神看護学》Ⅱ-6-A`B	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：精神看護学特論

授業コード：3N105

英文科目名称：Advanced Psychiatric Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
西川 薫			

授業形態	講義（6回）・演習（2回）		担当者
授業計画	第1回	今日の精神保健医療における課題1 精神保健医療の現状と課題（国際比較）	西川 薫
	第2回	今日の精神保健医療における課題2 日本における精神保健医療の現状と課題	西川 薫
	第3回	今日の精神保健医療における課題3 日本における精神保健医療の課題解決策の検討（グループワーク）	西川 薫
	第4回	今日の精神保健医療における課題4 グループワーク及び発表	西川 薫
	第5回	精神保健看護における理論1 セルフケア理論 リカバリー エンパワーメント ストレングス	西川 薫
	第6回	精神保健看護における理論2 認知行動理論	西川 薫
	第7回	精神保健看護での実践1 精神保健看護で行われている各種対人関係アプローチ1	西川 薫
	第8回	精神保健看護での実践2 精神保健看護で行われている各種対人関係アプローチ2	西川 薫
科目の目的	近年の精神保健看護の分野で重要な支援技法となっている認知行動療法について、基礎的知識及び基本的な技能を演習形式で理解し身に付け、精神保健看護における専門的な技術の習得を行う。以上より、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。		
到達目標	1. 精神保健看護分野における各種技法について説明できる。 2. 精神看護におけるリカバリーについて説明できる。 3. 認知行動療法の基礎について説明できる。 4. 精神保健医療における現状と課題について自己の考えを表現できる。		
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学実習		
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、課題レポート（30％）、グループワークの発表成果（20％）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容に関連する研究論文及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間） 復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）		
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：講義において適宜紹介する。		
オフィス・アワー	火曜日・水曜日：12:10～12:50（西川研究室）		
国家試験出題基準	《精神看護学》Ⅱ-2-A`E 《精神看護学》Ⅱ-3-A`D 《精神看護学》Ⅱ-4-A`C 《精神看護学》Ⅱ-5-A`D 《精神看護学》Ⅱ-6-A`B		
履修条件・履修上の注意	精神保健及び精神看護学に関する各自の関心事項を基に講義を進めるので、受講に際しては自己の精神保健及び精神看護学に関する関心を明確にできることが必要となる。同時に、主体的な学習が求められることを理解しておくこと。		

講義科目名称：在宅看護学概論

授業コード：3N106

英文科目名称：Introduction to Home Care Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
笠井 秀子	山野えり子		

授業形態	講義（7）グループワーク（2）		担当者
授業計画	<p>第1回 在宅看護の目的と特徴 在宅看護の必要性が高まっている社会的背景と課題、地域包括ケアシステムの時代へ DVD試写（生活の場で自分らしく生きるということの意味）</p> <p>第2回 在宅看護の特徴 在宅療養の成立要件（対象者・地域支援システム）、在宅看護の提供方法と種類、在宅看護の提供の場、在宅看護の対象者とその特徴</p> <p>第3回 在宅看護の基本 自律・自立支援、症状マネジメント、リスクマネジメント、情報提供と意思決定支援、権利擁護、多職種連携、療養環境の調整</p> <p>第4回 在宅療養を支える家族の理解 事例から考える家族機能・役割への影響（グループワーク・発表）、家族とは、家族システム論、家族機能及び介護力アセスメント</p> <p>第5回 家族支援方法 中間テスト（第4回までの講義内容から出題）、介護者の現状と課題、家族支援の実際、介護者の健康管理、介護負担の要因と軽減、家族の健康管理、家族関係の調整、情報提供と意思決定支援）</p> <p>第6回 在宅看護における権利保障 中間テスト結果説明 権利擁護 成年後見人制度 虐待防止 個人情報の保護</p> <p>第7回 訪問看護制度 訪問看護制度、訪問看護ステーションの設置基準・運営・管理 多職種連携と看護の役割</p> <p>第8回 私たちが目指す訪問看護ステーションの立ち上げ 目指す訪問看護ステーションとは グループワーク、発表、評価</p>	笠井、山野 笠井 笠井 笠井、山野 笠井 笠井 笠井 笠井 笠井 山野	
科目の目的	<p>「知識・理解」 今、在宅看護が求められる社会的背景・現状を踏まえ、在宅看護の対象者である療養者及びその家族の「生活の場」における在宅看護の目的、役割を思考し、在宅看護の展開方法を学ぶ。また、在宅看護の提供における法的根拠を理解し、グループワークによる検索的学習を交え、在宅看護の「あるべき姿」を思考し発表することができる。</p>		
到達目標	<p>1. 在宅看護の歴史、及び在宅看護が必要とされる社会的背景、現状を学び、在宅看護の対象への理解を深め、在宅看護の目的・機能・役割が説明できる。 2. 訪問看護制度および訪問看護ステーションの管理・運営、機能が説明できる。 3. 在宅看護の対象である療養者とその家族の関係性について家族システム論やグループワークを通して理解し、療養者及びその家族に対する看護の役割及びその展開方法が理解できる。 4. 療養者の権利擁護に対する訪問看護師の役割が理解できる。 5. めざす在宅看護のあるべき姿を考えることができる。</p>		
関連科目	看護学概論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学、家族看護学、社会福祉・社会保障制度論、多職種理解と連携		
成績評価方法・基準	中間テスト20%、定期試験80%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	人口構造の変化、国民の健康意識、保健・医療・福祉の現状、ライフサイクル上の発達課題などから、在宅看護の必要性との関連性について事前学習をし、知識を得ておく。また、講義資料を事前に配布するので、そこで事前学習課題を課す。概ね30分程度の事前学習が必要である。		
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」医学書院 河原加代子（著者代表） ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア」メディカ出版		
オフィス・アワー	笠井：講義日の休憩時間 場所：非常勤講師控室 山野：月曜日 昼休み		
国家試験出題基準	1-A-a～d、1-C-a～d、1-D-a～d、1-G-a～e、3-A-a～c、3-C-a～e、12-C-d		
履修条件・履修上の注意	事前学習は、前週の学習内容から国家試験出題類似問題を課す。また前週の学習内容について抑えてほしいポイントをフィードバックするのでしっかり国試問題に取り組んでくること。事前学習結果は講義前に答え合わせを行う。なお、講義資料については、講義予定日3から5日前にアクティブアカデミーにアップするので、講義当日は講義資料を印刷し持参すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
山野えり子	反町 真由	今井 真美	金井 敏江
	平石 桂子		

授業形態	講義（11） 演習（4）	担当者
授業計画	第1回 在宅療養を支援する仕組み（講義） 社会資源とは、活用目的 在宅療養支援に関連する社会資源と関係職種、訪問看護制度の仕組みと提供（復習）	山野
	第2回 社会資源の活用・調整1（講義） 介護保険制度の仕組み（誕生の背景 財源、事業運営 要介護認定 サービス利用までの流れ 介護報酬・費用負担のしくみ）	山野
	第3回 社会資源の活用・調整2（講義） 介護保険給付サービス 居宅・施設（都道府県指定監督及び市町村指定監督）サービスの内容 利用方法	山野
	第4回 社会資源の活用・調整3（講義） 介護保険給付サービス 福祉用具貸与、特定福祉用具販売、住宅改修サービスの内容と利用方法 手順	反町
	第5回 社会資源の活用・調整4（講義） 医療保険制度 難病療養者、小児、障害者を支援する諸制度の内容と利用方法	山野
	第6回 地域包括ケアシステム（講義） 社会的背景、ねらい、内容、多職種連携・協働、事例から考える地域包括ケアシステムと訪問看護師の役割	山野
	第7回 多職種連携の実際1（講義） 介護支援専門員の立場から 業務と多職種連携・協働の実際	金井
	第8回 多職種連携の実際2（講義） 理学療法士の立場から 業務と多職種連携・協働の実際	平石
	第9回 多職種連携の実際3（講義） 看護師の立場から 業務と多職種連携・協働の実際	今井
	第10回 在宅看護におけるケアマネジメント・ケアコーディネーションとチームアプローチの実際（講義） チームアプローチとは、ケースマネジメントの方法、チームアプローチの実際（退院支援・介護保険制度、事例から）	山野
	第11回 事例から学ぶケアマネジメントの実際 グループワーク（演習） 中間テスト 模擬事例から社会資源の活用、多職種連携・協働、訪問看護師の役割を考える	山野・反町
	第12回 事例から学ぶ社会資源のマネジメントの実際2（演習） グループ発表・評価・まとめ	山野・反町
	第13回 退院支援・調整1（講義） 退院支援・調整とは 訪問看護師の役割と継続看護、初回訪問の目的と看護の基本的姿勢	山野
	第14回 退院支援・退院調整2 グループワーク（演習） 模擬事例から考える退院支援・調整と訪問看護師の役割	山野・反町
	第15回 退院支援・調整（演習） グループ発表、評価、まとめ	山野・反町
科目の目的	「思考・判断」 疾患や障害を抱えながらも在宅看護の対象である療養者およびその家族が「希望する生活」を実現できるように、療養者とその家族への理解を深め、在宅看護の果たす役割について考えることができる。また、療養者とその家族の「自立・自律」を支えるために、退院調整、療養環境整備、在宅療養を支える社会資源の活用についてその方法を学び、それらを有効に機能させるためのケアマネジメント及び多職種連携の在り方を学ぶ。これらのことを踏まえ、地域で療養者・家族を支えるケアシステムとその中での在宅看護の役割を考えることができる。	
到達目標	1. 在宅療養者・家族を支える社会資源を知り、その活用方法を説明できる。（医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、難病施策、小児慢性疾患施策など） 2. 在宅療養支援ネットワークの構築と多職種連携・協働の必要性および訪問看護師の役割が説明できる。 3. 地域包括ケアシステム構築における訪問看護師の専門性と役割が説明できる。 4. 退院支援・調整における訪問看護師の役割を学び、訪問看護師が行う在宅療養移行支援について説明できる。	

関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学方法論Ⅱ、成人看護学総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、老年看護学総論、老年看護学方法論Ⅰ、老年看護学方法論Ⅱ、小児看護学総論、小児看護学方法論、精神看護学総論、精神保健、精神看護学方法論、社会福祉・社会保障制度論
成績評価方法・基準	中間試験（20％）定期試験（80％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 社会福祉、社会保障制度の既習内容の復習が必要である。 2. 特に介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法、小児・難病対策の制度について事前に予習しておくこと。 (アクティブアカデミーにて準備学習は提示する。約30分程度予習をして授業に臨んでほしい)
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナースング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子（メディカ出版） 参考書：「国民衛生の動向」2018/2019 一般財団法人厚生労働統計協会
オフィス・アワー	専任教員：金曜日12:10～13:00(山野研究室) 金曜日12:10～13:00(反町研究室) 非常勤講師：当該講師の講義終了後または休憩時間に（教室または非常勤講師控室）
国家試験出題基準	在宅看護論Ⅰ 1-B-a・b、1-F-a～d、3-A-a～c、3-B-a～c、3-C-a～e、5-A-d、6-B-a～d、6-C-a、8-A-a～e、8-B-a. b、9-ABCDE、10-A-a～d、
履修条件・履修上の注意	事前課題は前週の復習の目的で前週の講義内容にそった国家試験類似問題を課す。講義当日に正当を示し、必ず覚えてほしいポイントを共有化する。事前学習には30分程度の予習を行い、当該講義時に学習成果が発揮できるようにすること。

講義科目名称：在宅看護方法論Ⅱ

授業コード：3N108

英文科目名称：Home Care Nursing Methods II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
山野 えり子	反町 真由	松下 祥子	堀 美佐子
	久住 美稚子		

授業形態	講義15 演習15	担当者
授業計画	第1回 在宅療養者の日常生活援助1（講義） 在宅看護論概論、在宅看護方法論Ⅰの復習、食事・栄養・清潔に関する在宅看護の展開、家族支援	山野
	第2回 在宅療養者の日常生活援助2（講義） ADL障害をもつ療養者への在宅看護の展開（急性期・慢性期・回復期の看護）、家族支援	反町
	第3回 在宅療養者の日常生活援助3（講義） 安全管理・感染症対策（在宅生活の場で起こりやすい事故及び感染症とその対策）	山野
	第4回 在宅療養者の日常生活援助4（講義） 排泄、人工肛門を造設した療養者への看護の展開	反町
	第5回 特殊な技術を伴う看護1（講義） 膀胱カテーテル留置療養者・家族に対する看護の実際、膀胱留置カテーテル適応基準、起こりやすいトラブルとその対処法	反町
	第6回 特殊な技術を伴う看護2（講義） 胃ろう、経管栄養を必要とする療養者の看護の実際、家族支援、起こりやすいトラブルと対処法	山野
	第7回 特殊な技術を伴う看護3（講義） HOTの適応基準、在宅酸素療法実施中の療養者・家族への看護の実際、HOT使用機器・日常生活管理、起こりやすいトラブルとその対処法、多職種連携、社会資源活用、災害時対策、看護の役割	松下
	第8回 特殊な技術を伴う看護4（講義） 在宅人工呼吸療法の適応、在宅人工呼吸療法療養者・家族への看護の実際、人工呼吸器管理、療養環境整備、起こりやすいトラブルとその対処法、多職種連携、社会資源活用、災害時対策、看護の役割	松下
	第9回 特殊な技術を伴う看護5（講義） 中心静脈栄養法の適応、中心静脈栄養療法療養者・家族への看護の実際	山野
	第10回 在宅療養者の状態別看護1（講義） 認知症療養者・家族への在宅看護の実際、多職種連携、社会資源の活用、看護の役割、独居の療養者に対する在宅看護の実際 多職種連携・協働 緊急時の支援	山野
	第11回 在宅療養者の状態別看護2（講義） 難病疾患がある療養者・家族への看護の実際、多職種連携、社会資源の活用、看護の役割	松下
	第12回 在宅療養者の状態別看護3（講義） がん終末期における看護の実際と家族支援、エンドオブライフケア、疼痛緩和、HPN	松下
	第13回 在宅療養者の状態別看護4（講義） 精神疾患がある在宅療養者・家族への看護の実際、多職種連携、社会資源の活用、看護の役割	反町
	第14回 在宅療養者の状態別看護5（講義） 小児の在宅療養児・家族への看護の実際、多職種連携、社会資源の活用、看護の役割	堀
	第15回 在宅療養者の状態別看護6（講義） 在宅における褥瘡ケアの実際、予防、褥瘡の程度とそのケア方法	久住
	第16回 在宅看護過程の展開1（演習） 中間テスト、生活の場における看護過程の特徴と展開方法	山野・反町
	第17回 在宅看護過程の展開2（演習） 模擬事例の説明、情報収集、アセスメント、記録の書き方	山野・反町
	第18回 在宅看護過程の展開3（演習） 事例の情報収集・整理、アセスメント	山野・反町
	第19回 在宅看護過程の展開4（演習） 事例の長期目標設定、看護問題抽出	山野・反町



	<p>第20回 在宅看護過程の展開5 (演習) 看護問題抽出、看護計画立案</p> <p>第21回 在宅看護過程の展開6 (演習) グループ発表 長期目標、看護問題</p> <p>第22回 在宅看護過程の展開7 (演習) グループ発表 看護過程の見直し</p> <p>第23回 在宅看護過程の展開8 (演習) 事例の療養生活の場、生活の希望にそった看護計画立案</p> <p>第24回 在宅看護過程の展開9 (演習) 事例の療養生活の場、生活の希望にそった看護計画立案</p> <p>第25回 在宅看護過程の展開10 (演習) 看護計画にそった訪問看護のシナリオ作成</p> <p>第26回 在宅看護過程の展開11 (演習) 看護計画にそった訪問看護のシナリオ作成</p> <p>第27回 在宅看護過程の展開12 (演習) 事例の訪問看護の実施 ロールプレイ発表</p> <p>第28回 在宅看護過程の展開13 (演習) 事例の訪問看護の実施 ロールプレイ発表、評価</p> <p>第29回 在宅看護過程の展開14 (演習) ロールプレイ訪問看護実施の評価、グループワーク、発表</p> <p>第30回 在宅看護過程の展開15 (演習) 私が理想とする訪問看護師像とは グループワーク、レポート</p>	<p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p>
科目の目的	<p>「技能・表現」 在宅療養者や家族の「希望する生活を」実現するために必要な日常生活援助技術および人工呼吸器装着など特殊な医療技術が必要な療養者・家族に対する在宅看護の展開方法と看護支援を学ぶ。また習得した在宅看護の知識・技術を応用し模擬事例に対し、在宅療養者の「生活の場」の特徴を踏まえた看護過程の展開の実施・実施した在宅看護の評価ができる。</p>	
到達目標	<p>1. 在宅療養支援に関わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための看護方法を説明することができる。</p> <p>2. 在宅の場における日常生活援助について具体的に述べるができる。</p> <p>3. 特殊な医療処置・管理について具体的に述べるができる。</p> <p>4. 家族に対する看護の方法について具体的に述べるができる。</p> <p>5. 生活の場における特徴を踏まえた看護過程を展開し、ロールプレイで演じた内容を評価することができる。</p>	
関連科目	<p>在宅看護学概論、在宅看護方法論 I、看護学概論 I、看護援助学概論、看護学概論 II、日常生活援助学演習、看護過程論、治療援助学演習、看護過程論演習、看護援助学総合演習、成人看護学総論、成人看護学概論、成人看護方法論 I、成人看護方法論 II、成人看護学演習、老年看護学総論、老年看護方法論 I、老年看護方法論 II、老年看護学演習、小児看護学総論、小児看護方法論、小児看護学演習、精神看護学総論、精神保健、精神看護方法論、精神看護学演習、社会福祉・社会保障制度論、</p>	
成績評価方法・基準	<p>中間試験 (10%)、課題レポート (20%) 定期試験 (70%)</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>1. 在宅看護概論および在宅看護方法論 I の復習が必要であり、特に社会資源の活用方法や多職種連携・協働における看護師の役割について復習をしておくこと。</p> <p>2. 基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学で学んだ看護方法の復習をしておくこと</p> <p>3. 特殊な技術を要する在宅看護では、対象となる基礎疾患の知識が基盤になるので事前学習をして基礎疾患を理解したうえで講義に臨んでほしい。(準備学習として各講義につき、1時間程度の予習復習をしてほしい) これは在宅看護過程の展開をする上でも同様なことが求められるため、事前学習の内容は前もって告知する。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子 (医学書院) 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子 (メディカ出版)</p> <p>参考書：「写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ」押川真喜子 (インターメディカ) 「看護診断ハンドブック」 (医学書院)</p>	
オフィス・アワー	<p>専任教員：金曜日12:10~13:00 (山野研究室) 金曜日12:10~13:00 (反町研究室) 非常勤講師：当該講師の講義終了後または授業の休憩時間 (場所：教室または非常勤講師控室)</p>	
国家試験出題基準	<p>在宅看護論 II 4-A-a~e、4-B-a~f、4-C-a,b、4-D-a~d、5-A-a~c、5-B-a~d、5-C-a~d、 5-D-a~f、5-E-a~d、6-A-a~c、6-B-a~c、6-C-a~c、6-D-a~c、2-A-a~g、 2-B-a~d、7-A-a~c、7-B-a、7-C-a~d、7-D-a~e、 7-E-a~c、7-F-a~e、7-G-a~e、7-H-a~c、11-H-c、1-E-a~c</p>	

履修条件・履修上の注意	事前学習については、模擬事例について①情報収集の整理 ②アセスメント ③看護問題抽出、長期看護目標について、課題を課す。課題のフィードバックについては、グループ演習の発表日にその内容を提示する。また講義については、前週の講義内容にそった国家試験類似問題を課す。当該講義日に課題の正当と抑えておきたいポイントを示す。
-------------	---

講義科目名称：臨床看護管理学

授業コード：3N109

英文科目名称：Clinical Nursing Administration and Policies

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 一美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 看護とマネジメント（講義） 管理とは何か、看護マネジメントの基礎、看護管理過程、組織管理を理解する。</p> <p>第2回 マネジメントに必要な知識と技術（講義） マネジメントプロセスと、リーダーシップとメンバーシップ、組織調整について理解する。</p> <p>第3回 看護ケアのマネジメント：患者の権利の尊重と看護業務（講義） 看護ケアの対象の権利の尊重と安全管理との関係を考える。また、チーム医療として看護職同士及び他職種との連携を理解した上で、看護業務の内容及びマネジメントの必要性を考える。</p> <p>第4回 看護ケアのマネジメント：医療安全とチーム医療（講義） 看護職だけではなく多職種で協働するチームとしての医療安全管理を考える。</p> <p>第5回 看護サービスのマネジメント：組織としての看護サービス（講義） 組織の考え方や、組織づくりの基本を理解する。</p> <p>第6回 看護サービスのマネジメント：人材、施設・設備、物品のマネジメント（講義） 看護サービス提供のしくみ作りを理解し、人的・物的・財的管理を考える。</p> <p>第7回 看護職のキャリアマネジメント（講義） キャリアに関連する言葉の概念を理解する。また、看護職として成長するためにキャリア開発について考える。</p> <p>第8回 看護を取り巻く諸制度（講義） 統合実習で学ぶ看護管理の実際を制度や法的根拠と結びけて考える。</p>	<p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p> <p>萩原 一美</p>
科目の目的	<p>看護管理は、これまで病院の看護師長など管理者になるうとする者だけが学ぶものという理解だったが、看護職の活躍の場が医療機関だけでなく、地域の保健医療福祉の場へと拡大したため、その知識と技術は、看護管理者だけでなく看護実践者にも必要とされている。看護職は、医療チームや組織・システムの中で新しいヘルスケアシステムを創造し展開するマネジメントを期待されている。本科目では、マネジメントの基本である人的資源、物的資源、財的資源を理解し、チーム医療の中で看護職同士の協働、他職種との連携、医療安全について考察する。これらの理論と4年次配当の総合実習と結び付け理解を深める。さらに、生涯看護職として成長し続けるためのキャリアマネジメントについても学ぶ。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理の定義と概念構成・基本的構成要素、歴史的変遷について理解する。</li> <li>2. 看護マネジメントに活用する理論を理解する。</li> <li>3. 看護サービスのマネジメントの目的、仕組みづくり、人的・物的・財的管理を理解する。</li> <li>4. 看護を取り巻く諸制度と法的根拠を土台として、看護ケアと医療安全管理、チーム医療を考察し、課題を発見する。</li> <li>5. 看護職のキャリアマネジメントの必要性を理解し、自らの看護職としてのキャリア開発を考察する。</li> </ol>	
関連科目	看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、法学、多職種理解と連携、	
成績評価方法・基準	筆記試験 100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各コマ 事前学習として30分、事後学習として30分の学習時間を必要とする。	
教科書・参考書	<p>教科書：ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践① 看護管理. 村島さい子, 加藤和子, 瀬戸口要子編：メディカ出版</p> <p>参考書： 看護管理学習テキスト1～8・別巻. 井部俊子, 中西睦子監：日本看護協会出版会 系統看護学講座 統合分野「看護管理」上泉 和子他, 小山 秀夫他 著：医学書院</p>	
オフィス・アワー	【萩原（一）研究室】授業日及び水曜日（12：10～12：50）	
国家試験出題基準	<p>【看護師】 《必修問題》 I-4-Ba<sup>~</sup>e, I-4-Ca<sup>~</sup>c, I-5-Aa<sup>~</sup>d, I-5-Ba<sup>~</sup>b. II-9-A-d, B-be. IV-15-B-e.</p> <p>《健康支援と社会保障制度》 I-1-Ce<sup>~</sup>f. II-4-Bb<sup>~</sup>c, 5-Bf.</p> <p>《基礎看護学》 I-1-A-bc. I-1-D-b<sup>~</sup>c. 2-C-c. III-6-A-abc.</p> <p>《看護の統合と実践》 I-1-A-a<sup>~</sup>c, B-a<sup>~</sup>h, C-a<sup>~</sup>e, D-a<sup>~</sup>d, E-a<sup>~</sup>c, F-a<sup>~</sup>e, G-ab. III-3-B-a, C-ab.</p> <p>IV-4-A~J.</p>	

履修条件・履修上の注意	事前に提示したテーマでディスカッションを行うので、発言できるように自分の考えをもって授業に臨むことを期待する。
-------------	---

講義科目名称：災害看護論

授業コード：3N110

英文科目名称：Disaster Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
矢島 正栄	矢嶋 和江		

授業形態	講義、演習	担当者
授業計画	第1回 災害医療・災害看護 1) 災害医療・災害看護の目的 2) 災害看護と倫理 倫理的視点で考えよう…致死的感染症発生時の対応について倫理的視点で、考えよう。	矢嶋和江
	第2回 災害の種類と災害サイクル 1) 災害の種類 種類別の健康障害及びその特徴 2) 災害サイクル別災害対策と看護の役割 災害初期～中長期の看護活動	矢嶋和江
	第3回 災害に関連する法と諸制度 1) 災害医療に関する国の政策 防災計画と医療計画 大規模災害におけるハザード 2) 災害医療に関する法律 被災者支援に関する法制度 災害時医療活動の法的根拠 トリアージの倫理的側面と法的側面	矢嶋和江
	第4回 災害時の支援体制ー日本の災害救援の体制、国際救援活動ー 1) 災害拠点病院とDMAT 2) 災害看護師派遣体制：災害支援ネットワーク（看護協会） 3) 国際救援とその仕組み 4) 国外の被災地における支援活動の特性	矢嶋和江
	第5回 災害時の危機管理 1) 病院防災の考え方・BCP 災害被害の軽減対策と防災マニュアル 災害発生時の入院患者管理・避難誘導 多死傷者受け入れのための準備 被災施設職員の健康管理と災害ボランティアの受入れ 2) 健康危機管理（感染症対策） 発表：みんなで考えよう	矢嶋和江
	第6回 原子力災害と看護 1) 放射線災害の基礎 2) 被ばくによる身体への影響 3) 原子力災害時の対応について 減災に向けて、あなたができることは何ですか？	矢嶋和江
	第7回 災害時の保健活動1 1) 防災に関する地方自治体の責務 2) 災害に対応した保健活動の基本 3) 発災直後から応急対策期の保健活動 避難所・在宅での健康課題と対応	矢島正栄
	第8回 災害時の保健活動2 1) 災害復旧・復興期の保健活動 二次的健康障害への対応、コミュニティ再構築への支援 2) 災害準備期の保健活動 防災・減災対策、要支援者対策	矢島正栄
科目の目的	災害の種類や経時的な医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として災害各期における適切な被災者支援活動ができるための基礎的な知識を学ぶ。また、支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害を人道的な視点から考える。【知識・理解】	
到達目標	1. 災害の定義及び災害看護実践上の倫理的概念を説明できる。 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時変化を説明できる。 3. 災害時の支援体制と医療体制について説明できる。 4. トリアージの概念に基づいた判断と、適切な応急処置・ケアリングができる。 5. 災害の種類、発生地域、避難者の置かれた状況等によってどのような健康問題が発生するのかを説明できる。 6. 地方自治体における災害時の保健師の役割を説明できる。	

関連科目	臨床看護管理学、公衆衛生看護管理学、地域保健行政
成績評価方法・基準	試験（60％）、レポート（10％）、演習内容及び演習レポート（30％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を読み、自分にとって災害と災害看護を学ぶ目的を600-800字程度にまとめ、事前に提出していただきます。詳細はアクティブアカデミーで連絡します。</li> <li>・感染症パンデミックや頻発する気象災害の現状などを積極的に調べ、防災や減災のあり方について考えを整理しておいてください。また、各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書 看護の統合と実践③「災害看護」酒井明子 他 MCメディカ出版</p> <p>参考書 「多職種連携で支える災害医療」小井土雄一 他 医学書院 「放射線を怖がらない看護職であるために 看護と放射線」 日本アオソトープ協会 丸善出版 「看護者の基本的責務」手島恵 日本看護協会出版会 「裁判例から読み解く看護師の法的責任」荒井俊行 他 日本看護協会出版会</p>
オフィス・アワー	<p>矢島正栄：月～金 17:00～18:00</p> <p>矢嶋和江：授業の前後</p>
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準      ≪公衆衛生看護学概論≫ 3-B-c, d      ≪健康危機管理≫ 3-A, B, C, D, E</p> <p>看護師国家試験出題基準      ≪必修問題≫ IV-16-J      ≪小児看護学≫ II-10-G      ≪精神医学≫ I-1-D      ≪看護の統合と実践≫ II-2-A, B, C</p>
履修条件・履修上の注意	講義資料は原則として講義2日前から1週間の間Active Academyにより配布します。印刷して持参してください。

講義科目名称：国際看護論

授業コード：3N111

英文科目名称：International Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
辻村 弘美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス及び国際看護総論1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の概念</li> <li>2. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで</li> <li>3. 日本の国際協力の流れ 二国間援助（無償資金協力, 技術協力, 有償資金協力）と多国間援助</li> <li>4. 国際協力に関わる機関、GO、NGO、その他の援助機関の役割（JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEFなどについて）</li> <li>5. 最近の国際協力の動向について</li> </ol> <p>第2回 国際看護総論2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の必要性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のさまざまな格差</li> <li>・わが国が受けた支援</li> <li>・開発協力大綱（ODA大綱）の基本理念と原則</li> </ul> </li> <li>2. 保健医療の現状への対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義</li> </ul> </li> </ol> <p>第3回 途上国における健康問題1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先進国と開発途上国について</li> <li>2. 貧困とは</li> <li>3. 栄養問題、環境問題</li> </ol> <p>第4回 国際保健医療活動の実際1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 途上国での医療活動、NGOワーカー</li> </ol> <p>第5回 途上国における健康問題2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症コントロール（HIV/AIDS、マラリア、下痢症、結核）</li> <li>2. リプロダクティブヘルス/ライツ</li> </ol> <p>第6回 国際保健医療活動の実際2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年海外協力隊活動について</li> </ol> <p>第7回 グローバル社会と国際看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師の受け入れ問題など</li> </ol> <p>第8回 ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）、国際看護協力への道</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）</li> <li>2. 国際医療協力に必要な資質、国際医療協力への道</li> </ol>	<p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p> <p>辻村 弘美</p>
科目の目的	国際協力や国際看護の概念や意義などを理解し、国際保健医療という視点において国際看護や国際協力などのあり方について考える。カリキュラムマップの「関心・意欲」に該当する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の概念や必要性が理解できる</li> <li>2. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる</li> <li>3. 諸外国における健康問題や看護の現状が理解できる</li> <li>4. 日本や諸外国で自分ができると国際看護活動とは何かを考えることができる</li> </ol>	
関連科目	専門基礎科目—公衆衛生学、疫学・保健統計 専門科目—災害看護論	
成績評価方法・基準	試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	国際協力等の宿題を出すことがあります（学習時間30分程度） また、日常生活の中で国際保健や国際看護に関する報道について興味をもっていただきたい	
教科書・参考書	教科書：国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（看護学テキストNiCE）（南江堂） 参考書：「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院） 医者はいないところで 村のヘルスケア手引書 デビッド・ワーナー（シェア） 世界子供白書（ユニセフ）等	
オフィス・アワー	授業前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準	<b>【看護の統合と実践】</b> III-3-A-a～d III-3-B-a, d III-3-C-a, b	

	Ⅲ-3-D-a～d
履修条件・履修上の注意	なし



講義科目名称：公衆衛生看護学概論

授業コード：3N112

英文科目名称：Introduction to Public Health Nursing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
矢島 正栄	廣田 幸子	中下 富子	

授業形態	講義 (28回)、演習 (2回)	担当者
授業計画	第1回 公衆衛生看護の基本的な考え方 「公衆衛生」と「公衆衛生看護」、「地域看護」と「公衆衛生看護」 公衆衛生看護の理念と目的	矢島 正栄
	第2回 公衆衛生看護の場 公衆衛生看護の主な活動の場	矢島 正栄
	第3回 公衆衛生看護活動の特質 (演習) 公衆衛生看護活動の実践例を題材に、レポート課題への取り組みとグループワーク をとおして公衆衛生看護活動の特質を考える。	矢島 正栄
	第4回 公衆衛生看護活動の特質 (演習)	矢島 正栄
	第5回 公衆衛生看護の対象 個人 公衆衛生看護の対象である個人の捉え方、個人に対する公衆衛生看護活動の特徴	矢島 正栄
	第6回 公衆衛生看護の対象 家族 公衆衛生看護の対象である家族の捉え方、家族に対する公衆衛生看護活動の特徴	矢島 正栄
	第7回 公衆衛生看護の対象 集団・地域 公衆衛生看護の対象である集団・地域の捉え方、集団・地域を対象とする公衆衛生 看護活動の特徴	矢島 正栄
	第8回 公衆衛生看護の対象 現代の人々の健康課題 現代人々の生活と健康課題	矢島 正栄
	第9回 公衆衛生看護の対象 現代の人々の健康課題 現代の主要な健康課題と対策	矢島 正栄
	第10回 公衆衛生看護活動の方法 健康相談	矢島 正栄
	第11回 公衆衛生看護活動の方法 家庭訪問、健康診査	矢島 正栄
	第12回 公衆衛生看護の活動方法 健康教育、地区組織活動支援	矢島 正栄
	第13回 公衆衛生看護の活動方法 地域診断	矢島 正栄
	第14回 公衆衛生看護の歴史 英国、米国における公衆衛生看護の萌芽 日本の公衆衛生看護の歴史1	矢島 正栄
	第15回 公衆衛生看護の歴史 日本の公衆衛生看護の歴史2	矢島 正栄
	第16回 公衆衛生看護と法律、職業倫理 講習英紙間看護と法律 公衆衛生看護と職業倫理	矢島 正栄
学校保健		
第1回	児童生徒の心身の健康課題	中下 富子
第2回	学校における健康教育	中下 富子
第3回	学校保健に関する法規とシステム	中下 富子
第4回	保健室の機能と役割	中下 富子
第5回	児童生徒の健康評価と疾病予防	中下 富子
第6回	児童生徒の心の健康問題への対応	中下 富子
第7回	学校環境衛生及び学校給食	中下 富子

	<p>第8回 学校における救急処置と学校安全</p> <p>産業保健</p> <p>第1回 産業保健・看護の考え方と我が国における変遷 産業保健の目的と定義、産業看護の定義と役割、産業保健・看護の歴史</p> <p>第2回 産業保健活動を推進するための体制 労働衛生行政、法体系、管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム</p> <p>第3回 産業保健の現状と健康課題 労働災害と業務上疾病の発生状況、労働者の健康状態</p> <p>第4回 産業保健活動の基本 総括管理、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育</p> <p>第5回 産業看護活動の実際① 職業性疾病及び作業関連疾患と予防対策、過重労働対策、メンタルヘルスクエア対策</p> <p>第6回 産業看護活動の実際② 職場巡視、多様化する労働者への対応、地域・職域連携活動</p>	<p>中下 富子</p> <p>廣田 幸子</p> <p>廣田 幸子</p> <p>廣田 幸子</p> <p>廣田 幸子</p> <p>廣田 幸子</p> <p>廣田 幸子</p>
科目の目的	公衆衛生看護の概念と役割、地域の人々の健康課題と公衆衛生看護活動の方法について理解し、これからの公衆衛生看護の役割を展望する。【知識・理解】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の理念と歴史の変遷を説明できる。</li> <li>2. 公衆衛生看護の対象である個人、家族、集団、地域について説明できる。</li> <li>3. 公衆衛生看護活動の法的根拠を説明できる。</li> <li>4. 公衆衛生看護の活動方法を説明できる。</li> <li>5. 現代の我が国における人々の健康課題について説明できる。</li> <li>6. 公衆衛生看護活動の場の特徴を説明できる。</li> <li>7. 公衆衛生看護活動の倫理について説明できる。</li> </ol>	
関連科目	<p>教養科目群：心身の発達の各科目、人と生活及び社会の仕組みの各科目</p> <p>専門基礎科目群：地域科目群の各科目</p> <p>専門科目群の各科目</p>	
成績評価方法・基準	<p>公衆衛生看護学概論（担当：矢島） 試験70%、レポート20%、演習の観察評価10%</p> <p>学校保健（担当：中下） 試験100%</p> <p>産業保健（担当：廣田） 試験100%</p> <p>それぞれについて評価します。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき1時間程度の準備学習を求めます。	
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」奥山則子 他（医学書院）</p> <p>「国民衛生の動向2019/2020」（財団法人厚生統計協会）</p> <p>（学校保健）</p> <p>「編集 衛藤隆・岡田加奈子 改訂8版 学校保健マニュアル」（南山堂）</p> <p>「国民衛生の動向2019/2020」（財団法人厚生統計協会）</p> <p>（産業保健）</p> <p>標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）</p> <p>参考書</p> <p>（産業看護）</p> <p>公衆衛生看護学テキスト 4 公衆衛生看護活動Ⅱ学校保健・産業看護（医歯薬出版株式会社）</p> <p>産業看護学2017年版（日本看護協会出版会）</p>	
オフィス・アワー	<p>矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00</p> <p>中下富子・廣田幸子：講義の前夜</p>	
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準</p> <p>《公衆衛生看護学概論》 1-A, B, C 2-A, B 3-A, B 4-A, B, C 5-A, B, C</p> <p>《学校保健・産業保健》 1-A, B, C, 2-A, B, C, D, E 3-A, B, C 4-A, B, C</p> <p>《公衆衛生看護方法論Ⅰ》 1-A, B, C 2-A, B, C, D</p> <p>《公衆衛生看護管理論》 3-A</p> <p>《保健医療福祉行政論》 1-B-a, b</p> <p>看護師国家試験出題基準</p> <p>《必修問題》 2-A-f, i 2-C 8-A, B 9-A-f, g, h, i, j</p> <p>《疾病の成り立ちと回復の促進》 1-A 2-A, B</p> <p>《健康支援と社会保障制度》 1-A, B, C 2-A, B 3-A, B 10-A, B, C, D, E 11-A, B</p>	
履修条件・履修上の注意	講義資料は原則として講義2日前から1週間の間Active Academyにより配布します。印刷して持参してください。	

講義科目名称：公衆衛生看護方法論

授業コード：3N113

英文科目名称：Public Health Nursing Methods

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
廣田幸子	桐生育恵		

授業形態	講義（オムニバス方式）21コマ及び演習9コマ		担当者
授業計画	第1回	公衆衛生看護の支援技術 1	廣田幸子
	第2回	公衆衛生看護の支援技術 2	廣田幸子
	第3回	面接技術 1：面接技術の基本	廣田幸子
	第4回	面接技術 2：面接技術演習	廣田幸子
	第5回	健康相談 1：健康相談の基本姿勢、場の特徴、対象	廣田幸子
	第6回	健康相談 2：健康相談の展開方法	廣田幸子
	第7回	健康相談 3：演習 1 相談的対応 1 事例における相談的対応の検討①	廣田幸子
	第8回	健康相談 4：演習 2 相談的対応 2 事例における相談的対応の検討②	廣田幸子
	第9回	健康教育 1：健康教育の理念	廣田幸子
	第10回	健康教育 2：健康教育の目的・対象・方法	廣田幸子
	第11回	健康教育 3：健康教育に用いられる理論 1	廣田幸子
	第12回	健康教育 4：健康教育に用いられる理論 2	廣田幸子
	第13回	家族保健指導 1：家族の発達課題、家族の持つ保健機能	廣田幸子
	第14回	家族保健指導 2：家族の問題把握と診断、家族支援	廣田幸子
	第15回	家族保健指導 3：演習 1 家族の保健指導計画立案① 家族の健康課題の抽出及び目的・目標の設定①	廣田幸子
	第16回	家族保健指導 4：演習 2 家族の保健指導計画立案② 家族の健康課題の抽出及び目的・目標の設定②	廣田幸子
	第17回	家族保健指導 3：演習 1 家族の保健指導計画立案③ 保健指導計画の立案①	廣田幸子
	第18回	家族保健指導 4：演習 2 家族の保健指導計画立案④ 保健指導計画の立案②	廣田幸子
	第19回	家族保健指導 5：演習 3 家族の保健指導計画立案⑤ 教育媒体の作成①	廣田幸子
	第20回	家族保健指導 6：演習 4 家族の保健指導計画立案⑥ 教育媒体の作成②	廣田幸子
	第21回	健康教育 5：健康教育の展開	廣田幸子
	第22回	健康教育 6：健康教育計画と指導案	廣田幸子
	第23回	健康教育 7：健康教育の実際	廣田幸子
	第24回	健康教育 8：健康教育の評価	廣田幸子
	第25回	検診・健康診査 1：健康診査の意義、目的、対象	桐生育恵
	第26回	検診・健康診査 2：健康診査の方法	桐生育恵
	第27回	家庭訪問 1：家庭訪問の意義と目的、対象	廣田幸子
	第28回	家庭訪問 2：家庭訪問の展開、事後処理	廣田幸子
	第29回	地域組織活動 1：地域組織活動の意義と目的、実際	廣田幸子

	第30回 地域組織活動2：地域組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方	廣田幸子
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地域組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。【思考・判断】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康相談、健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた保健指導を実施できる。</li> <li>2. 家庭訪問の意義、目的とプロセス（準備・実施・評価）を説明できる。</li> <li>3. 健康教育の概念と理論、個人及び集団を対象に健康教育を実施する際のプロセスと方法を説明できる。</li> <li>4. 地域組織活動の意義、活用される理論と支援方法を説明できる。</li> </ol>	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護技術演習、公衆衛生看護活動展開論、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理、公衆衛生看護学実習、カウンセリング	
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習/レポート(50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	健康相談演習事例に関する事前学習(2.5時間)、家族への保健指導計画作成-実施-評価(10時間)	
教科書・参考書	【教科書】「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術(第3版)」中村裕美子 他 (医学書院)	
オフィス・アワー	廣田 幸子 12:10～13:00 桐生 育恵 12:10～13:00	
国家試験出題基準	【保健師】≪公衆衛生看護方法論Ⅰ(個人・家族・グループ支援方法論)≫1-A, B, C 2-A-a, b, c D-a, b, c 3-A, B, C 4-B, C, D, E, F 5-B, C, D, E, F ≪公衆衛生看護方法論Ⅱ(地域組織・地域への支援、事業化と施策化)≫4-A, B	
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者は履修すること。 Active Academyにより資料を事前配付する(授業2日前から当該日まで)ので、各自印刷して授業に持参すること。	



国家試験出題基準	《公衆衛生看護方法論Ⅰ》1-A, B 2-B, C, D 3 4-B, C, F 5-B, C, F 《対象別公衆衛生看護活動論》1-C 2-B
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修者のみ履修可能



	<p>第23回 地域診断演習15：対策の検討・年間活動計画3 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。</p> <p>第24回 地域診断演習16：対策の検討・年間活動計画4 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。</p> <p>第25回 地域診断演習17：保健事業（実施）計画1 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。</p> <p>第26回 地域診断演習18：保健事業（実施）計画2 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。</p> <p>第27回 地域診断演習19：保健事業（実施）計画3 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。</p> <p>第28回 地域診断演習20：報告・検討会準備 健康課題抽出～保健事業計画立案までのプロセスをまとめて、発表する準備を行う。</p> <p>第29回 地域診断演習21：地域保健活動計画報告・検討会1 作成した資料を提示しながら、地域診断ならびに保健事業計画立案のプロセスを報告する。</p> <p>第30回 地域診断演習22：地域保健活動計画報告・検討会2 作成した資料を提示しながら、地域診断ならびに保健事業計画立案のプロセスを報告する。</p>	<p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生</p> <p>小林・廣田・桐生・矢島</p> <p>小林・廣田・桐生・矢島</p>
科目の目的	地域を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を説明できる。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割について理解を深める。【思考・判断】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の特性と健康課題を捉え、優先順位をつけることができる。</li> <li>2. 健康課題に対する解決・改善に向けた目的・目標を設定できる。</li> <li>3. 目標達成の手段を明確にし、年間活動計画・保健事業計画を立案できる。</li> <li>4. 地域の健康管理における関係機関、関係職種との連携の必要性と方法を説明できる。</li> <li>5. 評価の項目・方法・時期を設定できる。</li> </ol>	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護技術演習、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理、公衆衛生看護学実習、疫学、保健統計、社会福祉・社会保障制度論	
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習課題(50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	第1回～8回までの授業資料を、前日午前中までにアクティブアカデミーにアップします。印刷して授業に持参してください。講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。演習では、前回の課題目標までは到達していることを求めます。準備学習に必要な学習時間として1～8回目（講義）は30分/回、9回目以降（演習）は90分/回を要します。	
教科書・参考書	教科書：「最新保健学講座5公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社） 教科書：「国民衛生の動向2019/2020」（財団法人厚生統計協会）	
オフィス・アワー	小林、廣田、桐生、矢島：月～金 12:10～13:00、16:10～18:00	
国家試験出題基準	≪公衆衛生看護学概論≫3-A, B 4-A, b, C 5-A～E ≪公衆衛生看護方法論Ⅰ≫1～5 ≪公衆衛生看護方法論Ⅱ≫1～6 ≪保健医療福祉行政論≫1～7	
履修条件・履修上の注意	保健師国家試験受験資格取得のための要件科目	



講義科目名称：対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ

授業コード：3N116

英文科目名称：Public Health Nursing ActivitiesⅠ

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
桐生 育恵	奥野みどり		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 母子保健の動向① 母子保健の理念と変遷	桐生育恵
	第2回 母子保健の動向② 我が国の母子保健の水準	桐生育恵
	第3回 母子保健の動向③ 母子保健施策の概要	桐生育恵
	第4回 母性各期の健康課題と支援① 思春期における保健師活動	桐生育恵
	第5回 母性各期の健康課題と支援② 妊娠・分娩・産褥期における保健師活動	桐生育恵
	第6回 母性各期の健康課題と支援③ 子育て期における保健師活動	桐生育恵
	第7回 母性各期の健康課題と支援④ 更年期における保健師活動	桐生育恵
	第8回 乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援① 乳幼児期の成長・発達と生活	桐生育恵
	第9回 乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援② 乳幼児期の健康課題と保健師の支援	桐生育恵
	第10回 乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援③ 予防接種、事故予防	桐生育恵
	第11回 乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援④ 地域の子育て支援体制づくり	桐生育恵
	第12回 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援① 障害児支援対策と保健指導	桐生育恵
	第13回 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援② 発達障害児に対する支援	奥野みどり
	第14回 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援③ 心身障害児等に対する支援	桐生育恵
	第15回 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援④ 虐待予防活動	桐生育恵
科目の目的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識を習得する。【知識・理解】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母子保健活動の理念と目的を説明できる。</li> <li>母性が抱える健康課題の支援の方法を説明できる。</li> <li>我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割を説明できる。</li> </ol>	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学方法論、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学総論、母子の健康支援、母性看護学演習、小児看護学総論、小児看護学方法論、小児看護学演習、精神看護学総論	
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、課題提出物(30%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生学概論、公衆衛生看護学方法論、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかりと定着させて臨んでください。</li> <li>教科書の各回講義内容に該当するところを読んでから授業に臨んでください。</li> </ul> 準備学習時間の目安：1コマあたり1時間	
教科書・参考書	教科書 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院)</li> <li>国民衛生の動向 2019/2020(厚生労働統計協会)</li> </ul>	
オフィス・アワー	昼休み・講義終了後	
国家試験出題基準	<b>【保健師】</b> ≪対象別公衆衛生看護活動論≫ I-A~F <b>【助産師】</b> ≪地域母子保健≫ I-1-A, B, I-2-A, B II-3-A, B, C, D	
履修条件・履修上の注意	保健師・助産師課程履修希望者は、履修すること。	

講義科目名称：対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ

授業コード：3N117

英文科目名称：Public Health Nursing Activities II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
廣田幸子	一場美根子		

授業形態	講義（オムニバス方式）15コマ	担当者
授業計画	<p>第1回 成人保健活動1 成人期の健康と健康課題、保健活動の進め方</p> <p>第2回 成人保健活動2 生活習慣病の保健指導</p> <p>第3回 成人保健活動3 特定健康診査・特定保健指導</p> <p>第4回 成人保健活動4 自殺予防・こころの健康の保健指導、 がん対策</p> <p>第5回 成人保健活動5 口腔・歯科保健指導</p> <p>第6回 高齢者保健活動1 要支援・要介護者、介護予防対策、 複数の疾患を抱える高齢者、独居・高齢者のみの世帯への支援</p> <p>第7回 高齢者保健活動2 認知症高齢者、終末期にある高齢者の支援、高齢者虐待への支援</p> <p>第8回 感染症保健活動1 感染症対策の予防と発生時の対応 (新興・再興感染症、HIV感染症・エイズ・性感染症、腸管出血性大腸菌感染症、肝炎)</p> <p>第9回 感染症保健活動2 結核対策と保健活動</p> <p>第10回 難病保健活動 難病対策と保健活動</p> <p>第11回 障害者(児)保健活動 障害者(児)の保健活動</p> <p>第12回 地域精神保健福祉活動1 ライフステージからみたこころの問題 社会病理を背景とする精神的問題</p> <p>第13回 地域精神保健福祉活動2 地域精神保健福祉活動と保健師の役割 地域保健福祉活動の実際(1) ～個別支援を中心に～ 精神障害者の生活のとらえ方と支援</p> <p>第14回 地域精神保健福祉活動3 地域保健福祉活動の実際(1) ～個別支援を中心に～ 精神保健福祉相談と家庭訪問指導</p> <p>第15回 地域精神保健福祉活動4 地域保健福祉活動の実際(2) ～個別支援から地域全体への支援へ～ 実践場面から学ぶ：統合失調症患者と高齢の親への支援 社会資源のない地域での作業所設立に向けた活動</p>	<p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>廣田幸子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p> <p>一場美根子</p>
科目の目的	<p>公衆衛生看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、感染症対策、難病対策、障害者保健についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識を習得する。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 成人、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者(児)に関する保健活動の理念と目的が説明できる。</p> <p>2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法を説明できる。</p> <p>3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が説明できる。</p>	
関連科目	<p>免疫・感染症学、発達心理学、公衆衛生学、疫学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、栄養学、歯科保健、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅱ、クリティカルケア看護論、老年看護学総論、老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、精神保健、精神看護学総論、精神看護学方法論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学方法論、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ～Ⅱ、公衆衛生看護展開論、公衆衛生看護学実習</p>	

成績評価方法・基準	定期試験100% 各領域の点数配分；成人/高齢者保健/難病対策/感染対策(結核対策)/障害者保健活動70%、 精神保健活動30%
準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	各回の講義内容について教科書及び国民衛生の動向を事前に読み、不明点を明らかにしておくこと。 また教科書に記述のある疾患に関する病態生理、疾患の発生機序等について復習しておくこと。 (約45分)
教科書・参考書	教科書「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) 教科書「国民衛生の動向2018/2019」(厚生統計協会)
オフィス・アワー	廣田幸子 12:10~13:00 一場美根子 講義時間の前後(場所：公衆衛生看護学教員研究室)
国家試験出題基準	【保健師】 《対象別公衆衛生看護活動論》 2-A-a. b. c、B-a. b. c. d. e. f. g、3-A-a. b、B-a. b. c. d. e. f. g. h. i、4-A-a. b. c、 B-a. b. c. d. e. f. g. h. i、C-a. b. c. d. e. f. g. h. i、5-A-a. b. c. d、B-a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k、 6-A-a. b、 B-a. b. c. d. e. f. g. h. i. j、7-A-a. b. c. d、B-a. b. c. d. e. f、C-a. b. c. d. e. f、D-a. b. c、8-A-a. b. c、 B-a. b. c. d 《健康危機管理》 6-A-a. b. c、B-a. b. c、C-a. b
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者は履修すること。 【廣田講義分】Active Academyにより資料を事前配付する(授業2日前から当該日まで)ので、各自印刷して授業に持参すること。

講義科目名称：公衆衛生看護管理

授業コード：3N118

英文科目名称：Public Health Nursing Administration

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
矢島 正栄			

授業形態	講義（7回）、演習（1回）		担当者
授業計画	第1回	公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の意義、公衆衛生看護管理の特色、公衆衛生看護管理の諸相	矢島
	第2回	情報管理 健康関連情報の収集・管理・発信、個人情報取り扱い、情報公開、地域における情報ネットワークの構築	矢島
	第3回	組織運営・管理 組織の目的、組織運営の基本、地方自治体における組織の仕組み・権限・意思決定と指示系統、事業の計画と運営、施策化のプロセス	矢島
	第4回	予算管理 国および地方自治体における予算の仕組みと保健衛生関係予算の実際、予算の確保と執行	矢島
	第5回	人事管理・人材育成 人事管理の目的、人員確保・適材配置・労務管理の実際、人事評価、人材育成方針、現職教育の計画と方法の実際	矢島
	第6回	地域ケアシステムづくり、地域ケアの質保証 地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの発展過程と保健師の役割 地域情報の管理、サービス提供機関のアセスメント、関係者との連携・協働、社会資源の開発	矢島
	第7回	地域における健康危機管理 健康危機管理とは、健康危機管理の体制と保健師の活動	矢島
	第8回	地域における健康危機管理（演習） 健康危機管理の実際	矢島
科目の目的	公衆衛生看護の目的を達成するために必要な公衆衛生看護管理の意義と目的、仕組みを理解することを目的とする。公衆衛生看護活動の公正で発展的な遂行を支える組織運営・管理、事業・業務管理、人事管理・人材育成、予算管理、情報管理に関する基本的な事柄を学び、また、人々が健康で暮らしやすい地域をつくるための地域管理の立場から、地域ケアの質保証、健康危機管理、地域ケアシステムについて学ぶ。【知識・理解】		
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の意義と特色を説明できる。 2. 公衆衛生看護管理における情報管理、組織管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理・人材育成の基本的考え方と方法を説明できる。 3. 地域ケアの質保証、地域における健康危機管理、地域ケアシステムづくりの意義、目的、保健師の役割を説明できる。		
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論、災害看護		
成績評価方法・基準	定期試験70%、レポート20%、演習の観察評価10%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。		
教科書・参考書	教科書 「標準保健学講座1 公衆衛生看護学概論」（医学書院）  参考書 なし		
オフィス・アワー	月～金 16:30～18:00		
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 《公衆衛生看護管理論》 1-A, B, C, D, E, F 2-A, B, C 《健康危機管理》 1-A, B, C		
履修条件・履修上の注意	講義資料は原則として講義2日前から1週間の間Active Academyにより配布しますので、授業に持参してください。 保健師課程選択者は履修してください。		

講義科目名称：助産学概論

授業コード：3N119

英文科目名称：Introduction to Midwifery

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子			

授業形態	講義 8回	担当者
授業計画	<p>第1・2回 助産の概念 助産師の職制と業務          ・助産の概念：助産の起源 出産の変遷 助産の定義など          ・助産師の定義 助産師の業務          ・助産・助産師の定義：ICMに規定される助産の基本概念 ICMの活動 WHO          ・助産師の役割と責務：助産の意義 助産師の職業倫理 ICM WHO          ・助産における基本的な概念          ・地域の様ざまな場における助産師の役割</p> <p>第3回 助産師と倫理 性・生殖と人権と倫理          ・助産師と生命倫理 助産師と職業倫理          ・性と生殖における倫理 女性の意思決定と擁護          ・母体保護 出生前診断など</p> <p>第4回 助産の歴史と文化          ・助産の変遷（出産の変遷）          ・助産師の変遷（わが国及び世界）          ・助産師の法的変遷</p> <p>第5回 母子保健の動向          ・母子保健の歴史          ・母子保健の動向と諸制度          ・母子保健活動における連携・協働</p> <p>第6回 助産師と教育          我が国における助産師教育の歴史          ・諸外国における助産師教育</p> <p>第7回 助産の将来          ・助産師の役割（業務・責務）とこれからの展望          ・助産の将来          ・全体討議（1～7の講義を通して）</p> <p>第8回 我が国の産科医療に求められるチーム医療 特別講義          ・特に「患者中心のケアにおける助産師の役割とスキル」</p>	<p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>荒木</p>
科目の目的	・助産師の役割・責務および助産師に求められる知識と社会人としての教養(姿勢・態度も含む)について学ぶ。 ・専門助産師として自立できる能力及び他の職種(医師等)と連携できる能力を養う。 ・生涯にわたる助産師職探究の基とする。【知識・理解】	
到達目標	・助産師の役割・責務について説明できる。 ・母子並びに家族の尊厳と権利の尊重を理解し、助産師としての職業倫理について説明できる。 ・助産師として他の職種との連携について述べる事ができる。 ・母子保健の動向を述べる事ができる。	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：AAで登録した内容についてまとめ講義前日朝までに研究室前boxに提出すること（アクティブラーニング）。母性看護学に関する既習講義内容の復習をして臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分	
教科書・参考書	教科書：助産学概論（医学書院） 参考書：世界の出産（勉誠出版）新版助産業務要覧（日本看護協会）	
オフィス・アワー	早川（講義前後） 荒木（講義前後）	
国家試験出題基準	《基礎助産学》I-1-A. B. I-2-C. I-3-A. B. I-4-A. B.	
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。Active Academy により資料を事前配布する、各自印刷して授業に持参すること	

講義科目名称：助産基礎医学

授業コード：3N120

英文科目名称：Basic Medicine for Midwifery

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子	牛島 廣治	竹中 恒久	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>遺伝と遺伝性疾患                      ・遺伝医学の重要性                      ・染色体：染色体と遺伝子 遺伝の法則 常染色体異常 性染色体異常                      ・遺伝子：遺伝子疾患                      ・遺伝性疾患の分類                      ・出生前診断</p>	竹中
	<p>第2回</p> <p>母子と薬剤                      ・性と生殖に関する薬物                      思春期 成熟期 更年期と薬物：経口避妊薬 排卵誘発剤など                      妊娠、分娩、産褥、授乳期と薬物：                      陣痛促進剤 子宮収縮剤 緊急避妊薬 薬物の催奇形性 薬物の母乳移行など</p>	竹中
	<p>第3回</p> <p>母子の健康に影響を及ぼす因子 母子と感染                      母子と生活環境                      ・物理的要因：放射線 騒音など                      ・化学的要因：大気汚染 環境汚染物質と環境など                      ・母子と嗜好品・薬物：たばこ アルコール 依存性薬物など                      母子と感染：                      ・母子感染の重要性                      ・母子感染の機序                      ・母子感染総論                      ・母子感染各論：                      ヒトパルボウイルスB19 C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス (HIV)                      成人T細胞白血病ウイルス トキソプラズマ 梅毒トレポネーマ                      ヒトパピローマウイルス 風疹 梅毒など</p>	竹中
	<p>第4回</p> <p>母子と栄養その1                      母子の健康と食生活：妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識                      妊婦の栄養：妊婦の栄養と食生活 母体の栄養と胎児の発育 妊産婦の食生活指針                      授乳婦の栄養：                      乳幼児の栄養：                      学童・思春期の子どもの栄養：                      母子の健康に影響を及ぼす因子：栄養所要量                      母体栄養と妊娠合併症：妊娠高血圧症候群など</p>	早川
	<p>第5回</p> <p>母子と感染                      ・乳幼児に起こりやすい疾患（感染症）：                      麻疹 水痘 突発性発疹 手足口病 カンジダ症 RSウイルス感染症                      伝染性膿痂疹 乳幼児下痢症（ロタウイルス ノロウイルス）</p>	牛島
	<p>第6回</p> <p>母子と免疫                      ・免疫とは                      ・母体の免疫学的特徴 ・胎児の免疫学的特徴 ・新生児の免疫学的特徴                      ・免疫と母乳栄養 免疫と予防接種など                      ・妊娠の維持機構と免疫 ・臓器の成熟と器官形成（免疫系）                      ・免疫能の特性                      ・低出生体重児の特徴：免疫</p>	牛島
	<p>第7回</p> <p>母子と栄養その2                      母子の健康と食生活：妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識                      妊婦の栄養：妊婦の栄養と食生活 母体の栄養と胎児の発育 妊産婦の食生活指針                      授乳婦の栄養：                      乳幼児の栄養：                      学童・思春期の子どもの栄養：                      母子の健康に影響を及ぼす因子：栄養所要量                      母体栄養と妊娠合併症：妊娠高血圧症候群など</p>	早川
	<p>第8回</p> <p>母子への援助・予防                      遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養に関する母子の予防と援助                      1～5の学びを通してGW 発表</p>	早川
科目の目的	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の学びを通して、母子の健康に影響を及ぼす因子について学ぶ。 【知識・理解】	

到達目標	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の視点から母子の健康が説明できる。
関連科目	専門基礎科目：生理学ⅠⅡ 解剖学Ⅱ 免疫・感染症学 薬理学 臨床薬理学 栄養学
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護、助産ケアに関連ある既習科目の予習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：基礎助産学2（母子の基礎科学）医学書院 基礎助産学3（母子の健康科学）医学書院 産婦人科診療ガイドライン（産科編）日本産婦人科学会事務局 参考書：必要時提示
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後
国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅰ》－Ⅱ-7-A. B. C. Ⅱ-8-A Ⅱ-9-A. B. Ⅱ-10-A. B. C. D. E. 《基礎助産学Ⅱ》－Ⅰ-2 Ⅰ-4. Ⅰ-5-A. B. Ⅰ-10-D. －Ⅱ-16-G. Ⅱ-20-B. Ⅱ-21-A
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：母子と家族の心理・社会学

授業コード：3N121

英文科目名称：Psychosociology for Mother, Child, and Family

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	岡崎友香	石坂泰子	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 女性のライフサイクル：思春期・青年期女性への援助 ・月経前緊張症、望まない妊娠と中絶、STD :ピアエデュケーションの役割と実践に向けての説明	中島久美子
	第2回 女性のライフサイクル：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題1） ・不妊症、不妊治療患者の心理、不妊治療と治療後妊娠における諸問題と助産ケア	岡崎友香
	第3回 女性のライフサイクル：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題2） ・出生前診断をめぐる問題、出生前診断を考える女性の意思決定へのケア、 ・流産・死産の悲嘆反応、子どもを亡くした親へのケア（親子をめぐる問題） ・障害のある子どもを育てる親へのケア（親子をめぐる問題）	石坂泰子
	第4回 女性のライフサイクル：思春期・青年期女性への援助（2） ピアエデュケーションを用いた性教育と母性看護の支援に関する演習：準備	中島久美子
	第5回 親子をめぐる問題：母子関係（1）：正常な経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊産婦のアセスメントと援助 ・アタッチメント理論 ・周産期の母親のメンタルヘルスと母子関係 ・愛着障害・児童虐待、産前・産後うつ病、産後うつ病が子どもの心身の発達に与える影響	中島久美子
	第6回 親子をめぐる問題・母子関係（2）：正常な経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊産婦のアセスメントと援助 ・若年妊産婦 ・未婚女性 ・外国人妊産婦 ・多胎児を育てる親 ・低出生体重児の親 ・被災を受けた妊産婦	中島久美子
	第7回 親子をめぐる問題：父子関係 ・父親の育児、子育てにおける父親の抑うつ	中島久美子
	第8回 家族と社会 父母と社会、子どもと社会 ・家族とは、近代家族の特徴、家族をめぐる諸問題、夫婦関係と夫婦の関係性への支援 ・家族と法（児童虐待防止法、DV防止法） ・母親と社会、父親と社会 ・現代の家族支援への道のり、日本の子育て支援、世界の子育て支援	中島久美子
科目の目的	女性のライフサイクル各期における心理社会的問題や、親子関係、家族・父母・子どもと社会をめぐる問題について理解し、助産師として必要とされる考え方、支援について学ぶ。 【知識・理解】	
到達目標	・思春期・青年期女性の健康問題として、望まない妊娠と中絶等を理解し、必要な助産援助について説明できる。（ピアエデュケーターとしての役割を含む） ・成人期女性の健康問題として、不妊・流産・死産等を理解し、必要な助産援助について説明できる。 ・親子関係（母子関係、父子関係）の問題について、虐待障害や産後うつ等を理解し、子育て支援について説明できる。 ・家族と社会をめぐる問題について理解し、子育て支援について説明できる。	
関連科目	母性看護学総論、母性看護学方法論、母性看護学演習、母子の健康支援、助産学概論、助産基礎医学	
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、課題提出（30％）、演習（20％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性看護学総論の復習 準備学習の目安：3時間45分	
教科書・参考書	教科書：「助産学講座4、基礎助産学[4]、母子の心理・社会学」村瀬聡美・我部山キヨ子（医学書院） 「助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会）	
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）	
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅰ》Ⅱ-2-d, e Ⅲ-10-c 《助産診断・技術学Ⅰ》Ⅲ-7 《助産診断・技術学Ⅱ》Ⅷ-21, 22	



履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。
-------------	--------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
横田 佳昌	家坂 直子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1・2回 妊娠期の異常・ハイリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の異常：妊娠疾患：妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群</li> <li>・妊娠持続期間異常：流産 早産 過期妊娠など</li> <li>・着床異常：異所性妊娠 前置胎盤 低位胎盤 低置胎盤など</li> <li>・胎児異常妊娠：胎児発育不全 血液型不適合妊娠 多胎妊娠など</li> <li>・胎児付属物異常妊娠：絨毛膜羊膜炎 常位胎盤早期剥離 など</li> </ul> <p>ハイリスク妊娠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偶発性合併妊娠：心疾患合併妊娠 呼吸器疾患合併妊娠 糖尿病合併妊娠など</li> </ul> <p>第3・4回 分娩期の異常・偶発疾患 産科手術および産科医療処置</p> <p>分娩の3要素の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・娩出力の異常：過強陣痛 微弱陣痛</li> <li>・産道の異常：軟産道強靱 狭骨盤</li> <li>・胎児の異常：回旋・進入の異常 巨大児など</li> <li>・胎児付属物の異常：絨毛膜羊膜炎 臍帯巻絡 臍帯下垂・脱出 常位胎盤早期剥離</li> </ul> <p>前置胎盤など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩経過の異常：肩甲難産 子宮内反症 など</li> <li>・軟産道損傷：膣・会陰裂傷 頸管裂傷 子宮破裂など</li> <li>・出血量の異常：弛緩出血など</li> <li>・産科ショック：出血性ショック 羊水塞栓 DIC など</li> <li>・産科手術および産科医療処置：骨盤位牽出術 吸引遂娩術 鉗子遂娩術 無痛分娩（硬膜外麻酔）帝王切開術 分娩誘発・促進時の管理</li> <li>・緊急事態の予測と予期的対応</li> </ul> <p>第5回 産褥期の異常・偶発疾患</p> <p>性器の異常：子宮復古不全 晩期産褥出血など・産褥器感染症：産褥熱 尿路感染症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血栓・塞栓症：深部静脈血栓・肺塞栓症</li> <li>・乳房・乳頭・乳腺異常：乳腺炎など</li> <li>・産褥期精神障害：マタニィブルー 産後うつ病 など</li> <li>・産後後遺症：妊娠高血圧症候群後遺症</li> </ul> <p>第6回 NICUとハイリスク新生児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早産児・低出生体重児のケア</li> <li>・ハイリスク児の主要な病態とケア：呼吸障害 チアノーゼ おう吐 新生児痙攣 病的黄疸 感染症など</li> </ul> <p>第7回 合併症がある妊・産・褥婦</p> <p>心疾患 腎疾患 甲状腺疾患 糖尿病 子宮筋腫</p> <p>第8回 妊娠期の助産診断に必要な検査法 臨床検査 母体・胎児の健康診査に必要な検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の検査：妊娠診断薬 胎児胎盤機能検査 胎児血採血</li> </ul>	<p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>横田</p>
科目の目的	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常を助産診断し、助産ケアに生かすことができる能力を養う。</p> <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を診断できる。</li> <li>・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を助産師の立場から判断し、ケアに結び付けて考えられる。</li> <li>・緊急事態に対応できる能力を養う。</li> </ul>	
関連科目	母性看護学ⅠⅡ 助産診断技術学演習	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：既習で学んだ母性看護、助産師ケアの復習をして講義に臨むこと。</p> <p>準備学習時間の目安：3時間45分</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：助産診断技術学Ⅱ（1 2 3）医学書院 病気がみえる産科第4版 メディックメディア</p> <p>参考書：産婦人科診療ガイドライン（産科編2014）日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会</p>	
オフィス・アワー	横田：講義前後 家坂：講義前後	

国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅱ》Ⅱ-16-A. B. C. E. F. Ⅱ-17-A. B. C. D. E. F. G. H. Ⅱ-18-A. B. C. D. E. F. Ⅱ-19-A. B. Ⅱ-20-A. B. C. D. Ⅱ-22-A. B.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：妊娠期助産診断技術学

授業コード：3N123

英文科目名称：Gestation Period Midwifery Diagnostic Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
臼井 淳美	中島久美子		

授業形態	講義（一部グループワークを含む）	担当者
授業計画	<p>第1回 妊娠期の経過と診断（グループワーク） 妊娠の成立・維持 妊娠経過の診断（正常・異常を含む） ・妊娠による母体の変化 胎児の発育・健康状態の診断 妊娠期の助産診断の特徴 ・助産診断 ・紙上事例の紹介</p> <p>第2・3回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助① 妊娠初期～中期の助産診断とケア（グループワーク） 講義60分＋事例120分 ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断</p> <p>第4回 保健指導の技術 個別相談、集団指導の基本 講義40分 個人への保健指導 ・マイナートラブルなどへの支援、バースプランの作成への支援など 集団への保健指導 ・出産前準備教室などの集団指導の実際 保健指導案の立案（紙上事例・グループワーク：50分） ・事例に沿った保健指導案の作成（妊娠期に関わる助産計画）</p> <p>第5回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助② 妊娠後期の助産診断とケア（グループワーク） 講義40分＋事例50分 ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断 *事例に沿った保健指導案の作成（分娩期・産褥期への継続的助産計画）</p> <p>第6回 妊娠期の心理 妊娠前期・中期・末期における心理 ・妊娠期における心理の変化 ・親役割準備への支援 ・家族の役割の変化に対する支援</p> <p>第7・8回 正常な妊娠経過からの逸脱およびハイリスク妊婦へのアセスメントと援助 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント 異常妊娠・ハイリスク妊婦とその家族へのケア ・切迫流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠などを合併している妊婦への 助産ケア ・異常出血に対する処置への対応 ・合併症妊娠（心疾患・精神疾患など）に関連する助産ケア 助産師による妊婦のリスク診断</p>	<p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美・ 中島久美子</p> <p>臼井淳美 中島久美子</p> <p>臼井淳美 中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>臼井淳美</p>
科目の目的	妊娠経過の正常・異常の診断について学び、安定した妊娠期の生活ができるための支援とハイリスク妊娠時のケアおよび支援について学ぶ。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある母体の妊娠による変化と胎児の成長・発育について説明できる。</li> <li>・妊婦及び家族の健康保持や正常からの逸脱を予防するための保健指導、出産や育児準備・心理的適応化への援助が説明できる。</li> <li>・妊娠各期における妊婦および胎児の助産診断と、その診断に基づくケアについて説明できる。</li> <li>・ハイリスク妊婦や正常を逸脱した妊婦およびその家族に必要なケアを考察できる。</li> </ul>	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母子の健康支援、母性看護学方法論、母性看護学演習、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、助産基礎医学、母子と家族の心理・社会学、周産期診断学、助産診断技術学演習	
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、課題提出（30％）	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰの講義内容を復習しておくこと</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき2時間の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ、〔1〕妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）</p> <p>「助産学講座5、助産診断・技術学Ⅰ」堀内成子（医学書院）</p> <p>「助産師基礎教育テキスト 2020年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤敏子（日本看護協会出版会）</p> <p>参考書：「助産師基礎教育テキスト 2020年版 第4巻 妊娠期の診断とケア」森恵美（日本看護協会出版会）</p> <p>「最新産科学 正常編 改訂第22版」，荒木勤（文光堂）</p> <p>「今日の助産 改訂第4版」，北川真理子・内山和美（南江堂）</p> <p>その他、講義内で紹介する。</p>
オフィス・アワー	<p>臼井淳美（研究室320）：講義前後、講義開講日の放課後</p> <p>中島久美子（研究室318）：講義前後</p>
国家試験出題基準	<p>【助産師】</p> <p>≪基礎助産学Ⅱ≫-Ⅰ-1-A, B、Ⅰ-2-A, B、Ⅰ-3-B、Ⅰ-4-A, B、Ⅰ-5-A, B, C, D</p> <p>≪助産診断・技術学Ⅰ≫Ⅰ-1-A, B, C, D</p> <p>≪助産診断・技術学Ⅱ≫Ⅰ-2-A、Ⅱ-3-A, B, C, D, E、Ⅱ-4-A, B, C</p> <p>≪地域母子保健≫Ⅲ-4-B</p>
履修条件・履修上の注意	<p>助産師課程履修者のみ履修可能とする。</p>

講義科目名称：分娩期助産診断技術学

授業コード：3N124

英文科目名称：Intrapartum Period Midwifery Diagnostic Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	白井 淳美		

授業形態	講義8回, 演習7回		担当者
授業計画	第1回	助産診断・技術学の概要 【講義】 ・助産過程の概要、助産診断学の概要、助産技術学の概要 ・助産診断学・助産技術学の理論構築（教科書「1妊娠期」）	中島久美子
	第2回	分娩の基礎、正常分娩、分娩が母体・胎児に与える影響、分娩期の心理社会的変化、健診に必要な検査の基礎知識 【講義】 ・分娩の定義と種類、分娩の3要素、正常な分娩経過、分娩機序、 ・分娩による母体への影響、胎児への影響 ・分娩期の心理社会的特徴 ・検体検査に必要な知識	中島久美子
	第3・4回	分娩期の助産診断 分娩期のフィジカルアセスメント 【講義】 ・分娩進行状態の診断：分娩開始の予知・分娩開始・破水・分娩経過の診断、 ・産婦及び胎児の健康状態の診断、産婦の心理社会的側面の診断、出生直後の新生児の診断	中島久美子
	第5・6回	正常経過にある産婦への援助 【講義】 ・援助の基本、分娩進行に伴う助産ケア（第1期、第2,3期、分娩後2時間まで）、 ・分娩経過に伴う産婦と家族の心理社会的側面のケア ・主体的出産への支援、産婦の分娩想起と出産体験理解への支援 ・出生直後の母子接触・早期授乳支援	中島久美子
	第7・8回	正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助 【講義】 ・身体的ハイリスク因子のアセスメント、心理的ハイリスク因子のアセスメント、 ・援助の基本、正常分娩急変時の対応、分娩中・産褥期に搬送すべき症状を呈する母体の疾患 ・バルサルバ法、クリステレル圧出法の影響 ・吸引分娩、鉗子分娩の適応 ・羊水混濁時 肩甲難産時の対応 ・異常出血時の対応 ・分娩誘発・促進時のケア	中島久美子
	第9-11回	助産過程の展開（紙上事例）【演習】 （分娩期） 正常分娩の助産診断 （産褥期） 正常産婦の助産診断 （新生児） 正常新生児の助産診断	9回中島、 10回中島、 11回白井
	第12-15回	ハイリスク状態・異常への支援（紙上事例）【演習】 （妊娠期の異常）ハイリスク妊婦・異常妊婦の助産診断（PIH, PROM, 切迫早産） （分娩期の異常）ハイリスク分娩・異常分娩の助産診断（異常出血の処置・帝王切開前後のケア） （産褥期・新生児の異常）ハイリスク産婦（メンタルヘルス）・新生児の助産診断（低出生体重児、帝王切開児のケア）	12回白井、 13回中島、 14回中島、 15回白井
科目の目的	分娩期における女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態について、EBMをふまえた基礎的助産診断・技術を養う。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過から予防的ケアと異常の早期発見・対処ができる能力を養う。 【思考・判断】		
到達目標	分娩の生理と産婦の身体的・心理社会的変化を理解し、説明できる。 正常な分娩経過をアセスメントし、助産ケアの実践に繋げることができる。 妊娠・分娩・産褥・新生児の助産過程を展開できる（紙上事例）。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過をアセスメントし、予防的ケアと異常の早期発見・対処を説明できる。		
関連科目	母性看護方法論、母性看護学演習、基礎助産医学、母子の健康支援、母子と家族の心理社会学、妊娠期助産診断技術学、産褥期助産診断技術学、新生児・乳幼児期助産診断技術学、助産診断技術学演習		
成績評価方法・基準	定期試験（50%）・課題提出（50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。 準備学習時間の目安：2時間		

教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会）
オフィス・アワー	中島：講義開講日の昼休み 臼井：講義前後の休み時間
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫ I-6 ≪助産診断技術学Ⅱ≫ I-1, I-2-B, IV-8, 9, 10
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

講義科目名称：産褥期助産診断技術学

授業コード：3N125

英文科目名称：Puerperium Midwifery Diagnostic Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
臼井 淳美			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）	担当者
授業計画	第1回 産褥期の経過と診断（グループワーク） 産褥経過の診断（正常・異常を含む） 産褥復古の機序と経過	臼井淳美
	第2回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助① 褥婦の健康生活の助産診断 日常生活への適応および退行性変化促進のケア ・栄養、排泄、睡眠・休息、活動、清潔などへのケア 産褥復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア	臼井淳美
	第3回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助② 産褥期の心理社会的変化 褥婦の心理社会的側面の診断とケア ・出産体験の受容 ・親役割の獲得、家族の役割獲得と家族関係 愛着形成および親役割の獲得 ・育児能力の診断	臼井淳美
	第4・5回 母乳育児支援 乳汁分泌機序と経過 母乳育児に関する診断 母乳育児へのケア ・母乳育児支援とその実際（母乳育児を行えない/行わない母親への支援を含む。 また、事例を通して、母乳育児支援の実際について考える。） ・一か月健診までの母乳育児支援（指導案の作成）	臼井淳美
	第6回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助③ 日常生活への適応および退行性変化促進のケア（退院後～1ヶ月健診まで） （指導案の作成を通して、褥婦に必要なケアを考える） ・母子の一ヶ月健診までの生活への支援（メンタルヘルスケアを中心に） ・社会資源の活用への支援（産後ケア事業） 不快症状緩和へのケア 育児に必要な基本的技術への支援 褥婦のセルフケア能力を高めるための支援 ・家族計画指導	臼井淳美
	第7・8回 正常な産褥経過からの逸脱およびハイリスク状態にある褥婦のアセスメントと援助 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦とその家族へのケア ・産褥期の異常と合併症の予防 子宮復古不全、産褥期に起こる感染症、血栓性静脈炎、妊娠高血圧症候群後遺症、 妊娠糖尿病、母子感染症など、身体的に正常を逸脱している褥婦およびその家族への援助 腹式帝王切開術後の援助	臼井淳美
科目の目的	産褥期の正常・異常の診断および援助・保健指導ができるための知識（母乳育児支援・乳房ケアなど）・技術・態度について学ぶ。これらの技術が母親にとって、自立につながるよう支援できるための能力を養う。また、異常な経過を伴うハイリスク褥婦のケアに対応できる能力を養う。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある褥婦の助産診断が説明できる。</li> <li>・褥婦および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。</li> <li>・正常経過にある褥婦に対し、必要な保健指導を説明できる。</li> <li>・ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦およびその家族に必要な援助を考察できる。</li> </ul>	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母子の健康支援、母性看護方法論、母性看護学演習、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、助産基礎医学、母子と家族の心理・社会学、周産期診断学、助産診断技術学演習	
成績評価方法・基準	定期試験（70%）、課題提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰの講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき2時間の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>	
教科書・参考書	教科書：「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期」、我部山キヨ子・武谷雄二（医	



	<p>学書院)  「助産師基礎教育テキスト 2020年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤敏子(日本看護協会出版会)  参考書:「助産師基礎教育テキスト 2020年版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」, 横尾京子(日本看護協会出版会)  「最新産科学 正常編 改訂第22版」, 荒木勤(文光堂)  「今日の助産 改訂第4版」, 北川眞理子・内山和美(南江堂)  その他、講義内で紹介する</p>
オフィス・アワー	講義開講日: 講義前後 放課後
国家試験出題基準	<p>【助産師】  &lt;&lt;助産診断・技術学Ⅱ&gt;&gt;Ⅶ-15-A, B, C, D, E、Ⅶ-16-A, B, C, D  &lt;&lt;地域母子保健&gt;&gt;Ⅲ-4-B</p>
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
臼井 淳美			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）	担当者
授業計画	<p>第1回 新生児の経過と診断（事前課題・グループワーク） 新生児の身体的・生理的特徴 ・新生児の身体的特徴 ・新生児の生理的特徴</p> <p>第2回 フィジカルアセスメント 出生直後の新生児の診断とケア 新生児のフィジカルアセスメントとケア（事例展開） ・新生児の観察技術と検査</p> <p>第3回 新生児の診断と援助① 出生後24時間以内の新生児の経過診断とケア</p> <p>第4回 新生児の診断と援助② 出生後24時間以降～生後1週間までの早期新生児期の経過診断とケア ・母子・親子関係を促進するケア ・新生児の行動上の特徴 ・家庭生活への移行とフォローアップ</p> <p>第5回 新生児の診断と援助③ 出生後1ヶ月までの新生児の診断とケア ・退院後の新生児の健康課題に対する予測とケア ・新生児を迎える生活環境のアセスメントとケア ・新生児期の健康診査（1ヶ月健診） ・発育・発達評価、保健指導の要点 ・新生児訪問指導</p> <p>第6・7回 正常な新生児経過からの逸脱およびハイリスク状態にある新生児のアセスメントとケア ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク新生児とその家族へのケア ・生理学的適応を助ける援助の基本 ・低出生体重児へのケア ・治療を受ける新生児のケア 呼吸障害、黄疸などに対するケア、ディベロップメンタルケア など ・親・家族へのケア（児を中心とした家族への支援） ・ハイリスク児の主要な病態（胎児発育不全、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、 チアノーゼと心不全、病的黄疸、感染症、嘔吐や腹部膨満など）とケア ・新生児の急変時の対応 など</p> <p>第8回 乳幼児の経過とその援助 乳幼児の正常経過 ・身体的特徴、生理的特徴など 乳幼児の健康診査 ・健診に必要な技術 ・発育・発達評価・保健指導の要点 正常経過にある乳幼児およびその家族への援助 ・発達性を促進するケア（栄養、遊びなど） ・起こりやすい疾病の予防的ケア（予防接種など） ・家族へのケア（育児相談、母子相互関係・親子関係の確立・虐待防止） ・乳児期に起こりやすい疾患（SIDSなど） ハイリスク乳幼児およびその家族への援助</p>	<p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p>
科目の目的	新生児・乳幼児の正常・異常の診断および援助ができるための知識・技術を養う。特に新生児の育児に必要な基本的技術・生活環境、ハイリスク新生児の救急時の母子および家族への対応について学ぶ。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある新生児の助産診断が説明できる。</li> <li>・新生児および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。</li> <li>・ハイリスク新生児や正常を逸脱した新生児およびその家族に必要な援助を考察できる。</li> <li>・乳幼児の経過と、各時期に合わせた援助について理解することができる。</li> </ul>	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母子の健康支援、母性看護学方法論、母性看護学演習、小児看護学総論（新生児期や乳幼児期、NICUに関連する内容）、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、助産基礎医学、母子と家族の心理・社会学、周産期診断学、助産診断技術学演習	

成績評価方法・基準	定期試験（80％）、課題提出（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、小児看護方法論（新生児期や乳幼児期、NICUに関連する内容）、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰの講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき2時間の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期」，我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）  「助産師基礎教育テキスト 2020年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤敏子（日本看護協会出版会）</p> <p>参考書：「助産師基礎教育テキスト 2020年版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」，横尾京子（日本看護協会出版会）  「新生児学入門 第3版」，仁志田博司（医学書院）  「新生児ベーシックケア」，横尾京子（医学書院）  その他、講義内で紹介する。</p>
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後、放課後
国家試験出題基準	<p>【助産師】</p> <p>≪基礎助産学Ⅱ≫Ⅰ-7-A, B, C、Ⅰ-8-A, B, C  ≪助産診断・技術学Ⅱ≫X-24-A, B、X-25-A, B、X-26-A, B, C、X-27-A, B, C、?-31-A, B, C, D, E、XIII-32-C、XIV-34-A, B  ≪地域母子保健≫Ⅲ-4-B</p>
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	臼井 淳美	竹中 恒久	遠藤 究

授業形態	講義2回・実技28回		担当者
授業計画	第1-4回	妊娠期の技術 基礎助産技術（診察技術、援助技術）【実技】 ・外計測、骨盤計測、聴診、内診、クスコ診（頸部スメア）、レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、ザイツ法他 ・妊娠期の助産ケア：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	中島久美子
	第5-6回	分娩期の技術 分娩介助の原理 【実技】 ・分娩介助の総論（入院時の判断、第1期～分娩室入室の判断、準備、パルトグラム、他） ・正常分娩介助法の原理、間接介助の役割他 ・助産基本技術（導尿 無菌操作、ガウンテクニックなど） ・分娩介助準備（物品準備、清潔野、外陰部消毒）	中島久美子
	第7-10回	正常分娩の介助（1） 正常分娩介助法 【実技】 ・分娩介助時の技術（肛門保護、人工破膜、会陰保護） ・分娩介助時の技術：児の娩出・児の処置（児頭娩出、顔面清拭、巻絡確認、肩甲娩出～体幹娩出、娩出時間・性別確認、出生児の呼吸助成、臍帯切断） ・胎盤の検査：胎盤娩出（胎盤精査、子宮収縮・軟産道精査、子宮底輪状マッサージ）	中島久美子
	第11-13回	正常分娩の介助（2） 新生児の助産技術 【実技】 ・出生直後の観察・ケア・諸計測、成熟度評価、アプガールスコア、シルバーマンスコア ・新生児期の助産ケア：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	臼井淳美
	第14回	分娩第1期のケア 【実技】 ・産痛と産痛緩和法、呼吸法・怒責法・腹圧、分娩促進・姿勢の工夫、ツボ刺激、マッサージ他	中島久美子
	第15・16回	分娩介助法の実際、分娩介助技術評価 【講義】 ・分娩介助手順の説明、ビデオ学習 ・分娩介助評価法の解説	中島久美子
	第17・18回	分娩介助演習(1) 【実技】 ・分娩介助手順のデモンストレーション、分娩介助演習	中島久美子
	第19-21回	分娩介助演習(2) 【実技】 ・分娩介助演習：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	中島久美子
	第22・23回	産褥期の技術 乳房管理・乳房ケア 【実技】 ・退行性変化促進への援助、日常生活適応（マイナートラブル）への援助、等 ・乳汁分泌の機序、乳房診察、乳管開通法、乳房マッサージ、搾乳など ・産褥期の母乳育児支援：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	臼井淳美
	第24回	分娩介助法の実際（フリースタイル）【実技】 ・側臥位、座位、四つんばい、スクワット他	中島久美子
	第25・26回	超音波診断・胎児心拍数陣痛モニタリング 母体・胎児の健康診査に必要な検査の基礎知識 【実技】 ・超音波診断、胎児心拍数陣痛モニタリングによる検査の実際、包括的な胎児の健康状態の評価	遠藤究
	第27回	止血法 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（1）【実技】 ・止血技術の実際（緊急時使用物品と薬剤、止血法、出血性・非出血性ショック時の処置、異常出血への対応）	竹中恒久
	第28回	会陰切開・裂傷部縫合 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（2）【実技】 ・会陰切開と裂傷部の縫合の実際	竹中恒久
	第29回	新生児蘇生 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（3）【実技】 ・新生児蘇生の実際	竹中恒久
第30回	分娩介助技術試験 【実技】 ・分娩介助技術試験（直接介助）	中島久美子	
科目の目的	妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断と、対象によりよい助産を提供するための基礎的実践能力を養う。 今後強化されるべき助産師の役割と機能に基づく高次の助産診断・技術法を理解し、ハイリスクや		

	緊急時に対応できる能力を養う。 【技能・表現】
到達目標	妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断について説明できる。 正常分娩助産法の原理が理解でき、分娩助産技術が習得できる。 高次の助産診断・技術法により、ハイリスク妊産褥婦および新生児への対応について説明できる。
関連科目	母性看護方法論、母性看護学演習、基礎助産医学、母子の健康支援、母子と家族の心理社会学、妊娠期助産診断技術学、分娩期助産診断技術学、産褥期助産診断技術学、新生児・乳幼児期助産診断技術学
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、実技試験（50％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。分娩助産技術と基礎看護技術の実技の習得。助産診断・助産課程に関する演習課題。 準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会） 参考書：「正常分娩の助産術、トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」進純郎・堀内成子（医学書院） 「助産外来の健診技術、根拠に基づく診察とセルフケア指導」進純郎・高木愛子（医学書院） その他、講義にて提示する
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）
国家試験出題基準	【助産師】 《助産診断技術学Ⅱ》 I-2-A, B, IV-9, 10, VI-14, VII-15-E, 16-B-a, b, c, d, X-24-A
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

講義科目名称：助産管理

授業コード：3N128

英文科目名称：Midwifery Management

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
大井けい子	木部和枝	高橋美鈴	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 助産管理の基本 ・管理の基本概念とプロセス ・助産業務管理の過程 ・助産管理の概念：組織における助産師の役割と助産管理体制 助産業務管理の特性など ・助産と医療経済：医療保険制度と助産業務 分娩費用など	大井
	第2回 病産院における助産業務管理 ・助産業務管理の過程：管理目標の策定 業務の分析など ・助産業務管理の方法：組織管理 書類管理 財務管理 業務の質管理など	大井
	第3・4回 病産院における助産業務管理 ・産科棟の管理：看護体制 継続的な援助システム ・院内助産・院内助産院の管理：オープンシステム ・外来の助産管理：助産外来 助産師外来 家族計画外来 女性外来	大井
	第5・6回 関連法規と助産師の義務・責任 ・関連法規：医療法 保健師看護師助産師法 医師法 母子保健法など ・助産師の法的責任と義務：応召 出生証明書の交付 助産録の記載 届け出 守秘義務など ・女性の支援に関わる関係法規 ・子どもの支援に関わる関係法規 ・助産師の法的義務	大井
	第7回 助産所における助産業務の管理・運営 ・助産所とは ・助産所の管理に関する法規（助産所の関係法規） ・助産所の管理・運営：医療機関との連携 救急時の搬送と搬送基準など ・助産所の経営 ・出張助産：自宅分娩における助産師の役割など	松浦
	第8・9回 助産業務と医療事故 ・周産期における医療事故対策（GW 発表） ・助産業務における安全対策（GW 発表） ・災害対策と支援活動（GW 発表）	大井
	第10・11回 助産業務の実際 ・助産業務管理の過程 ・助産業務管理の方法 ・産科棟の管理 ・院内助産 院内助産院の管理 ・外来の助産管理 ＊事例等による講義の展開	木部
	第12・13回 周産期管理システムとリスクマネジメント および 周産期における連携・協労 ・周産期管理システム ・周産期医療事故とリスクマネジメント ・チーム医療における連携 周産期医療体制 周産期医療におけるチーム医療他職種との連携・稼働 地域連携とオープンシステム ＊事例等による講義展開	高橋
	第14・15回 助産管理のあり方 ・今後の助産管理のあり方・発表（全体討議）	大井
科目の目的	・助産管理の基本概念及び施設の形態に応じた助産の業務、人事管理、予算管理、情報管理の基本的考え方について学ぶ。 ・医療事故への助産師としての対応について学ぶ。 ・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	・助産が業務の管理、助産所の運営の基本について理解できる。 ・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について説明できる。 ・周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について説明できる。	

関連科目	基礎助産学 I 地域保健行政
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護、助産ケアの既習講義の復習をして講義に臨むこと。 学習課題を持って講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：2時間
教科書・参考書	教科書 助産管理（医学書院） 参考書 助産業務ガイドライン2014（日本助産師会）
オフィス・アワー	大井：講義前後 樋口：講義前後 高橋：講義前後 松浦：講義前後
国家試験出題基準	《助産管理》-1-A. B. C. D. -2-A. B. -3-A. B. C. -4-A. B. C. D. -5-A. B. C.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：基礎看護学実習 I

授業コード：3N129

英文科目名称：Fundamental Nursing Practicum I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 一美	上星 浩子	佐藤 晶子	堀込 由紀
	長嶺 めぐみ		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習時期 1年次前期</p> <p>オリエンテーション 実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。</p> <p>学内実習 実習目標が達成できるよう、既習した学習内容の復習や自己学習を通し、「基礎看護学実習 I ワークシート」(別紙参照)に沿って学習を行う。</p> <p>病院実習 実習病院：群馬大学医学部附属病院</p> <p>病院施設の見学実習を通して、病院の特徴・機能・役割や保健医療チームの実際を知る。 健康障害を持つ対象者を理解する。</p> <p>実習のまとめ 観察した現象や学んだことから、病院施設における看護師の役割について討議し、発表する。また、目標を振り返り、看護学の学習上の学びや課題について、レポートを作成する。</p>	<p>上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀、萩原一美、長嶺めぐみ他</p> <p>上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀、萩原一美、長嶺めぐみ他</p> <p>上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀、萩原一美、長嶺めぐみ他</p> <p>上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀、萩原一美、長嶺めぐみ他</p> <p>上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀、萩原一美、長嶺めぐみ他</p>
科目の目的	<p>病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解する。また、対象者の視点から、医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知り、健康障害を持つ人について理解を深める。本実習を通して看護師の役割について考えることで、今後の学習の動機付けとすることを目的とする。 【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の特徴、機能、役割について、予測し観察を行い、統合して説明できる。</li> <li>2. 保健医療チームを構成する職種について、予測し観察を行い、統合して説明できる。</li> <li>3. 医療が提供される場所としての環境および医療サービス(外来部門)について、予測し観察を行い、統合して説明できる。</li> <li>4. 病院施設を利用する人の行動を予測し、観察を行い統合して説明できる。</li> <li>5. 看護援助場面の見学を通し、病院施設における看護師の役割について考察できる。</li> <li>6. 目標1～5を通し、看護学の学習上の学びや自己の課題を明らかにできる。</li> </ol>	
関連科目	看護学概論 I・II、看護援助学概論の統合と、2年次以降の看護学の学習基盤となる。	
成績評価方法・基準	基礎看護学実習 I の評価表に基づき、事前学習・観察実習・実習記録(90%)、実習レポート(10%)等、すべてを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	病棟実習前に約2日の予習が必要(学内実習日の設定あり)。 準備学習は実習記録に沿って行う。	
教科書・参考書	<p>教科書1：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①-看護学概論』志自岐康子他(編)(メディカ出版)</p> <p>教科書2：『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①-基礎看護技術』志自岐康子他(編)(メディカ出版)</p> <p>教科書3：『看護が見える1』基礎看護技術 藤本 真記子 他(編)(メディックメディア)</p> <p>参考書：特になし</p>	
オフィス・アワー	月曜・木曜日：12：10～12：50(萩原研究室)	



国家試験出題基準	≪必修問題≫ I-1-C-e II-9-A-a、B-b IV-13-A-a・b、15-A-a~c ≪基礎看護学≫ I-1-A-a~c、B-a~g、C-a~c II-3-A-a・b、 III-6-A-b、6-B-a
履修条件・履修上の注意	病院実習では、実習用ユニフォーム、ナースシューズ、名札を着用すること。

講義科目名称：基礎看護学実習Ⅱ

授業コード：3N130

英文科目名称：Fundamental Nursing Practicum II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
堀込 由紀	上星 浩子	佐藤 晶子	萩原 一美
	長嶺めぐみ		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習時期 2年次前期（8月～9月）</p> <p>オリエンテーション 実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。</p> <p>病院実習 病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者による指導のもと、看護援助を実施する。</p> <p>実習病院：高崎総合医療センター、公立藤岡総合病院、群馬中央病院、日高病院</p> <p>実習内容・方法：詳細は実習要項に提示する。</p>	基礎看護学 領域教員他
科目の目的	<p>対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。</p> <p>【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の展開ができる。</li> <li>2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。</li> <li>3. 相談、報告および看護の記録ができる。</li> <li>4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。</li> </ol>	
関連科目	<p>看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、看護過程論演習、治療援助学演習の統合が必要である。 看護援助学総合演習、3年次以降の教科目や実習の基盤となる。</p>	
成績評価方法・基準	<p>事前学習状況、看護過程の展開、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。 基礎看護学実習Ⅱの評価表に基づき、看護過程の展開、看護援助の実施等、すべてを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療援助学演習で学習した技術の復習</li> <li>2. 看護過程の復習</li> <li>3. 実習先の病院概要および受け持ち患者の疾患や治療に関する準備学習</li> </ol>	
教科書・参考書	<p>教科書：基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項 参考書：特になし</p>	
オフィス・アワー	火曜・木曜：12：10～12：50（堀込研究室）	
国家試験出題基準	《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～D、2-A～C、Ⅱ-3-A～H 4-A～F 5-A～D、F Ⅲ-6-A-b、6-B-a～c	
履修条件・履修上の注意	<p>1年次に開講される全ての必修科目の単位認定を受けておりかつ2年次前期に開講される「治療援助学演習」及び「看護過程論演習」の単位認定を受けていることを履修条件とする。 患者を実際に受け持つ実習であるため、感染症抗体値（1年次検査済）結果および予防接種歴を提出し、必要な感染予防対策を取ることが望ましい。</p>	

講義科目名称：成人看護学慢性期実習

授業コード：3N131

英文科目名称：Adult Nursing Practicum for Chronic care

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
単位認定者	担当者		
堀越 政孝	金子 吉美		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習期間 病院実習2週間、学内実習1週間 病院実習：独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター、前橋赤十字病院 学内実習：群馬バース大学</p> <p>実習場所 実習病院：独立行政法人国立病院機構渋川医療センター 4階西病棟（外科病棟）、4階東病棟（消化器内科、外科）、 5階西病棟（血液内科）、 6階西病棟（呼吸器内科）、6階東病棟（呼吸器内科） 前橋赤十字病院 4D病棟（回復期リハビリテーション）、 6B病棟（化学療法センター、放射線科、乳腺外科）</p> <p>実習の過程 1. オリエンテーション：実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等について理解する 2. 病院実習：成人期にある患者を実習施設より紹介していただき、一連の看護過程を展開する 3. 学内実習：病院実習での学びを振り返り、学内実習課題に取り組む</p> <p>実習記録 1. 受け持ち患者記録Ⅰ（アセスメントシート） 2. 受け持ち患者記録Ⅱ（関連図） 3. 受け持ち患者記録Ⅲ（ケアプラン） 4. 受け持ち患者記録Ⅳ（看護記録） 5. 受け持ち患者記録Ⅴ（フローシート） 6. 実習行動計画表 7. その他…事前学習課題、学内実習課題</p>	堀越 政孝 金子 吉美
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、健康障害(慢性期・終末期)をもつ成人期にある対象を、発達段階を踏まえて総合的にとらえ、看護を実践する能力を養う。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期における対象の身体的・心理的・社会的特性をライフスタイルや発達段階を踏まえて説明することができる</li> <li>2. 対象の病期(慢性期、終末期)と健康問題を理解し、看護を実践することができる</li> <li>3. 入退院による生活環境の変化への適応がスムーズであるように援助を行うことができる</li> <li>4. チーム医療のあり方や、その中における看護職のあり方を説明することができる</li> <li>5. 自分の看護実践を振り返り、看護に対する自己の見方や考え方を述べるることができる</li> </ol>	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学、臨床検査学、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学急性期実習	
成績評価方法・基準	実習日数のうち4/5以上、出席した者を評価の対象とし、成人看護学実習評価表に基づき評価する。対象の理解と看護過程の実践内容50%、記録物の内容及び提出状況20%、医療者としての姿勢15%、実習参加態度15%とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	受け持ちが予測される疾患(呼吸器、消化器、血液造血管等)について、病態生理、症状、検査、治療、看護に関する学習をすること。準備学習の内容や項目、それに必要な時間など、詳細は、実習要項に提示する。	
教科書・参考書	<p>教科書： 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②～⑭』（医学書院）</p> <p>参考書： 『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 がん・ターミナルケア』（メヂカルフレンド社） 『看護学テキスト NiCE リハビリテーション看護』（南江堂） 『看護学テキスト NiCE 緩和ケア』（南江堂） 『治療薬マニュアル』（医学書院） 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学⑮』（医学書院） 『看護診断ハンドブック』（医学書院）等</p>	
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内（病棟実習、学内実習）に対応する。	
国家試験出題基準	【看護師】	

	≪必修問題≫ I-1～5、II-6, 7-F～G, II-8～9, III-10～12, IV-13～16 ≪人体の構造と機能≫ I・II・III-1～17 ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫ I-1～2, II-3, III-4, IV-5～15 ≪健康支援と社会保障制度≫ I-1～3, II-4-B, II-5, III-10-E ≪基礎看護学≫ I-1～2, II-4～6, III-8, III-11 ≪成人看護学≫ I-1～2, III-6, IV-7, V-8, VI-9
履修条件・履修上の注意	自己の健康管理に留意し、主体的に実習に取り組むこと。

講義科目名称：成人看護学急性期実習

授業コード：3N132

英文科目名称：Adult Nursing Practicum for Acute care

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 英子	小池菜穂子	安田 弘子	湯澤香緒里

授業形態	実習(臨地実習2週間、学内実習1週間)		担当者
授業計画	<p>■実習場所 病院実習：前橋赤十字病院(5C病棟・6D病棟) 済生会前橋病院(整形外科病棟) 学内実習：群馬バース大学</p> <p>■実習期間 2020年9月28日(月)～2021年1月15日(金)</p> <p>■実習の過程 1. オリエンテーション 実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等について理解する。 また、模擬患者参加型看護技術演習を通して、成人看護学急性期実習において必要な知識・技術・態度を学ぶ。 2. 病院実習(2週間) 成人期にある患者を実習施設より紹介していただき、一連の看護過程を展開する。 3. 学内実習(1週間) 病院実習での学びを振り返り、学内実習課題に取り組む。</p> <p>■実習記録 1. 受け持ち患者記録Ⅰ(アセスメントシート：急性期) 2. 受け持ち患者記録Ⅱ(関連図) 3. 受け持ち患者記録Ⅲ(ケアプラン：急性期) 4. 受け持ち患者記録Ⅳ(看護記録) 5. 受け持ち患者記録Ⅴ(フローシート) 6. 実習行動計画表 7. その他：事前学習課題、模擬患者参加型看護技術演習振り返り用紙、学内実習課題、ケースレポート</p>		萩原(英)、小池、安田、湯澤
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、健康障害(急性期)をもつ成人期にある対象を、発達段階をふまえて総合的にとらえ、看護を実践する能力を養う。 (ディプロマ・ポリシー【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特性をライフスタイルや発達課題を踏まえて理解する。</li> <li>2. 対象の病期(クリティカル期、周手術期)と健康問題を理解し、看護を実践する。</li> <li>3. 入退院による生活環境の変化への適応がスムーズであるように援助を行う。</li> <li>4. チーム医療のあり方や、その中における看護職のあり方を理解する。</li> <li>5. 自分の看護実践を振り返り、看護に対する自己の見方や考え方を深める。</li> </ol>		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学、病理学、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、免疫・感染症学、臨床検査学、栄養学、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学慢性期実習、救急法		
成績評価方法・基準	病院実習日数のうち4/5以上出席した者を評価の対象とし、成人看護学実習評価表に基づき評価する(100点)。 成人看護学実習評価表は、実習目標到達度(60点)、看護の記録及び報告(15点)、チーム医療における看護職のあり方と基本的態度(21点)、事前学習と学内実習(4点)で構成する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に必要な学習時間はおよそ5時間である。準備学習の資料として、受け持ちが予測される疾患(消化器、循環器、運動器等)に関するワークシートを4月、8月の2回に分けてActive Academyにて配布する。各自、このワークシートに取り組み、期日(後日連絡)までに提出すること。尚、詳細は実習要項に提示する。		
教科書・参考書	<p>教科書： 「系統看護学講座 別巻 臨床外科総論」(医学書院) 「系統看護学講座 別巻 臨床外科各論」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学②～④」(医学書院)</p> <p>参考書： 「治療薬マニュアル」(医学書院) 「看護データブック」(医学書院) 「看護診断ハンドブック」(医学書院) 等</p>		
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：実習時間内(8:30～18:00)に対応する		

	<p>小池菜穂子(研究室308)：実習時間内(8:00～17:00)に対応する  安田弘子(研究室301)：実習時間内(8:00～17:00)に対応する  湯澤香緒里(研究室302)：実習時間内(8:00～17:00)に対応する</p>
国家試験出題基準	<p><b>【看護師】</b>  《成人看護学》- I-1, 2、II-3～5、III-6、IV-7、V-8、VI-9、VII-10～21</p>
履修条件・履修上の注意	<p>履修条件：  3年次前期までに開講される全ての必修科目の単位認定を受けていること。  また、抗体検査結果に基づき、必要なワクチン接種が完了していること。</p> <p>履修上の注意：  自己の健康管理に留意し、主体的に実習に取り組むこと。  体調不良時は早めに担当教員まで連絡をすること。</p>

講義科目名称：老年看護学実習

授業コード：3N133

英文科目名称：Gerontological Nurisng Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	4単位	必修
単位認定者	担当者		
清水美和子	星野 泰栄		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習場所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほたか病院</li> <li>高齢者施設</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>グループホーム じゃんけんぼん 大利根前橋</li> <li>グループホーム じゃんけんぼん あいあいえす</li> <li>グループホーム じゃんけんぼん 群馬町</li> <li>小規模多機能の家 じゃんけんぼん 大利根前橋</li> <li>小規模多機能の家 国府</li> <li>看護小規模多機能の家 金井淵</li> <li>複合型サービス じゃんけんぼん 観音寺</li> </ol> <p>実習内容・方法 詳細は、実習要項に記載</p> <p>実習期間 老年看護学実習：4週間 病院実習：2週間，高齢者施設実習：1週間，学内実習：1週間</p>	<p>星野泰栄 清水美和子</p> <p>星野泰栄 清水美和子 星野泰栄 清水美和子</p>
科目の目的	<p>老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。本科目では【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】を身につける。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。</li> <li>老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。</li> <li>老年期にある人の特性や自立、安全を守るケア技術の実践方法を習得する。</li> <li>老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。</li> <li>老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。</li> </ol>	
関連科目	<p>老年看護学総論、老年看護方法論Ⅰ、老年看護方法論Ⅱ、老年看護学演習</p>	
成績評価方法・基準	<p>実習評価表に基づき病院実習70%、高齢者施設実習20%、学内実習10%を総合して評価</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>老年看護学ⅠⅡ、老年看護学演習で取り組んだレポートを整理し、実習に臨む。実習期間中は日々の課題が示されるので、1日当たり2～3時間の自己学習時間を要する。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院）                  教科書2：「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」 佐々木英忠（医学書院）                  教科書3：「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術第2版」、大野真理子（医歯薬出版株式会社）                  参考書1：「生活機能からみた老年看護過程」、山田律子（医学書院）                  参考書2：「根拠と事故防止からみた老年看護技術」 亀井智子（医学書院）                  参考書3：「看護診断ハンドブック」（医学書院）</p>	
オフィス・アワー	<p>星野泰栄・清水美和子：実習オリエンテーション日、実習時間内・学内実習にて対応する。</p>	
国家試験出題基準	<p>《老年看護学》Ⅰ-1-A～D 2-A,B 3-A,B                  《老年看護学》Ⅱ-4-A～C 5-A～I 6-A～Q 7-A～C 8-A,B 9-A,B 10-A,B</p>	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：小児看護学実習

授業コード：3N134

英文科目名称：Child Health Nursing Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
内山 かおる			

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習場所</p> <p>1) 群馬県立小児医療センター 第1病棟、第2病棟 NICU・GCU、</p> <p>2) 前橋赤十字病院 4A病棟（小児）</p> <p>3) 群馬整肢養護園</p> <p>4) 群馬県内保育園・保育所 前橋市立保育所（2園） 双葉保育園 おひさま飯塚保育園 あおぞら総社保育園 おひさま倉賀野保育園</p> <p>実習期間</p> <p>*基本2週間1クールの実習とし、8月第4週～2月第2週の期間に行う 実習前オリエンテーション・小児看護技術復習 1日 保育所（園）実習 2日 重症心身障害児施設見学実習 1日 NICU/GCU見学実習 1日 病院実習 4日 実習総括 1日</p> <p>内容・方法 詳細は実習要項に提示する</p>	内山かおる 中下富子他
科目の目的	<p>成長発達の過程にある子どもの特徴を理解し、様々な健康レベルにある子どもと家族に対する基本的看護実践を学ぶ。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解と成長・発達段階を踏まえた健康上の問題について看護展開をする。</li> <li>2. 保育所（園）に通園している健康な乳幼児の成長・発達過程を理解する。</li> <li>3. 重症心身障害児施設に入所（通所）している子どもとその家族への看護の特性を説明する。</li> <li>4. NICU/GCUに入院している子どもとその家族への看護の特性を説明する。</li> <li>5. 子どもの権利を保障し安全に留意した看護実践をする。</li> <li>6. 小児看護の場面における態度と倫理観を養い、小児看護の特性について説明する。</li> </ol>	
関連科目	<p>小児看護学（小児看護学総論、小児看護総論、小児看護方法論、小児看護演習、小児看護学特論）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、臨床病態学Ⅲ、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）</p>	
成績評価方法・基準	<p>小児看護学実習評価表に基づいて評価する。 保育所実習20%、重症心身障害児施設見学実習16%、NICU/GCU見学実習12%、病棟実習52%、</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>臨床病理学Ⅲ、小児看護学総論、小児看護方法論、小児看護学演習の講義ノートを一括し復習する。子どもの発達段階別特徴のまとめ資料（小児看護学総論にて配布）を完成する。実習前には、自主的に小児看護学技術演習の復習・実践をする。</p>	
教科書・参考書	<p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）</li> <li>2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著（医学書院）</li> <li>3. 「写真で分かる 小児看護技術アドバンス」山本恵子監修（インターメディカ）</li> </ol>	
オフィス・アワー	<p>実習中 月～金 16：30以降</p>	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	<p>当該実習科目前に開講されている全必修科目の単位認定を受けていること</p>	



講義科目名称：母性看護学実習

授業コード：3N135

英文科目名称：Maternity Nursing Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
臼井 淳美	早川 有子	中島久美子	

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習施設 愛弘会 横田マタニティーホスピタル</p> <p>実習期間 2週間</p> <p>実習の進め方 1) 1組の母子を受け持ち、母子と家族との関わりを通して、看護展開をする。 (1) 母親の産褥過程、新生児の経過に合わせた行動計画を立案し、ウェルネス思考に基づいた看護を実践する。 (2) 学生主体の事例カンファレンスに参加し、看護過程の展開を通して、現実に即した看護を 追及するための事例検討を行う力を養う。 2) 母性看護の対象への理解を深めるため、以下のような実習を行う。 (1) 妊婦健康診査の見学と実施（妊娠期の基本的看護技術、妊婦の身体的、心理社会的側面の看護） (2) 生殖医療外来見学（生殖医療外来における検査・治療の見学実習、不妊治療を受ける女性の看護） (3) 分娩見学（正常分娩・腹式帝王切開術の立ち会い、産痛緩和、新生児の出生時の蘇生（見学）、 家族関係・家族役割への支援） (4) 母親学級・マタニティヨガ教室の参加 (5) 新生児室実習および新生児1ヶ月健診の見学 (6) ハイリスク妊婦（入院中の妊婦）の看護（見学）</p>	<p>臼井淳美 早川有子 中島久美子</p>
科目の目的	<p>妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解し、実践できる。</li> <li>・妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。</li> <li>・妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について考察できる。</li> </ul>	
関連科目	<p>教養科目群：すべての科目 専門基礎科目群：すべての科目 専門科目群：すべての科目。特に母性看護学総論、母子の健康支援、母性看護学方法論、母性看護学演習、基礎看護学関連の科目全般。</p>	
成績評価方法・基準	<p>実習日数のうち4/5以上出席した者を評価の対象とし、母性看護学実習評価表に基づき評価する。評価項目は以下のとおりである。 母子の看護過程の理解（30%）、基本的看護技術の習得（20%）、母性看護学領域における健康教育（10%）、課題レポート（10%）、事前学習状況（5%）、実習における基本的態度と看護職としての在り方（25%）を総合的に評価する。 詳細は実習要項にて提示する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護学の講義及び演習で学習した内容。詳細は実習要項にて提示する。 準備学習に必要な学習時間の目安：事前準備および実習中の学習時間の目安として最低15時間必要となる。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」、森恵美（医学書院） 参考書：必要時提示する</p>	
オフィス・アワー	<p>各担当教員が対応 オリエンテーションで通知する</p>	
国家試験出題基準	<p>【看護師】 《母性看護学》－Ⅲ-3-A, B、Ⅲ-4-A, B, C, D、Ⅲ-5-A, B, C, D、Ⅲ-6-A, B, C, D、Ⅲ-7-A, B, C</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>3年次前期までに開講される必修科目すべての単位認定を受けていることが履修条件となる。</p>	

講義科目名称：精神看護学実習

授業コード：3N136

英文科目名称：Psychiatric Nursing Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
西川 薫			

授業形態	実習	担当者
授業計画	実習場所 医療法人原会 原病院 実習期間 2020年9月~2021年1月 内容・方法 詳細は実習要項に提示する。	西川薫
科目の目的	精神健康の維持・増進、回復のために必要な看護学及び関連領域の知識と、精神看護学を展開するための技術及び態度を統合し、精神に障害を持つ人への看護実践の基礎能力を習得する。以上より、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。	
到達目標	1. 精神科病院における治療環境の特徴について説明できる。 2. 治療環境としての自己活用について説明できる。 3. 対象者の精神状態やニーズを把握し、必要な看護を考察し表現できる。 4. 精神に障害を持つ人の社会復帰支援の現状と課題について自己の考えを表現できる。	
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、精神看護学総論、精神看護方法論、精神看護学演習、精神看護学特論	
成績評価方法・基準	1. 評価対象の条件：実習の4/5以上の出席があること。 2. 評価方法（配点） 1) 事前課題10点 2) 看護実践60点 3) 実習態度15点 4) 実習レポート15点	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習要項にて提示	
教科書・参考書	教科書：精神看護学保健・精神看護総論・精神看護方法論・精神看護学演習で使用した教科書。 参考書：これからの精神看護学（森千鶴，田中留伊監編集，ピラールプレス），精神神経疾患ビジュアルブック（落合慈之監修，学研メディカル秀潤社）など。	
オフィス・アワー	・施設での実習及び学内演習時間中は随時，指導担当教員が対応する。	
国家試験出題基準	《精神看護学》-I-1-A-a~b 《精神看護学》-I-1-B-a~b 《精神看護学》-I-1-C-a~e 《精神看護学》II-2-A~D 《精神看護学》II-3-A~D 《精神看護学》II-4-A~C 《精神看護学》II-7-A~D 《精神看護学》II-8-A~D 《精神看護学》-IV-7-A-a~d 《精神看護学》-IV-7-B-a~c 《精神看護学》-IV-7-C-a~d 《精神看護学》-IV-7-D-a~c 《精神看護学》-IV-8-A-a~j	
履修条件・履修上の注意	実習前後の精神疾患を持つ人に対する自己の考えや認識の変化を細かく観察すること。また、対象者との関係性の変化を探ることから、治療的関係性の意味について吟味することが求められる。そのためには、自分自身を客観的に捉えることが必要となるため、他者からの意見をより多く得ることが実習を成功させるポイントとなる。実習グループのメンバーを始め、指導教員や実習指導者から多くの意見を積極的に得るようにすること。	

講義科目名称：在宅看護学実習

授業コード：3N137

英文科目名称：Home Care Nursing Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
山野 えり子	反町 真由		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>在宅看護実習 オリエンテーション 実習の目的、目標、実習方法、留意事項などに関する説明</p> <p>実習期間 2020年4月13日～2020年7月3日</p> <p>実習施設 訪問看護ステーション ①ほたか訪問看護ステーション ②訪問看護ステーション ホームナース ③群馬県看護協会訪問看護ステーション富岡 ④群馬県看護協会訪問看護ステーション渋川 ⑤群馬県看護協会訪問看護ステーション粕川 ⑥群馬県看護協会訪問看護ステーション高崎 ⑦群馬県看護協会訪問看護ステーション前橋南 ⑧群馬県看護協会訪問看護ステーション ⑨広瀬訪問看護ステーションたんぼぼ ⑩訪問看護ステーションほほえみ ⑪富岡地域訪問看護ステーション</p> <p>学内実習 方法：実習期間中の月曜日、金曜日にカンファレンスを実施し、実習目標の到達度の確認、体験の共有化、課題解決、看護技術復習、看護過程の展開を実施</p> <p>実習のまとめ 在宅看護実習評価、実習目標到達度評価、在宅看護過程の実践、在宅看護の目指すものについてレポート提出</p>	<p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p> <p>山野・反町</p>
科目の目的	<p>「知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度」 在宅療養者とその家族および療養環境を踏まえた療養者の生活を把握し、訪問看護の対象や訪問看護の場に応じた接遇ができ、在宅看護過程が展開できる。また、在宅療養支援システムの構築課程を学び、多職種連携の在り方やそれぞれの専門性・役割が説明できる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象となる療養者とその家族の療養生活の特徴が説明でき、対象者に応じた看護支援が説明できる。</li> <li>2. 在宅療養の場における訪問看護の役割が説明できる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を対象とする看護過程が展開できる。</li> <li>4. 訪問看護ステーションの機能・役割が説明できる。</li> <li>5. 在宅療養支援システムの仕組みと多職種連携の実際を学び、それぞれの専門性や役割が説明できる。</li> </ol>	
関連科目	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目	
成績評価方法・基準	在宅看護実習評価表（80％）、事前実習課題（10％）、実習レポート（10％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。	
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子(医学書院) 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子(メディカ出版)</p> <p>参考書：「介護保険制度に関するパンフレット」(社会保険出版) 「訪問看護サービス」(日本訪問看護振興財団) 「看護診断ハンドブック」(医学書院)</p>	
オフィス・アワー	専任教員：月曜日12:10～13:00（山野研究室） 実習指導教員：実習施設内において随時	
国家試験出題基準	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱにわたるすべての項目	
履修条件・履修上の注意	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての履修済み科目について復習が必要である。	

講義科目名称：総合実習

授業コード：3N138

英文科目名称：General Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
上星 浩子			

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習期間：2週間（1週を臨地実習、1週を学内実習(事後学習)とする。）                      実習時間：原則として8時30分～16時30分とする。                      実習施設：1. 国立大学法人 群馬大学医学部附属病院                      2. 独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター                      3. 医療法人 日高会 日高病院</p> <p>病院実習の進め方                      1. 1名もしくは複数の患者との関わりを通して、実習目標を達成する。                      1) 対象者の状態や状況に合わせた行動計画を立案し、看護を实践する。                      2) 他職種とのカンファレンスに参加し、情報の共有・継続看護について実践する。</p> <p>2. チームアプローチの実際を知るため次のような実習を通して目標を達成する。                      1) 看護師同行実習(複数の患者を担当する場合の看護実践の学び)                      2) リーダーナース同行実習                      3) 看護管理者同行実習                      4) 認定看護師・専門看護師、チームでの活動への同行実習                      5) 外来見学実習                      6) 退院調整部門実習</p> <p>学内実習の進め方                      実習記録・レポートを通して実習の振り返りを行い、看護専門職としての姿勢について考え実習目標を達成する。                      1. 学内での学習体験発表                      ～2週目の学内実習の木曜日に「学習体験発表会」を予定している。各グループで発表内容を決め、資料作成をし手発表準備に備えること。当日の発表会では他のグループの発表に対して意見・質問・感想などを述べ、学びを深めること。                      2. 実習での学びの確認と考察、記録類のまとめ</p>	看護学科教員
科目の目的	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。 【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】	
到達目標	1. 対象者の特性や状況にあわせた計画的・継続的な看護を実践できる。 2. 看護の質保障と安全管理のためのケア提供システムについて理解し、実践できる。 3. 看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）の実践について理解できる。 4. 看護専門職として質の高い看護を提供するための探求的姿勢を養うことができる。	
関連科目	座学における既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する	
成績評価方法・基準	自己評価（20%）、実習目標の達成状況（20%）、学習体験発表会への参加状況（20%）、実習後レポート①（20%）、実習後レポート②（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	全体オリエンテーション及び施設別オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。事前学習として3時間の準備学習時間を要する。事前学習課題は、アクティブアカデミーでアップしているため、各自印刷して課題に取り組むこと。	
教科書・参考書	教科書：志自岐康子他（編） ナーシンググラフィカ基礎看護学①—看護学概論、メディカ出版 参考書：上泉和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践[1]. 医学書院.	
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内（病棟実習、学内実習）に対応する。詳細は施設別オリエンテーションで通知する。	
国家試験出題基準	基礎看護学：2-C 3-E,F 6-A,B,D 看護の統合と実践：1-A～E	
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。1週目の病院実習では、群馬パース大学看護学科4年生としての自覚を持ち、礼節を持って実習にのぞむこと。2週目の学内実習ではグループ間で協力しあい、学習体験発表会の課題に取り組むこと。学習体験発表会では、他施設や他のグループの学びに耳を傾け、共有化することで自己の学びを広げていくこと。	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習

授業コード：3N139

英文科目名称：Public Health Nursing Practicum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	5単位	選択
単位認定者	担当者		
小林亜由美	矢島 正栄	廣田 幸子	桐生育恵
	一場美根子		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>1 実習オリエンテーション① 実習の目的、目標、実習方法、記録、評価等についての説明（7月22日） ・高崎市内外小中学校 ・群馬県内事業所</p> <p>2 実習オリエンテーション② 事前学習：実習日程表に組まれているプログラム毎に、根拠法令、目的、対象、学びたいことを整理する（8月31日～9月4日）</p> <p>3 臨地実習 （保健福祉事務所3か所・保健所1か所）渋川保健福祉事務所、利根沼田保健福祉事務所、吾妻保健福祉事務所、前橋市保健所 （市町村）渋川市保健センター、みなかみ町役場、沼田市保健福祉センター、中之条町保健センター、東吾妻町保健センター、前橋市保健センター （県内事業所 複数箇所）（高崎市内公立小学校4校、中学校2校）（9月14日～10月29日）</p> <p>4 実習のまとめ グループワーク（10月30日～11月6日）、発表会（11月9日）</p>	<p>矢島、小林、廣田、桐生</p> <p>小林、廣田、桐生、一場</p> <p>小林、廣田、桐生、一場</p> <p>矢島、小林、廣田、桐生、一場</p>
科目の目的	<p>公衆衛生の理念と目標を実現するために行われる、地域で生活する人々を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、地域保健医療福祉における看護専門職の役割を理解する。 【知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度】</p>	
到達目標	<p>1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための保健活動の展開方法を説明できる。 2. 個人・家族・集団の健康課題の改善・解決に向けた支援技術を実施できる。 3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための保健師の役割を説明できる。 4. 地域の健康危機管理の方法について説明できる。 5. 産業保健における安全・衛生管理の方法と看護職の役割を説明できる。</p>	
関連科目	<p>公衆衛生学、疫学、保健統計、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、栄養学、歯科保健、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護技術演習、公衆衛生看護活動展開論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理</p>	
成績評価方法・基準	<p>口頭試問(50%)、レポート(50%)</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>実習施設に関する年間活動計画、保健事業計画、施設概要、事業実績等の資料を読み解く（6時間）。実習中に実施可能な看護技術を練習する（6時間）。翌日の実習プログラムを確認し、学びたいことを整理する（6時間）。</p>	
教科書・参考書	<p>なし</p>	
オフィス・アワー	<p>小林、廣田、桐生・・・実習期間外：月～金12:10～13:00 16:20～18:00、実習期間内：実習指導スケジュールにより変則的なため、研究室前に掲示する。矢島：月～金12:10～13:00 16:20～18:00</p>	
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準          ≪公衆衛生看護学概論≫1～5          ≪公衆衛生看護方法論Ⅰ≫1～5          ≪公衆衛生看護方法論Ⅱ≫1～6          ≪対象別公衆衛生看護活動論≫1～8          ≪学校保健・産業保健≫1～4          ≪健康危機管理≫1～6          ≪公衆衛生看護管理論≫1～3          ≪疫学≫1～9 ≪保健統計≫1～4          ≪保健医療福祉行政論≫1～7</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>保健師課程履修者のみ履修できる。</p>	

講義科目名称：助産学実習

授業コード：3N140

英文科目名称：Actual practice midwifery

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	11単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	早川 有子	白井 淳美	

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>1. 助産学実習Ⅰ（9単位） 生理的な経過をとる妊産婦を対象に以下の実習を行う。 10例の分娩介助を行い、そのうち1例は妊娠期から産後1カ月までの期間を受け持つ。 1) 妊娠期実習 2) 分娩介助・継続事例実習 3) 産褥期実習 4) 胎児・新生児・間接介助実習</p> <p>2. 助産学実習Ⅱ（1単位） ハイリスク状態にある妊産婦及び新生児を1例受け持ち、対象の健康状態を助産診断し、助産過程の展開を行う。</p> <p>3. 助産学実習Ⅲ（1単位） 地域の助産師の活動を見学、参加することで助産業務の特性と課題、今後の展望を考察する。</p>	<p>早川、中島、白井</p> <p>早川、中島、白井</p> <p>中島</p>
科目の目的	<p>周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎的能力、社会の特性を理解し母子と家族の健康を守る科学的思考能力を養う。また、助産師としての職業アイデンティティの形成を目指した知識・技術・態度を学ぶことを目指す。 【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】</p>	
到達目標	<p>10例の正常分娩介助を通して、助産課程の展開、妊娠中期から生後1カ月の母子の継続した健康診査・ケアを行いその助産診断・技術を習得できる。 1例のハイリスクの妊・産・褥婦を受け持ち、ハイリスクにあるケースの助産診断・技術を習得できる。 助産所実習を通して、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を説明できる。 継続事例を通して、助産管理の初歩的実践能力を説明できる。</p>	
関連科目	<p>助産学概論、基礎助産医学、母子と家族の心理社会学、妊娠期助産診断技術学、分娩期助産診断技術学、産褥期助産診断技術学、新生児・乳幼児期助産診断技術学、助産診断技術学演習、対象別公衆衛生看護活動論1、助産管理</p>	
成績評価方法・基準	<p>実習内容、実習記録、実習態度、出席状況等により、助産実習担当教員全員の協議により総合的に評価する。 詳細は実習要項に記載する。 助産学実習Ⅰ（正常編、分娩介助10例、継続事例実習）：84点 助産学実習Ⅱ（異常編、ハイリスク事例実習）：8点 助産学実習Ⅲ（地域母子保健、助産院・母児保健センター実習）：8点</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習内容：助産師課程履修科目全ての学習した内容を復習しておくこと。分娩介助を含む助産ケアに係る技術は十分に演習しておくこと。助産所・助産管理に係る事前学習をして臨むこと。 事前の演習練習、実習前・中・後の課題を含めて、83時間程度</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 参考書：助産師課程履修科目の前期講義にて提示した参考書に準ずる。</p>	
オフィス・アワー	<p>各担当教員が対応 実習オリエンテーションにて提示する。</p>	
国家試験出題基準	<p>【助産師】 《基礎助産学Ⅱ》 全般 《助産診断・技術学Ⅰ》全般 《助産診断・技術学Ⅱ》 I、II、IV、V、VI、VII、X、 《地域母子保健》 III</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>助産師課程履修者のみ履修可能とする。 4年次前期までに開講される全必須科目及び助産師課程履修科目の全ての単位認定を受けていることが履修条件となる。</p>	

講義科目名称：看護研究概説

授業コード：3N141

英文科目名称：Introduction to Nursing Research

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
小林亜由美	上星浩子、伊藤まゆみ	萩原英子、堀越政孝	早川有子、内山かおる
	西川薫、山野えり子		

授業形態	講義（12コマ）、演習（3コマ）	担当者
授業計画	第1回 看護研究の意義と目的 看護における研究の役割と目的、EBN（講義）	小林亜由美
	第2回 研究の種類とデザイン 研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類（講義）	小林亜由美
	第3回 事例研究と質的研究 看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法（講義）	小林亜由美
	第4回 量的研究 量的研究の特徴と方法、記述統計の基本（講義）	小林亜由美
	第5回 研究における倫理 研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮（講義）	小林亜由美
	第6回 専門領域における研究の特徴と実際① 基礎看護学・老年看護学（講義）	上星浩子・伊藤まゆみ
	第7回 専門領域における研究の特徴と実際② 成人看護学（講義）	萩原英子・堀越政孝
	第8回 専門領域における研究の特徴と実際③ 母性看護学・小児看護学（講義）	早川有子・内山かおる
	第9回 専門領域における研究の特徴と実際④ 精神看護学・在宅看護学（講義）	西川薫・山野えり子
	第10回 専門領域における研究の特徴と実際⑤ 研究のプロセス① 公衆衛生看護学/研究テーマの絞り込み、文献検討の意義と活用方法（講義）	小林亜由美
	第11回 研究のプロセス② 研究計画書の作成方法（講義）	小林亜由美
	第12回 研究のプロセス③ データベースを用いた文献検索、文献カード作成（演習）	小林亜由美
	第13回 研究のプロセス④ 研究論文の作成、発表方法（講義）	小林亜由美
	第14回 研究のプロセス⑤ クリティーク（演習）	小林亜由美
	第15回 研究のプロセス⑥ クリティークの発表（演習）	小林亜由美
科目の目的	看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、方法、倫理的配慮、各専門領域における研究の動向を学ぶことを通して、看護実践における研究的な視点を養う。【知識・理解】【思考・判断】【関心・意欲】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の目的と意義を説明できる。</li> <li>2. 目的に応じて研究の種類とデザインを選択できる。</li> <li>3. 倫理的配慮の必要性と方法について説明できる。</li> <li>4. 各専門領域における研究の動向と特徴が説明できる。</li> <li>5. 研究のプロセスについて説明できる。</li> <li>6. 研究計画書ならびに研究論文の書き方のルールを説明できる。</li> </ol>	
関連科目	既習科目すべて	
成績評価方法・基準	期末試験50%、課題レポート50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門領域における研究の特徴と実際①～⑤をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。準備学習に30分/回の学習時間を要する。</li> <li>2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込み、文献カードの作成は授業時間以外の時間を使って学習を進める。</li> </ol> 準備学習に90分/回の学習時間を要する。	
教科書・参考書	教科書：「看護における研究 第2版」、南裕子、野嶋佐由美（日本看護協会出版会）	
オフィス・アワー	全教員：月～金曜日 12:10-13:00 16:20-18:00	
国家試験出題基準	基礎看護学：2-B-a, b 他 すべて	
履修条件・履修上の注意	第12回の演習ではWebにつながるコンピューターを持ってきてください。	

講義科目名称：卒業研究

授業コード：3N142

英文科目名称：Nursing Research

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	必修
単位認定者	担当者		
中島久美子	早川有子、小林亜由美、上星浩三、金子吉美、堀込由紀、内山かおる	萩原英子、廣田幸子、堀越政孝、萩原一美、桐生育恵、山野えり	佐藤晶子、星野泰栄、小池菜穂、安田弘子、湯沢香緒里、長嶺めぐみ

授業形態	演習、ゼミ		担当者
授業計画	第1回	領域別、指導教員別オリエンテーション	卒業研究担当教員 卒業研究担当教員
	第2-60回	<p>リサーチクエスションの絞り込み、文献検索、研究計画立案、研究の実施、分析、論文作成 各領域の指導教員の指導の下、研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。 基礎看護学に関する研究：基礎看護学領域担当教員</p> <p>成人看護学（慢性期）に関する研究：成人看護学（慢性期）領域担当教員</p> <p>成人看護学（急性期）に関する研究：成人看護学（急性期）領域担当教員</p> <p>老年看護学に関する研究：老年看護学領域担当教員</p> <p>母性看護学に関する研究：母性看護学領域担当教員</p> <p>小児看護学に関する研究：小児看護学領域担当教員</p> <p>精神看護学に関する研究：精神看護学領域担当教員</p> <p>在宅看護学に関する研究：在宅看護学領域担当教員</p> <p>助産学に関する研究：助産学領域担当教員</p> <p>公衆衛生看護学に関する研究：公衆衛生看護学領域担当教員</p>	
科目の目的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習を通して興味をもったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。		
到達目標	各領域の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。		
関連科目	看護研究概説、臨地実習など既習の科目全てと関連する。		
成績評価方法・基準	卒業研究に取り組む過程および論文作成の結果を総合し、指導教員が評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各指導教員の指導で研究を進めること。その際、自己が取り組む研究テーマについて積極的に文献等の情報収集を行い、研究計画書の作成、データ収集、データ分析、考察の作成を行う。指導教員や他の学生と積極的に意見交換し、多面的な思考ができるようにする。自己学習などに必要な時間は各学生で異なってくるため、研究の遂行にむけて計画を立てて取り組むようにする。		
教科書・参考書	<p>教科書 看護研究概説で用いた資料、教科書（看護における研究、南裕子、日本看護協会出版会）。</p> <p>参考書 1. 黒田裕子の看護研究step by Step、黒田裕子、医学書院 2. ひとりで学べる看護研究、山口瑞穂子、石川ふみよ、照林社 3. バーンズ&amp;グローブ 看護研究入門—実施・評価・活用—、ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ、エルゼビア・ジャパン</p> <p>など。</p> <p>随時指導教員が紹介する。</p>		
オフィス・アワー	各指導教員と相談して時間を調整すること。		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。指導教員とのやり取りはアポイントメントを取ったうえで、指導をうけること。研究上にて得られたデータの取り扱いや、データのいった記録媒体の取り扱いに注意すること。		